

基地内文化財 8

—平成 27・28 年度 キャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区 試掘・確認調査—

平成 30 (2018) 年 3 月

沖縄県立埋蔵文化財センター

序

本報告書は、沖縄県立埋蔵文化財センターが平成 27（2015）・28（2016）年度に実施した基地内埋蔵文化財分布調査の成果をまとめたものです。

本調査は、沖縄県内に所在する米軍基地および自衛隊基地における埋蔵文化財の分布状況を把握するために、文化庁の補助を受け平成 9（1997）年度から実施している継続事業です。

本事業ではこれまで、平成 9（1997）年度には米軍基地内に所在する遺跡の現状確認および過去の調査成果の整理を行い、平成 10（1998）年度にはキャンプ瑞慶覧の試掘調査、平成 11（1999）年度からは普天間飛行場の試掘調査を実施しました。その後、平成 12（2000）年度以降は普天間飛行場の調査を継続的に実施しています。

平成 27（2015）・28（2016）年度は、キャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区の返還に伴い、その後の跡地利用に先立って遺跡の有無や範囲を確認することを目的として、西普天間住宅地区内の試掘・確認調査を実施しました。

今報告の調査により、新たに 3 遺跡が確認され、また 3 遺跡については範囲が広がる可能性があることが分かりました。この調査では、縄文時代、グスク時代、近世～近代の遺構や遺物が確認されています。

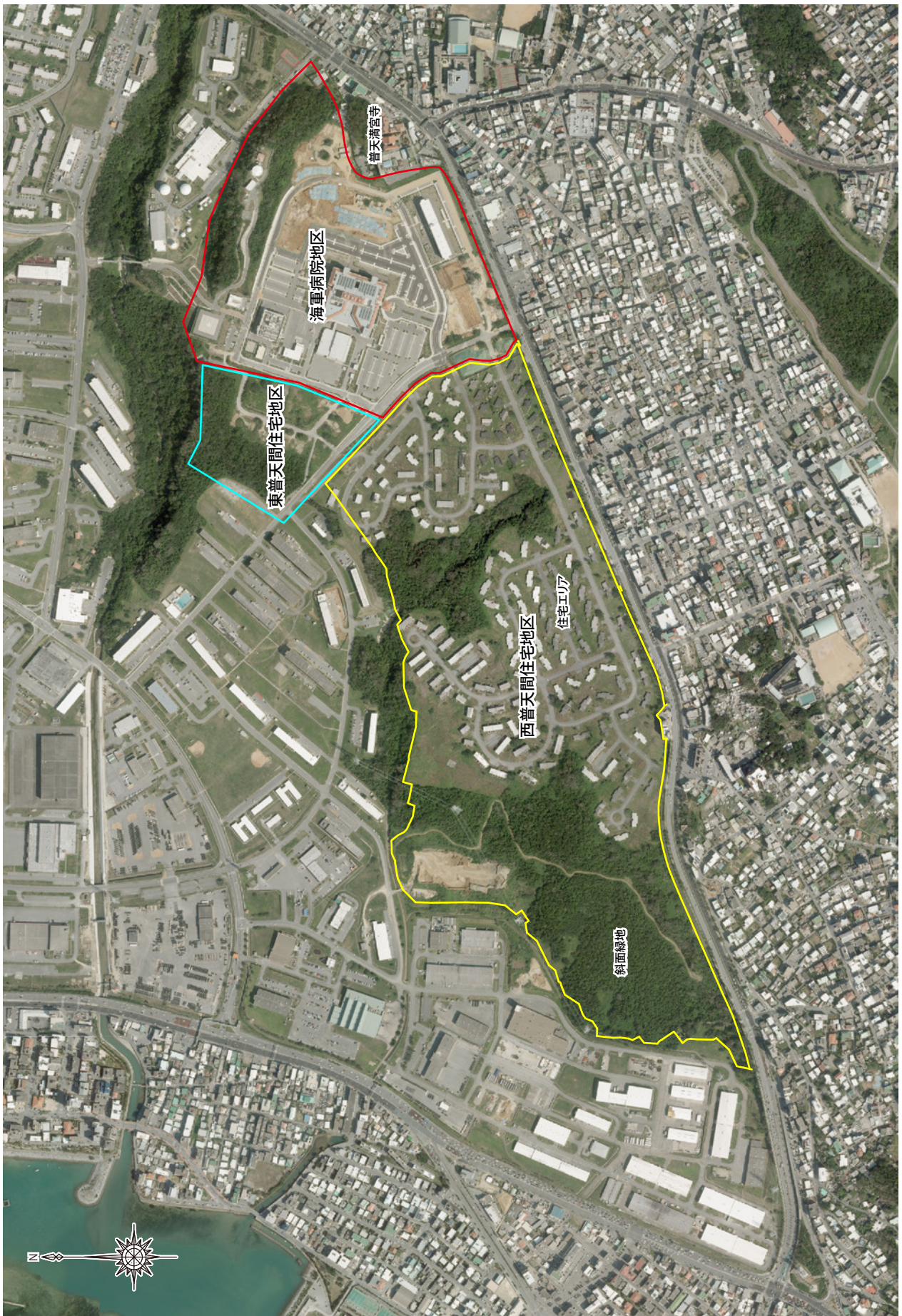
各時期の主な遺構や遺物として、縄文時代では土器や石器、グスク時代では掘立柱建物跡や炉跡などの遺構のほか、中国産陶磁器、滑石製品などの遺物が確認されました。近世～近代については、普天間古集落における普天満宮前の主要な道路でティラヌメと呼ばれた道跡や古墓などが確認されています。

本報告書が、学術研究をはじめ、地域の文化・歴史学習などの資料として活用されるとともに、文化財保護の普及等の一助になれば幸いです。

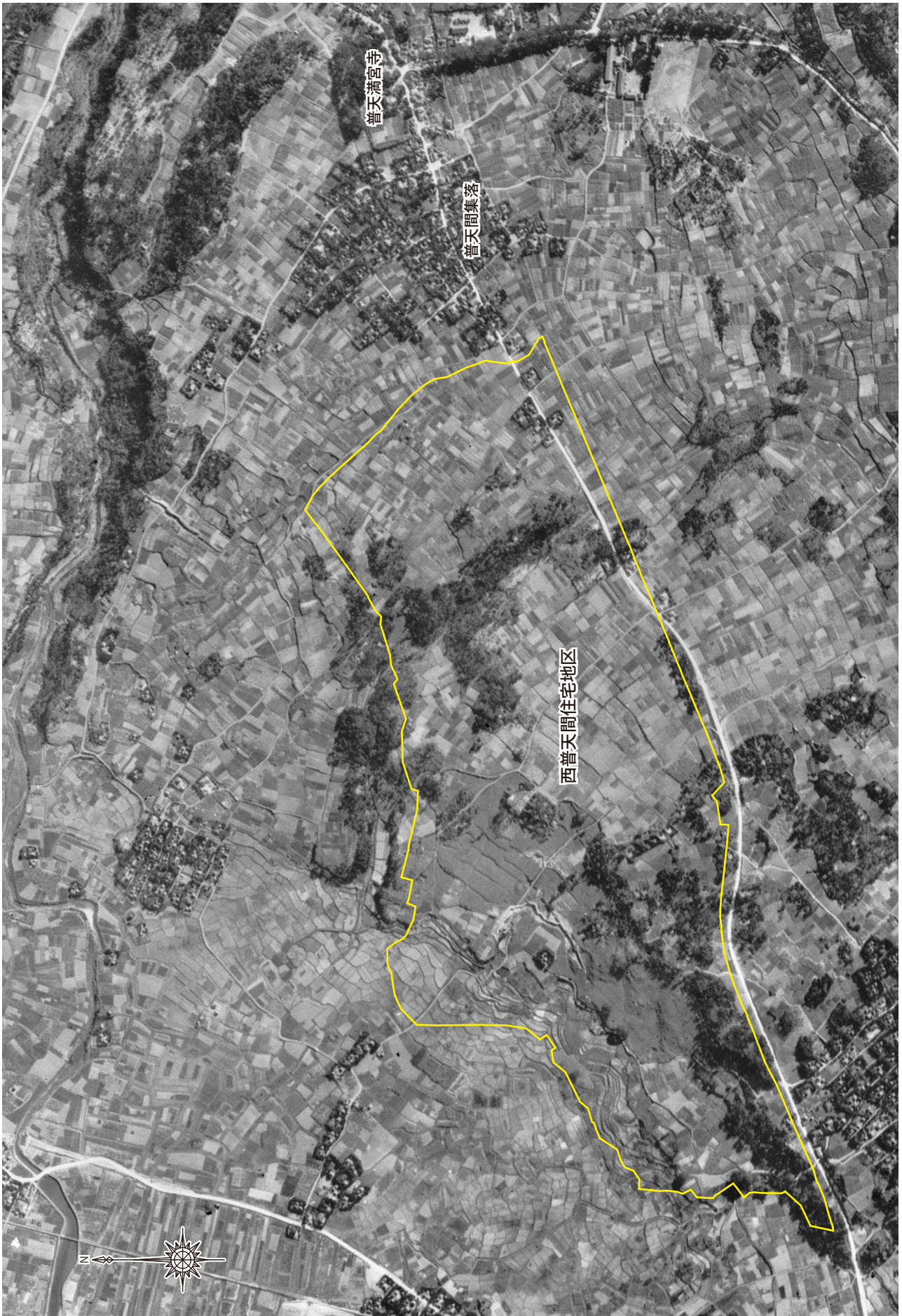
最後となりましたが、現地調査及び資料整理にあたり、多大な御協力を賜りました宜野湾市教育委員会をはじめとした関係機関並びに関係各位に、心から厚く御礼申し上げます。

平成 30（2018）年 3 月

沖縄県立埋蔵文化財センター
所 長 金城 亀信



写真：宜野湾市教育委員会提供



写真：宜野湾市教育委員会提供



巻頭図版3 上：住宅エリア東側遠景

下：斜面緑地遠景

※平成 29 年度撮影

例 言

- 1 本報告書は、沖縄県宜野湾市に所在するキャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区跡地において平成 27・28 年度に実施した基地内埋蔵文化財分布調査の成果をまとめたものである。
- 2 本調査は、平成 9（1997）年度から文化庁より国庫補助を受けた基地内埋蔵文化財分布調査事業に伴うもので、沖縄県教育委員会文化財課の指導のもと、沖縄県立埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 現地調査の実施にあたっては、宜野湾市教育委員会文化課、沖縄防衛局返還対策課の協力を得た。
- 4 本書に掲載した地図は、宜野湾市都市計画課発行の H20 都市計画図（1：2,500）を使用している。
- 5 航空写真は、宜野湾市教育委員会から提供を受けたものに加筆し、使用している。
- 6 本報告で使用している座標軸は、国土座標軸（旧座標系）の第 XV 系である。
- 7 土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局 監修「新版標準土色帖」を使用した。
- 8 時代については、『沖縄県史 各論編 2 考古編』に基づき、先史時代（縄文時代、弥生～平安並行時代）、グスク時代、近世～近代としている。
- 9 遺物の分類は、具志堅清大、南勇輔が行った。本書の編集は、南勇輔、大堀皓平をはじめセンター職員の協力を得て、具志堅清大が行った。執筆は、下記以外は具志堅が行ったが、第 1 章は中山晋氏の協力を得た。

南 勇輔 第 1 章第 3 節第 2 項、第 2 章、第 3 章第 3 節第 1 項、遺物観察表
大堀皓平 第 3 章第 2 節第 1 項
宮城淳一 第 3 章第 2 節第 2 項
パリノ・サーヴェイ 第 4 章
- 10 現地調査で得られた遺物、実測図及び写真等の記録は、全て沖縄県立埋蔵文化財センターにて保管している。

目次

序

巻頭図版

例言

第1章 調査の経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査体制	1
第3節 調査経過	3
第1項 概要	3
第2項 調査日誌抄	3
第3項 整理等作業の経過	4
第2章 遺跡の立地と環境	6
第1節 地理的環境	6
第2節 歴史的環境	7
第3章 調査の方法と成果	11
第1節 調査の方法	11
第1項 調査方法	11
第2項 基本層序	13
第2節 平成27年度調査成果	25
第1項 試掘調査	25
第2項 確認調査	65
第3節 平成28年度調査成果	75
第1項 試掘調査	75
第2項 確認調査	91
第4章 自然科学分析	141
第5章 総括	156
参考文献	158
報告書抄録	160

目次

第1図	沖縄本島の位置	8	第47図	ズケ 23-C3-ソ 位置	46
第2図	遺跡の位置と周辺の遺跡	9	第48図	ズケ 23-C3-ソ 壁面図・平面図	46
第3図	西普天間住宅地区の遺跡	10	第49図	ズケ 23-C8-ニ 位置	47
第4図	グリッド配置図(例:ズケ 24-A1-ア)	14	第50図	ズケ 23-E6-チ 位置	48
第5図	全体図 試掘箇所図(県・市)(S= 1/5,000)	15	第51図	ズケ 23-E6-チ 壁面図・平面図	48
第6図	平成 27 年度試掘坑・トレンチ配置図(写真:昭和 20 年)	16	第52図	ズケ 23-F4-チ 位置	49
第7図	平成 27 年度試掘坑・トレンチ配置図(S= 1/2,500)	17	第53図	ズケ 23-F4-チ 壁面図・平面図	50
第8図	平成 27 年度トレンチ配置図(S= 1/1,000)	19	第54図	ズケ 23-I10-ク・ス 位置	51
第9図	平成 28 年度試掘坑・トレンチ配置図(写真:昭和 20 年)	20	第55図	ズケ 23-I10-ク・ス 壁面図・平面図	51
第10図	平成 28 年度試掘坑・トレンチ配置図(S=1/1,500)	21	第56図	ズケ 24-G1-タ 位置	52
第11図	平成 28 年度トレンチ配置図(S= 1/500)	23	第57図	ズケ 24-G1-タ 壁面図	52
第12図	ズケ 16-G5-イ・キ 位置	25	第58図	ズケ 24-G1-タ 平面図	53
第13図	ズケ 16-G5-イ・キ 壁面図・平面図	25	第59図	ズケ 24-I1-ア 位置	54
第14図	ズケ 16-H8-イ 位置	26	第60図	ズケ 24-I1-ア 壁面図・平面図	54
第15図	ズケ 16-H8-イ 壁面図	26	第61図	ズケ 24-I2-ソ 位置	55
第16図	ズケ 16-H8-イ 平面図	27	第62図	ズケ 24-I2-ソ 壁面図	55
第17図	ズケ 16-J2-ア 位置	28	第63図	ズケ 24-I2-ソ 平面図	56
第18図	ズケ 16-J2-ア 壁面図・平面図	28	第64図	ズケ 23-D1-ケ 位置	57
第19図	ズケ 16-J6-オ 位置	29	第65図	ズケ 23-D1-ケ 壁面図・平面図	57
第20図	ズケ 16-J6-オ 壁面図	29	第66図	ズケ 23-F6-ツ～G6-ツ 位置	58
第21図	ズケ 16-J6-オ 平面図	30	第67図	ズケ 23-F6-ツ～G6-ツ 壁面図	59
第22図	ズケ 16-J9-コ 位置	31	第68図	ズケ 23-F6-ツ～G6-ツ 平面図	60
第23図	ズケ 16-J9-コ 壁面図・平面図	31	第69図	H27 トレンチ 1 平面図	65
第24図	ズケ 22-D9-ト 位置	32	第70図	H27 トレンチ 2 平面図	67
第25図	ズケ 22-D9-ト 壁面図	32	第71図	H27 トレンチ 3 平面図	69
第26図	ズケ 22-D9-ト 平面図	33	第72図	H27 トレンチ 4 平面図	70
第27図	ズケ 23-A3-ア 位置	34	第73図	試掘箇所柱状図	75
第28図	ズケ 23-A3-ア 壁面図・平面図	34	第74図	ズケ 26-H3-カ・サ 位置	76
第29図	ズケ 23-A3-シ 位置	35	第75図	ズケ 26-H3-カ・サ 壁面図	76
第30図	ズケ 23-A3-シ 壁面図	35	第76図	ズケ 26-I4-カ・キ 位置	77
第31図	ズケ 23-A3-シ 平面図	36	第77図	ズケ 26-I4-カ・キ 壁面図	77
第32図	ズケ 23-A4-タ 位置	37	第78図	ズケ 26-J6-キ 位置	78
第33図	ズケ 23-A4-タ 壁面図・平面図	37	第79図	ズケ 26-J6-キ 壁面図・平面図	79
第34図	ズケ 23-A5-タ 位置	38	第80図	ズケ 26-J7-キ 位置	81
第35図	ズケ 23-A5-タ 壁面図	38	第81図	ズケ 31-A6-イ 位置	82
第36図	ズケ 23-A5-タ 平面図	39	第82図	ズケ 31-A6-イ 壁面図・平面図	82
第37図	ズケ 23-A6-チ 位置	40	第83図	ズケ 31-A7-キ・シ 位置	83
第38図	ズケ 23-A6-チ 壁面図・平面図	40	第84図	ズケ 31-A7-キ・シ 壁面図・平面図	83
第39図	ズケ 23-B2-ア 位置	41	第85図	ズケ 31-A9-ア 位置	84
第40図	ズケ 23-B2-ア 壁面図	41	第86図	ズケ 31-A9-ア 壁面図	84
第41図	ズケ 23-B2-ア 平面図	42	第87図	ズケ 31-C10-キ 位置	85
第42図	ズケ 23-B3-カ 位置	43	第88図	ズケ 31-C10-キ 壁面図・平面図	85
第43図	ズケ 23-B3-カ 壁面図・平面図	43	第89図	ズケ 31-D7-エ 位置	86
第44図	ズケ 23-C3-ア 位置	44	第90図	ズケ 31-D7-エ 壁面図・平面図	86
第45図	ズケ 23-C3-ア 壁面図	44	第91図	ズケ 31-C8-カ 位置	87
第46図	ズケ 23-C3-ア 平面図	45	第92図	ズケ 31-C8-カ 壁面図	87
			第93図	H28 トレンチ 1 平面図	91
			第94図	H28 トレンチ 1 拡大図①	92

第95図	H28トレンチ1	拡大図②	93	第105図	H28トレンチ2	壁面図	103
第96図	H28トレンチ1	壁面図	94	第106図	H28トレンチ2	SP4～10 断面図	106
第97図	H28トレンチ1	SB1 平面図・断面図	96	第107図	H28トレンチ2	SI1～3 平面図・壁面図	107
第98図	H28トレンチ1	SB2 平面図・断面図	97	第108図	H28トレンチ2	SI1～3 断面図・推定図	108
第99図	H28トレンチ1	SB3 平面図・断面図	98	第109図	H28トレンチ3	平面図	111
第100図	H28トレンチ1	SP1～3 断面図	99	第110図	H28トレンチ3	壁面図	112
第101図	H28トレンチ1	SJ1 平面図・立面図・断面図	100	第111図	H28トレンチ3	SD1・2 断面図	113
第102図	H28トレンチ1	SL1 平面図・断面図	101	第112図	H28トレンチ4	平面図	114
第103図	H28トレンチ2	平面図	102	第113図	H28トレンチ4	壁面図	115
第104図	H28トレンチ2	拡大図	103				

図版目次

図版1	調査経過写真	5	図版26	ズケ23-F6-ツ～G6-ツ 東壁写真(合成)	59
図版2	ズケ16-G5-イ・キ 壁面・完掘状況・遺構半截断面写真	26	図版27	ズケ23-F6-ツ～G6-ツ 道跡・出土遺物写真	60
図版3	ズケ16-H8-イ 壁面・完掘状況・出土遺物写真	27	図版28	ズケ23-F6-ツ～G6-ツ I層出土遺物写真	61
図版4	ズケ16-J2-ア 壁面・完掘状況・作業風景写真	29	図版29	H27トレンチ1 検出・壁面写真	66
図版5	ズケ16-J6-オ 壁面・完掘状況・作業風景写真	30	図版30	H27トレンチ2 検出写真	68
図版6	ズケ16-J9-コ 壁面・完掘状況・作業風景写真	32	図版31	H27トレンチ3 検出写真	69
図版7	ズケ22-D9-ト 壁面・完掘状況・出土遺物写真	33	図版32	H27トレンチ4 検出・壁面写真	71
図版8	ズケ23-A3-ア 壁面・完掘状況・重機掘削作業写真	35	図版33	H27トレンチ1～4 出土遺物写真	73
図版9	ズケ23-A3-シ 壁面・完掘状況・重機掘削作業写真	36	図版34	ズケ26-H3-カ・サ 壁面写真・出土遺物図・写真	76
図版10	ズケ23-A4-タ 壁面・完掘状況・重機掘削作業写真	38	図版35	ズケ26-H3-カ・サ 出土遺物図・写真	77
図版11	ズケ23-A5-タ 壁面・完掘状況・作業風景写真	39	図版36	ズケ26-I4-カ・キ 壁面・出土遺物写真	78
図版12	ズケ23-A6-チ 壁面・完掘状況・重機掘削状況写真	41	図版37	ズケ26-J6-キ 壁面・完掘状況・出土遺物写真	79
図版13	ズケ23-B2-ア 壁面・完掘状況・重機掘削状況写真	42	図版38	ズケ26-J6-キ 出土遺物図・写真	80
図版14	ズケ23-B3-カ 壁面・完掘状況・作業風景写真	44	図版39	ズケ26-J7-キ 出土遺物図・写真	81
図版15	ズケ23-C3-ア 壁面・完掘状況・作業風景写真	45	図版40	ズケ31-A6-イ 壁面・完掘状況写真	82
図版16	ズケ23-C3-ソ 壁面・完掘状況・出土土器写真	47	図版41	ズケ31-A7-キ・シ 壁面写真	83
図版17	ズケ23-C8-ニ 壁面写真	48	図版42	ズケ31-A7-キ・シ 完掘状況写真	84
図版18	ズケ23-E6-チ 壁面・完掘状況・出土遺物写真	49	図版43	ズケ31-A9-ア 壁面写真	84
図版19	ズケ23-F4-チ 壁面写真	50	図版44	ズケ31-C10-キ 壁面写真	85
図版20	ズケ23-F4-チ 完掘状況写真	51	図版45	ズケ31-C10-キ 完掘状況・ピット断面写真	86
図版21	ズケ23-I10-ク・ス 壁面・完掘状況写真	52	図版46	ズケ31-D7-エ 壁面・完掘状況写真	87
図版22	ズケ24-G1-タ 壁面・完掘状況・作業風景写真	53	図版47	ズケ31-C8-カ 壁面写真	87
図版23	ズケ24-I1-ア 壁面・完掘状況写真	55	図版48	ズケ31-C8-カ 出土遺物図・写真	88
図版24	ズケ24-I2-ソ 壁面・完掘状況写真	56	図版49	H28トレンチ1 検出写真	94
図版25	ズケ23-D1-ケ 壁面・完掘状況・検出遺構写真	58	図版50	H28トレンチ1 着事前・検出・完掘状況・壁面写真	95
			図版51	H28トレンチ1 SB1 検出写真	96
			図版52	H28トレンチ1 SB1 断面写真	97
			図版53	H28トレンチ1 SB2 検出・完掘状況写真	97

図版 54	H28 トレンチ 1	SB2	断面写真	98	図版 65	H28 トレンチ 3	着手前・検出・壁面写真	113
図版 55	H28 トレンチ 1	SB3	検出・完掘状況・断面写真	99	図版 66	H28 トレンチ 3	SD1・2 断面写真	113
図版 56	H28 トレンチ 1	SP1～3	断面写真	99	図版 67	H28 トレンチ 4	着手前・検出・壁面写真	116
図版 57	H28 トレンチ 1	SJ1	検出・断面・完掘状況写真	101	図版 68	H28 トレンチ 1	出土遺物図・写真	119
図版 58	H28 トレンチ 1	SL1	検出・断面写真	101	図版 69	H28 トレンチ 2	出土遺物図・写真①	120
図版 59	H28 トレンチ 2		検出写真	104	図版 70	H28 トレンチ 2	出土遺物図・写真②	121
図版 60	H28 トレンチ 2		着手前・検出・壁面・遺物写真	105	図版 71	H28 トレンチ 2	出土遺物図・写真③	122
図版 61	H28 トレンチ 2	SP4～8、10	断面写真	106	図版 72	H28 トレンチ 2	出土遺物図・写真④	123
図版 62	H28 トレンチ 2	SI1～3	検出・完掘状況・壁面写真	109	図版 73	H28 トレンチ 2	出土遺物図・写真⑤	124
図版 63	H28 トレンチ 2	SI1・2	検出・断面写真	110	図版 74	H28 トレンチ 3	出土遺物図・写真	124
図版 64	H28 トレンチ 3		検出写真	112	図版 75	炭化種実		153
					図版 76	椀形鍛冶滓の顕微鏡組織		154
					図版 77	鉄塊系遺物の顕微鏡組織・EPMA 調査結果		155

表目次

第 1 表	ズケ 16-H8-イ	出土遺物集計表	28	第 30 表	ズケ 23-A9-ソ (普天間石川原第二遺跡)	63
第 2 表	ズケ 16-J6-オ	出土遺物集計表	31	第 31 表	ズケ 23-C1-ス (普天間石川原第二遺跡)	63
第 3 表	ズケ 16-J9-コ	出土遺物集計表	32	第 32 表	ズケ 23-D4-ネ (普天間石川原第二遺跡)	63
第 4 表	ズケ 22-D9-ト	出土遺物集計表	34	第 33 表	ズケ 23-D6-ノ (普天間石川原第二遺跡)	63
第 5 表	ズケ 23-A3-ア	出土遺物集計表	35	第 34 表	ズケ 23-E1-キ (普天間石川原第二遺跡)	63
第 6 表	ズケ 23-A3-シ	出土遺物集計表	37	第 35 表	ズケ 23-E2-テ (普天間石川原第二遺跡)	63
第 7 表	ズケ 23-B2-ア	出土遺物集計表	43	第 36 表	ズケ 23-E3-ス (普天間石川原第二遺跡・普天間旧道跡)	64
第 8 表	ズケ 23-B3-カ	出土遺物集計表	44	第 37 表	ズケ 23-F3-キ (普天間石川原第二遺跡)	64
第 9 表	ズケ 23-C3-ソ	出土遺物集計表	47	第 38 表	ズケ 23-F7-セ (遺跡範囲外)	64
第 10 表	ズケ 23-C8-ニ	出土遺物集計表	47	第 39 表	ズケ 23-H9-ネ (遺跡範囲外)	64
第 11 表	ズケ 23-E6-チ	出土遺物集計表	49	第 40 表	ズケ 24-J5-サ・タ (新城大道原第二遺跡)	64
第 12 表	ズケ 24-I2-ソ	出土遺物集計表	57	第 41 表	ズケ 29-A5-イ (遺跡範囲外)	64
第 13 表	ズケ 23-D1-ケ	出土遺物集計表	58	第 42 表	出土地不明	64
第 14 表	ズケ 23-F6-ツ～G6-ツ	出土遺物集計表	62	第 43 表	H27 トレンチ 1 出土遺物集計表	72
第 15 表	ズケ 16-G9-ウ (普天間石川原第二遺跡)	62	第 44 表	H27 トレンチ 2 出土遺物集計表	72	
第 16 表	ズケ 16-H6-エ (普天間石川原第二遺跡)	62	第 45 表	H27 トレンチ 3 出土遺物集計表	72	
第 17 表	ズケ 16-H6-タ (普天間石川原第二遺跡)	62	第 46 表	H27 トレンチ 4 出土遺物集計表	72	
第 18 表	ズケ 16-H8-ヌ (普天間石川原第二遺跡)	62	第 47 表	ズケ 26-H3-カ・サ 出土遺物集計表	77	
第 19 表	ズケ 16-H9-ア (普天間石川原第二遺跡)	62	第 48 表	ズケ 26-I4-カ・キ 出土遺物集計表	78	
第 20 表	ズケ 16-H10-チ (普天間石川原第二遺跡)	62	第 49 表	ズケ 26-J6-キ 出土遺物集計表	81	
第 21 表	ズケ 17-I1-ア (普天間石川原第二遺跡)	62	第 50 表	ズケ 26-J7-キ 出土遺物集計表	81	
第 22 表	ズケ 16-I9-ア・カ (普天間石川原第二遺跡)	62	第 51 表	ズケ 31-A6-イ 出土遺物集計表	83	
第 23 表	ズケ 16-J3-ア (普天間石川原第二遺跡)	62	第 52 表	ズケ 31-A7-キ・シ 出土遺物集計表	84	
第 24 表	ズケ 16-J7-ヌ (安仁屋東原古墓群)	63	第 53 表	ズケ 31-A9-ア 出土遺物集計表	85	
第 25 表	ズケ 22-B10-ト (普天間石川原第二遺跡)	63	第 54 表	ズケ 31-C10-キ 出土遺物集計表	86	
第 26 表	ズケ 22-C10-チ (普天間石川原第二遺跡・普天間旧道跡)	63	第 55 表	ズケ 31-D7-エ 出土遺物集計表	87	
第 27 表	ズケ 22-D10-ニ (普天間石川原第二遺跡)	63	第 56 表	ズケ 31-C8-カ 出土遺物集計表	88	
第 28 表	ズケ 23-A1-ア (普天間石川原第二遺跡)	63	第 57 表	ズケ 26-G3-ア (喜友名古水田跡)	89	
第 29 表	ズケ 23-A6-ア (普天間石川原第二遺跡)	63	第 58 表	ズケ 26-I5-イ (遺跡範囲外)	89	

第 59 表	ズケ 26-I6- イ・ウ (喜友名古水田跡) ……………	89	第 82 表	H27 年度西普天間試掘成果一覧 a ……………	131
第 60 表	ズケ 26-I6- サ (喜友名下原第二遺跡) ……………	89	第 82 表	H27 年度西普天間試掘成果一覧 b ……………	132
第 61 表	ズケ 26-I8- ア (喜友名古水田跡) ……………	89	第 82 表	H27 年度西普天間試掘成果一覧 c ……………	133
第 62 表	ズケ 26-J5- ウ (喜友名下原第二遺跡) ……………	89	第 82 表	H27 年度西普天間試掘成果一覧 d ……………	134
第 63 表	ズケ 31-A5- ア (喜友名下原第二遺跡) ……………	89	第 83 表	H28 年度西普天間試掘成果一覧 a ……………	135
第 64 表	ズケ 31-A5- シ (喜友名西原遺跡・喜友名下原第二遺跡) ……………	89	第 83 表	H28 年度西普天間試掘成果一覧 b ……………	136
第 65 表	ズケ 31-A8- ケ (喜友名下原第一遺跡) ……………	89	第 84 表	H27 年度西普天間住宅地区試掘調査 出土遺物観察一覧 ……………	137
第 66 表	ズケ 31-A9- コ (喜友名下原第一遺跡) ……………	89	第 85 表	H27 年度西普天間住宅地区確認調査 出土遺物観察一覧 ……………	137
第 67 表	ズケ 31-B5- ア (喜友名西原遺跡) ……………	90	第 86 表	H28 年度西普天間住宅地区試掘調査 出土遺物観察一覧 ……………	138
第 68 表	ズケ 31-B6- イ・ウ (喜友名下原第二遺跡) ……………	90	第 87 表	H28 年度西普天間住宅地区確認調査 出土遺物観察一覧 a ……………	138
第 69 表	ズケ 31-B7- カ (喜友名下原第二遺跡) ……………	90	第 87 表	H28 年度西普天間住宅地区確認調査 出土遺物観察一覧 b ……………	139
第 70 表	ズケ 31-B8- イ (喜友名下原第一遺跡) ……………	90	第 87 表	H28 年度西普天間住宅地区確認調査 出土遺物観察一覧 c ……………	140
第 71 表	ズケ 31-B9- ア・イ (喜友名下原第一遺跡) ……………	90	第 88 表	放射性炭素年代測定結果 ……………	144
第 72 表	ズケ 31-B10- キ (喜友名下原第一遺跡) ……………	90	第 89 表	暦年較正結果 a ……………	145
第 73 表	ズケ 31-C7- カ (喜友名山川原第三遺跡) ……………	90	第 89 表	暦年較正結果 b ……………	146
第 74 表	ズケ 31-C9- ア (喜友名下原第一遺跡) ……………	90	第 90 表	微細物分析結果 ……………	149
第 75 表	ズケ 31-C10- セ (喜友名下原第一遺跡) ……………	90	第 91 表	鉄滓成分分析結果 ……………	149
第 76 表	ズケ 31-D9- ナ (遺跡範囲外) ……………	90	第 92 表	遺構検出数 ……………	156
第 77 表	出土地不明 ……………	90	第 93 表	近世～近代の遺構種別 ……………	156
第 78 表	H28 トレンチ 1 出土遺物集計表 a ……………	125			
第 78 表	H28 トレンチ 1 出土遺物集計表 b ……………	126			
第 79 表	H28 トレンチ 2 出土遺物集計表 a ……………	127			
第 79 表	H28 トレンチ 2 出土遺物集計表 b ……………	128			
第 80 表	H28 トレンチ 3 出土遺物集計表 ……………	127			
第 81 表	H28 トレンチ 4 出土遺物集計表 ……………	128			

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

西普天間住宅地区の返還 平成8年12月の沖縄に関する特別行動委員会（SACO）の最終報告において、キャンプ瑞慶覧の米軍住宅地区の一部は、平成19年度末を目途に返還することが合意された。その後、平成25年4月の日米安全保障協議委員会（SCC）共同発表「沖縄における在日米軍施設・区域に関する統合計画」では、キャンプ瑞慶覧（キャンプフォスター）西普天間住宅地区が「必要な手続きの完了後に速やかに返還可能となる地域」として、平成26年度以降に返還されることが示され、平成27年3月31日に日本へ返還された（約51ha）。

返還跡地の利用計画と埋蔵文化財 平成25年4月からは宜野湾市、宜野湾市軍用地等地主会、沖縄県、沖縄防衛局、沖縄総合事務局による「キャンプ瑞慶覧（西普天間住宅地区）の跡地利用協議会」が開催され、返還跡地の利用計画や支障除去措置に係る諸問題などについて協議されるとともに、宜野湾市では返還跡地利用に向けた「跡地利用基本計画」の検討が進められた。また、平成24年に施行された跡地利用推進法に基づく初めての例であり、跡地利用のモデルケースとして位置づけられた。

このような中、返還後の跡地利用に先立ち、埋蔵文化財の適切な保護・活用のために遺跡の有無や範囲・性格を把握することが急務となった。西普天間住宅地区は住宅エリアと斜面緑地区域に分けられ、西側の斜面緑地区域では、宜野湾市教育委員会（以下、市教委）による昭和56～57年度の分布調査により喜友名グスクや喜友名貝塚、喜友名山川原遺跡など喜友名遺跡群が確認されているが（宜野湾市教育委員会1984）、米軍の住宅がある住宅エリア地区については文化財調査が行われておらず、不明の状態であった。

市教委からの支援要請 市教委は、まず平成25年度に分布調査を行い、平成26年度には試掘調査を実施した。しかし、その途上の平成26年8月15日に試掘調査箇所からの異臭・異物が確認されたために調査の中断を余儀なくされた。その後、沖縄防衛局は同年9月25日～10月1日まで汚染の有無に関する調査を行い、同年12月19日には土壌汚染等対策基準の基準値内との調査結果が公表された。調査結果を受け、市教委は平成27年2月から文化財調査を再開した。そして平成27年度以降の調査について、市教委の体制として迅速な対応ができない状況であったため、市教委から沖縄県教育委員会（以下、県教委）へ試掘・確認調査等への支援要請がなされた（平成26年11月11日付け宜教文第254号）。その後の調整の結果、県教委は、平成27・28年度に西普天間住宅地区跡地における試掘・確認調査の支援を行うこととなった。

第2節 調査体制

本報告の西普天間住宅地区跡地の試掘・確認調査は、平成27～28年度に現地調査、平成29年度に資料整理及び報告書作成を行った。実施体制は以下のとおりである。

事業主体 沖縄県教育委員会

教育長 諸見里 明（平成27年度）、平敷昭人（平成28～29年度）

事業所管 沖縄県教育庁文化財課

課長 萩尾俊章（平成27～29年度）

記念物班長 金城亀信（副参事兼班長：平成27年度）、上地 博（平成28～29年度）

担当 中山 晋（主任専門員：平成27～29年度）

事業実施 沖縄県立埋蔵文化財センター

所長 下地英輝(平成27年度)、金城亀信(平成28～29年度)

副参事 盛本 勲(平成27年度)、濱口寿夫(平成28～29年度)

総務班長 新垣勝弘(平成27年度)、比嘉智博(平成28～29年度)

担当 比嘉 睦(主査:平成27～28年度)、大城喜信(主幹:平成29年度)

調査班長 上地 博(平成27年度)、仲座久宜(平成28～29年度)

担当 羽方 誠(主任専門員:平成27年度)、新垣 力(主任:平成27年度)、大堀皓平(主任:
平成27年度)、宮城淳一(専門員:平成27年度)、又吉幸嗣(専門員(臨任)平成27年度)、
瀬戸哲也(主任専門員:平成28～29年度)、具志堅清大(主任:平成28～29年度)、
南 勇輔(専門員:平成28～29年度)、玉城 綾(専門員:平成28年度)

文化財調査嘱託員

平成27年度:赤嶺志乃、東江忠明、大屋匡史、平良和輝、田村 薫、仲程勝哉、波照間紗希、
眞謝太地、宮城瑠美子

史跡埋蔵文化財調査員

平成28年度:赤嶺志乃、渡邊 啓、太田樹也、奥平大貴、大屋匡史、平良和輝、眞謝太地

発掘作業員

平成27年度:石川彩乃、伊礼良彦、大城幸則、小渡良博、亀島克二、川満展義、北富邦敏、金城 樹、
今野 勉、志多伯和夫、新城浩一、鈴木真理、渡慶次 学、新田順子

平成28年度:新垣良雄、大嶺愛子、喜瀬 彰、金城政子、謝花良次、砂辺光義、玉寄守郎、仲宗根学、
宮城圭子、與那嶺勢津子

埋蔵文化財資料整理員

平成29年度:上田麻紀子、大城友理華、兼島小百合、孔 智賢、酒井若葉、玉那覇美野、知花香
織、富山由貴、仲村綾乃、外間太一郎、松田仁美、嶺井多津美、嶺井幸恵、宮城綾子、宮平笑
里子、山川美織、領家範夫、赤嶺雅子、池宮城聡子、伊藤恵美利、上原園子、小渡直子、嘉数
渚、崎原美智子、島仲美香、下地勝恵、新城京美、手嶋永子、當間郁子

資料整理協力:金城礼子、糸数永子、宮城友香、照屋芳美、仲間文香、鈴木友璃子

業務委託

発掘調査支援業務(人力掘削等) (株)アーキジオ(平成27年度試掘調査)

発掘調査支援業務(磁気探査等) (株)大洋土木コンサルタント

(平成27年度確認調査、平成28年度試掘確認調査)

壁面図化 (株)アーキジオ(平成27年度確認調査)

自然科学分析 パリノ・サーヴェイ(株)(平成27～29年度)

調査指導及び協力者(所属等は当時)

大嶺正之・古謝 哲(沖縄防衛局返還対策課)、比嘉 洋・吉村 純・仲村 毅・長濱健起・
来間千明・宮里知恵・井上奈々(宜野湾市教育委員会)、小畑弘己(熊本大学文学部)、新里亮
人(伊仙町教育委員会)、半澤武彦(岩手県教育委員会)、牛ノ濱 修(三興コンサルタント(株))、
天久朝海(株)アーキジオ)

第3節 調査経過

第1項 概要

試掘調査は、跡地利用計画や沖縄防衛局の支障除去計画に基づき、宜野湾市教委が試掘箇所を設定した。県教委と市教委で分担し、試掘調査箇所のエリア分けを行った。県教委は、平成27年度は住宅エリア東側、平成28年度は斜面緑地地域の試掘・確認調査を実施した。調査成果は、平成29年度に整理等作業・報告書作成を実施し、報告することとなった。

平成27年度 まず住宅エリア地区東側94箇所・トレンチ1箇所の試掘・確認調査を行った。遺構が確認された試掘箇所のうち、さらに遺構の性格及び保存状態を把握する必要があると判断された4箇所については、試掘箇所を基点にトレンチを設定して確認調査を行い、最終的に普天間石川原第二遺跡、普天間旧道跡、安仁屋東原古墓群を新規発見するに至った。市教委は住宅エリア中央部の試掘・確認調査を実施した。

平成28年度 斜面緑地40箇所の試掘調査を行い、さらに遺跡範囲確認のためトレンチを4箇所設定して確認調査を行った。その結果、喜友名下原第一・二遺跡、喜友名山川原第七遺跡について、遺跡範囲の変更が必要な事が判明した。なお、試掘・確認調査後には県教委から市教委へ概要報告を行っている（平成27年度：平成28年4月20日付け教文第110号、平成28年度：平成28年12月20日付け教文第1491号）。一方、市教委は斜面緑地の一部における試掘調査や分布調査等を、住宅エリア中央部の記録保存調査と並行して実施せざるを得ない状況となっていた。

関係機関との調整 調査に際しては、宜野湾市や沖縄防衛局をはじめ、関係機関と調整や届出などを行った。宜野湾市教委には、試掘調査箇所の図面や遺跡地図の提供、調査時の安全対策や貴重植物の取り扱いの情報提供、調査により新規発見された遺跡や範囲変更が必要な遺跡の取り扱いに関してなど、様々な面で多くの協力を頂いた。また、現場事務所の設置箇所や仮設水道・電気の分岐などについては、沖縄防衛局返還対策課及び市教委の協力を得た。

また、試掘調査の総面積（土置き場を含めた裸地面積）が1,000㎡を超え、沖縄県赤土等流出防止条例に基づく届出が必要となるため、沖縄県立埋蔵文化財センターから中部保健所に事業行為通知書を提出した（平成27年度：平成27年7月17日付け埋文第283号、平成28年度：平成28年6月14日付け埋文第243号）。その後、中部保健所から沖縄県立埋蔵文化財センターへ確認済みの通知がなされた（平成27年度：平成27年7月28日付け中部保第2-27097号、平成28年度：平成28年6月28日付け中部保第2-28057号）。

第2項 調査日誌抄

以下、試掘確認調査の経過について日誌抄でまとめる。

①平成27年度

試掘調査 発掘作業は、平成27年6月29日から平成27年10月8日まで行った。調査は、試掘坑94箇所、トレンチ1箇所を設定して行った。調査面積は約1,568㎡である。

6月：29日に調査を開始。測量及び現場事務所周辺的环境整備、保存対象の樹木の位置確認を実施。

7月：2～27日にかけて試掘坑の位置出し作業を実施。23日から杭打ちの終了した試掘坑のアスファルト切断作業を行い、翌日から表層の磁気探査を開始。

8月：3日から発掘調査を開始。31日までに39箇所の調査が終了。

9月：調査開始から30日までに81箇所の調査が終了。

10月：1日に予定の全箇所の掘削作業が、7日に記録作業が終了し、8日に埋戻しと現場撤収作業を

行い試掘調査終了。

確認調査 発掘作業は、平成27年11月30日から平成28年1月29日まで行った。調査は、トレンチ1～4を設定して行った。調査面積は約807㎡である。

11月：30日より確認調査を開始。トレンチ1～3の表土掘削作業を行い、その後、壁面清掃作業、遺構検出作業を実施。

12月：9日にトレンチ4の表土掘削作業を行い、その後、壁面清掃作業、遺構検出作業を実施。11日にトレンチ4で、近世～近代と思われる道跡とそれに伴う縁石を検出。16日にトレンチ2で墓を2基検出。年内の調査は、28日に現場プレハブ内の清掃及び現場の点検を実施後、仕事納めを行い終了。

1月：4日より調査再開。26～28日にかけてトレンチ1・トレンチ4の平面図作成及び写真撮影、業者によるオルソ画像撮影を行い、記録作業の終了したトレンチから埋戻し作業を実施。29日に埋戻し状況の確認と現場事務所の撤収を行い、平成27年度の調査を終了した。

②平成28年度

試掘調査 発掘作業は、平成28年7月1日から9月4日まで行った。調査は、希少植物が群生する場所を避けて試掘坑を40箇所設定して行った。試掘調査の調査面積は約381㎡である。

7月：1日より調査を開始。29日までに25箇所の調査が終了。

8月：24日で確認調査実施予定の試掘坑を除く、全試掘坑の調査終了。以後、確認調査予定箇所の環境整備を実施。

確認調査 発掘作業は、平成28年9月5日から12月9日まで行った。調査は、トレンチ1～4を設定して行った。確認調査の調査面積は約483㎡である。

9月：5日より発掘調査を開始。5日から20日にかけてトレンチ1からトレンチ3の表土掘削作業及び、壁面清掃作業及び遺構検出作業を実施。

10月：7日にトレンチ1の遺構検出状況の写真撮影を実施。17日から測量支援ソフト「遺構くん」を用いて平面測量作業を開始。19～31日にかけてトレンチ2・3の遺構検出状況及び壁面の写真撮影を実施。また、31日にトレンチ4の表土掘削作業を実施。

11月：7日にトレンチ4の遺構検出状況の写真撮影を実施。11日にトレンチ4壁面の写真撮影作業を実施。11日にトレンチ2壁面の写真撮影作業を実施。30日で発掘調査作業員の雇用期間終了。

12月：1日にトレンチ4の平面測量作業を実施し、全トレンチの測量作業終了。2日にパリノ・サーヴェイ株式会社が理化学分析業務のための土壌サンプル回収作業を実施。5～8日にかけてトレンチの埋戻し作業を実施。9日に現場事務所の撤収作業の確認と、調査現場の最終確認を行い、平成28年度の調査を終了した。

第3項 整理等作業の経過

整理等作業はまず出土遺物の洗浄から始め、注記等を中心に進めた。続いて遺物の分類、接合作業、実測用遺物の抜出しを行い、実測図の作成、トレース、写真撮影等を行った。また、出土遺物及びサンプリングした土壌の自然科学分析を委託した。

これらの作業と並行して、原稿執筆や遺構図等のトレースを進め、発掘現場で撮影した写真と併せて報告書全体のレイアウトを完成させた。その後、印刷業者と契約を行い、本調査報告書を刊行した。

試掘調査経過



磁気探査



重機掘削



検出作業

確認調査経過



埋め戻し



確認トレンチ重機掘削



遺構検出作業



遺構検出作業

図版1 調査経過写真



記録作業

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

キャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区跡地が所在する宜野湾市は、沖縄本島の中部西海岸に位置し、北は北谷町、北東は北中城村、東は中城村、東南は西原町、南は浦添市に隣接し、西は東シナ海に面している。総面積は 19.80km²で、形はやや東西方向に傾いた長方形で、東西南北の長さは東西方向に約 6.1km、南北方向に約 5.3km を計る。

地形 沖縄県の海岸段丘は、高位段丘・中位段丘・低位段丘に区分されており、宜野湾市域も西海岸に向かって雛壇状に海岸段丘が展開している。各段丘は下位面と上位面に区分され、低位段丘下位面にあたる標高 30m 以下の海岸低地（第1面）、低位段丘上位面にあたる標高 30～40m の石灰岩段丘（第2面）、中位段丘下位面にあたる標高 50～90m の段丘崖（第3面）、中位段丘上位面にあたる標高 60～80m の石灰岩段丘（第4面）、標高 90m 以上の琉球石灰岩台地と小起伏丘陵で構成される（宜野湾市教育委員会 2000）。

河川 キャンプ瑞慶覧内には野嵩から発する石川や、流域面積 9.1km²、流路延長 8km（かつては 9.3km）に及ぶ2級河川の普天間川が流れている。普天間川は、中城村北上原の標高 130～140m 付近の島尻層群からなる丘陵地帯に最上流部があり、そこから本流及び支流が北北東及び南西方向に流れ、野嵩の東側で本流は大きく蛇行しながら北西へ向きを変えて東シナ海に流れ込んでいる。その流路から、当河川は北谷町・北中城村・中城村の境界になっている。

地質と遺跡立地 西普天間住宅地区跡地は、中位段丘を中心とし、段丘崖を含んだ地域に所在している。当該地域の地質は、クチャと呼ばれる泥岩や砂岩からなる島尻層群を基盤に、サンゴ礁由来の琉球石灰岩が堆積しており、この琉球石灰岩からなる台地を覆うように島尻マージが堆積している。また、海岸低地には、砂地や大山地区から伊佐地区のイーフ（粘土質）の土壌によって構成されている。

また、琉球石灰岩は透水性が高いため、雨水は地中へと浸透して地下水となり、不透水層である島尻層群へと流れ、その過程で琉球石灰岩層が浸食されると鍾乳洞が形成される。この鍾乳洞の天井が陥没してできた陥没ドリーネや、琉球石灰岩台地の縁辺部にあたる段丘崖では琉球石灰岩層と島尻層群の境目から地下水流が湧出するため、国の重要文化財に指定されている喜友名泉「チュンナーガー」を始め湧水群が存在し、周辺集落の水道源として利用されていた。

当該地区の遺跡立地については、各段丘の平坦面やその縁辺部に遺跡の形成が認められ、喜友名泉周辺の段丘縁辺部には湧水と斜面の地形を利用した棚田地形を残す喜友名古水田跡がある。当該地区の北方には普天間川が流れており、河川と遺跡の関りとして、河川単位の遺跡群の存在と時代ごとにおける各遺跡群の消長も指摘されている（呉屋 1994）。

第2節 歴史的環境

キャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区跡地が所在する字喜友名、新城、安仁屋、普天間における人間活動の痕跡としては、縄文時代前期の爪形文土器が確認された新城下原第二遺跡が最も古く、当時は海岸低地に居住域が形成されていた。縄文時代中期の様相は判然としないが、縄文時代後晩期になるとグスクニー遺跡や喜友名貝塚、喜友名東原ヌバタキ遺跡などの遺跡が中位段丘上に形成され、住居跡も多数検出されるようになる。弥生～平安並行時代は、新城下原第二遺跡や喜友名下原第三遺跡、伊佐後原第三遺跡のように、海岸砂丘上に遺跡の形成が認められるようになる。

グスク時代になると、掘立柱の建物跡を伴う遺跡が海岸低地から段丘上にかけて形成され、居住域の広がりがみられる。また、この時期から中国産の陶磁器や徳之島産のカムイヤキ、長崎県産の滑石製石鍋など、島外からの搬入品が多く認められるようになる。生業活動についても、新城下原第二遺跡で水田の遺構、伊佐前原第一遺跡で畑作に関わる遺構が確認されており、狩猟採取を中心とした社会から農耕を営む社会に変化したことが遺跡から伺える。また、当該時期は沖縄県内各地に防御的な性格を持つグスクが形成されるが、当該地区においても丘陵の縁辺部に喜友名グスク遺跡が形成されている。

近世以降の文献には、当該地域に関する記述を確認することができ、『おもろそうし』巻15の浦添間切の中に「きとむなわ（喜友名と考えられる）」の地名が登場している。また、1671（康熙10）年に首里王府の命によって浦添間切から喜友名を含めた10村、中城間切から寺普天間（普天間）を含めた2村、北谷間切から分けた安仁屋村に、新たに真志喜村を成立させて宜野湾間切が新設される。この宜野湾間切の範囲は現在の宜野湾市域の基礎となっている。

明治以降には、1881年（明治14年）に宜野湾村に中頭郡役所が美里間切から移転し、1886（明治19）年に中頭教育事務所が設置され、1901年（明治34）年には現在の普天間高校一带に中頭郡農事試験所が設立されるなど、本島中部の行政面における中心的機能を持つようになる。

交通の面に関しても、当該地域には琉球八社の一つである普天満宮が鎮座していることから、琉球国王の普天満宮参拝などのために整備された郡道（宜野湾並松街道）が通り、海岸低地には那覇から名護に至る県道が伊佐を通過している。また、伊佐で県道から分岐して普天満宮へと至る道が戦前まで整備されており、隣接するキャンプ瑞慶覧内の海軍病院地区では、発掘調査によってその遺構が確認されている。

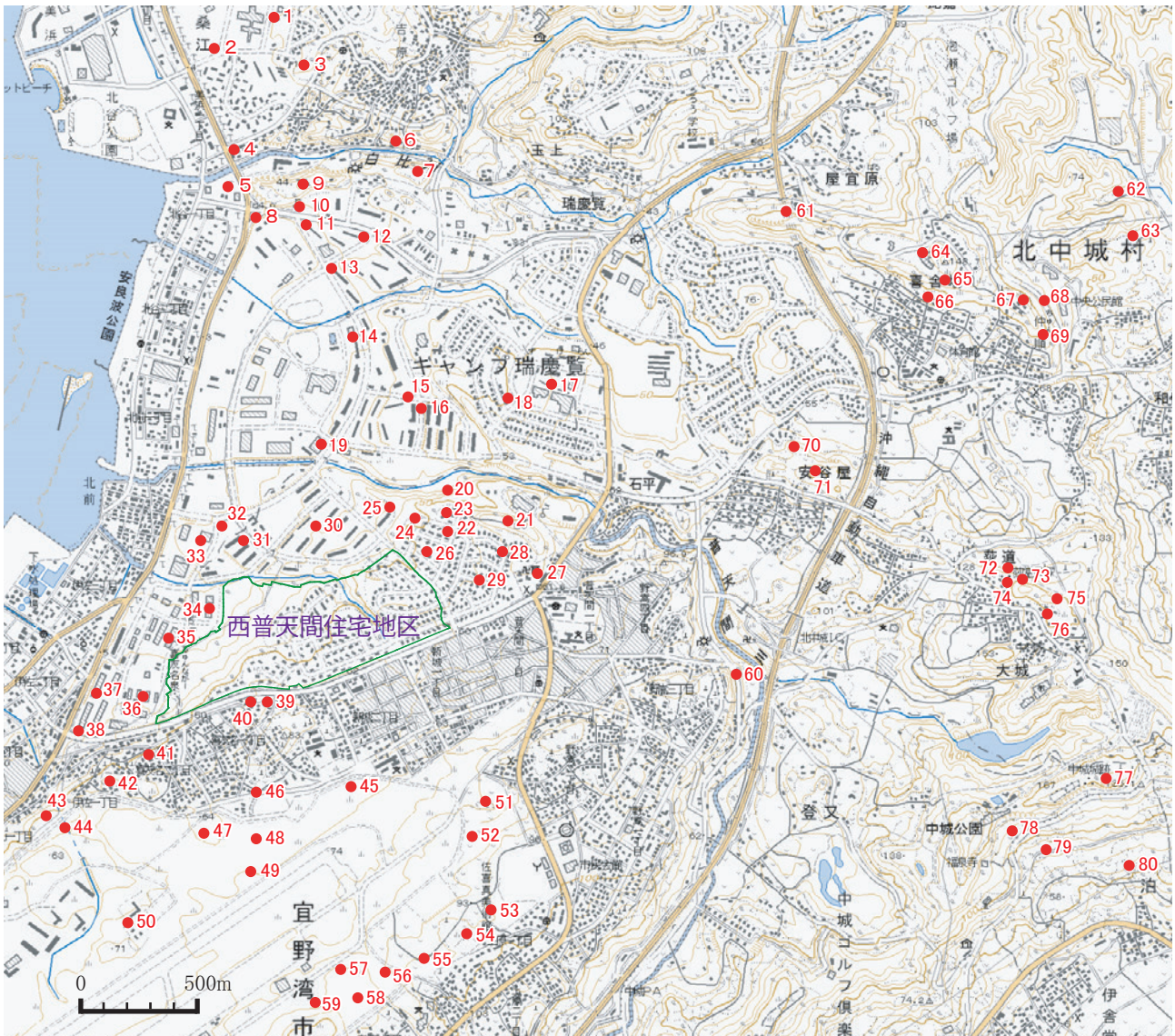
太平洋戦争末期の沖縄戦では、1945年4月1日に米軍が沖縄本島に上陸し、4月2日には宜野湾方面に進軍を開始すると、4月3日には現在の西普天間住宅地区一带は米軍の占領下に置かれることになる。沖縄戦が終結し、沖縄県が米軍による統治下に置かれると、一带はキャンプ瑞慶覧の一部として接収され、米軍のハウジングエリアとして造成される。その後、平成27年（2015）3月31日に返還され、現在は跡地利用にむけた発掘調査・工事が実施されている。

周辺の遺跡 キャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区跡地と同じ石灰岩段丘面や丘陵部には普天間グスクニー遺跡や喜友名東原ヌバタキ遺跡、喜友名貝塚があり、普天間飛行場内に所在する上原濡原遺跡では縄文時代の畦状遺構が確認されている。弥生～平安並行時代の遺跡としては、海岸低地に稲干原遺跡や北谷城第七遺跡などがあり、グスク時代の遺跡になると伊佐前原第一遺跡のように海岸低地に形成された遺跡から普天間後原第二遺跡などのように段丘上にも遺跡が確認されている。

また、キャンプ瑞慶覧や普天間飛行場内には、近世から近代にかけての遺跡も多数確認されており、基地建設に伴い接収された普天間古集落遺跡や普天間フィールー古墓群のような集落跡や古墓群の他、普天間旧道跡といった交通に関わる遺跡も発見されている。

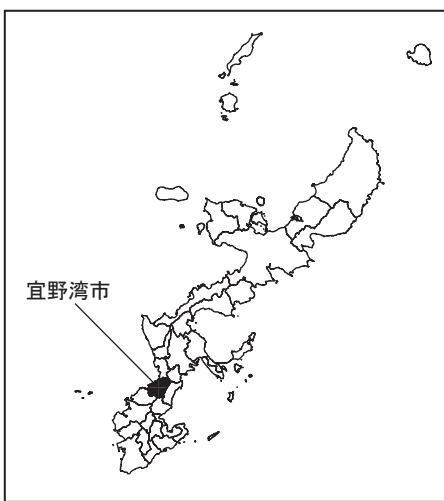


第1図 沖縄本島の位置



この背景地図データは、国土地理院の電子国土 Web システムから配信されたものである。

〈周辺遺跡の凡例〉



- | | | |
|-------------------|-----------------|-----------------|
| 1. 伊地差久原古墓 | 28. 普天間後原第二遺跡 | 55. 中原同原遺跡 |
| 2. 前原古島 B 遺跡 | 29. 普天間古集落遺跡 | 56. 赤道シキロー流域古墓群 |
| 3. 前原古墓群 | 30. 安仁屋トゥンヤマ遺跡 | 57. 赤道渡呂寒原古墓群 |
| 4. 池グスク | 31. 新城下原遺跡 | 58. 赤道渡呂寒原屋取古集落 |
| 5. 白比川河口遺物散布地 | 32. 新城下原第二遺跡 | 59. 赤道渡呂寒原洞穴遺跡 |
| 6. 吉原東角双原遺物散布地 | 33. 安仁屋原遺跡 | 60. 野嵩ウガンスカタ遺跡 |
| 7. 山川原古墓群 | 34. 喜友名下原第三遺跡 | 61. ヒニグスク |
| 8. 北谷番所址 | 35. 伊佐後原第二遺跡 | 62. 前田原 B 遺跡 |
| 9. 北谷城遺跡群 | 36. 伊佐後原第一遺跡 | 63. 前田原 A 遺跡 |
| 10. 北谷城第7遺跡 | 37. 伊佐前原第二遺跡 | 64. 甲斐川原遺跡 |
| 11. 塩川原遺跡 | 38. 伊佐前原第一遺跡 | 65. 喜舎場上原遺物散布地 |
| 12. 玉代勢原遺跡 | 39. 喜友名貝塚 | 66. 喜舎場御嶽遺物散布地 |
| 13. 長老山遺物散布地 | 40. 喜友名グスク遺跡 | 67. 仲順原貝塚 |
| 14. 東表原遺跡 | 41. 喜友名前原第一遺跡 | 68. 仲順原遺跡 |
| 15. 大道原 A 遺跡 | 42. 伊佐上原遺跡 E 地点 | 69. 仲順原遺物散布地 |
| 16. 大道原 B 遺跡 | 43. 大山岳之佐久原第三遺跡 | 70. 若松遺跡 |
| 17. 伊波川原遺跡 | 44. 大山岳之佐久原第一遺跡 | 71. 安谷屋グスク |
| 18. 横嵩原遺跡 | 45. 上原藩原遺跡 | 72. 萩堂貝塚 |
| 19. 稲千原遺跡 | 46. 喜友名東原ヌバキ遺跡 | 73. 大城グスク |
| 20. 普天間グスクンニー遺跡 | 47. 喜友名前原第三遺跡 | 74. 萩道遺跡 |
| 21. 普天間フィールー丘陵古墓群 | 48. 喜友名東原第三遺跡 | 75. ミーグスク |
| 22. 普天間下原第二遺跡 | 49. 喜友名東原第二遺跡 | 76. 大城遺跡 |
| 23. 普天間稲嶺屋取古集落 | 50. 神山黒数原古墓群 | 77. 中城城跡 |
| 24. 普天間下原古墓群 | 51. 野嵩タマガ原遺跡 | 78. 泊古島原遺跡 |
| 25. 普天間下原遺跡 | 52. 上原東原遺跡 | 79. 泊古島原散布地 |
| 26. 普天間石川原遺跡 | 53. 上原同原遺跡 | 80. 泊原散布地 |
| 27. 普天満宮洞穴遺跡 | 54. 上原仲毛原遺跡 | |

第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡



<西普天間住宅地区内遺跡の凡例>

- | | | |
|----------------|--------------------|--------------------|
| 01. 新城上殿遺跡 | 15. 喜友名山川原第九遺跡 | 29. イシジャー流域古墓群 |
| 02. 新城下原第一遺跡 | 16. 喜友名山川原第十遺跡 | 30. 「き きとも奈原」銘の印部石 |
| 03. 新城下原第二遺跡 | 17. 喜友名山川原丘陵古墓群 | 31. 「□ 山川原」銘の印部石 |
| 04. 新城大道原第一遺跡 | 18. 喜友名下原第一遺跡 | 32. ノグニグラーヌメヌカー |
| 05. 新城大道原第二遺跡 | 19. 喜友名下原第二遺跡 | 33. ヤマガー |
| 06. 新城大道原第三遺跡 | 20. 喜友名下原第三遺跡 | 34. ナカマグラーヌメヌカー |
| 07. 喜友名山川原第一遺跡 | 21. 喜友名西原遺跡 | 35. ユタカノイズミ |
| 08. 喜友名山川原第二遺跡 | 22. 喜友名古水田跡 | 36. バシガー |
| 09. 喜友名山川原第三遺跡 | 23. 喜友名貝塚・喜友名グスク遺跡 | 37. ミーガー |
| 10. 喜友名山川原第四遺跡 | 24. フトウキヤアブ洞穴遺跡 | 38. ヒージャーガー |
| 11. 喜友名山川原第五遺跡 | 25. 伊佐後原第二遺跡 | 39. アカンナー |
| 12. 喜友名山川原第六遺跡 | 26. 普天間石川原第二遺跡 | 40. カークワー(喜友名泉) |
| 13. 喜友名山川原第七遺跡 | 27. 普天間旧道跡 | 41. ウフガー(喜友名泉) |
| 14. 喜友名山川原第八遺跡 | 28. 安仁屋東原古墓群 | 42. シンバルガー |

※1-29 遺跡・古墓 30-31 印部石 32-42 湧泉

第3図 西普天間住宅地区の遺跡

第3章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法

第1項 調査方法

グリッド設定 グリッドは、キャンプ瑞慶覧海軍病院地区の発掘調査に用いたものを一部変更して使用した。普天間飛行場内の調査で設定されているグリッドを延長して設定しており、基本座標（X:31,000、Y:26,500 日本測地系）を起点に第Ⅰ区画、第Ⅱ区画、第Ⅲ区画の3段階に分け、第Ⅰ区画を300mメッシュ、第Ⅱ区画を30mメッシュ、第Ⅲ区画を6mメッシュで区切っている。海軍病院地区のグリッドからは第Ⅱ区画、第Ⅲ区画が変更となった。第Ⅰ区画はキャンプ瑞慶覧の宜野湾市区域をズケ1～33と33分割し、第Ⅱ区画は細かく100分割し、東から西へA1～A10、北から南へA1～J1とした。第Ⅲ区画はさらに細かくした25分割し、東から西へア～オ、北から南へア～ナとした。グリッドの名称は、第Ⅰ区画、第Ⅱ区画、第Ⅲ区画を組合せ、「ズケ24-A1-ア」等としている（第4図）。今回試掘調査を実施した範囲の第Ⅰ区画はズケ16・17・22～24・26・31である。

試掘調査の方法 キャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区跡地の場合、基地造成による大規模な地形改変のため、表面踏査等による埋蔵文化財の分布調査には限界があったため、基本的に第Ⅱ区画の北東角を試掘箇所とし、30m間隔で試掘を行うことで遺跡の有無を把握する方法を採った。これは、普天間飛行場内及びキャンプ瑞慶覧海軍病院地区の試掘調査と同様の方法である。ただし、当該箇所の付近に古写真等で埋蔵文化財が存在する可能性がある場合や、構造物や立ち木などの障害物がある場合は、別地点への再設定または試掘坑の規模縮小など、状況に応じて調査を行った。当該地区においては、環境アセスメント評価のため、貴重植物がマーキングされ、樹木伐採が制限された。そのため、特に斜面緑地を調査範囲とした平成28年度の試掘坑の多くは、試掘箇所の再設定や規模縮小を行った。

試掘坑は、4×4mの試掘坑を設定して行うことを基本とし、状況に応じて規模縮小した。試掘坑の位置出し後、重機による掘削を行った。磁気探査は、試掘箇所を現地表面及び掘削深度50cm毎に経層探査を実施した（ただし、平成28年度は沖縄防衛局により地表面の探査が実施済みのため、経層探査のみ実施）。掘削は地山あるいは岩盤までの掘削を原則としたが、途中で遺構が検出された場合は掘削を中断し、記録等を行った。また地山確認のため一部掘り下げなどした。掘削完了後は、まず平面及び壁面の精査・観察を行うとともに、分層や遺構検出作業を行い、次に写真・図面の記録作業を行った。これらの作業が完了した試掘坑は埋め戻し、道路に該当する箇所は路盤材を用いるなど種々の養生を行った。

確認調査の方法 確認調査は、試掘調査により遺構や包含層が確認された箇所を拡張または隣接する方法で調査区を設定した。なお、平成28年度は樹木伐採が制限されたことから、樹木を島状に残してトレンチを設定している。表土掘削は重機により行い、表土及び近世～近代の遺物包含層までを掘削した。磁気探査は試掘調査同様に、表層及び掘削深度50cm毎に経層探査を実施した。

表土掘削後は、作業員の手作業による包含層掘削と遺構検出を行った。多くは地山面で遺構が検出された。遺構記号は、『発掘調査のてびき』のものを便宜的に当てはめ、平成28年度の際は固定番号方式で遺構番号を付した。遺構の調査は、平成27年度は遺構か判断に窮するものを除いて検出までに留めたが、平成28年度は基本的に代表的なものを半截まで行い最低限に留めた。平面図作成は測量機器を用いて行い、断面図作成は人手により行った。効率が良いと考えられる場合は写真測量も実施した。

写真撮影は半截状況など状況に応じて、デジタルカメラと35mmフィルムカメラにより白黒フィルム・カラーリバーサルフィルムで撮影した。調査区全景の写真撮影時には中判フィルムカメラも用いた。なお、本報告書ではデジタルカメラによる写真を使用している。遺構調査後は、土嚢により遺構を保護し、埋め戻しを行った。

調査時の安全対策等 平成27年度の調査においては、宜野湾市教委による平成26年度の試掘調査で異臭・異物が確認されたことから、調査員の健康対策のため防塵メガネや防塵マスク、保護手袋を備えての調査となった。また調査箇所は市街地に隣接するため、汚染粉塵が市街地へ飛ばないように散水を行うとともに、粉塵計による飛散量の計測を実施した。さらに、沖縄県赤土等流出防止条例に基づく沖縄県中部保健所との協議・調整を踏まえ、濁水が調査区外へ流出しないように調査区及び土置き場をブルーシート被覆により養生を行った。

自然科学分析 遺跡の年代や古環境の様相といった、考古学的手法では得られない科学的なデータを得ることを目的として自然科学分析を行った。

遺跡の年代については、代表的な遺構や包含層を現地でサンプリングし、放射性炭素年代測定を実施した。また、遺構出土の土器に付着する炭化物についても、年代測定を実施した。

古環境の分析は、グスク時代の包含層や炉跡の埋土に含まれる微細物について、細かい同定・分析作業を行うことにより、当時の植生など自然環境について分析することを目的とした。また、鉄滓の分析は、グスク時代の鍛冶について検討することを目的とした。

整理等作業 今回の調査成果報告は、試掘エリアと調査対象となった遺跡が調査年度で異なったため、調査年度で分けて資料整理・報告することとした。試掘調査成果に関しては、特徴的な遺構や包含層の堆積が確認された箇所を中心にピックアップして報告し、それ以外については試掘調査一覧表により報告する。

現場で実測した平面図や壁面図等は、確認・修正後にイラストレーターによりトレースし、壁面図は基本層序ごとに色塗りを行った。

出土した遺物の多くは小破片であったが、可能な限り分類を行い試掘坑・トレンチ毎で集計を行った。細かい土器型式や陶磁器の分類については近年の土器編年研究や大宰府分類、瀬戸哲也氏ほかによる分類など関連する調査報告書を参考にして分類を行った。自然遺物の貝・獣骨の分類は、分類可能なもの限りサンプルや骨格図などを参考に分類した。

特徴的な遺物については実測を行ったが、土器・陶磁器の胴部片や小片のもので図化対象とならないが必要と考えられる遺物は、写真により報告する。遺物実測図・写真は、まず各年度の試掘坑・トレンチごとに分け、その中で層序、遺構ごとにまとめている。

第2項 基本層序

基本層序は、隣接するキャンプ瑞慶覧病院地区の基本層序（沖縄県立埋蔵文化財センター 2015、2017）に基づいたもので、以下のように大きく7つの層を確認した。

層序

I層：表土・造成土。米軍接收以後の造成層。

II層：米軍接收以前の耕作土及び地表面と思われる。近世～近代の遺物を包含し、沖縄産陶器を中心として、本土産陶磁器、中国産陶磁器等を含む。この層中、又はV層（島尻マージ）及びIII層との境に近世～近代の遺構が確認できる。以下のように、大きく2つの層に細分可能である。

II -a層：褐色～灰褐色砂質シルト。近代の旧表土及び耕作層である。

II -b層：暗褐色～黒灰色砂質シルト。近世～近代の堆積層と思われる。

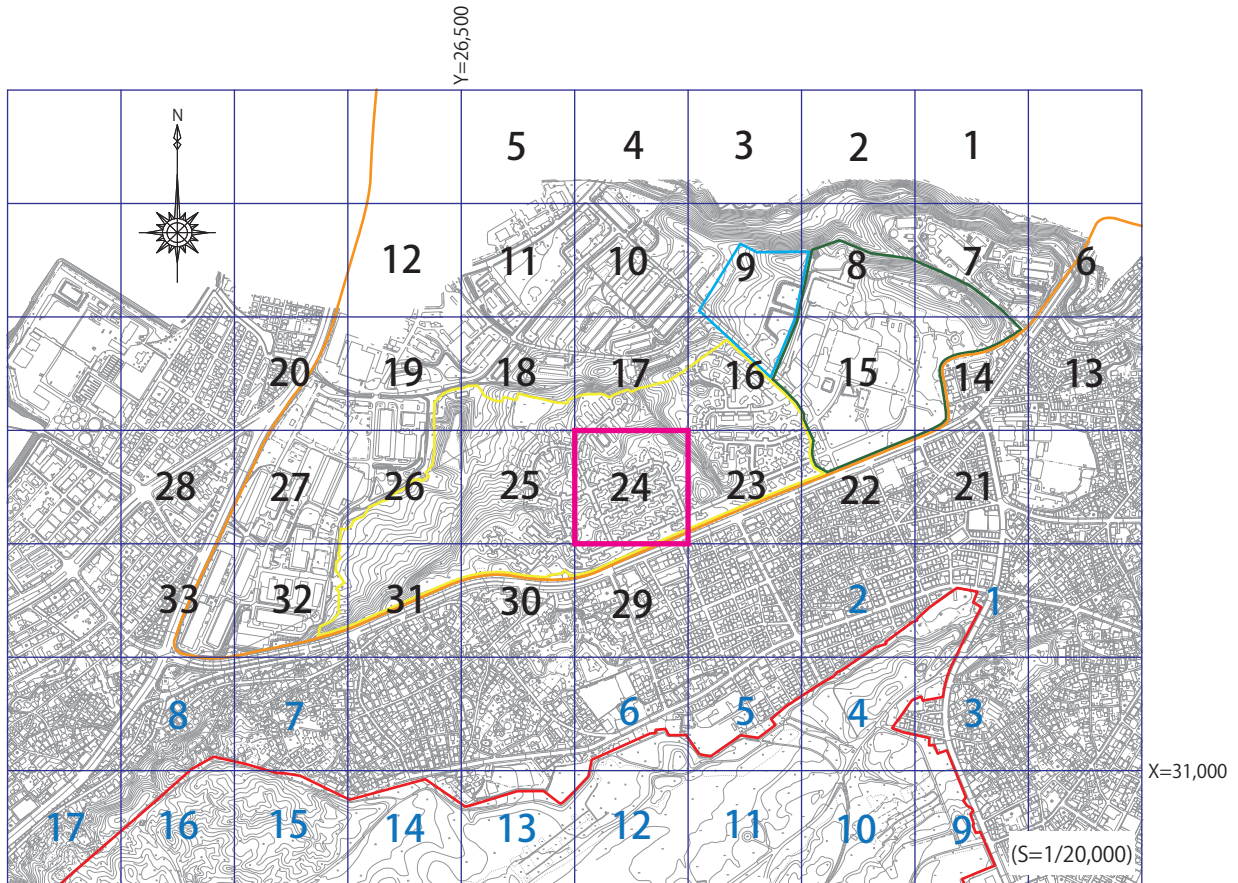
III層：暗褐色～黒褐色砂質シルト層。3～5mmの炭化物、焼土、黄褐色土粒、マンガンを含む。多くは、迫地地形に該当する箇所部分的に分布、もしくは遺構覆土に確認される。III層は数層に細分可能である。グスク土器やカムイヤキが出土していることからグスク時代相当の堆積層と思われ、この層中、又はV層（島尻マージ）及びIV層との境にグスク時代の遺構が確認できる。

IV層：暗褐色～黒褐色、又は褐色シルト層で、粘質が強い層と砂質が強い層に分けられる。層中にマンガンを含む。先史時代の遺物がしばしば含まれることから、縄文時代からグスク時代初期相当の堆積層と思われる。この層中、又はV層（島尻マージ）との境に縄文時代の遺構が確認できる。

V層：島尻マージの地山。明褐色～黄褐色シルトで、色調のほか粘質や砂質の強弱により数層に分けることができる（宜野湾市教育委員会 2017 ほか）。全体的にマンガンを含む。基盤の琉球石灰岩に接する箇所は他の部分より強粘性で黒味が強く、暗褐色を呈する。

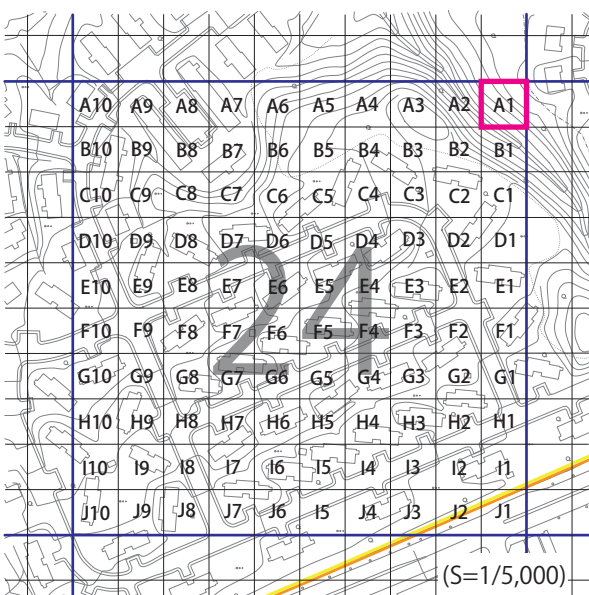
VI層：琉球石灰岩岩盤。

VII層：島尻層泥岩（クチャ）。斜面緑地区域北側で確認。

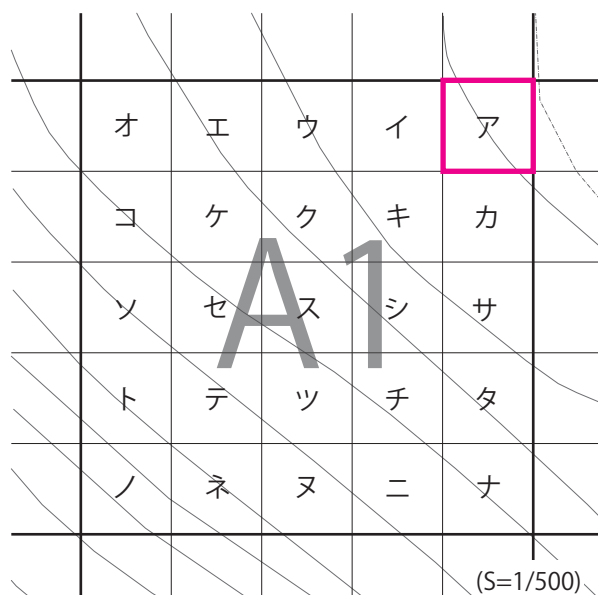


第I区画(300mグリッド)

凡 例		
■ 海軍病院地区	■ キャンプ瑞慶覧	黒字: キャンプ瑞慶覧グリッド番号
■ 西普天間住宅地区	■ 普天間飛行場	青字: 普天間飛行場グリッド番号
■ 東普天間住宅地区		

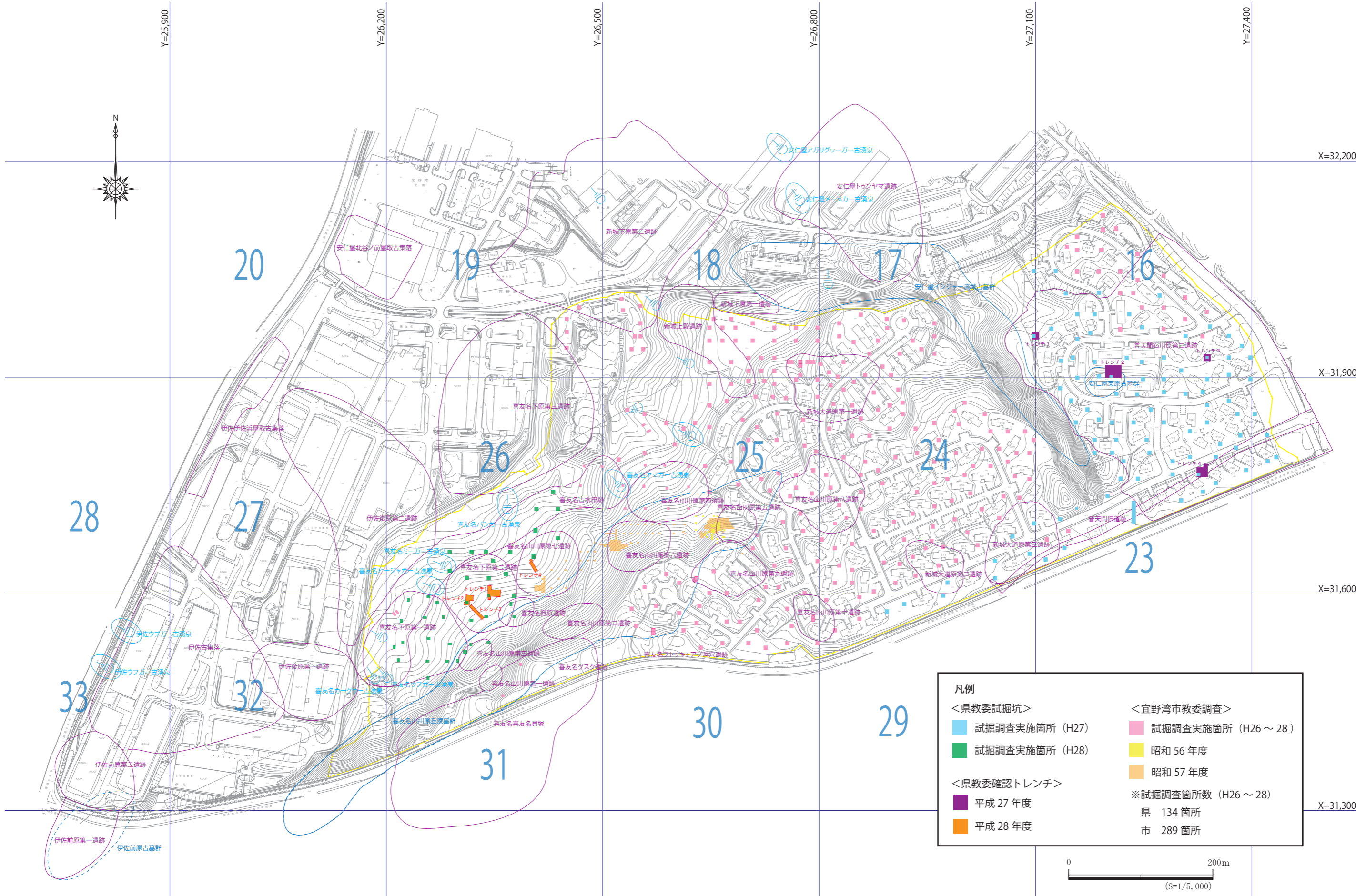


第II区画(30mグリッド)

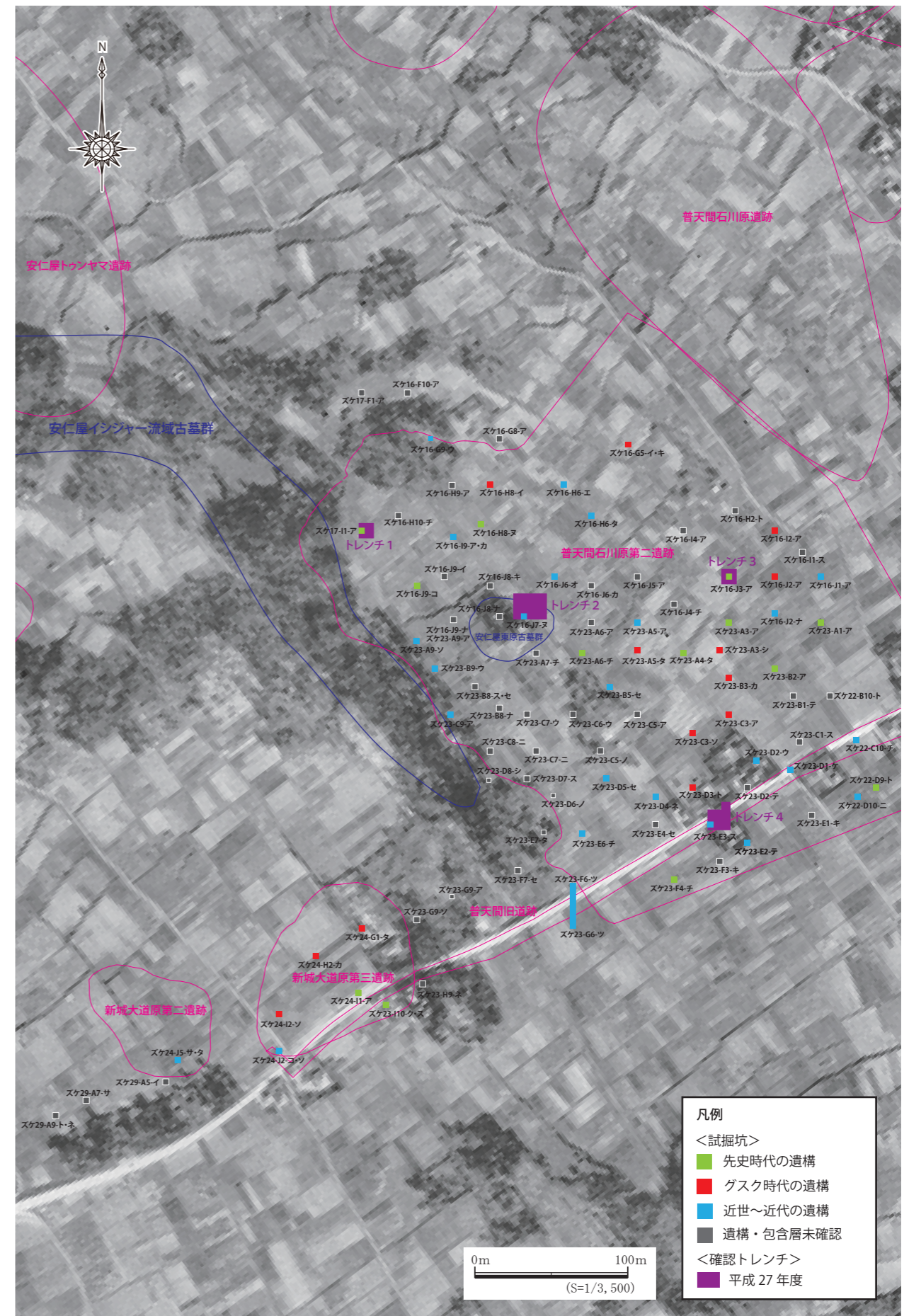


第III区画(6mグリッド)

第4図 グリッド配置図(例:ズケ24-A1-ア)

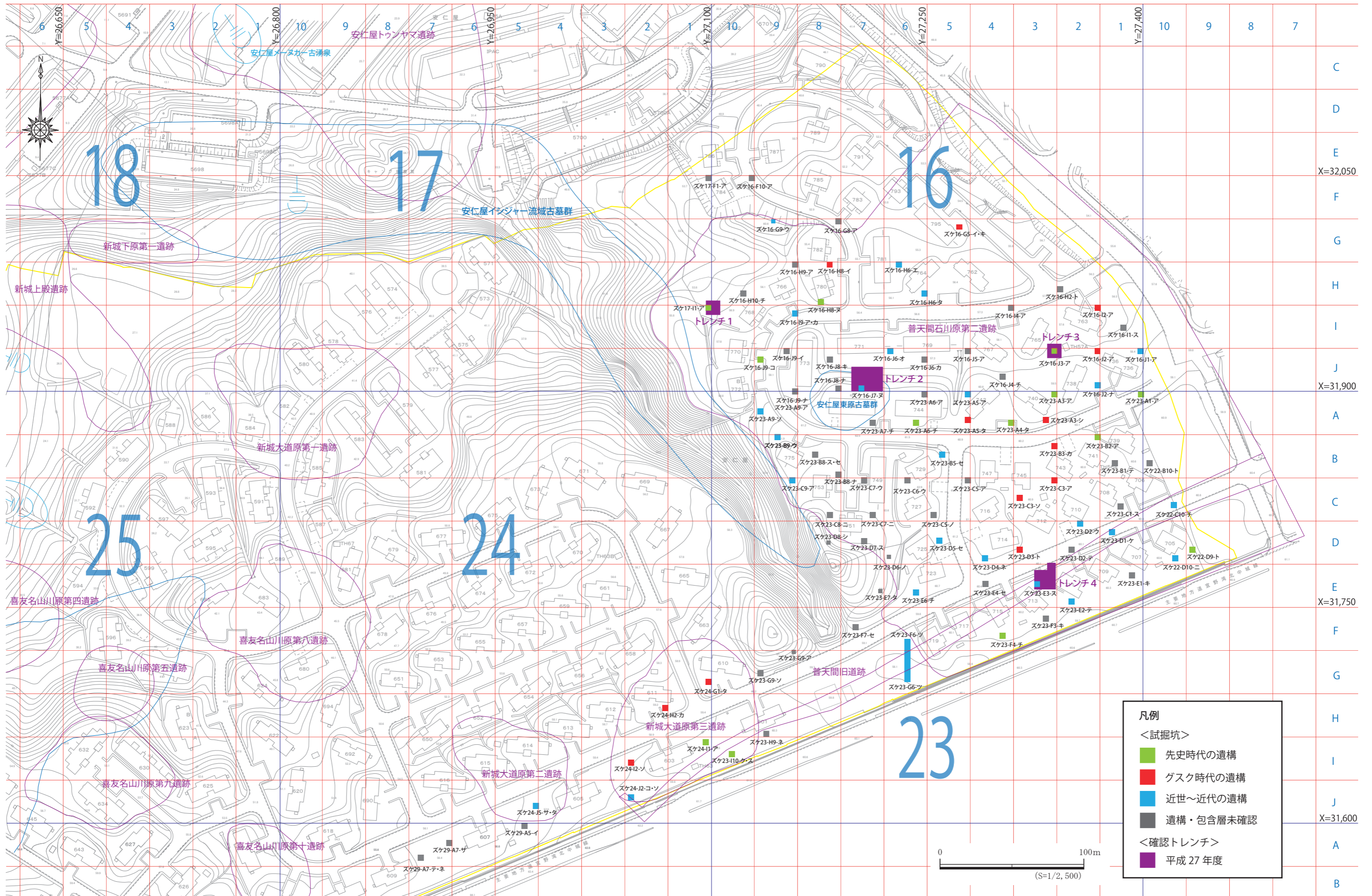


第5図 全体図 試掘箇所図 (県・市) (S= 1/5,000)



写真：宜野湾市教育委員会提供（試掘坑及び確認トレンチの位置は推定である。）

第6図 平成27年度試掘坑・トレンチ配置図(写真:昭和20年)



凡例

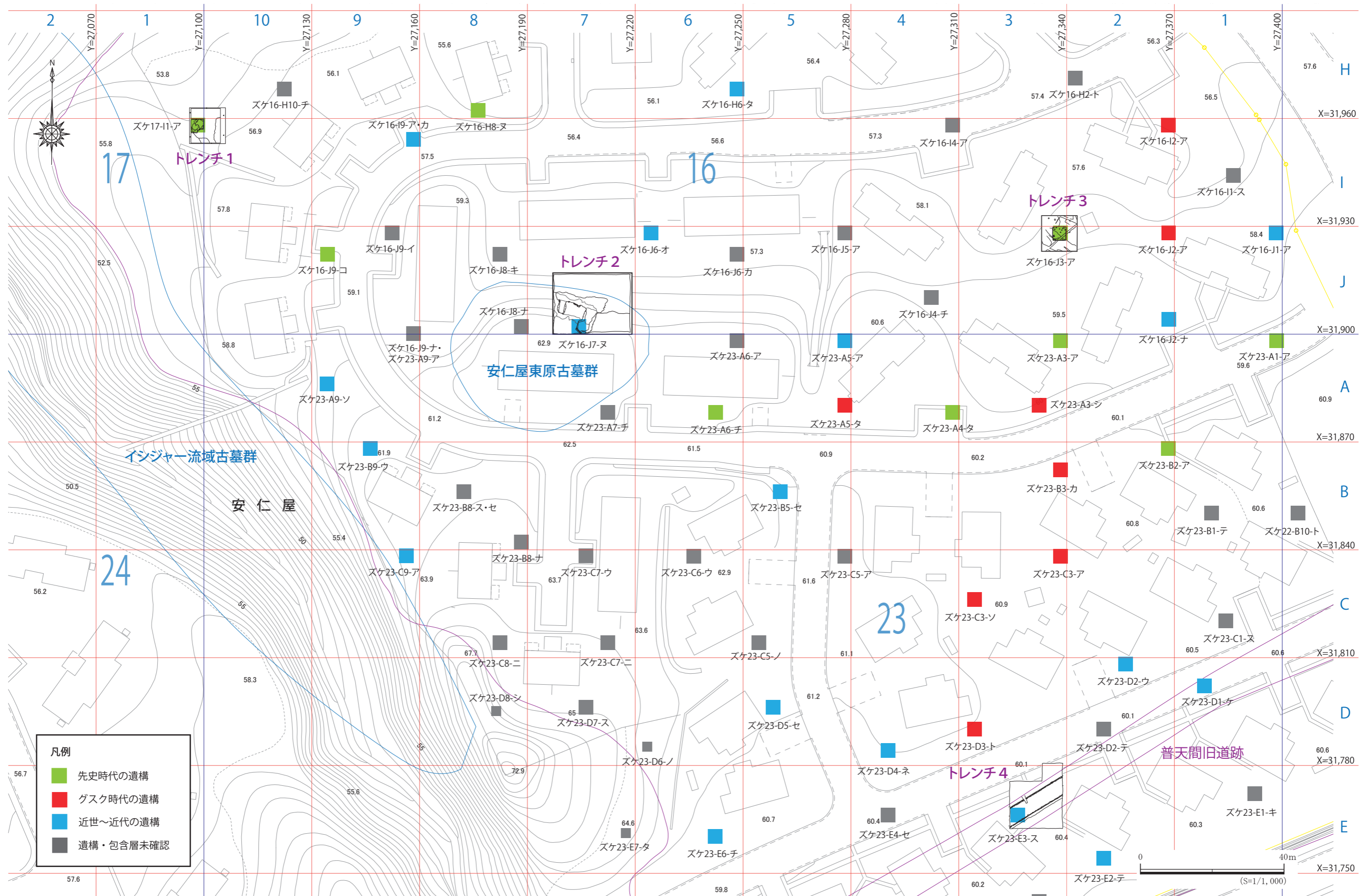
<試掘坑>

- 先史時代の遺構
- グスク時代の遺構
- 近世～近代の遺構
- 遺構・包含層未確認

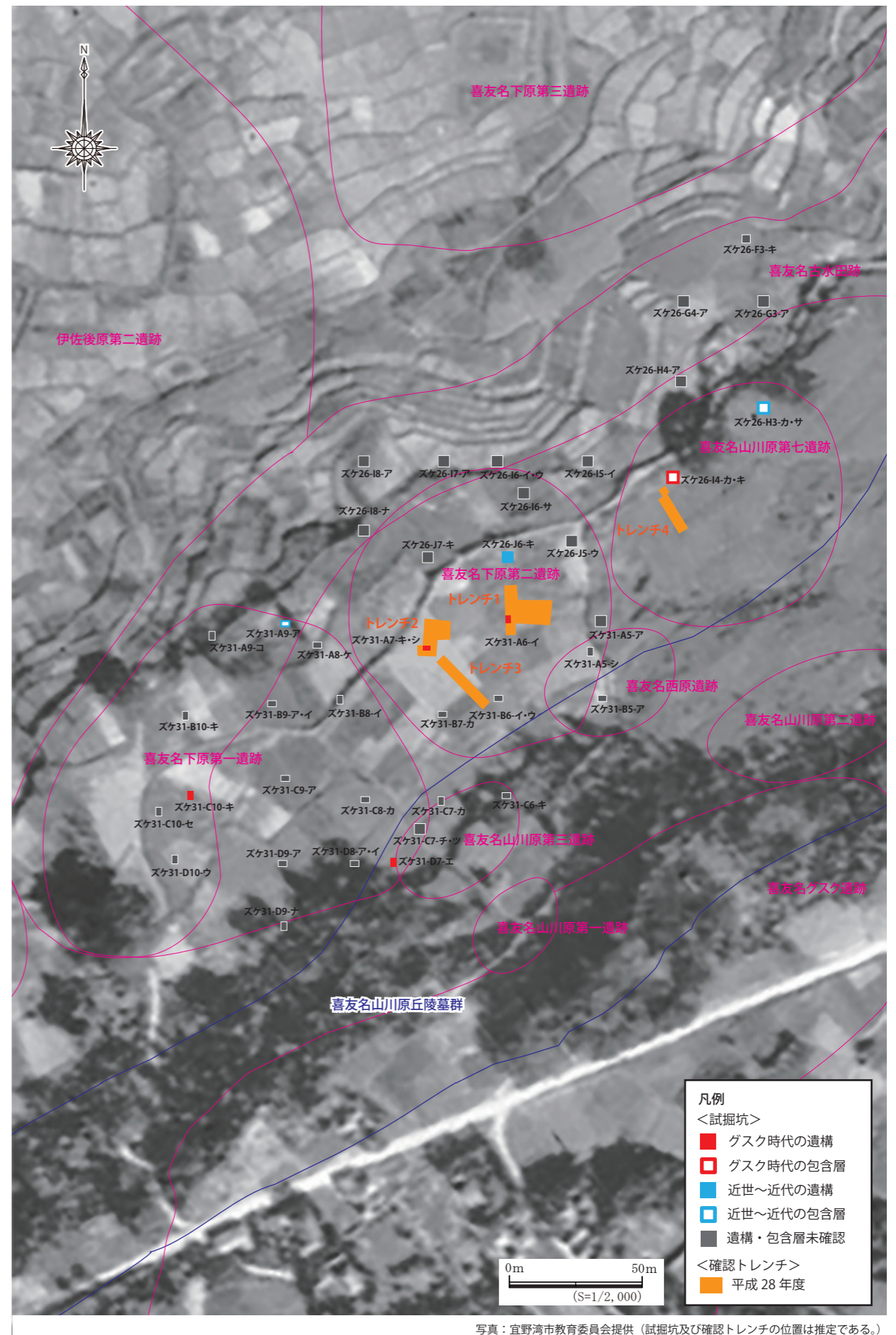
<確認トレンチ>

- 平成 27 年度

第 7 図 平成 27 年度試掘坑・トレンチ配置図 (S= 1/2,500)

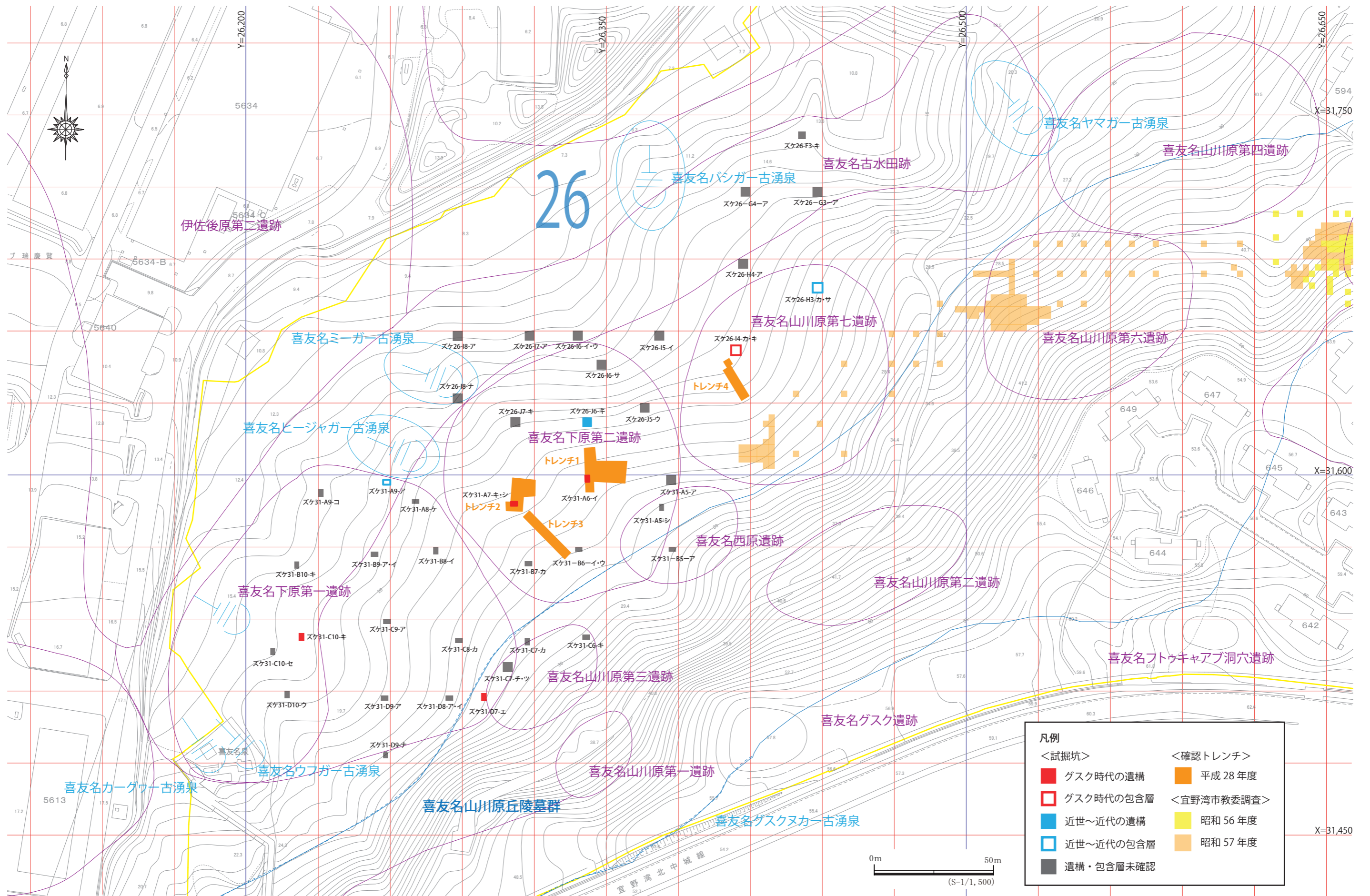


第8図 平成27年度トレンチ配置図 (S= 1/1,000)

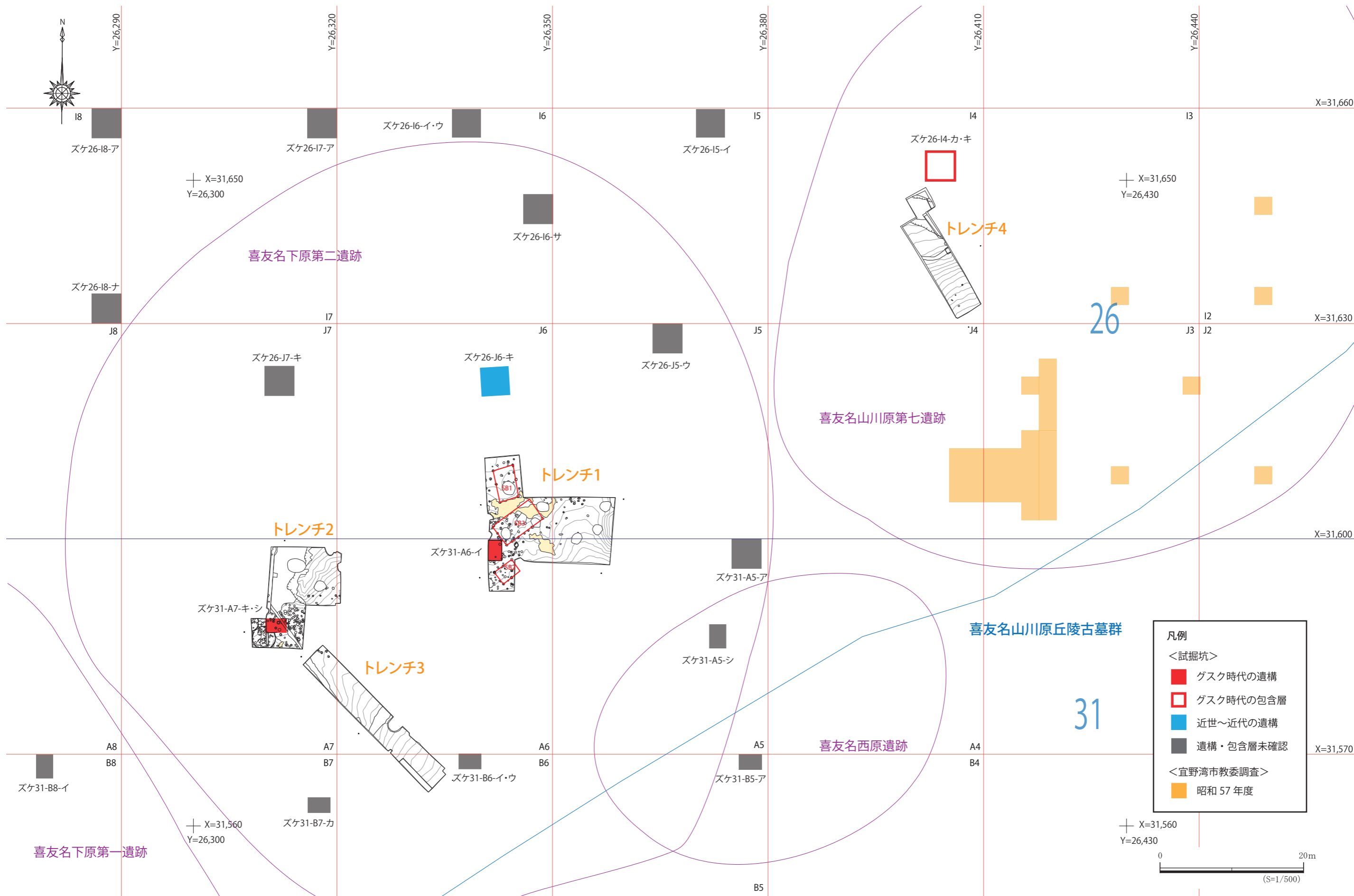


写真：宜野湾市教育委員会提供（試掘坑及び確認トレンチの位置は推定である。）

第9図 平成28年度試掘坑・トレンチ配置図（写真：昭和20年）



第10図 平成28年度試掘坑・トレンチ配置図 (S= 1/1,500)



第11図 平成28年度トレンチ配置図 (S= 1/500)

第2節 平成27年度調査成果

第1項 試掘調査

平成27年度は、住宅エリア東側全94箇所の試掘調査と、1箇所の確認調査を実施した。この結果、51箇所で遺構を確認したほか、ほぼ全箇所において遺物包含層を確認するに至った。

以下、特徴的な遺構が検出された試掘坑について、その調査結果を報告する。なお、試掘後に確認調査を追加で実施した試掘坑については割愛する。

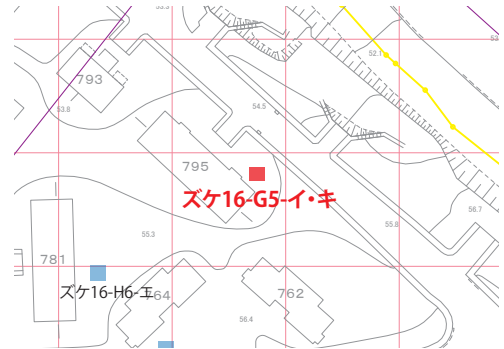
①ズケ16-G5-イ・キ（普天間石川原第二遺跡）

概要：近世～近代とグスク時代とみられる2時期の遺構が検出された。

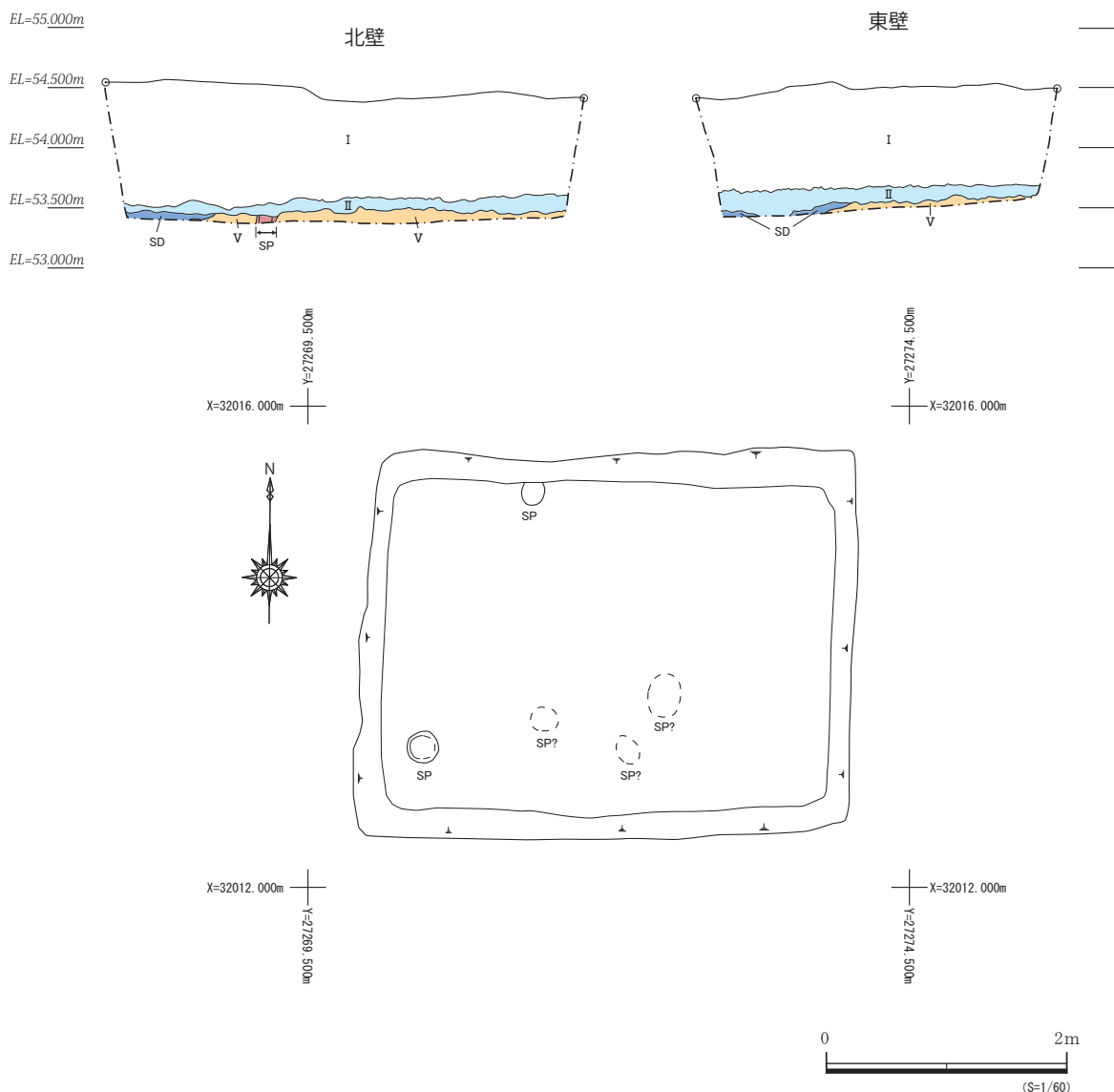
層序：I層、II層、V層

遺構：II層に伴う溝状遺構が2本、またV層中にIII層を覆土とするピット2基、及び覆土の変化が乏しくピットとみられる遺構3基が検出されている。

遺物：なし。



第12図 ズケ16-G5-イ・キ 位置



第13図 ズケ16-G5-イ・キ 壁面図・平面図



北壁



東壁



完掘状況 (南から)



ピット半断面 (南から)

図版2 ズケ16-G5-イ・キ 壁面・完掘状況・遺構半断面写真

②ズケ16-H8-イ (普天間石川原第二遺跡)

概要：近世～近代とグスク時代とみられる2時期の遺構が検出された。

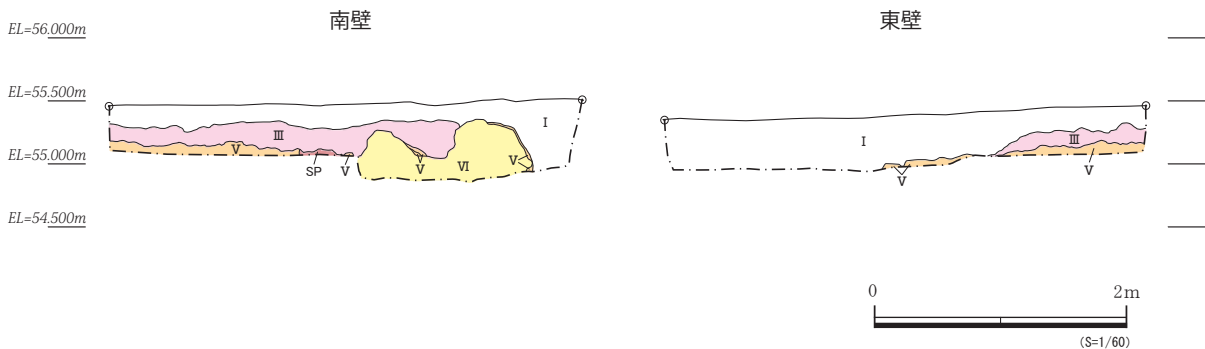
層序：Ⅰ層、Ⅱ層、Ⅲ層、Ⅴ層、Ⅵ層

遺構：Ⅲ層中よりピット4基が検出されている。

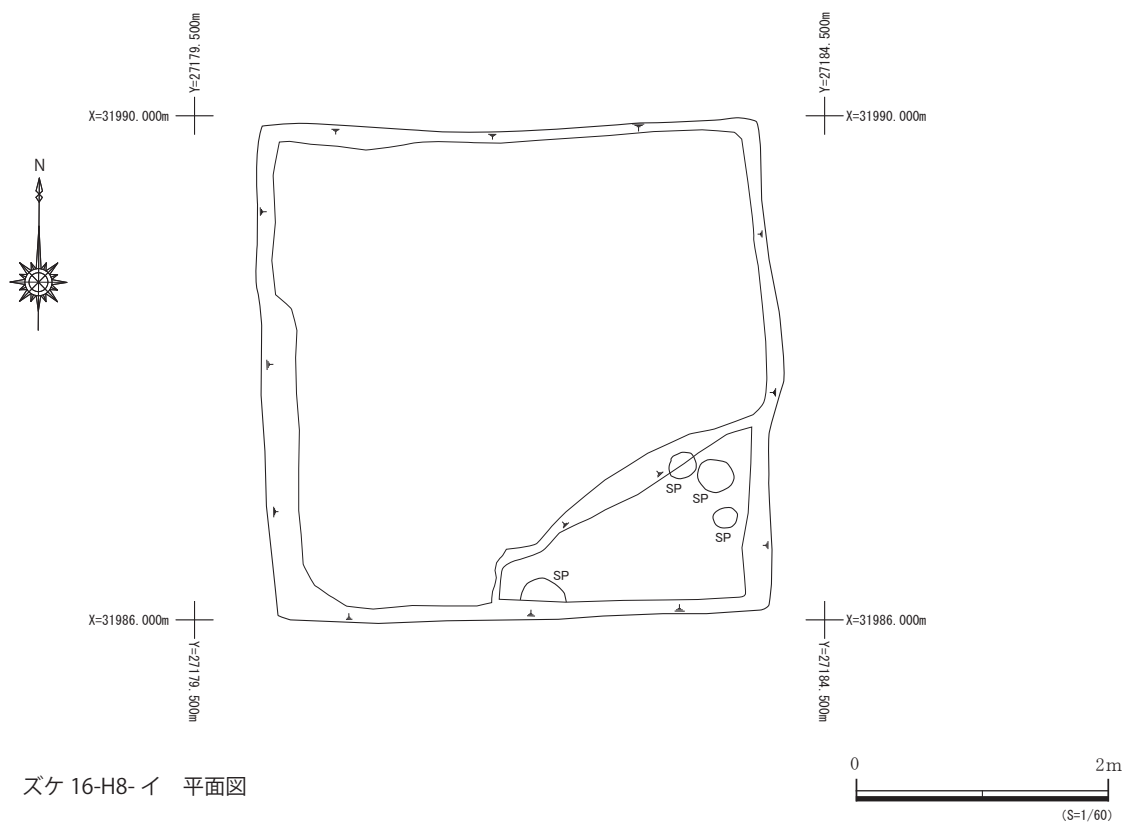
遺物：Ⅰ層より陶質土器・中国産青磁、Ⅲ層より土器が出土している。



第14図 ズケ16-H8-イ 位置



第15図 ズケ16-H8-イ 壁面図



第16図 ズケ16-H8-I 平面図



南壁



東壁



完掘状況（東から）



出土土器

図版3 ズケ16-H8-I 壁面・完掘状況・出土遺物写真

第1表 スケ 16-H8-イ 出土遺物集計表

	種類	青磁	陶質土器	縄文土器	合計
	器種	器種不明	器種不明	器種不明	
	分類	—	—	縄文時代晩期	
層序	部位	胴	胴	胴	
I層		1	1		2
III層				3	3
合計		1	1	3	5

③スケ 16-J2-ア (普天間石川原第二遺跡)

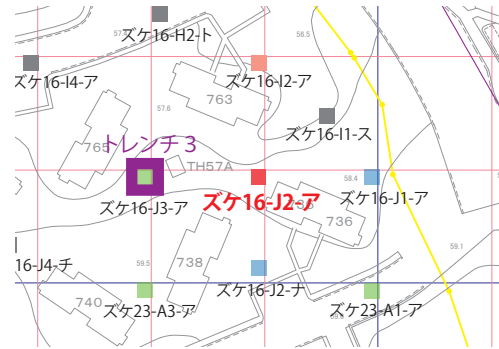
概要：近世～近代とグスク時代とみられる2時期の遺構が検出された。

層序：I層、II層、V層

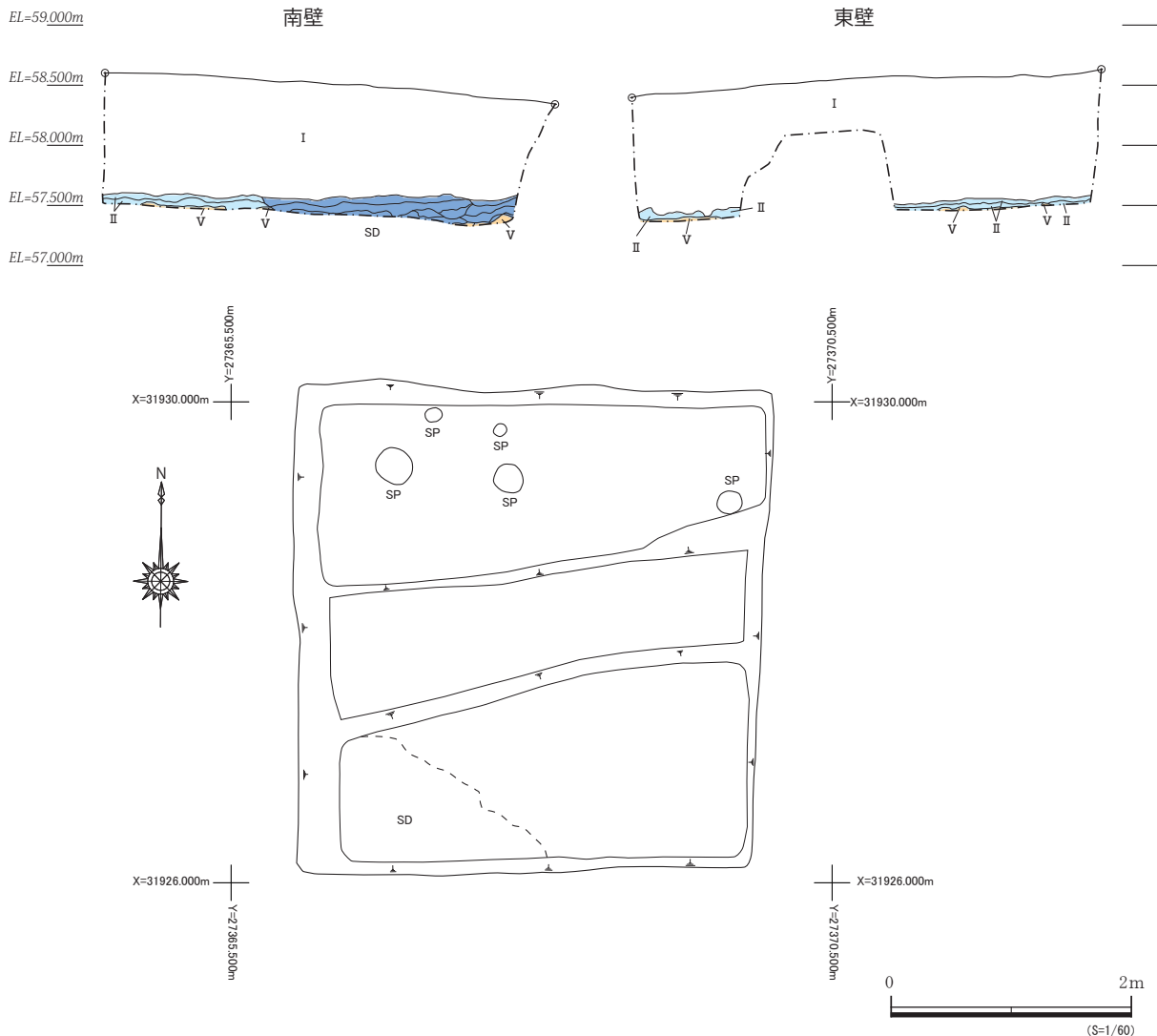
遺構：II層に伴う溝状遺構が1本、またV層中にIII層を覆土とするピット5基が検出されている。

遺物：なし。

備考：試掘坑中央に埋設管あり。



第17図 スケ 16-J2-ア 位置



第18図 スケ 16-J2-ア 壁面図・平面図



南壁



東壁



完掘状況（西から）



作業風景

図版4 ズケ16-J2-ア 壁面・完掘状況・作業風景写真

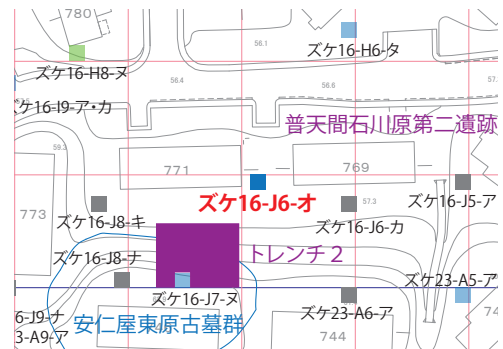
④ズケ16-J6-オ（普天間石川原第二遺跡）

概要：近世～近代の様々な遺構が検出された。

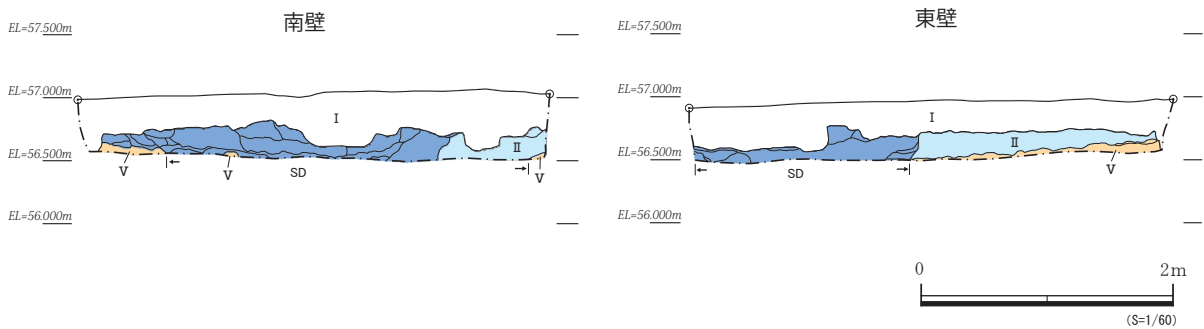
層序：I層、II層、V層

遺構：II層からは溝状遺構3本と土坑1基、V層からは近世とみられるピット3基が検出されている。

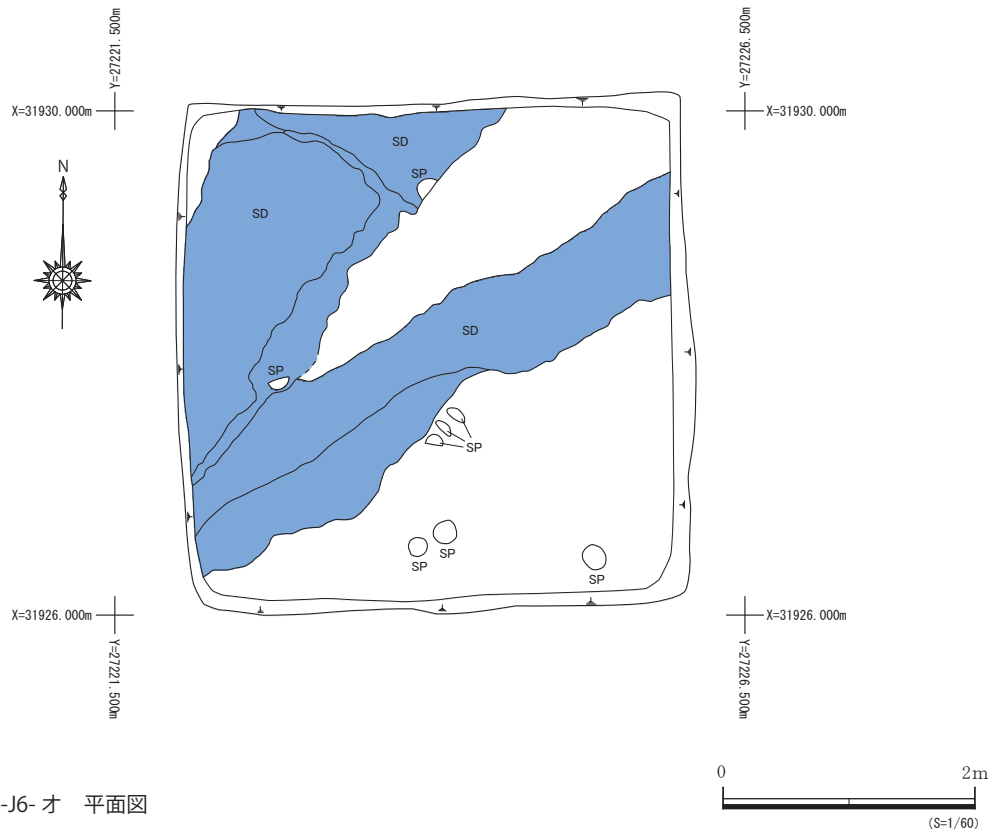
遺物：土坑内より本土産磁器が出土している。またII層中からは沖縄産陶器や陶質土器が出土している。



第19図 ズケ16-J6-オ 位置



第20図 ズケ16-J6-オ 壁面図



第21図 ズケ16-J6-オ 平面図



南壁



東壁



完掘状況 (北から)



作業風景

図版5 ズケ16-J6-オ 壁面・完掘状況・作業風景写真

第2表 ズケ16-J6-オ 出土遺物集計表

	種類	本土産近代磁器			沖縄産施釉陶器	陶質土器	合計
	器種	碗	碗	小杯	瓶	器種不明	
	分類	福建・広東系	—	—	—	—	
層序	部位	口縁	口縁	底	口縁	胴	
SK			1	1			2
II層					1	1	2
ザンド		1					1
合計		1	1	1	1	1	5

⑤ズケ16-J9-コ (普天間石川原第二遺跡)

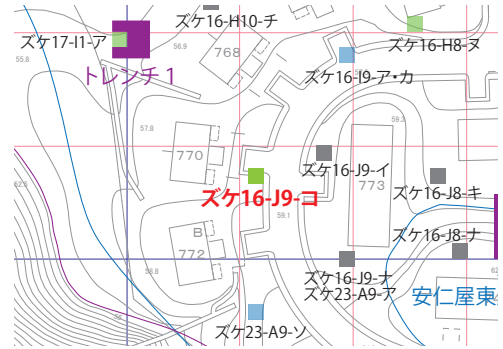
概要：近世～近代、グスク時代、先史時代とみられる3つの時代の遺構が検出された。

層序：I層、II層、V層

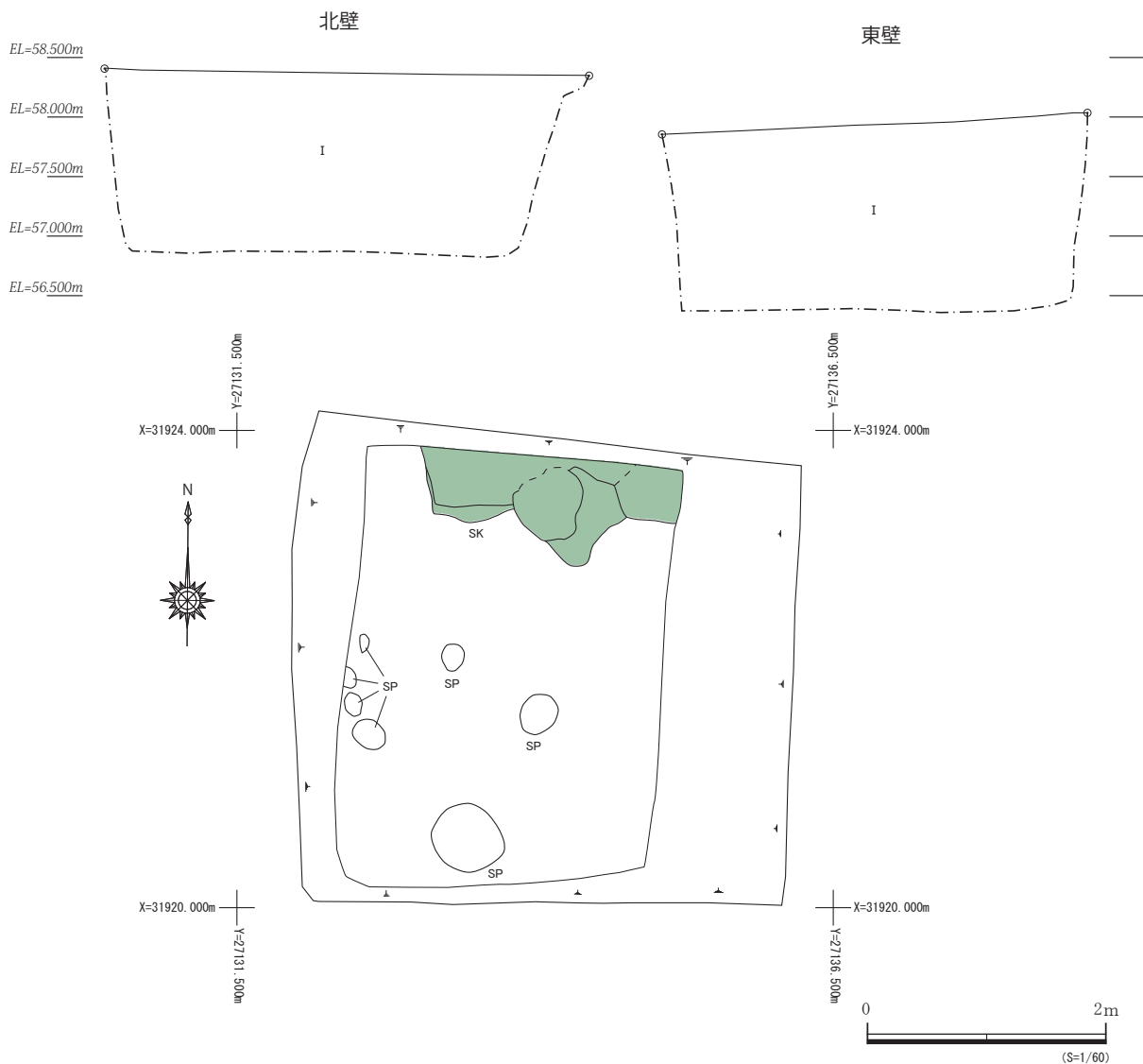
遺構：V層中にIII層を覆土とするピット5基、先史時代の土坑1基が検出されている。

遺物：本土産磁器と沖縄産無釉陶器が出土。

備考：SKからは1,730 ± 30BPの年代が得られた。



第22図 ズケ16-J9-コ 位置



第23図 ズケ16-J9-コ 壁面図・平面図



北壁



東壁



完掘状況（東から）



作業風景

図版6 ズケ 16-J9- コ 壁面・完掘状況・作業風景写真

第3表 ズケ 16-J9- コ 出土遺物集計表

種類 器種	本土産近代磁器		沖縄産無釉陶器		合計
	小皿	甕	袋物	胴	
層序	部位	底	口縁	胴	
サント		1	1	1	3
合計		1	1	1	3

⑥ズケ 22-D9- ト（普天間石川原第二遺跡）

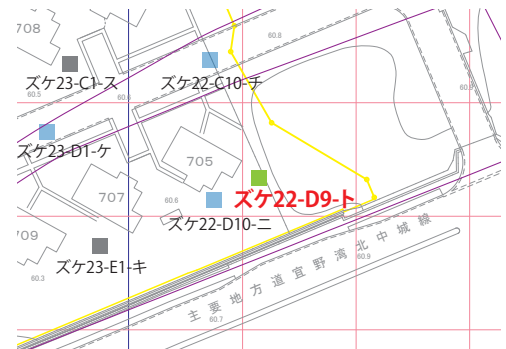
概要：地山層より、近世、グスク時代、先史時代とみられる3時期の遺構が検出された。

層序：I層、II層、III層、IV層、V層

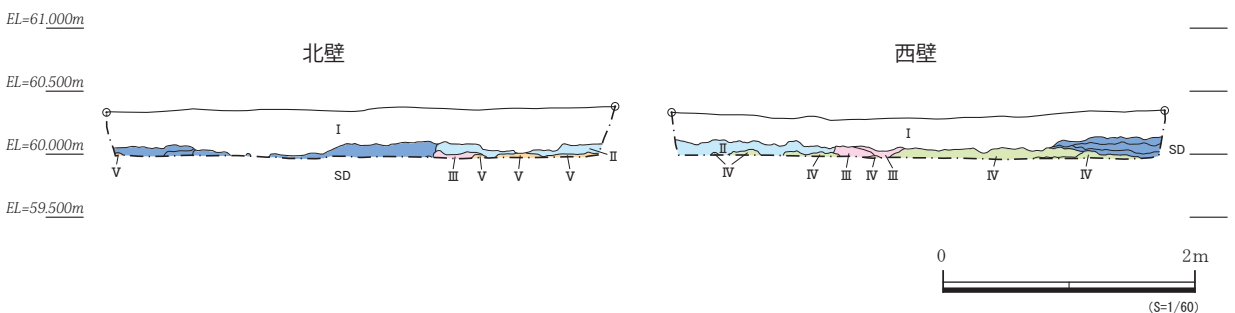
遺構：V層中に、近世の溝状遺構1本、グスク時代とみられるピット30基、先史時代とみられる土坑3基が検出されている。

遺物：溝状遺構中より本土産磁器、沖縄産陶器が出土。またI層からも本土産磁器が出土している。

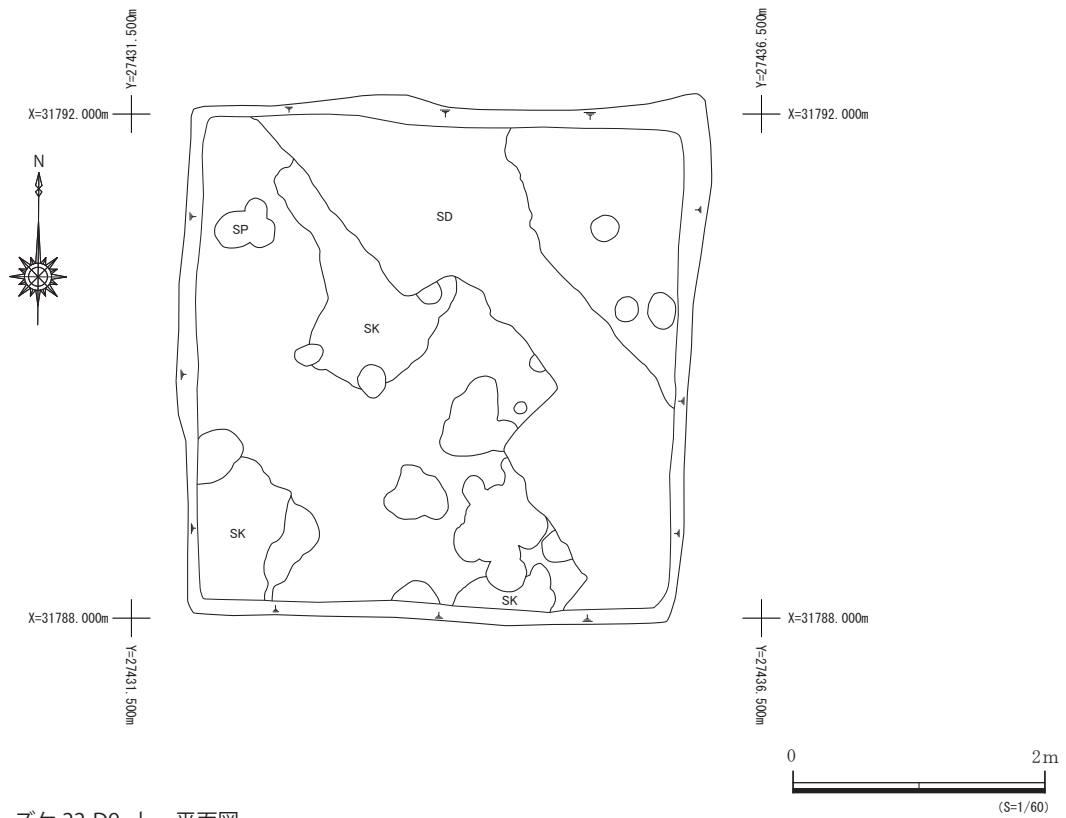
備考：遺構からは 3,300 ± 30BP の年代が得られた。



第24図 ズケ 22-D9- ト 位置



第25図 ズケ 22-D9- ト 壁面図



第26図 スケ22-D9-ト 平面図



北壁



西壁



完掘状況（南から）



溝状遺構内出土遺物

図版7 スケ22-D9-ト 壁面・完掘状況・出土遺物写真

第4表 スケ22-D9-ト出土遺物集計表

層序	種類	染付	本土産近代磁器		産地不明陶器	沖縄産施釉陶器		合計
	器種		碗	皿	器種不明	碗	袋物	
部位		胴	胴	口縁	胴	口縁	胴	
ヒョウサイ		1				1		2
I層				1				1
SD			1		1		1	3
合計		1	1	1	1	1	1	6

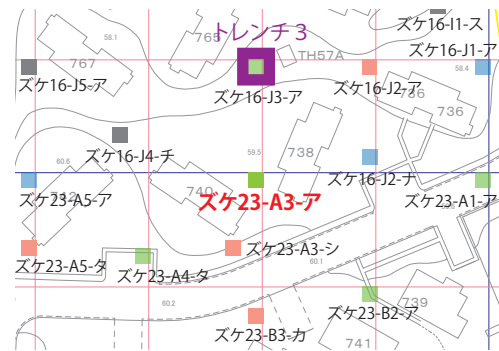
⑦スケ23-A3-ア (普天間石川原第二遺跡)

概要：地山のV層より、近世～近代、グスク時代、先史時代の3時期の遺構が検出された。

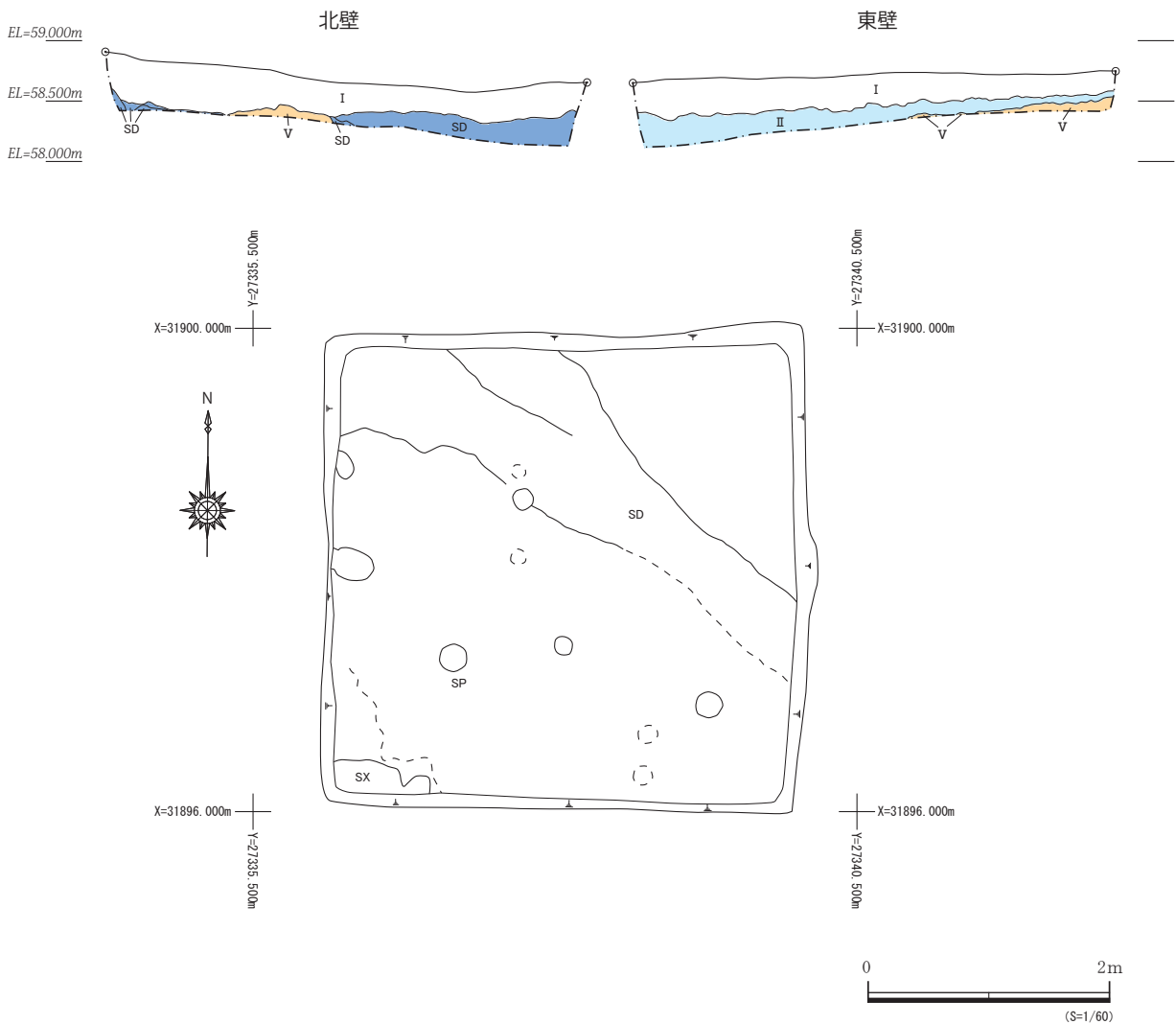
層序：I層、II層、V層

遺構：近世～近代の溝状遺構2本、グスク時代とみられるピット10基、先史時代とみられる遺構1基。

遺物：福建・広東系の染付碗と瓦片が出土。



第27図 スケ23-A3-ア 位置



第28図 スケ23-A3-ア 壁面図・平面図



北壁



東壁



完掘状況（西から）



重機掘削作業

図版8 ズケ23-A3-ア 壁面・完掘状況・重機掘削作業写真

第5表 ズケ23-A3-ア 出土遺物集計表

	種類	染付	明朝系瓦	合計
	器種	碗	—	
層序	分類	福建・広東系	赤・平瓦	
	部位	胴	筒部	
フメイ		1	1	2
合計		1	1	2

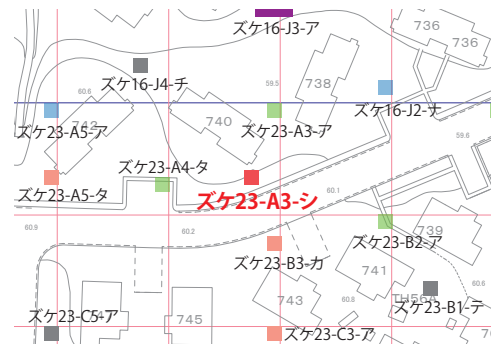
⑧ズケ23-A3-シ（普天間石川原第二遺跡）

概要：地山のV層より、近世～近代、グスク時代の2つの時期の遺構が検出された。

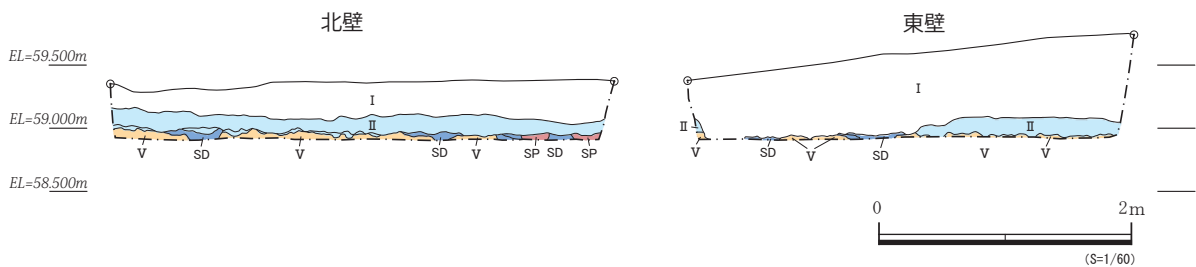
層序：I層、II層、V層

遺構：近世～近代の溝状遺構2本、グスク時代とみられるピット19基。

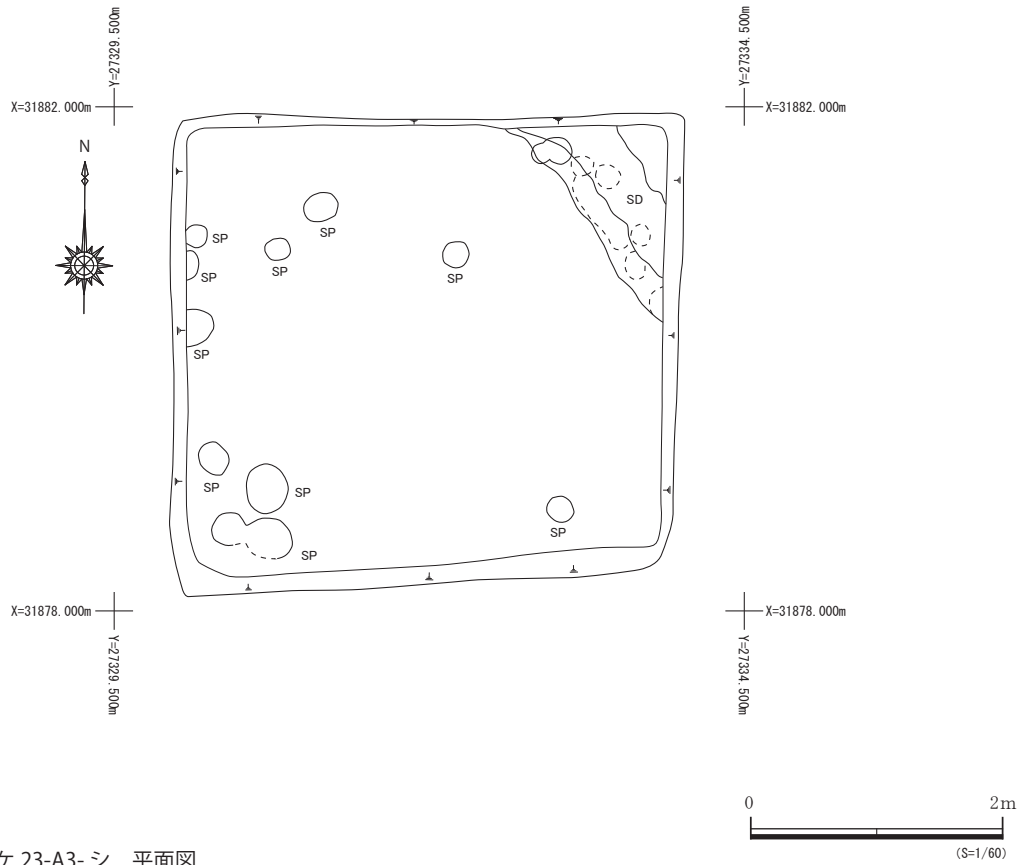
遺物：II層中より、近代の本土産磁器皿1点が出土。



第29図 ズケ23-A3-シ 位置



第30図 ズケ23-A3-シ 壁面図



第31図 ズケ23-A3-シ 平面図



北壁



東壁



完掘状況 (南から)



重機掘削作業

図版9 ズケ23-A3-シ 壁面・完掘状況・重機掘削作業写真

第6表 スケ23-A3-シ 出土遺物集計表

層序	種類	本土産近代磁器	合計
	器種	皿	
II層	部位	口縁	1
合計		1	1

⑨スケ23-A4-タ (普天間石川原第二遺跡)

概要：地山のV層より、近世～近代、グスク時代、先史時代の3つの時期の遺構が検出された。

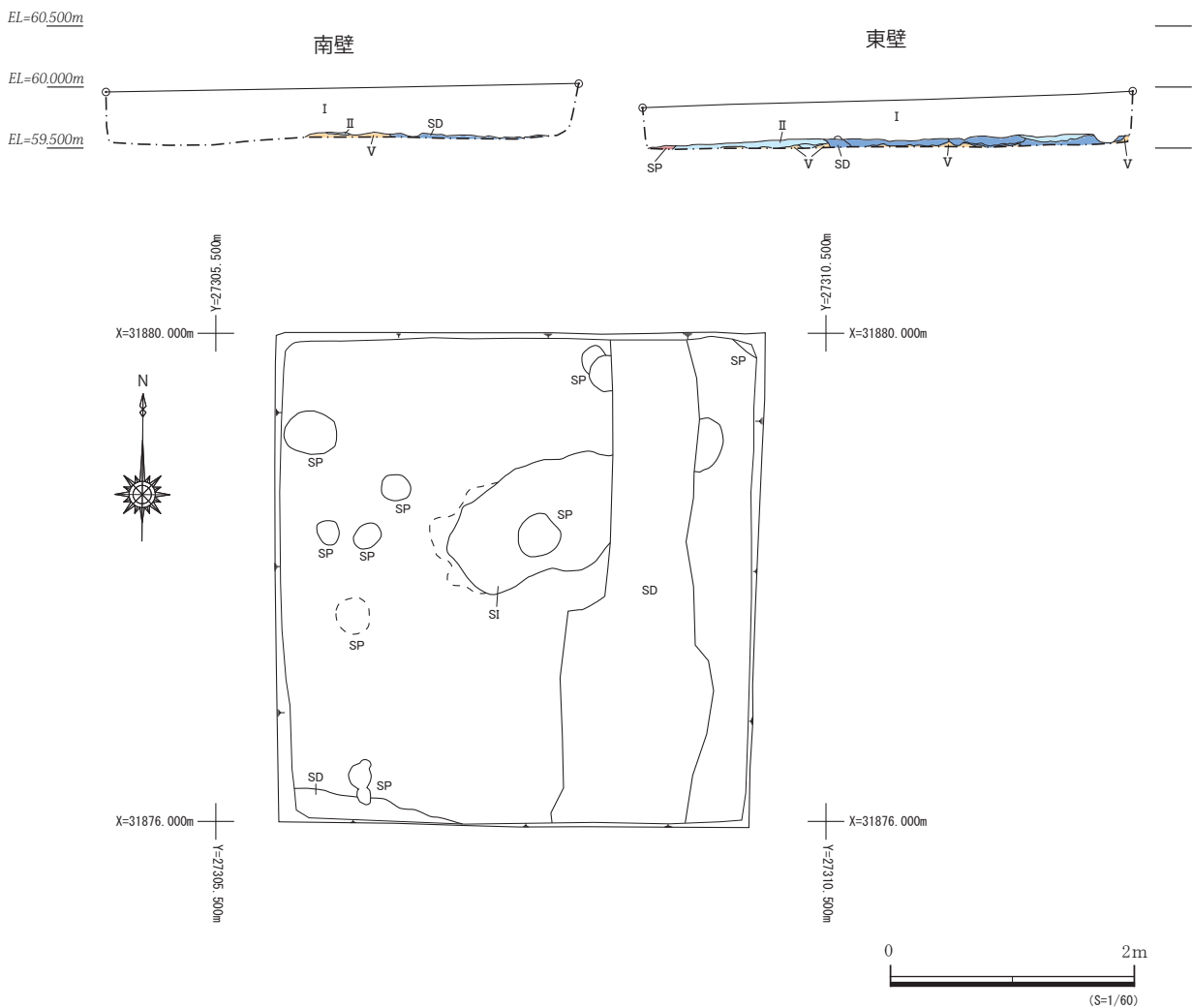
層序：I層、II層、V層

遺構：近世～近代の溝状遺構2本、グスク時代とみられるピット8基、先史時代とみられる竪穴状遺構1基。

遺物：なし。



第32図 スケ23-A4-タ 位置



第33図 スケ23-A4-タ 壁面図・平面図



南壁



東壁



完掘状況（南から）



重機掘削作業

図版 10 ズケ 23-A4- タ 壁面・完掘状況・重機掘削作業写真

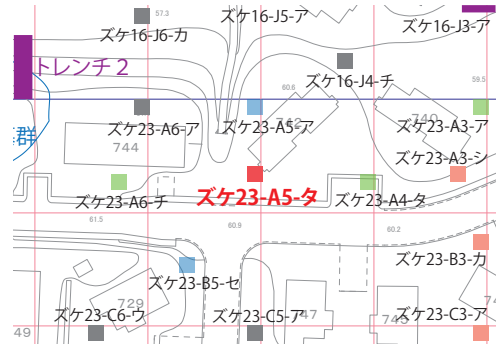
⑩ズケ 23-A5- タ（普天間石川原第二遺跡）

概要：地山のV層より、近世～近代、グスク時代の2つの時期の遺構が検出された。

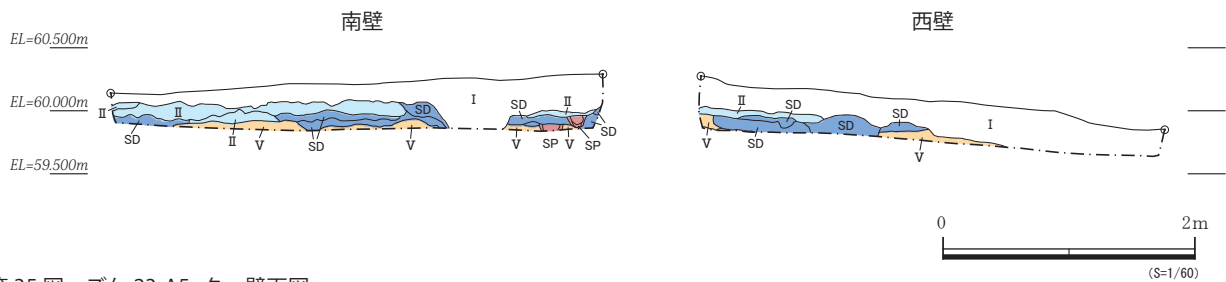
層序：I層、II層、V層

遺構：近世～近代の溝状遺構4本、グスク時代とみられるピット26基。

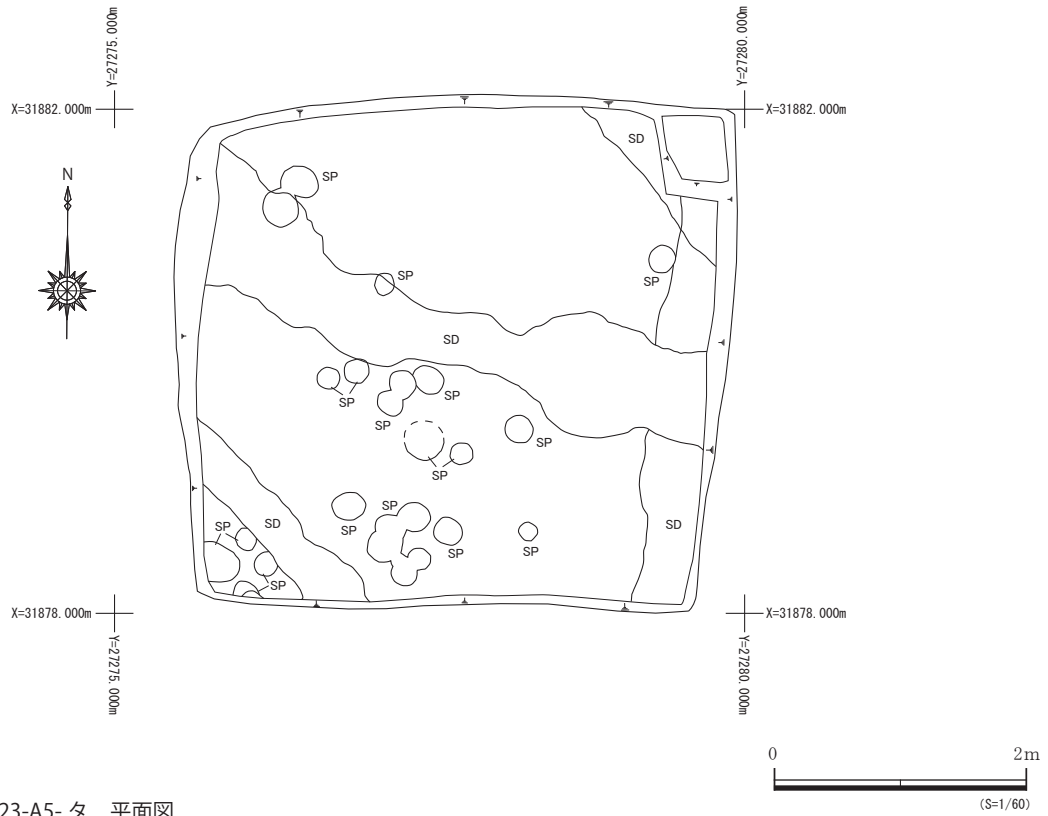
遺物：なし。



第34図 ズケ 23-A5- タ 位置



第35図 ズケ 23-A5- タ 壁面図



第36図 ズケ23-A5-タ 平面図



南壁



西壁



完掘状況（南から）



作業風景

図版11 ズケ23-A5-タ 壁面・完掘状況・作業風景写真

⑪ズケ 23-A6-チ (普天間石川原第二遺跡)

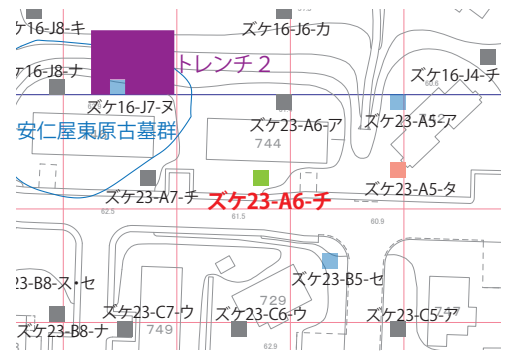
概要：V層より近世～近代と先史時代とみられる2時期の遺構を検出。

層序：I層、V層、VI層

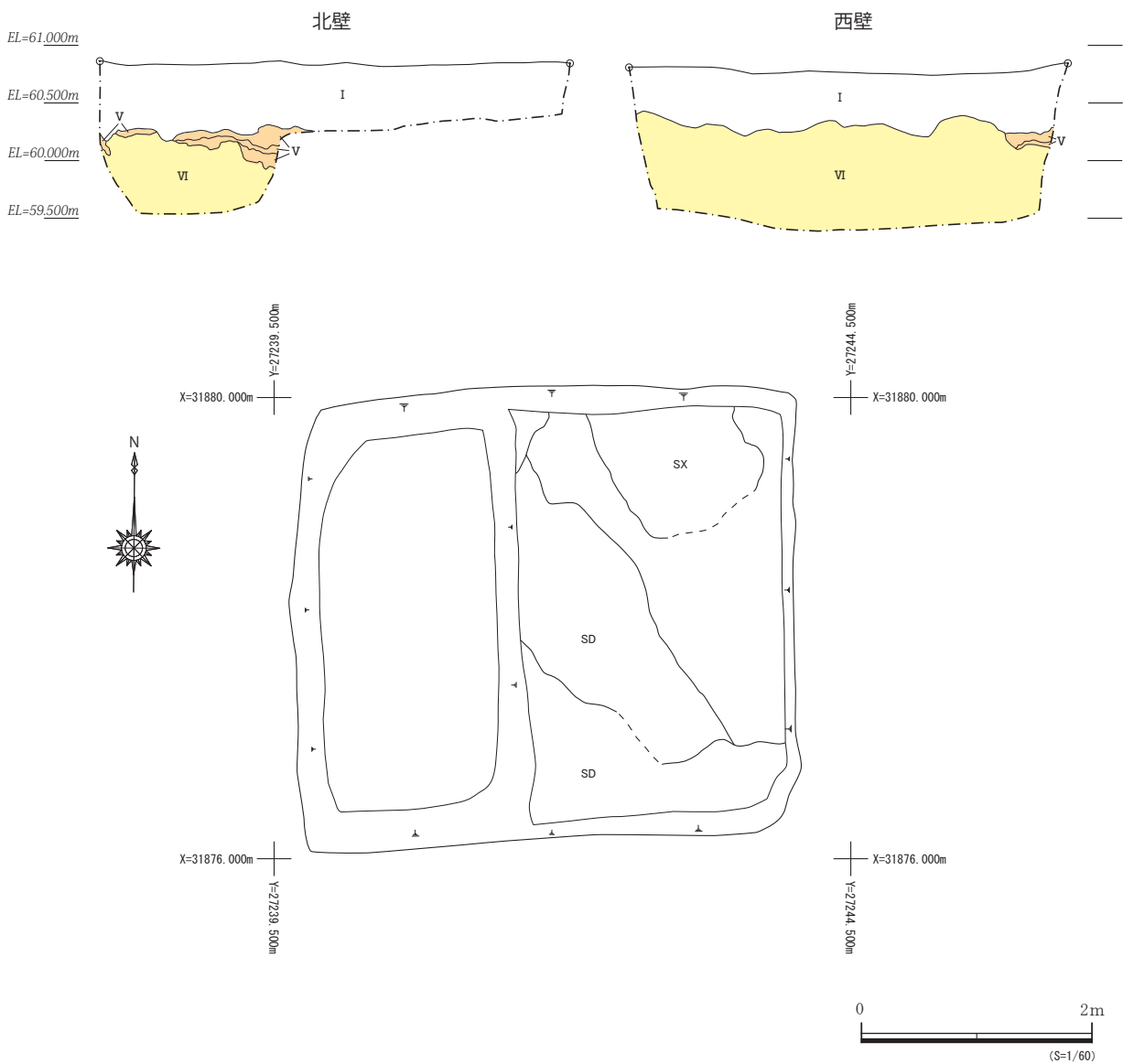
遺構：近世～近代の溝状遺構2本、先史時代とみられる遺構1基。

遺物：なし。

備考：試掘坑西側は埋設管のため、遺構残存なし。
遺構からは $4,460 \pm 30BP$ の年代が得られた。



第37図 ズケ 23-A6-チ 位置



第38図 ズケ 23-A6-チ 壁面図・平面図



北壁



西壁



完掘状況(南から)



重機掘削状況

図版12 ズケ23-A6-チ 壁面・完掘状況・重機掘削状況写真

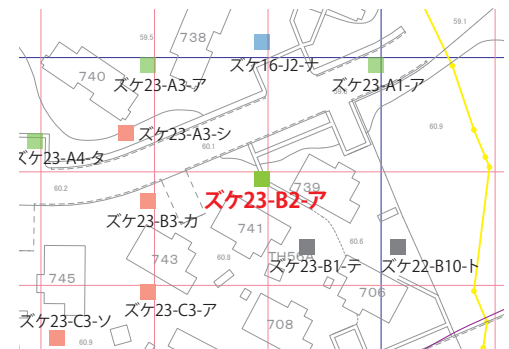
⑫ズケ23-B2-ア(普天間石川原第二遺跡)

概要：近世～近代と先史時代とみられる2時期の遺構を検出。

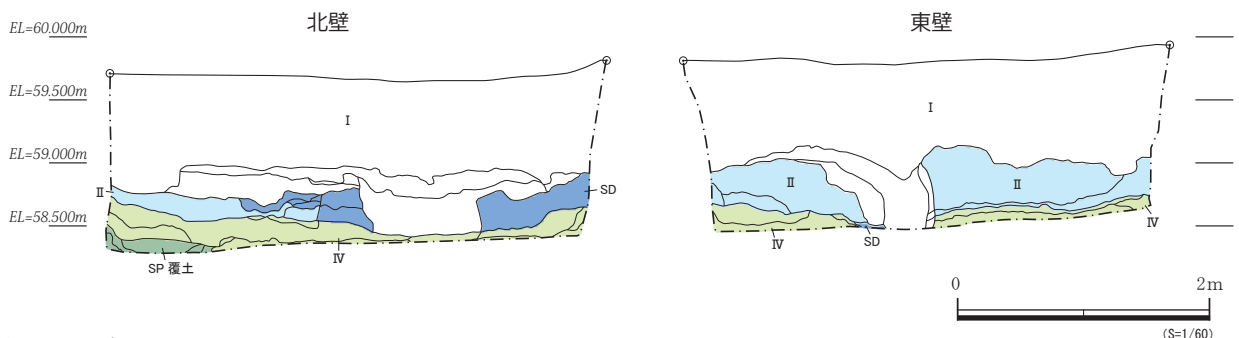
層序：I層、II層、III層、IV層

遺構：近世～近代の溝状遺構2本、先史時代とみられるピット9基。

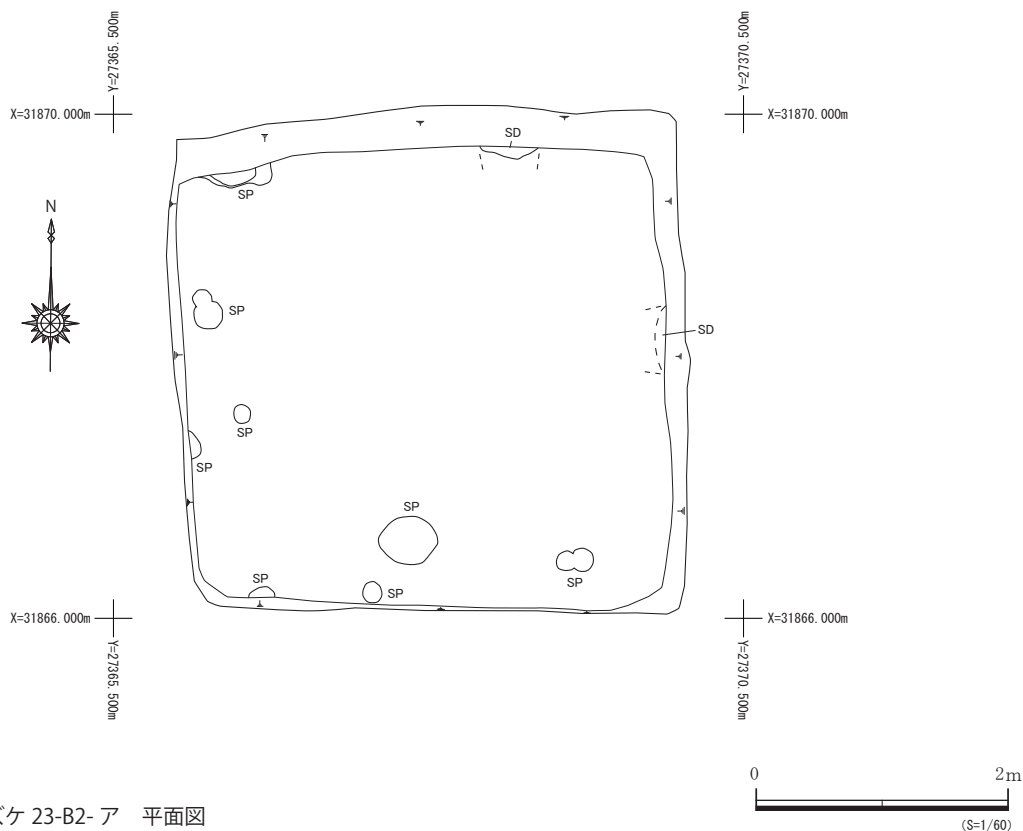
遺物：沖縄産無釉陶器の小皿片1点のみ出土。



第39図 ズケ23-B2-ア 位置



第40図 ズケ23-B2-ア 壁面図



第41図 ズケ 23-B2-ア 平面図



北壁



東壁



完掘状況 (北から)



重機掘削状況

図版 13 ズケ 23-B2-ア 壁面・完掘状況・重機掘削状況写真

第7表 スケ23-B2-ア 出土遺物集計表

層序	種類	沖縄産無釉陶器	合計
	器種	小皿	
フメイ	部位	口縁	1
合計		1	1

⑬スケ23-B3-カ (普天間石川原第二遺跡)

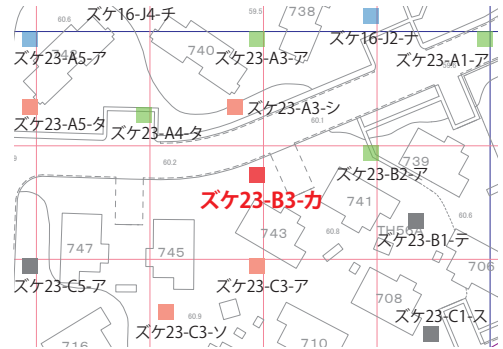
概要：地山より近世～近代とグスク時代とみられる2時期の遺構を検出した。

層序：I層、II層、V層

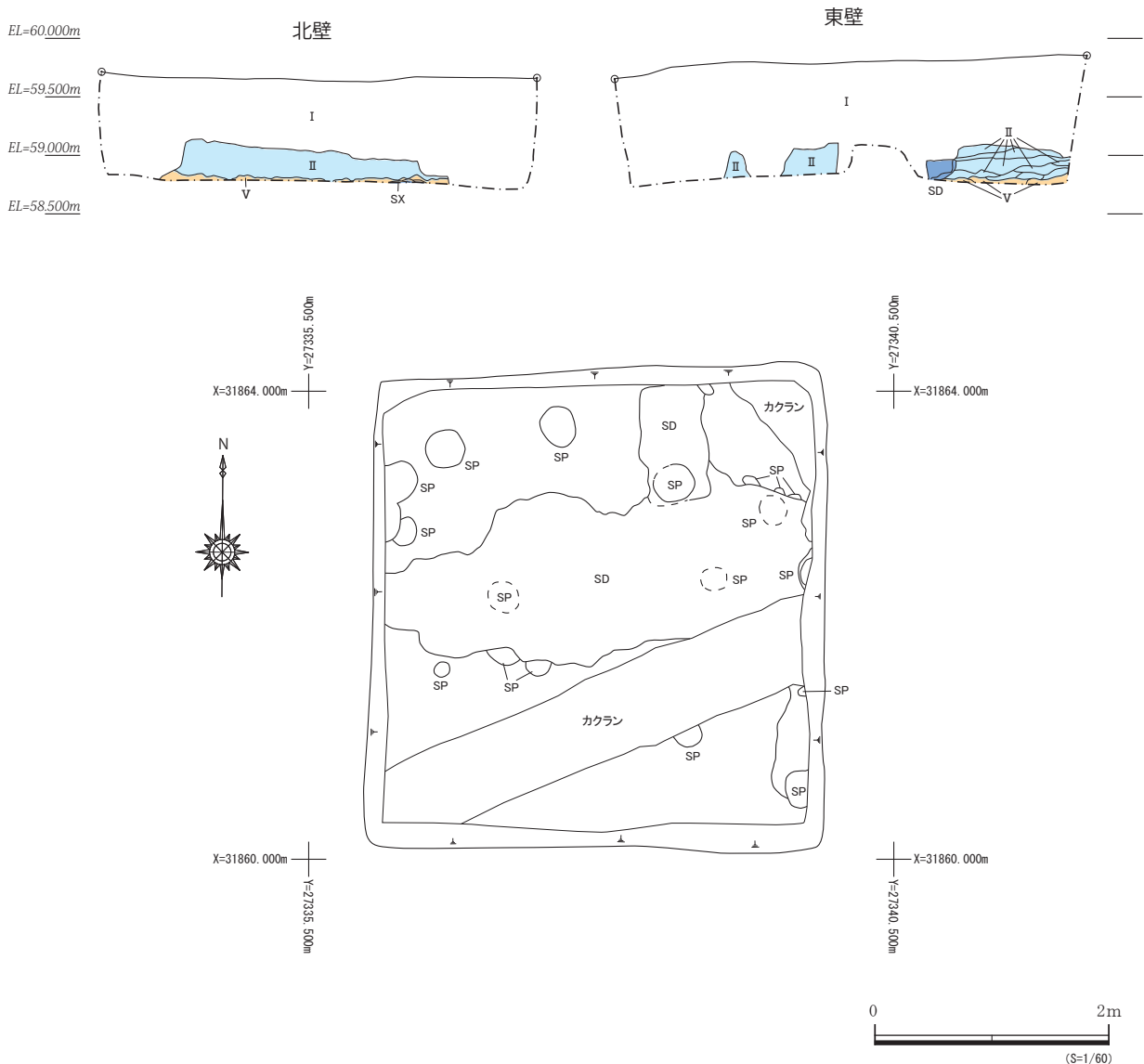
遺構：近世～近代の溝状遺構2本、グスク時代とみられるピット21基。

遺物：II層より沖縄産無釉陶器片が1点出土。

備考：埋設管を確認。



第42図 スケ23-B3-カ 位置



第43図 スケ23-B3-カ 壁面図・平面図



北壁



東壁



完掘状況（南から）



作業風景

図版 14 ズケ 23-B3- カ 壁面・完掘状況・作業風景写真

第 8 表 ズケ 23-B3- カ 出土遺物集計表

層序	種類	沖縄産無釉陶器		合計
	器種 部位	袋物	胴	
II層		1		1
合計		1		1

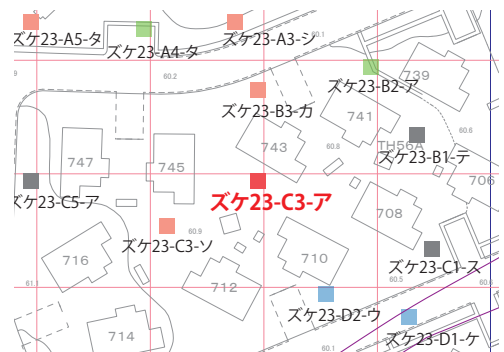
⑭ズケ 23-C3- ア（普天間石川原第二遺跡）

概要：多数の地層が検出された試掘坑で、各層より遺構が検出されている。遺構の年代は、近世～近代とグスク時代とみられる2時期である。

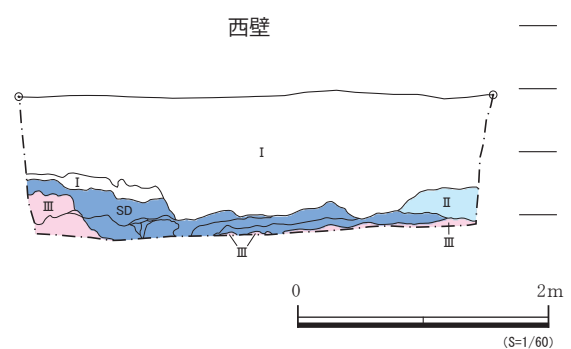
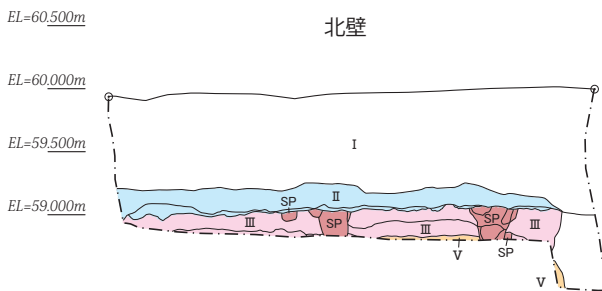
層序：I層、II層、II b層、III層、V層

遺構：II層より近世～近代の溝状遺構1本、グスク時代とみられるピットはII層より6基、III層より14基、V層より2基。

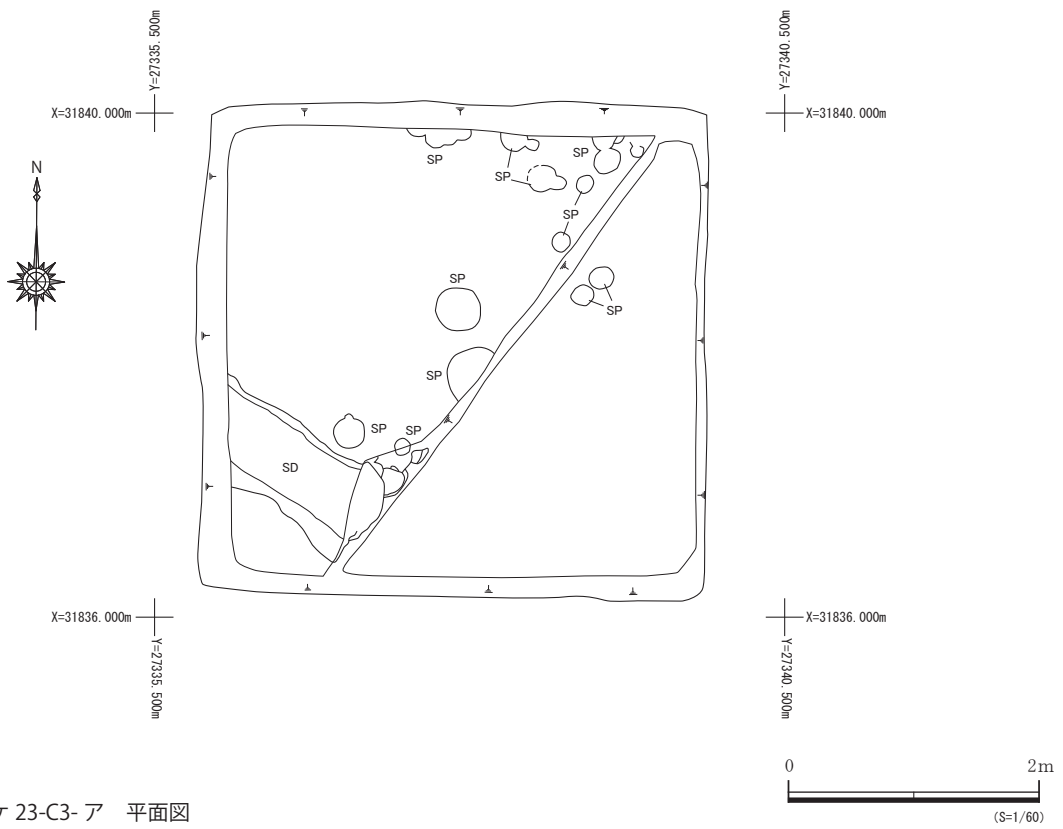
遺物：なし。



第 44 図 ズケ 23-C3- ア 位置



第 45 図 ズケ 23-C3- ア 壁面図



第46図 ズケ23-C3-ア 平面図



北壁



西壁



完掘状況（東から）



作業風景

図版15 ズケ23-C3-ア 壁面・完掘状況・作業風景写真

⑮ズケ 23-C3- ソ (普天間石川原第二遺跡)

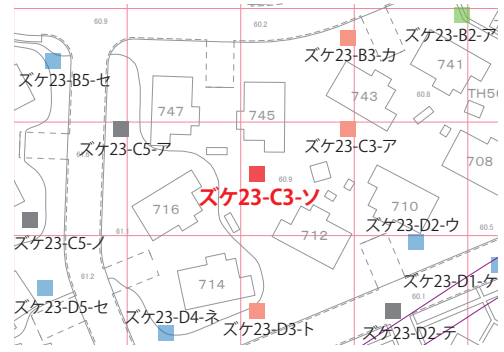
概要：遺構覆土を含めると、今回の調査で確認された全地層が検出された試掘坑である。遺構の年代は、近世～近代とグスク時代とみられる2時期である。

層序：Ⅰ層、Ⅱ層、Ⅲ層、Ⅳ層、Ⅴ層

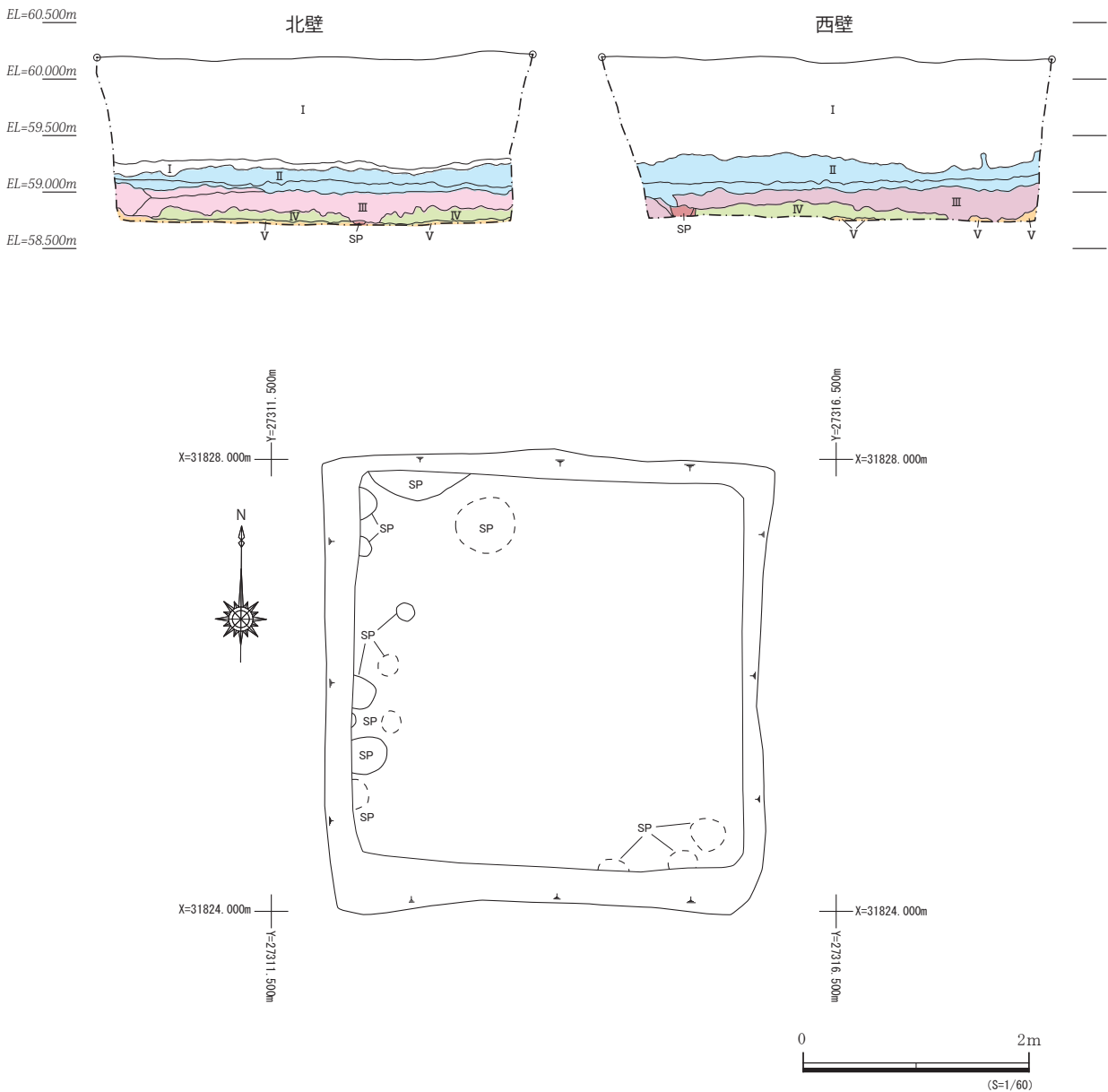
遺構：Ⅳ・Ⅴ層中からグスク時代とみられるピットが検出されている。

遺物：Ⅱ層とⅣ層より縄文時代とみられる土器が得られている。

備考：Ⅱ層から① $140 \pm 20BP$ 、② $200 \pm 20BP$ 、
Ⅲ層から③ $3,970 \pm 30BP$ 、
Ⅳ層から④ $2,870 \pm 30BP$ 、⑤ $22,510 \pm 90BP$ の年代が得られた。



第47図 ズケ 23-C3- ソ 位置



第48図 ズケ 23-C3- ソ 壁面図・平面図



北壁



西壁



完掘状況（西から）



出土土器（上：II層 下：IV層）

図版 16 ズケ 23-C3- ソ 壁面・完掘状況・出土土器写真

第9表 ズケ 23-C3- ソ 出土遺物集計表

層序	種類	縄文土器	合計
	器種	器種不明	
II層	分類	縄文時代晩期	
IV層	部位	胴	
II層		1	1
IV層		1	1
合計		2	2

第10表 ズケ 23-C8- ニ 出土遺物集計表

層序	種類	獣骨	合計
	分類	不明	
II層		1	1
合計		1	1

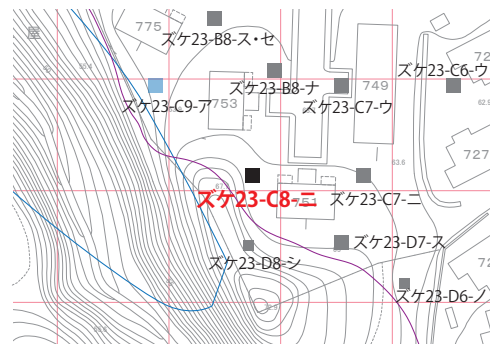
⑩ズケ 23-C8- ニ（普天間石川原第二遺跡）

概要：岩盤に小洞穴の開口部が確認されている。

層序：I層、II層、V層、VI層

遺構：なし。

遺物：小動物骨出土（洞穴覆土）。



第49図 ズケ 23-C8- ニ 位置



北壁



西壁

図版 17 ズケ 23-C8- ニ 壁面写真

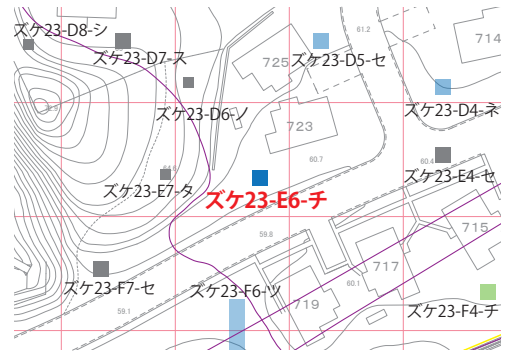
⑰ ズケ 23-E6- チ (普天間石川原第二遺跡)

概要：V層より近世～近代の遺構が検出されている。

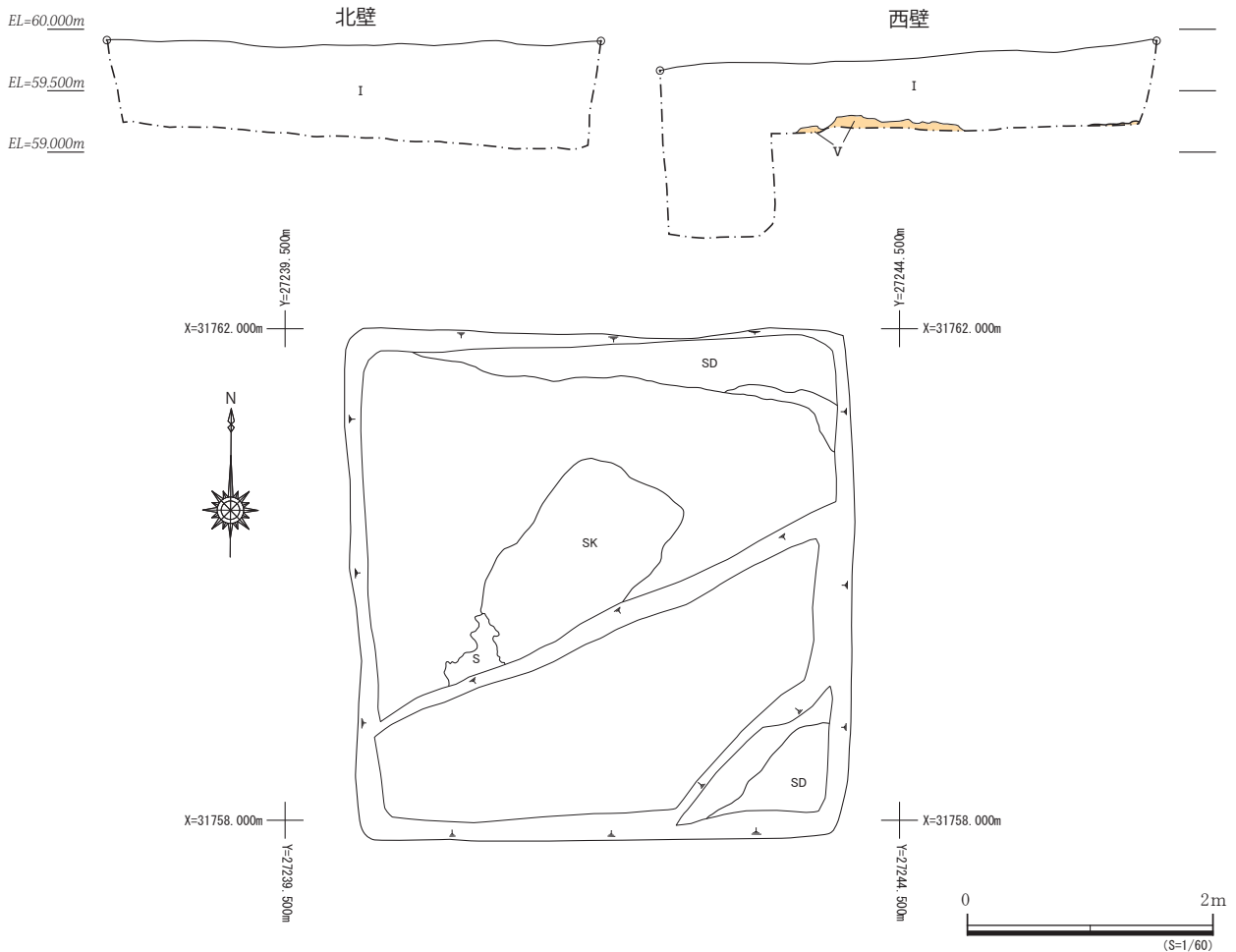
層序：I層、II層、V層

遺構：地山のV層より、近世の土坑1基、溝状遺構2本が検出されている。土坑は形状からかまど跡の可能性がある。

遺物：中国産及び本土産陶磁器や沖縄産陶器、明朝系瓦など22点が得られている。うち、本土産磁器2点は土坑内覆土から出土している。



第50図 ズケ 23-E6- チ 位置



第51図 ズケ 23-E6- チ 壁面図・平面図



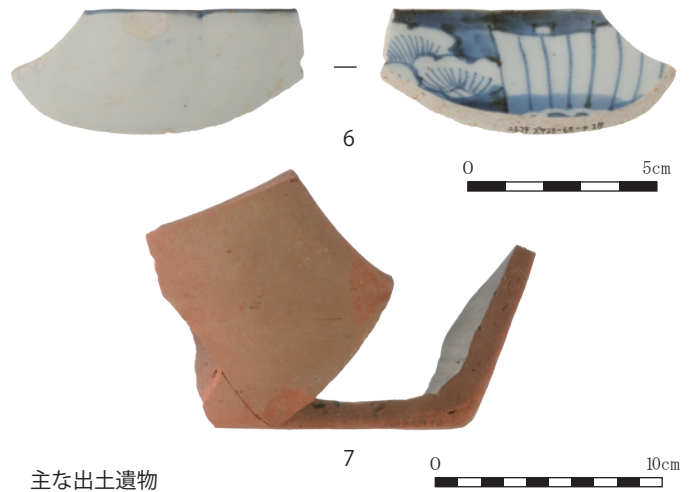
北壁



西壁



完掘状況（南から）



主な出土遺物

図版 18 ズケ 23-E6-チ 壁面・完掘状況・出土遺物写真

第11表 ズケ 23-E6-チ 出土遺物集計表

種類 器種 分類	染付	本土産近代磁器				沖縄産施釉陶器		沖縄産無釉陶器			明朝系瓦					合計	
		碗	小碗	皿	小杯	碗	壺	鉢	器種不明	赤・丸瓦	赤・平瓦	玉縁部	筒部	広端部	狭端部		筒部
層序																	
部位	胴	口縁	口縁	口縁	胴	胴	底	口縁	胴	赤・丸瓦	筒部	広端部	狭端部	筒部			
I層			2			1	1	1	1	1	1	1	2	7			
SK		1		1													
ベルト	1				1												
合計	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	7		22	

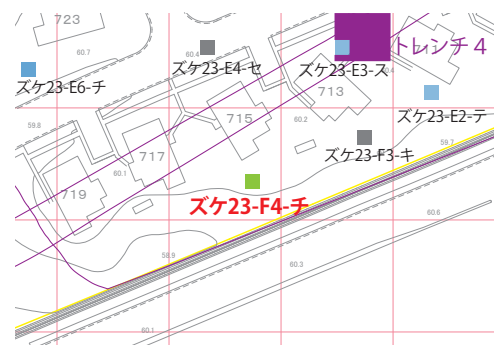
⑱ズケ 23-F4-チ

概要：地山のV層より、近世～近代と先史時代の2時期の遺構が検出されている。

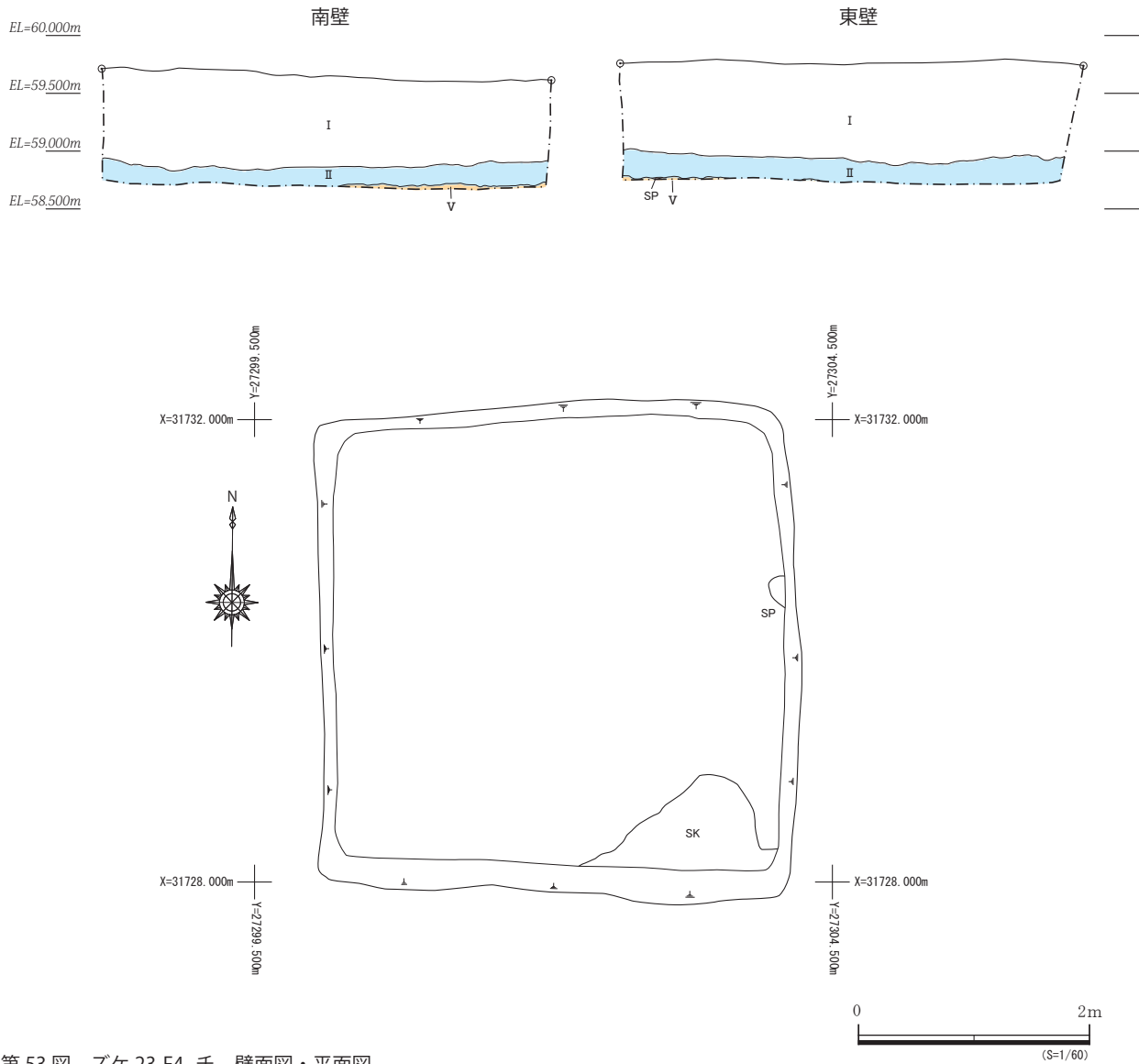
層序：I層、II層、V層

遺構：V層より、近世～近代のピット1基、先史時代とみられる土坑1基が検出された。

遺物：なし。



第52図 ズケ 23-F4-チ 位置



第53図 スケ23-F4-チ 壁面図・平面図



南壁



東壁

図版19 スケ23-F4-チ 壁面写真



完掘状況（北から）



完掘状況（北西から）

図版20 ズケ23-F4-チ 完掘状況写真

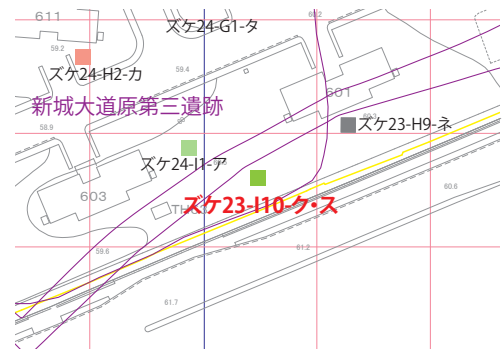
⑨ズケ23-I10-ク・ス（新城大道原第三遺跡）

概要：地山のV層より近世～近代とみられる遺構と先史時代の遺構が多数検出された。また、グスク時代とみられる遺物包含層（Ⅲ層）が検出されている。

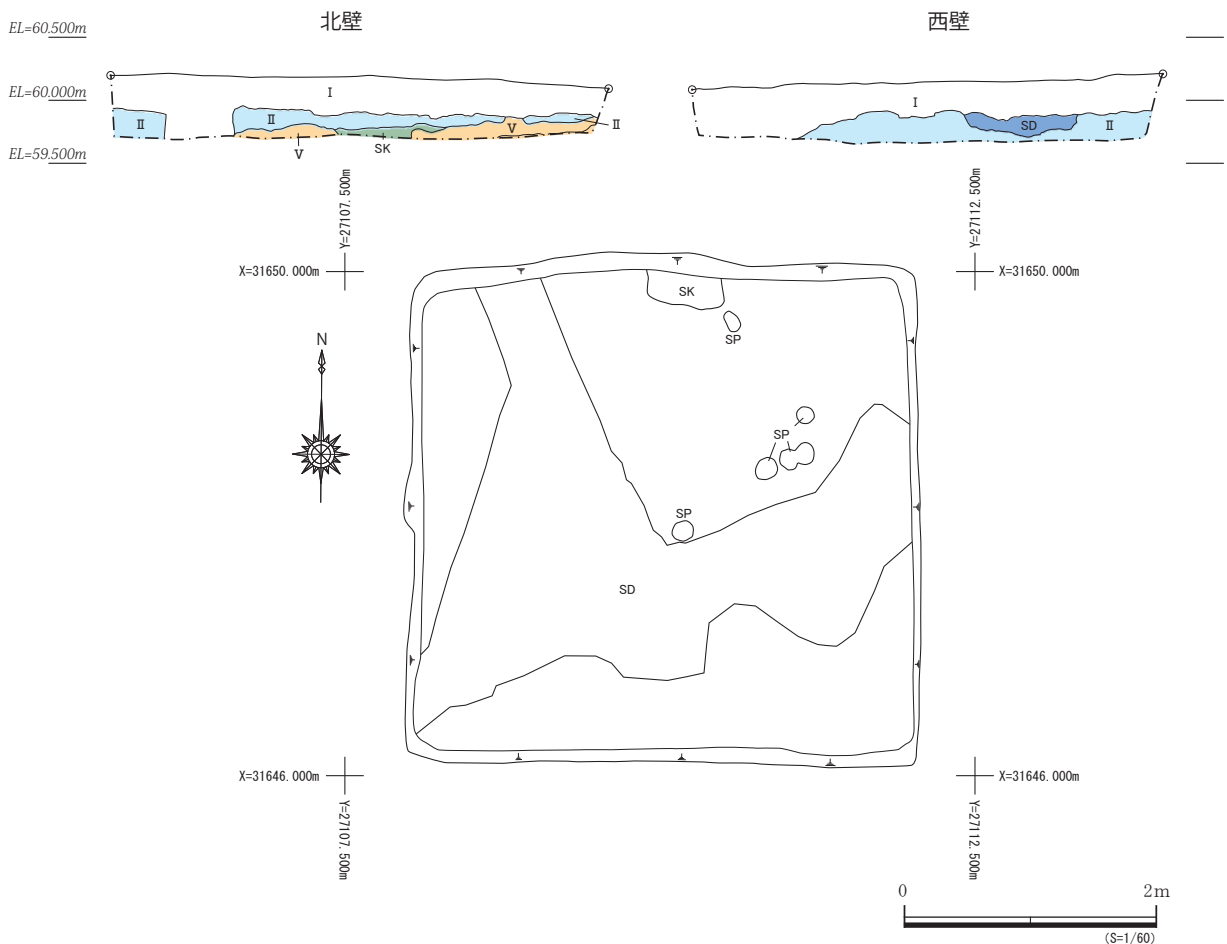
層序：Ⅰ層、Ⅱ層、Ⅲ層、Ⅴ層

遺構：Ⅴ層より、近世～近代の溝状遺構と、先史時代とみられる土坑1基、ピット6基が検出されている。

遺物：なし。



第54図 ズケ23-I10-ク・ス 位置



第55図 ズケ23-I10-ク・ス 壁面図・平面図



北壁



西壁



完掘状況（北から）



完掘状況（南東から）

図版 21 ズケ 23-I10-ク・ス 壁面・完掘状況写真

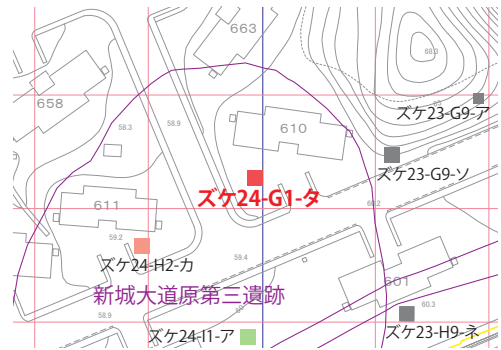
⑳ズケ 24-G1- タ（新城大道原第三遺跡）

概要：地山のV層より、近世～近代とグスク時代の2時期の遺構が検出されている。

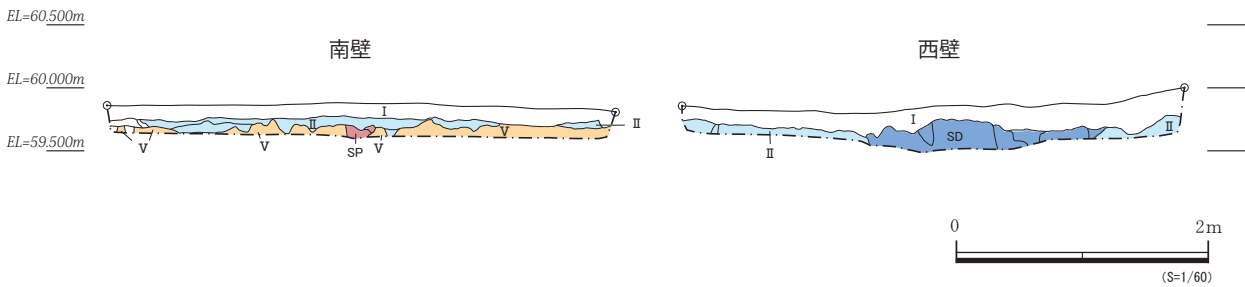
層序：I層、II層、V層

遺構：V層より、近世～近代の溝状遺構2本、土坑2基、グスク時代とみられるピット8基が確認された。

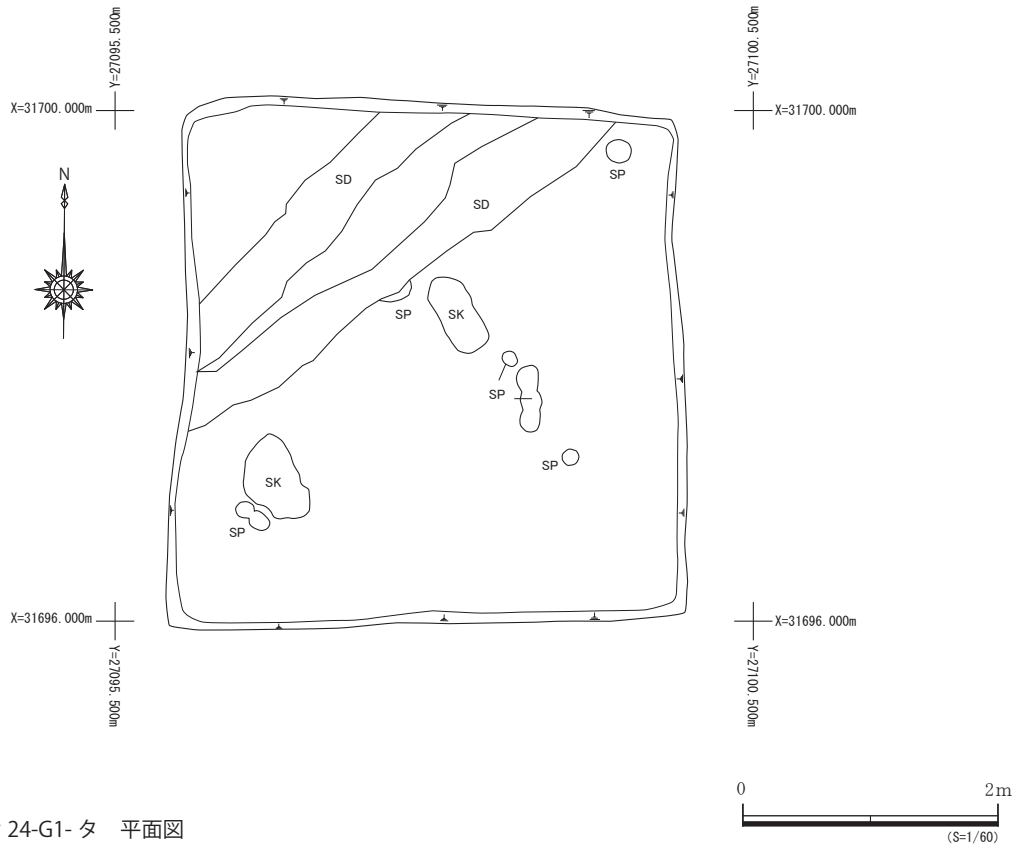
遺物：なし。



第56図 ズケ 24-G1- タ 位置



第57図 ズケ 24-G1- タ 壁面図



第58図 スケ24-G1-タ 平面図



南壁



西壁



完掘状況（東から）



作業風景

図版22 スケ24-G1-タ 壁面・完掘状況・作業風景写真

②1ズケ 24-I1-ア (新城大道原第三遺跡)

概要：地山のV層より、近世～近代、グスク時代とみられる時期と先史時代とみられる時期の3時期の遺構が検出された。

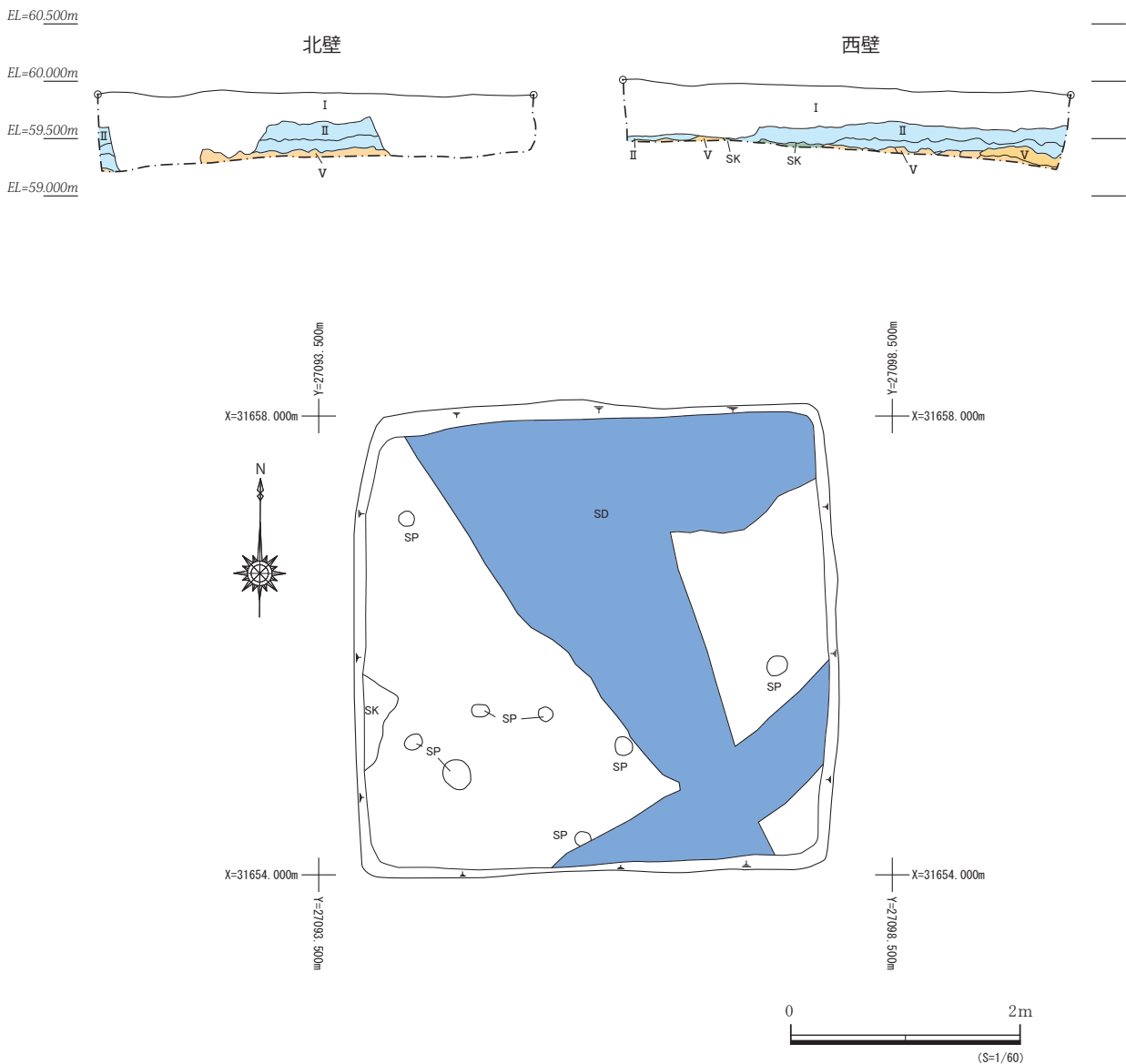
層序：I層、II層、V層

遺構：V層より近世～近代の溝状遺構、グスク時代とみられるピット8基、先史時代とみられる土坑1基が検出されている。

遺物：なし。



第59図 ズケ 24-I1-ア 位置



第60図 ズケ 24-I1-ア 壁面図・平面図



北壁



西壁



完掘状況（南から）



完掘状況（北東から）

図版 23 ズケ 24-I1-ア 壁面・完掘状況写真

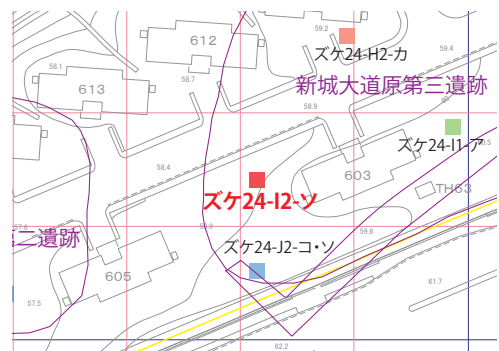
②ズケ 24-I2-ソ（新城大道原第三遺跡）

概要：地山のV層より、近世～近代とグスク時代の2時期の遺構が検出されている。

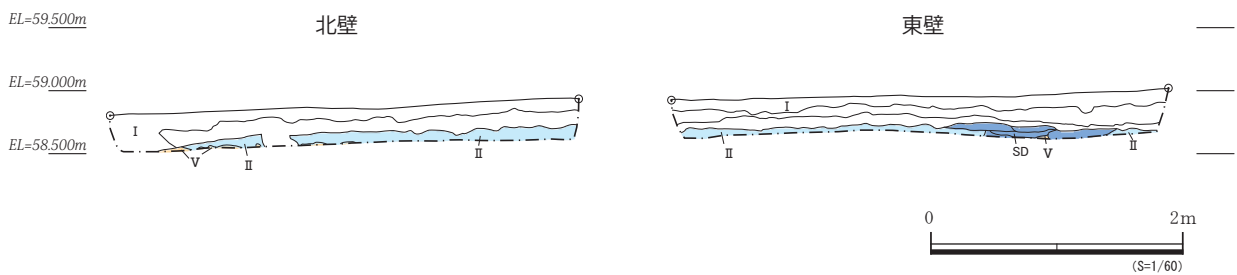
層序：I層、II層、V層

遺構：V層より、近世～近代の溝状遺構2本、グスク時代とみられる土坑2基とピット1基。

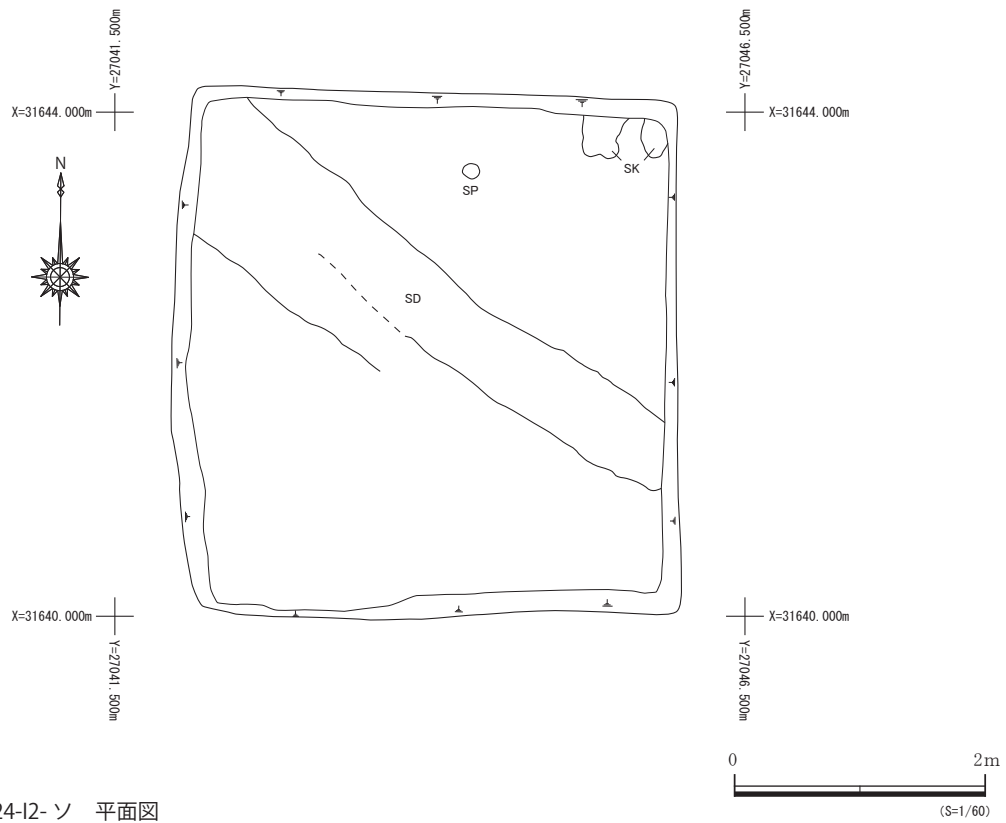
遺物：I・II層より中国産陶磁器及び、沖縄産陶器、明朝系赤瓦など4点が出土している。



第61図 ズケ 24-I2-ソ 位置



第62図 ズケ 24-I2-ソ 壁面図



第63図 ズケ 24-12-ソ 平面図



北壁



東壁



完掘状況 (西から)



完掘状況 (南西から)

図版 24 ズケ 24-12-ソ 壁面・完掘状況写真

第12表 ズケ24-I2-ソ 出土遺物集計表

	種類	染付	沖縄産施釉陶器	明朝系瓦		合計
	器種	碗	碗	—	—	
	分類	福建・広東系	—	赤・丸瓦	赤・平瓦	
層序	部位	胴	胴	筒部	筒部	
I層			1	1	1	3
II層		1				1
合計		1	1	1	1	4

②ズケ23-D1-ケ (普天間旧道跡)

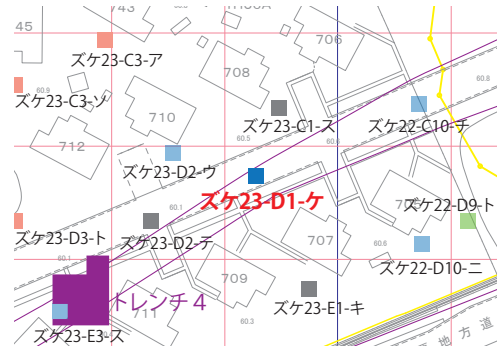
概要：地山のV層から、近世～近代とみられる遺構が検出されている。敷石遺構は後述の普天間旧道跡であると想定される。

層序：I層、II層、V層

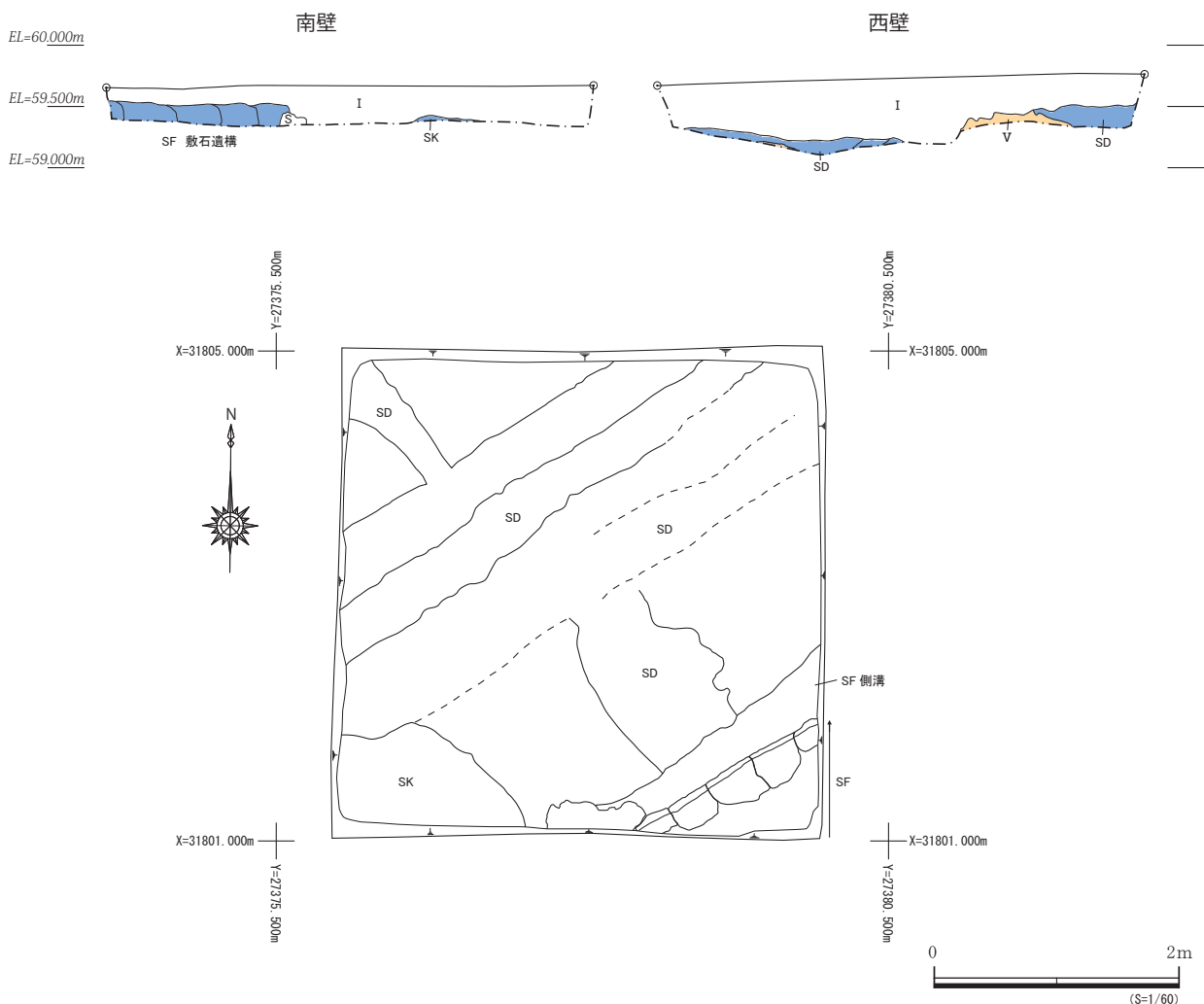
遺構：V層より、敷石遺構1基、溝状遺構3本、土坑1基が検出されている。

切り合い関係より、北東から南西方向の溝状遺構と土坑が、普天間旧道跡とみられる敷石遺構に切られる状況が確認された。

遺物：I層中より明朝系の赤瓦片約46点が出土している。



第64図 ズケ23-D1-ケ 位置



第65図 ズケ23-D1-ケ 壁面図・平面図



南壁



西壁



完掘状況（西から）



敷石遺構検出状況（南東から）

図版 25 ズケ 23-D1-ケ 壁面・完掘状況・検出遺構写真

第 13 表 ズケ 23-D1-ケ 出土遺物集計表

	種類 分類	明朝系瓦					合計
		赤・軒丸 瓦当部	赤・丸瓦 筒部	赤・平瓦 狭端部 筒部		赤・丸平不明 筒部	
層序	部位						
I 層		1	1	2	3	39	46
合計		1	1	2	3	39	46

②4 ズケ 23-F6- ツ～G6- ツ

概要：普天間旧道跡の残存を確認するために設けたトレンチである。確認調査の結果、普天間旧道跡の遺構をはじめとする近世～近代の遺構を確認している。

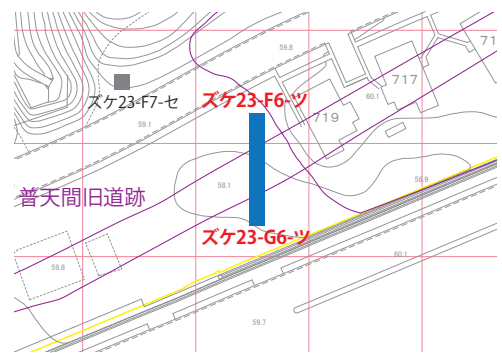
層序：I 層、II 層、IV 層、V 層。うちIV層はトレンチ南側のみ確認。

遺構：V 層より道跡 1 基（普天間旧道跡）及びそれに切られる溝状遺構 3 本、また道跡外からも近世～近代の溝状遺構 2 本を検出している。

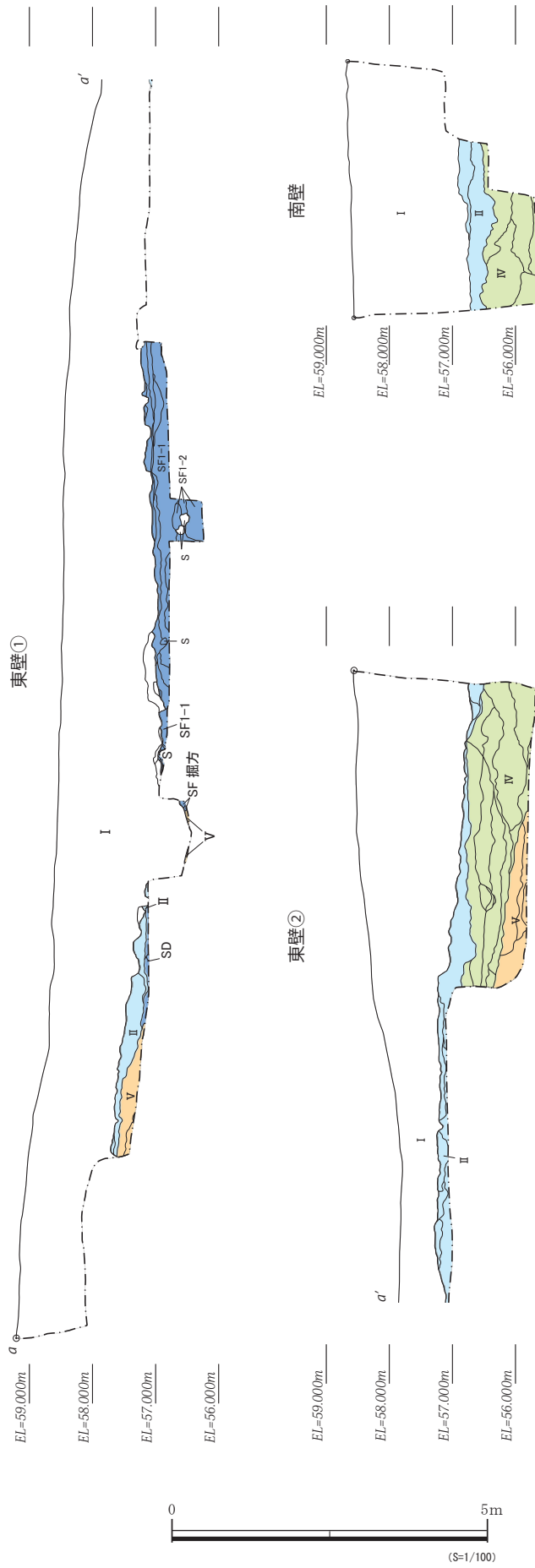
道跡は道部の石敷は戦後の開発によって失われてい

たが、南北の縁石は良好に残される。また道跡は 2 層に大別でき、下層からは溝状遺構が検出されたり、近代陶磁器が出土しないことから、近代に改修されたことが理解される。

遺物：中国産・本土産陶磁器や沖縄産陶器、獣骨、明朝系赤瓦など 70 点が出土している。道跡中では上層（SF1）は 14 点の資料が出土しているのに対し、下層（SF2）は資料が少なく近代の資料も出土していない点が注目される。



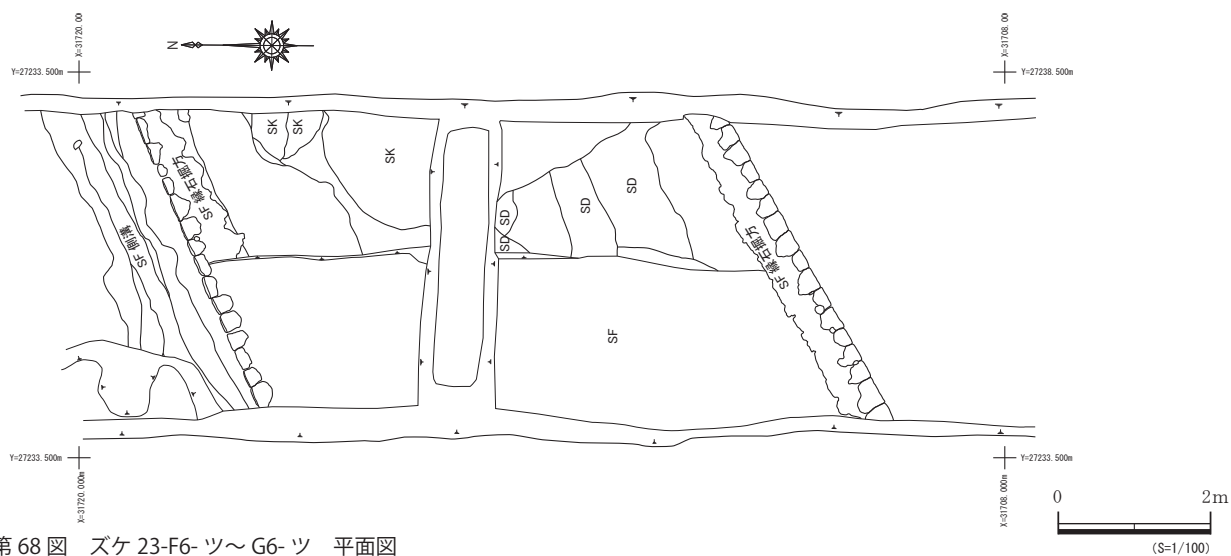
第 66 図 ズケ 23-F6- ツ～G6- ツ 位置



第67図 スケ 23-F6-ツ〜G6-ツ 壁面図



図版 26 スケ 23-F6-ツ〜G6-ツ 東壁写真 (合成)



道跡（普天間旧道跡）確認調査完了時（西から）



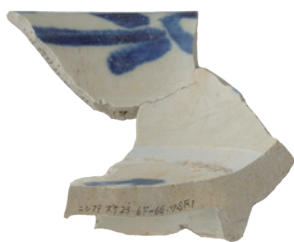
道跡 東北縁石検出状況



道跡内 遺物出土状況



8



9

0 5cm

道跡上層（SF1）出土遺物

図版27 スケ23-F6-ツ～G6-ツ 道跡・出土遺物写真



図版 28 ズケ 23-F6-ツ～G6-ツ I層出土遺物写真

第14表 ズケ23-F6-ツ～G6-ツ 出土遺物集計表

層序	部位	染付		本土産磁器			本土産近代磁器						沖縄産施釉陶器								
		種類	器種	碗	碗	碗	碗	小碗	小皿	小杯	蓋	器種不明	碗	小碗	鉢	急須	器種不明				
		分類	明代・D群・景德鎮	染付・肥前	口縁	胴	口～底	口縁	口～底	口縁	底	底	—	胴	口～底	口縁	胴	底	底	胴	胴
ヒウサイ						1										1					
I層		1				1		1		2	8	1	1	1		6					
II層																	1	1			1
SF1				1	1						1						1	1			1
SF2																					
合計		1		1	1	1	1	1	2	9	1	1	1	1	6	1	2	2	1	2	6

層序	部位	沖縄産無釉陶器						陶質土器			鉄製品	鍍貨	貝	獣骨	明朝系瓦	合計	
		種類	壺	鉢	搦鉢	器種不明	火炉	急須	器種不明	小銃	—	—	—	—	—		
		分類	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
ヒウサイ		1														1	5
I層				1			2			1	1			1		3	33
II層		2			1					2						4	17
SF1					1			1	1	1			1		1		14
SF2			1														1
合計		3	1	1	1	2	2	1	1	4	1	1	1	1	1	8	70

㊤ その他試掘坑

今回、報告を割愛した試掘坑については、調査成果一覧表に記載する。出土した遺物については、集計表により報告する。

第15表 ズケ16-G9-ウ(普天間石川原第二遺跡)

層序	部位	沖縄産無釉陶器		合計
		種類	器種不明	
		分類	初期沖無	
ヒウサイ			1	1
I層		1		1
合計		1	1	2

第16表 ズケ16-H6-エ(普天間石川原第二遺跡)

層序	部位	沖縄産施釉陶器	合計
		種類	
		器種	
II層		瓶 口縁	1
合計		1	1

第17表 ズケ16-H6-タ(普天間石川原第二遺跡)

層序	部位	沖縄産無釉陶器	合計
		種類	
		器種	
II層		胴	2
合計		2	2

第18表 ズケ16-H8-ヌ(普天間石川原第二遺跡)

層序	部位	沖縄産無釉陶器	合計
		種類	
		器種	
I層		火取 胴	1
合計		1	1

第19表 ズケ16-H9-ア(普天間石川原第二遺跡)

層序	部位	沖縄産施釉陶器	合計
		種類	
		器種	
II層		碗 胴	1
合計		1	1

第20表 ズケ16-H10-チ(普天間石川原第二遺跡)

層序	部位	本土産近代磁器	合計
		種類	
		器種	
I層		小碗 底	1
合計		1	1

第21表 ズケ17-I1-ア(普天間石川原第二遺跡)

層序	部位	沖縄産無釉陶器		合計
		種類	器種不明	
		器種	壺	
I層		胴	2	2
合計		2	2	2

第22表 ズケ16-I9-ア・カ(普天間石川原第二遺跡)

層序	部位	沖縄産無釉陶器		合計
		種類	器種不明	
		器種	壺	
SD		胴	1	4
合計		3	1	4

第23表 ズケ16-J3-ア(普天間石川原第二遺跡)

層序	部位	染付	沖縄産施釉陶器		沖縄産無釉陶器		合計
		種類	碗	袋物	壺	器種不明	
		分類	福建・広東系	—	—	—	
II層			1				1
SP						1	1
フイ		1		1	1	1	4
合計		1	1	1	1	2	6

第24表 ズケ16-J7-ヌ(安仁屋東原古墓群)

層序	部位	種類	沖縄産無釉陶器	陶質土器	青銅製品	貝	ガラス製品	合計
		器種	壺	器種不明	煙管	—	瓶	
		分類	—	—	—	不明	—	
I層			1					1
ハカゲチ							1	1
ボツツ				1		1		2
ハカニシイスミ							1	1
ハカニシイスミ					1			1
合計			1	1	1	1	2	6

第25表 ズケ22-B10-ト(普天間石川原第二遺跡)

層序	部位	種類	本土産磁器	沖縄産施釉陶器		合計
		器種	碗	急須	器種不明	
		分類	肥前	—	—	
I層			1	1	1	3
合計			1	1	1	3

第26表 ズケ22-C10-チ(普天間石川原第二遺跡・普天間旧道跡)

層序	部位	種類	本土産近代磁器		沖縄産施釉陶器	合計
		器種	碗	小皿	袋物	
		分類	口～底	口～底	胴	
I層			1		1	2
SD				1		1
合計			1	1	1	3

第27表 ズケ22-D10-ニ(普天間石川原第二遺跡)

層序	部位	種類	本土産近代磁器	合計
		器種	皿	
		分類	底	
I層			1	1
合計			1	1

第28表 ズケ23-A1-ア(普天間石川原第二遺跡)

層序	部位	種類	グスク土器	合計
		器種	器種不明	
		分類	胴	
Ⅲ層			1	1
合計			1	1

第29表 ズケ23-A6-ア(普天間石川原第二遺跡)

層序	部位	種類	沖縄産無釉陶器	青銅製品	合計
		器種	壺	薬莖	
		分類	胴	—	
I層				1	1
フイ			2		2
合計			2	1	3

第30表 ズケ23-A9-ソ(普天間石川原第二遺跡)

層序	部位	種類	沖縄産無釉陶器	陶質土器	合計
		器種	器種不明	器種不明	
		分類	胴	胴	
SD				1	1
フイ			1		1
合計			1	1	2

第31表 ズケ23-C1-ス(普天間石川原第二遺跡)

層序	部位	種類	獣骨	明朝系瓦		合計
		分類	ヤギ	赤・丸瓦	赤・平瓦	
		部位	肋骨	筒部	筒部	
I層			1	2	5	8
合計			1	2	5	8

第32表 ズケ23-D4-ネ(普天間石川原第二遺跡)

層序	部位	種類	石材	明朝系瓦	合計
		分類	変成岩	—	
		部位	千枚岩	赤・平瓦	
I層			1	3	4
合計			1	3	4

第33表 ズケ23-D6-ノ(普天間石川原第二遺跡)

層序	部位	種類	本土産近代磁器	合計
		器種	皿	
		分類	口～底	
フイ			1	1
合計			1	1

第34表 ズケ23-E1-キ(普天間石川原第二遺跡)

層序	部位	種類	本土産近代磁器		沖縄産施釉陶器		沖縄産無釉陶器		合計
		器種	碗	小碗	碗		壺		
		分類	胴	口縁	口縁	胴	胴	底	
I層			1		1	1	8	2	13
Ⅱ層				1					1
合計			1	1	1	1	8	2	14

第35表 ズケ23-E2-テ(普天間石川原第二遺跡)

層序	部位	種類	染付	本土産陶器	本土産近代磁器	沖縄産施釉陶器		沖縄産無釉陶器		石器	青銅製品	煉瓦	合計
		器種	小碗	袋物(片口)	小杯	碗		小皿		壺	砥石	ボタン	
		分類	清代	—	—	—	—	急須	—	—	—	—	
Ⅱ層										1	—	—	3
SX			1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	9
合計			1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	12

第36表 ズケ23-E3-ス (普天間石川原第二遺跡・普天間旧道跡)

	種類	本土産近代磁器		沖縄産施釉陶器	沖縄産無釉陶器	明朝系瓦	合計
	器種	小碗		鉢	壺	—	
	分類	—	—	—	—	赤・平瓦	
層序	部位	口～底	口縁	胴	底	狭端部	
I層		1	1	1	1	1	5
合計		1	1	1	1	1	5

第37表 ズケ23-F3-キ (普天間石川原第二遺跡)

	種類	本土産近代磁器		縄文土器	合計
	器種	小碗		器種不明	
	分類	—	—	縄文時代晩期	
層序	部位	口縁	底	胴	
II層		1	1		2
IV層				1	1
合計		1	1	1	3

第38表 ズケ23-F7-セ (遺跡範囲外)

	種類	明朝系瓦		合計
	分類	赤・平瓦	赤・丸平不明	
	部位	筒部	筒部	
層序	部位	筒部	筒部	
I層		3	1	4
合計		3	1	4

第39表 ズケ23-H9-ネ (遺跡範囲外)

	種類	沖縄産無釉陶器	合計
	器種	甕	
	部位	胴	
層序	部位	胴	
I層		1	1
合計		1	1

第40表 ズケ24-J5-サ・タ (新城大道原第二遺跡)

	種類	本土産近代磁器	合計
	器種	碗	
	部位	口縁	
層序	部位	口縁	
I層		1	1
合計		1	1

第41表 ズケ29-A5-イ (遺跡範囲外)

	種類	本土産近代磁器		沖縄産施釉陶器	合計
	器種	碗	小碗	壺	
	分類	—	—	—	
層序	部位	胴	口縁	底	
I層				1	1
II層		2	1		3
合計		2	1	1	4

第42表 出土地不明

	種類	本土産近代磁器	沖縄産施釉陶器	明朝系瓦		合計
	器種	碗	鉢	—	—	
	分類	—	—	赤・丸瓦	赤・丸平不明	
層序	部位	口縁	胴	筒部	筒部	
I層		1	1	1	4	7
合計		1	1	1	4	7

第2項 確認調査

1 調査概要

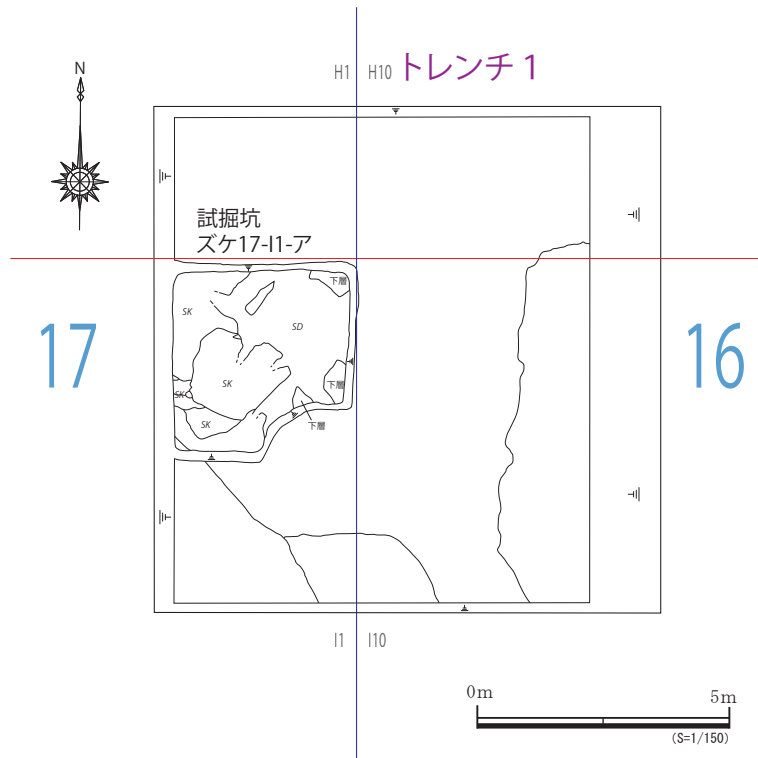
平成27年度の試掘調査では、普天間石川原第二遺跡の範囲内である試掘坑ズケ17-I1-アで縄文時代の土坑、近世～近代の溝状遺構が、またズケ16-J3-アではグスク時代と考えられるピットと近世～近代の溝状遺構が確認された。安仁屋東原古墓群の範囲内である試掘坑ズケ16-J7-ヌでは近世～近代の古墓が確認された。普天間旧道跡の範囲内である試掘坑ズケ23-E3-スでは戦前まで使用されていたと考えられる道の縁石が確認された。この試掘結果を受け、普天間石川原第二遺跡、安仁屋東原古墓群、普天間旧道跡の遺構の状況を確認することを目的として、試掘坑を拡張する箇所にトレンチ1～4を設定し、確認調査を実施した。トレンチ1・3は普天間石川原第二遺跡、トレンチ2は安仁屋東原古墓群、トレンチ4は普天間旧道跡を調査対象とした。調査面積はトレンチ1～4全体で807㎡となった。以下にトレンチ1～4ごとに概要を述べる。

2 層序・遺構

トレンチ1

トレンチ1は試掘坑ズケ17-I1-アを南側に拡張する形で設定した(100㎡)。グリッドはズケ16-H10・I10及びズケ17-H1・I1の範囲である。

層序 基本層序Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ層が確認された。トレンチ全体にⅠ層及びⅡ層、Ⅴ層が確認でき、Ⅳ層は西壁付近だけで確認できた。トレンチは西にむけて落ち込む地形となっており、そこにⅡ層が厚く堆積している。



第69図 H27 トレンチ1 平面図

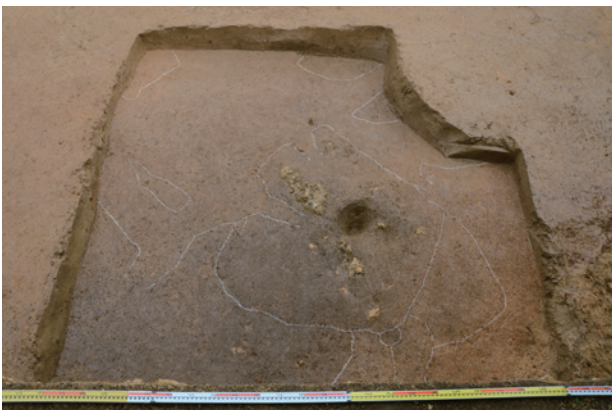
遺構 トレンチ西側で近世～近代にかけての溝状遺構および縄文時代と思われる土坑を検出した。溝状遺構は北西－南東及び北東－南西の軸をもつものがあり、調査区の中央で交差している。また遺構の堆積も地形に沿って西側が厚く堆積している。土坑は溝状遺構の影響を受けており、正確な形状は確認できなかったが、いくつかの土坑が切り合っていると思われる。また溝状遺構や土坑はトレンチ範囲外まで続くものとみられる。

土坑 隅丸方形となると考えられる土坑が数基重なって検出した。今回の調査では検出のみのため遺構の詳細な数や性格は確認できなかったが、周辺の遺跡の状況から縄文時代のものと考えられる。

土坑の埋土から採取した炭化物6点について年代測定を行った結果、① $1,160 \pm 20BP$ 、② $920 \pm 20BP$ 、③ $880 \pm 20BP$ 、④ $650 \pm 20BP$ 、⑤ $1,090 \pm 20BP$ 、⑥ $1,780 \pm 20BP$ と想定に反して新しい年代が得られた。年代結果については、年代幅が大きく課題が残されるものの、今後の遺構調査及び出土遺物からの検討が必要である。



検出状況（南西から）



土坑 検出状況（西から）



西壁

図版 29 H27 トレンチ 1 検出・壁面写真

トレンチ2

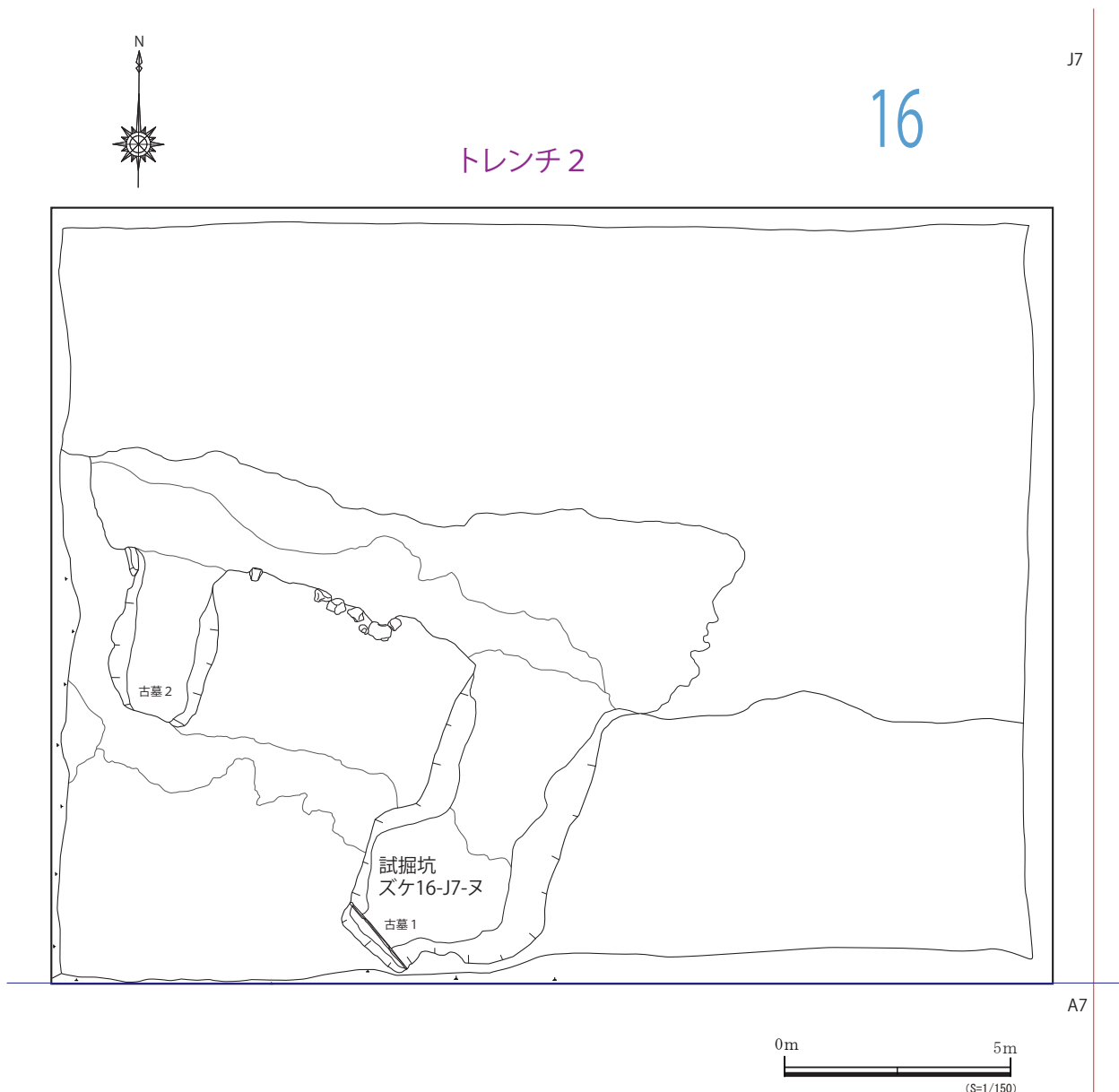
トレンチ2は試掘坑16-J7-ヌの南側を拡張する形で設定した(374㎡)。グリッドはズケ16-J7の範囲である。

層序 基本層序I・VI層を確認した。トレンチ全体においてI層及びVI層が確認できた。試掘坑16-J7-ヌは小高い丘陵の端部に位置しており、東に向けて急な傾斜となっている。

遺構 トレンチ2の南側で古墓を2基検出した。確認した古墓はVI層を掘り込む堀込墓で、東より古墓1、古墓2とし、古墓全体の状況を確認するために検出作業を実施した。

古墓1 堀込墓。墓の正面は切り石で装飾されるが、天井や眉は後世の影響により壊されており装飾については確認できなかった。また墓庭についても庭囲いの石積みなどは確認できなかった。墓室内についても天井が崩落する危険があったことから確認できなかった。

古墓2 堀込墓。古墓1の西側で検出した。古墓2についても後世の影響を受けており、墓の正面及び天井が壊されていた。このため墓の正面や天井の装飾や、墓庭の有無、墓室内の状況については確認できなかった。



第70図 H27 トレンチ2 平面図



検出状況（北から）



古墓 1



古墓 2

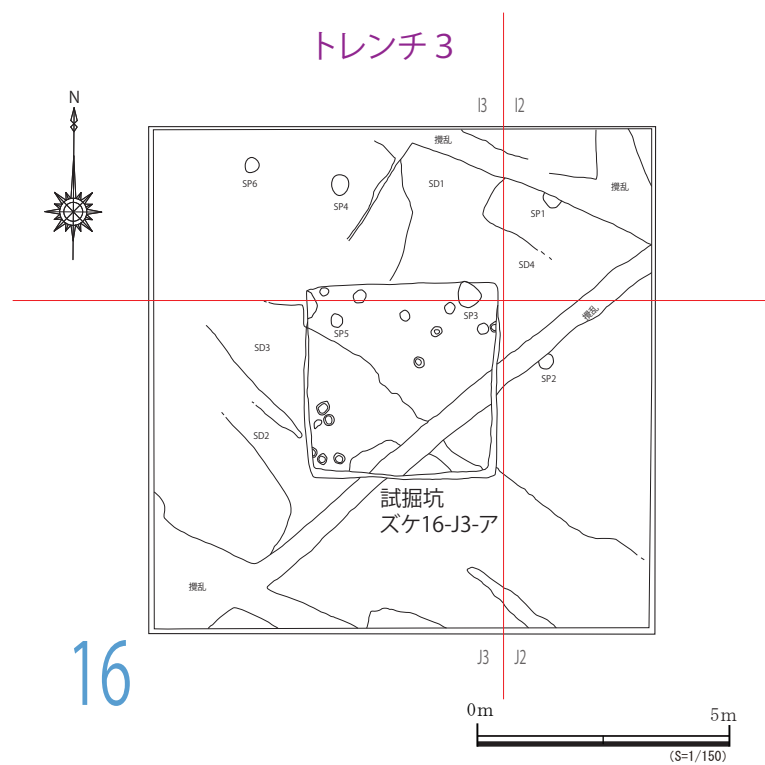
図版 30 H27 トレンチ 2 検出写真

トレンチ 3

トレンチ 3 はズケ 16-J3- アを中心に周囲を拡張する形で設定した (100m²)。グリッドはズケ 16-I2・I3 及びズケ 16-J2・J3 の範囲である。

層序 基本層序 I・II・V 層を確認した。トレンチ全面において V 層直上まで近世～近代の耕作土 (II a 層) が堆積している。

遺構 近世～近代の溝状遺構及びピットを検出した。溝状遺構は 4 本検出し、遺構は北西－南東を軸とするものが主であった。またグスク時代と考えられるピットを 6 基検出した。ピットは掘立柱建物に伴うものと考えられるが、今回の調査では明確にプランが確認できるものはなかった。ピットの埋土に含まれる炭化材からは 1,420 ± 20BP (7 世紀前半) と、想定より古い年代が得られている。



第71図 H27 トレンチ3 平面図



検出状況 (東から)

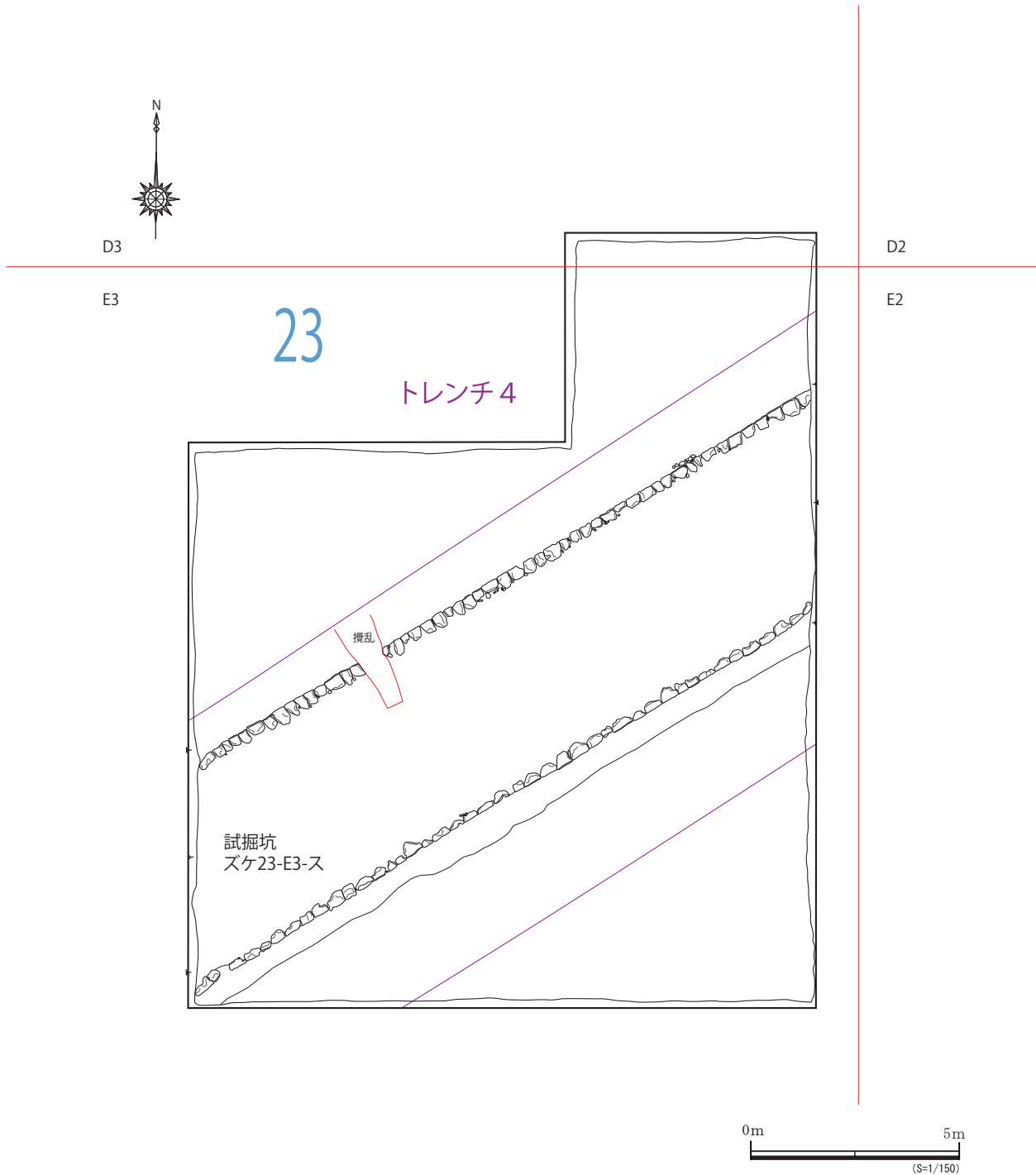
図版31 H27 トレンチ3 検出写真

トレンチ4

トレンチ4はズケ23-E3-スの北東側を拡張する形で設定した(233m²)。グリッドはズケ23-D3・E3の範囲である。

層序 基本層序Ⅰ・Ⅴ層を確認した。トレンチ全面において遺構及び地山直上まで造成層(Ⅰ層)が堆積している。

遺構 道跡を検出した。道跡はⅤ層を掘り込み縁石が配置しており、縁石の傍には溝状遺構が確認できた。溝状遺構には戦後の造成層が堆積していたことから、戦前まで利用されていたと考えられる。



第72図 H27 トレンチ4 平面図



検出状況（南から）



検出状況（南西から）



検出状況（北から）



検出状況（北西から）



西壁

図版32 H27 トレンチ4 検出・壁面写真

3 遺物

平成27年度の確認調査では、近世～近代の遺物が殆どである。総数98点出土し、出土遺物の殆どが小破片であった。ここでは、トレンチごとに特徴的なものを報告する。その他の遺物は集計表により報告する。また、トレンチ1、トレンチ4については、試掘調査時に出土した遺物を報告する。

トレンチ1

I層からは沖縄産陶器、瓦、貝が総数6点出土した。(16)は沖縄産無釉陶器の壺である。

トレンチ2

I層からは中国産陶磁器、本土産陶磁器、沖縄産陶器、金属製品、瓦、石材など総数52点出土した。(17)は蔵骨器で古墓2から出土した。

トレンチ3

I層からは中国産陶磁器、本土産陶磁器、沖縄産陶器やカムイヤキが総数14点出土した。(19)はカムイヤキの胴部片である。

トレンチ4

I層と道跡からは本土産陶磁器、沖縄産陶器、木製品、瓦など総数26点出土した。(20)は本土産近代磁器の小碗、(21)は沖縄産無釉陶器壺の底部片である。

第43表 H27 トレンチ1 出土遺物集計表

種類	沖縄産無釉陶器		明朝系瓦		貝		合計
	器種	壺	—		—		
分類	—		赤・丸平不明		二枚貝 シヤコガイ科		
グリッド	層序	部位	胴	筒部	—		
スヶ17-H-ア	I層		2	2	2		6
合計			2	2	2		6

第44表 H27 トレンチ2 出土遺物集計表

種類	器種	分類	本土産近代磁器				本土産近代陶器		沖縄産施釉陶器				沖縄産無釉陶器				合計	
			碗	小碗	急須	器種不明	器種不明	碗	瓶	蓋	壺	壺	搦鉢	蔵骨器	器種不明			
グリッド	層序	部位	胴	口縁	底	胴(把手)	—	底	口縁	胴	胴	—	胴	口縁	胴	口縁	胴	
スヶ16-J7-ヌ	ヒョウサイ																	
	I層		1	1	2	1	1	1	1	2	1	1		1	1	1		4
	ハカ2																3	
合計			1	1	2	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	3	4

種類	器種	陶質土器		銭貨		鉄製品		明朝系瓦			貝			獣骨	石材	焼土	磚子	合計	
		5セント	系銀	角釘	丸釘	—	—	—	—	—	—	—	—						
グリッド	層序	部位	胴	底	—	—	—	筒部	筒部	筒部	イタヤガイ科	不明	スィショウガイ科	肋骨	石灰岩	—	—		
スヶ16-J7-ヌ	ヒョウサイ																	1	
	I層		7	1	1	1	1	4	1	1	1		1	1	2	1	3	2	1
	ハカ2																	3	
合計			7	1	1	1	1	4	1	1	1	1	1	1	2	1	3	2	1

第45表 H27 トレンチ3 出土遺物集計表

種類	器種	分類	白磁	本土産近代磁器		沖縄産施釉陶器				沖縄産無釉陶器				カムイヤキ	合計
			碗	小碗		碗		小碗	瓶	器種不明	小皿	壺	壺	鉢	
グリッド	層序	部位	胴	胴	口縁	胴	底	底	胴	胴	底	胴	口縁	口縁	胴
スヶ16-J3-ア	I層		1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計			1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1

第46表 H27 トレンチ4 出土遺物集計表

種類	器種	分類	本土産磁器	本土産近代磁器			沖縄産施釉陶器		沖縄産無釉陶器		木製品	明朝系瓦			磚子	タイル	合計
			筒部	碗	小碗	器種不明	瓶	壺	器種不明	器種不明	—	赤・丸瓦	赤・平瓦	赤・丸平不明	—	—	
グリッド	層序	部位	底	口縁	胴	口縁	胴	胴	胴	胴	—	端部	筒部	筒部	—	—	
スヶ23-E3-ス	I層		1	1	1	1	2	1	1	1		1	1	10	1	1	24
	ミチ						2										2
合計			1	1	1	1	4	1	1	1	1	1	1	10	1	1	26



16



トレンチ1 1層 (試掘調査時出土)



17



トレンチ2 ハカ2



18



トレンチ2 1層



19



トレンチ3 1層



20



トレンチ4 1層 (試掘調査時出土)



21



図版33 H27 トレンチ1～4 出土遺物写真

4. 小結

平成 27 年度試掘・確認調査では、3 遺跡を新規発見し、その性格及び遺跡範囲を確認した。ここでは調査成果について述べ、まとめとしたい。

(1) 普天間石川原第二遺跡

平成 26 年度の宜野湾市教育委員会による試掘調査成果と当該試掘調査の結果、先史時代から近世～近代までの遺構及び遺物包含層が包蔵される、複合遺跡であることが確認された。遺構の検出された試掘箇所には明確な粗密がみられないことや、上記Ⅲ・Ⅳ層も各所で確認されることから、現時点では広域な範囲が推定される。今次試掘調査では地山のⅤないしⅥ層が残存している限り、先史時代から近世～近代までの遺構がまんべんなく検出される傾向が認められる。従って戦後の開発が伴っていない箇所については、埋蔵文化財が包蔵される可能性が高いと考えられる。

他方、出土遺物には近世～近代の資料を中心に、若干の先史時代の土器が得られている。特に前者については南側に多く出土する傾向が確認された。これは南側には普天間旧道跡や民家が比較的多い場所であるのに対し、北側は耕作地として利用されていたことを反映していると考えられる。

(2) 安仁屋東原古墓群

ズケ 16-J7- ヌならびに範囲確認調査トレンチ 2 において合計 2 基の古墓が検出された。試掘調査で検出された墓 1 は、屋根部は戦後の改変の影響により失われているが、墓室が良好な状態で残されている。範囲確認調査で検出された墓 2 は、墓 1 と同様に戦後の改変の影響を受けており墓道部分の屋根部が崩れ、墓庭部分も失われているが、墓室は良好な状態であった。

通常、墓は複数基で丘陵沿いに墓群を形成することから、周辺でさらに古墓が検出される可能性が高い。

(3) 普天間旧道跡

戦前の航空写真により確認される。この箇所に該当するズケ 23-D1- ケ、ズケ 23-E3- ス、ズケ 24-J2- コ・ソ及びトレンチ（ズケ 23-F6 ～ G6- ツ）では、いずれも旧道及び側溝を確認することができた。ズケ 23-E3- ス部分に設定した範囲確認調査トレンチ 4 で道幅を確認したところ、側溝部分を含め約 4.7 m であった。さらに、隣接する海軍病院地区の調査においても道跡の遺構が確認されていることから、かつて旧道が通っていた箇所については道跡の遺構が残されている可能性が高い。

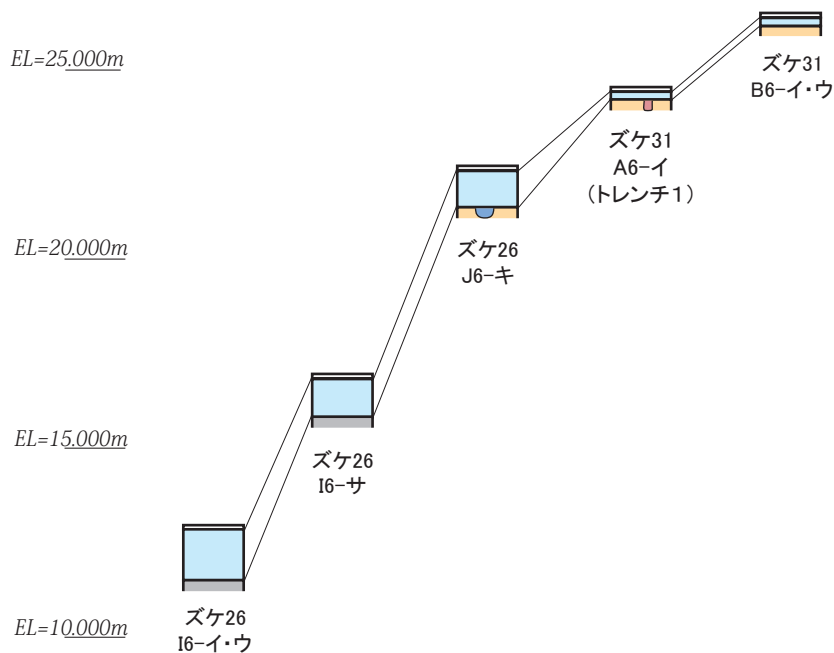
第3節 平成28年度調査成果

第1項 試掘調査

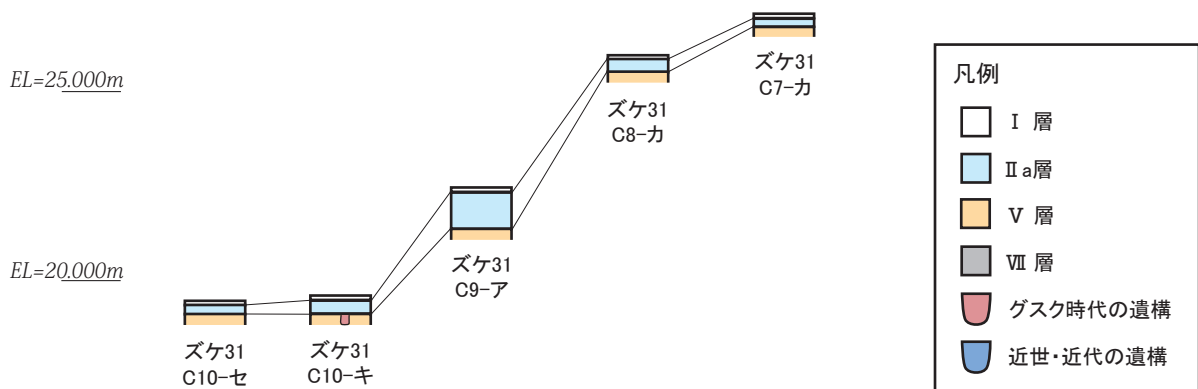
平成28年度は、斜面緑地全40箇所の試掘調査を実施した。この結果、5箇所で遺構を確認したほか、2箇所において近世の包含層、1箇所においてグスク時代の包含層を確認するに至った。斜面緑地の調査では、北側の標高15～18m以下の試掘坑では地山でクチャが、標高15～18m以上の試掘坑では地山でマージが確認された。また、近世～近代の耕作土（II a層）は、ほぼ全ての試掘坑で確認されたのに対して、グスク時代から近世～近代の遺構が検出されたのは、地山がマージで標高20～25mの平坦面であった。このことから、標高15～18mを境にした段丘面と地山の変化、そしてマージの平坦面に居住域を設けていたことが窺えた。

以下、特徴的な包含層や遺構が検出された試掘坑について、その調査結果を報告する。

ズケ26-16(喜友名古水田跡)－ズケ31-B6(喜友名下原第二遺跡)



ズケ31-C10(喜友名下原第一遺跡)－ズケ31-C7(喜友名山川原第三遺跡)



第73図 試掘箇所柱状図

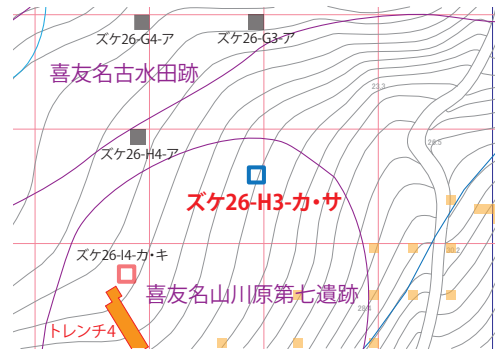
①ズケ 26-H3- カ・サ (喜友名山川原第七遺跡)

概要：地山の落ち込みに堆積した近世の耕作土（Ⅱ b 層）を確認。

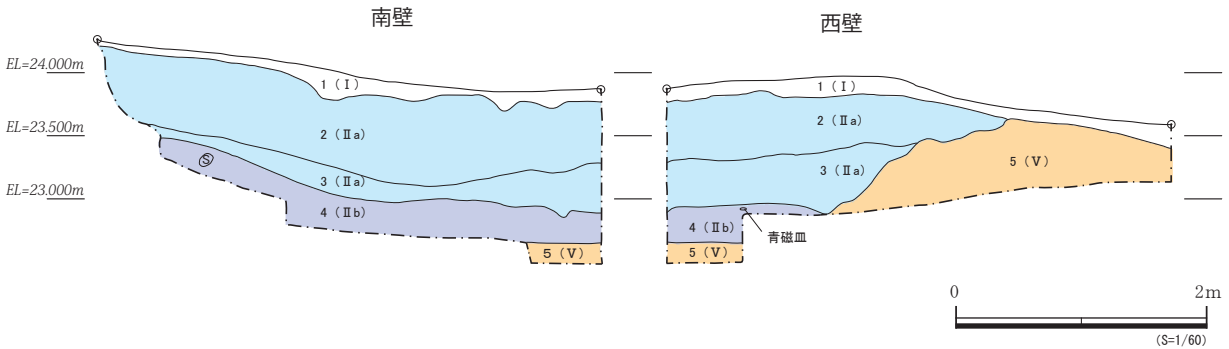
層序：Ⅰ層、Ⅱ a 層、Ⅱ b 層、Ⅴ層

遺構：なし。

遺物：Ⅰ層から青磁碗瀬戸哲也氏ほか分類のⅣ類（図版 34-22）と褐釉陶器の壺（図版 34-23）、Ⅱ b 層から大宰府分類の同安窯系青磁皿Ⅰ類（図版 35-24）などグスク時代の遺物が出土している。



第74図 ズケ 26-H3- カ・サ 位置



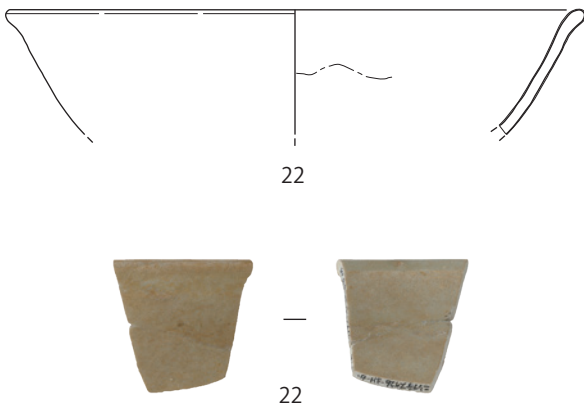
第75図 ズケ 26-H3- カ・サ 壁面図



南壁



西壁

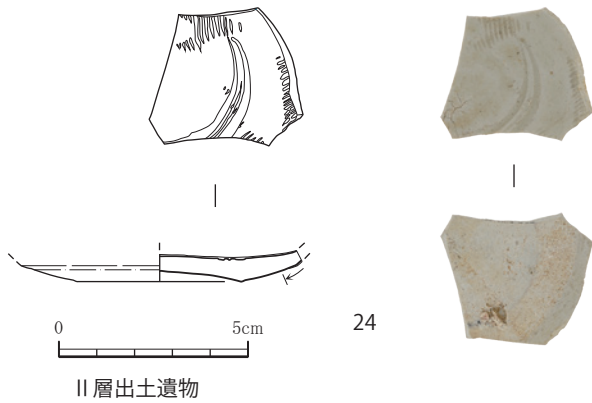


Ⅰ層出土遺物

23



図版 34 ズケ 26-H3- カ・サ 壁面写真・出土遺物図・写真



II層出土遺物



青磁出土状況

図版35 ズケ26-H3-カ・サ 出土遺物図・写真

第47表 ズケ26-H3-カ・サ 出土遺物集計表

種類 器種	青磁				白磁		褐釉	天目	本土産近代磁器	沖縄産施釉陶器	グスク土器 器種不明	石器 砥石	石材	合計
	碗	碗	皿	碗	壺	碗	碗	碗	碗	皿	碗	砥部	片状砂岩	
分類	瀬戸 IV類	瀬戸 IV類	大宰府 同安楽系 I類	大宰府 IV・V類	—	—	—	—	砥部	—	—	—	—	—
層序	部位	口縁	胴	底	胴	底	胴	底	底	底	胴	—	—	—
ヒョウサイ									1		1			2
I層		1	1				1	1			3	1	6	15
II層				1	1						3			5
合計		1	1	1	1	1	1	1	1	1	6	1	6	22

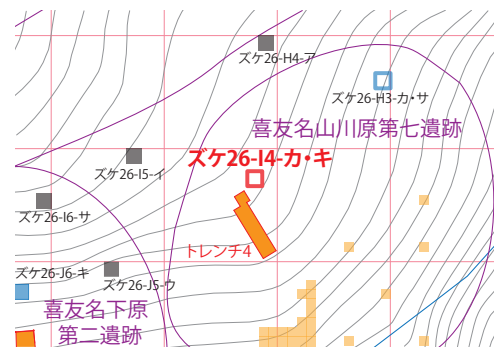
②ズケ26-14-カ・キ (喜友名山川原第七遺跡)

概要：斜面に堆積したグスク時代の包含層(Ⅲ層)を確認。

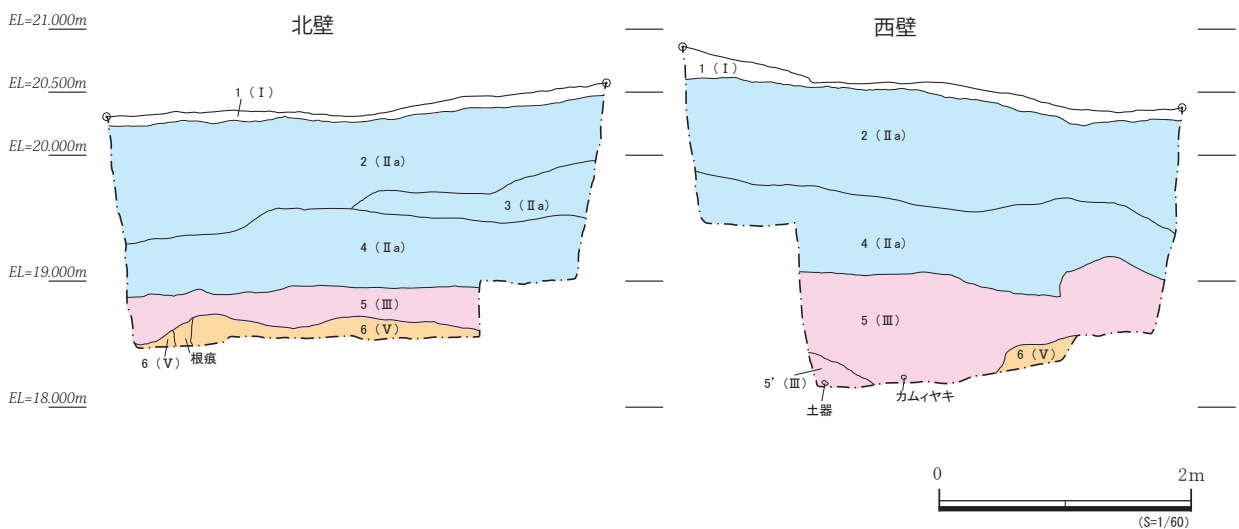
層序：I層、II a層、Ⅲ層、V層

遺構：なし。

遺物：I層からII a層にかけてグスク時代から近世～近代の遺物が出土し、Ⅲ層では小片だが滑石混入土器や滑石を塗布した土器、カムイヤキが得られている。



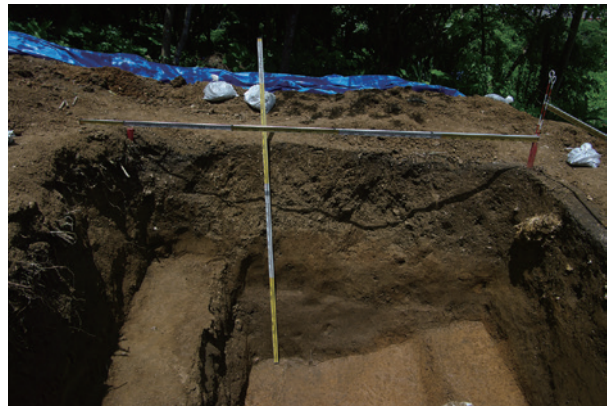
第76図 ズケ26-14-カ・キ 位置



第77図 ズケ26-14-カ・キ 壁面図



北壁



西壁



カムイヤキ 出土状況



出土遺物

図版 36 ズケ 26-14-カ・キ 壁面・出土遺物写真

第 48 表 ズケ 26-14-カ・キ 出土遺物集計表

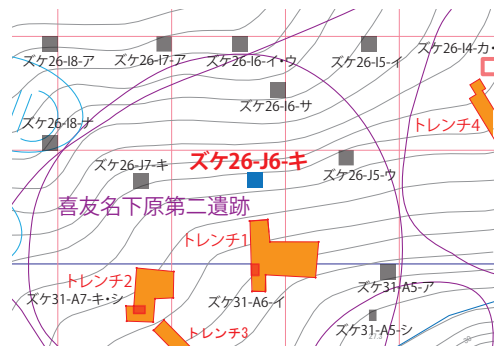
層序 部位	種類 器種	本土産陶器 碗	本土産近代磁器 碗	沖縄産無軸陶器 器種不明	陶質土器 器種不明	グスク土器 器種不明			カムイヤキ 壺		石器 磨石 砂岩	合計
	白薩摩 胴	瀬戸・美濃 底	胴	胴	滑石混入 胴	滑石塗布 胴	胴	口縁	胴	—		
ヒョウサイ									1			1
I層		1	1							1		3
II層				1	1			1			1	5
III層						2	1	1		1		5
合計		1	1	1	1	2	1	3	1	1	1	14

③ズケ 26-J6-キ (喜友名下原第二遺跡)

概要：地山面で近世～近代の溝状遺構が3本検出された。

層序：I層、II a層、V層

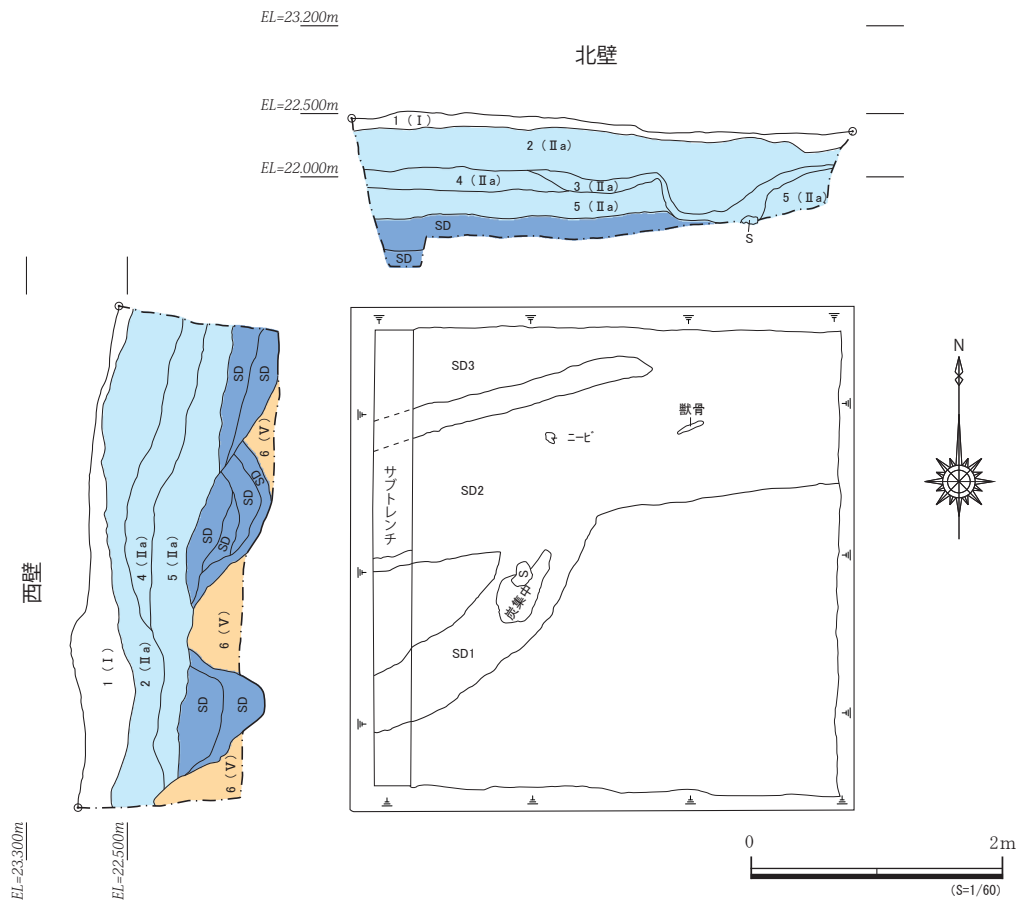
遺構：V層中に近世～近代の耕作土を埋土とする溝状遺構を3本検出した。SD1とSD2の切り合い関係の判別は困難であったが、SD2とSD3は西壁で切り合い関係が確認できた。また、SD1の上面に炭が集中する箇所、SD2の上面にニードと獣骨が検出された。



第 78 図 ズケ 26-J6-キ 位置

遺物：SD1からは近世～近代の遺物が出土。SD2・3の埋

土中からは青磁の皿瀬戸分類IV類 (図版 38-27) などグスク時代の遺物を中心に、くびれ平底土器の口縁部 (図版 38-28) などグスク時代以前遺物が僅かに出土している。また、SD2では獣骨も得られている。



第79図 ズケ26-J6-キ 壁面図・平面図



西壁



北壁

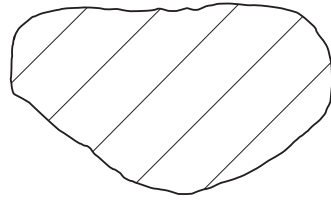
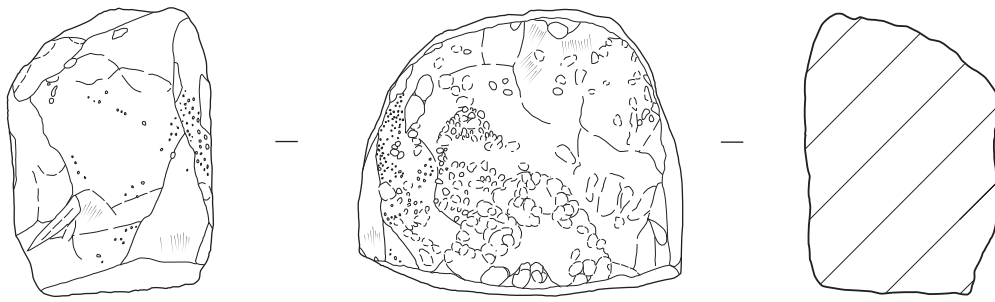


完掘状況(東から)



青磁出土状況

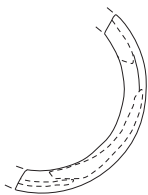
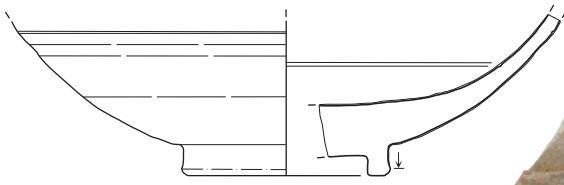
図版37 ズケ26-J6-キ 壁面・完掘状況・出土遺物写真



26



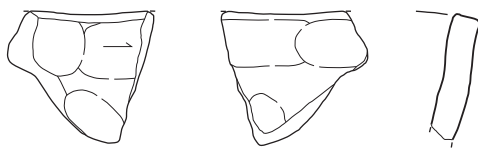
I層



27



SD2



28



SD3

図版 38 ズケ 26-J6-キ 出土遺物図・写真

⑤ズケ 31-A6-イ (喜友名下原第二遺跡)

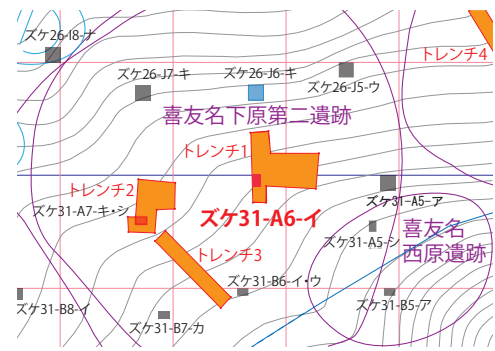
概要：地山面でグスク時代のピットが検出された。

層序：Ⅰ層、Ⅱa層、Ⅴ層

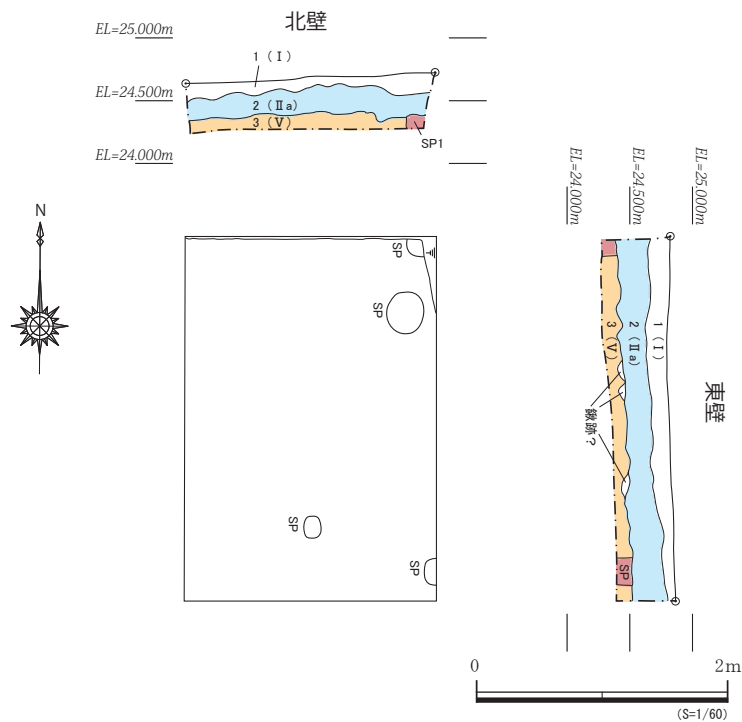
遺構：Ⅴ層からはグスク時代とみられるピットが4基検出された。

遺物：表採でグスク時代から近世～近代の遺物が得られたが、Ⅰ層、Ⅱa層から遺物の出土は認められなかった。

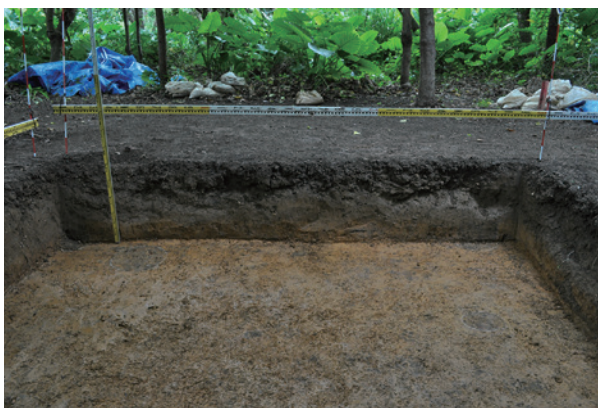
備考：試掘調査の後、確認調査を実施（トレンチ1）。



第81図 ズケ31-A6-イ 位置



第82図 ズケ31-A6-イ 壁面図・平面図



東壁



完掘状況 (南西から)

図版40 ズケ31-A6-イ 壁面・完掘状況写真

第51表 ズケ31-A6-イ 出土遺物集計表

	種類	青磁	沖縄産無釉陶器		グスク土器	明朝系瓦	合計
	器種	皿	火炉	器種不明	器種不明	平瓦	
	分類	瀬戸IV類	—	—	—	赤	
層序	部位	胴	胴	胴	胴	狭端部	
ヒョウサイ		1	1	2	1	1	6
合計		1	1	2	1	1	6

⑥ズケ31-A7-キ・シ (喜友名下原第二遺跡)

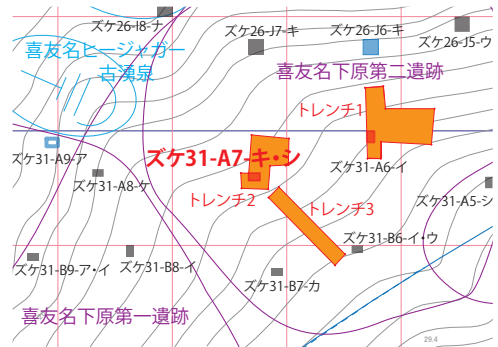
概要：地山面で近世～近代の溝状遺構とグスク時代のピットが検出された。

層序：I層、II a層、V層

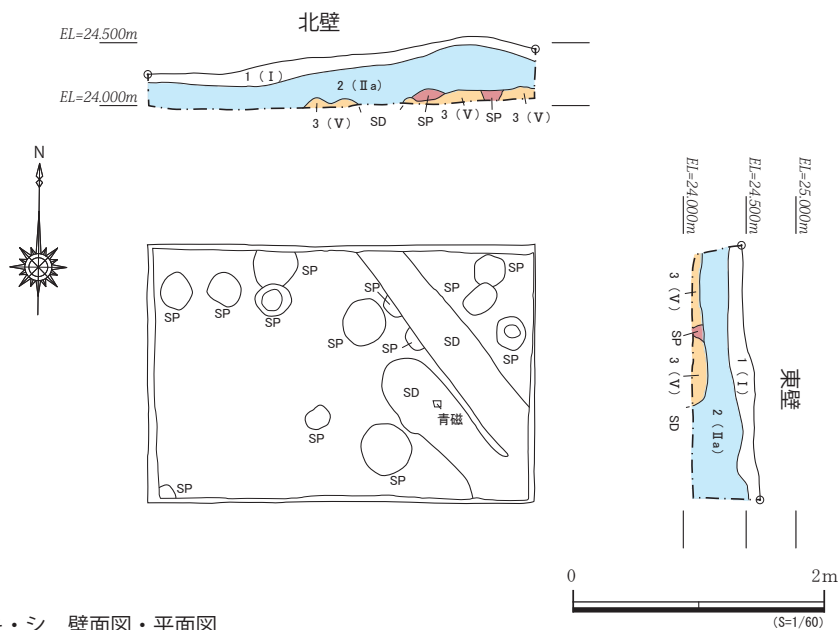
遺構：V層からは溝状遺構2本とグスク時代から近世とみられるピット13基が検出されている。

遺物：表採及びI層でグスク時代から近世～近代にかけての遺物が出土したが、II a層から遺物は得られなかった。

備考：試掘調査の後、確認調査を実施（トレンチ2）。



第83図 ズケ31-A7-キ・シ 位置



第84図 ズケ31-A7-キ・シ 壁面図・平面図



北壁



東壁

図版41 ズケ31-A7-キ・シ 壁面写真



完掘状況（南から）



完掘状況（南東から）

図版 42 ズケ 31-A7- キ・シ 完掘状況写真

第 52 表 ズケ 31-A7- キ・シ 出土遺物集計表

	種類	褐釉	本土産近代磁器	沖縄産無軸陶器	くびれ平底土器	グスク土器	鉄製品	明朝系瓦		合計
	器種	壺	碗	器種不明	器種不明	器種不明	器種不明	平瓦	赤	
	分類	—	底部	—	—	—	—	—	—	
	層序	胴	底	胴	胴	胴	—	広端部	狭端部	
	ヒョウサイ	1	1	2	1	5	—	1	1	12
	I 層	1	—	—	—	—	1	—	—	2
	合計	2	1	2	1	5	1	1	1	14

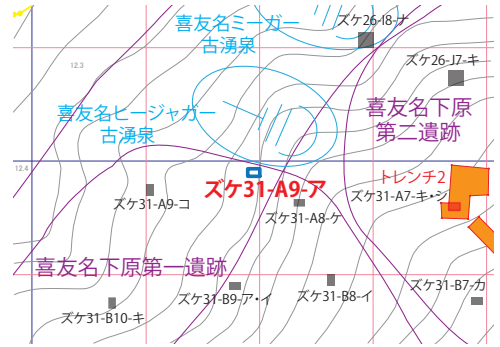
⑦ズケ 31-A9- ア（喜友名下原第一遺跡）

概要：近世の耕作土（Ⅱ b 層）を確認。

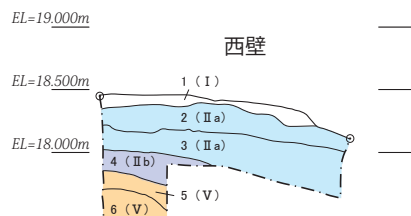
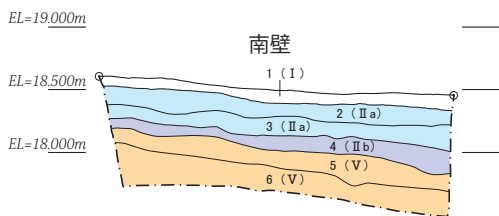
層序：Ⅰ層、Ⅱ a 層、Ⅱ b 層、Ⅴ層

遺構：なし。

遺物：表採及びⅠ層から近代の陶磁器やグスク土器が得られた他、Ⅱ層から縄文時代の土器の小片などが出土した。



第 85 図 ズケ 31-A9- ア 位置



第 86 図 ズケ 31-A9- ア 壁面図



南壁



西壁

図版 43 ズケ 31-A9- ア 壁面写真

第53表 ズケ31-A9-ア 出土遺物集計表

	種類	本土産近代磁器	縄文土器	グスク土器	不明土器	石材	合計
	器種	壺	器種不明	器種不明	器種不明	—	
	分類	—	—	—	—	火成岩 安山岩	
層序	部位	—	胴	胴	胴	—	
ヒョウサイ				1			1
I層		1		1			2
II層			1		3	1	5
合計		1	1	2	3	1	8

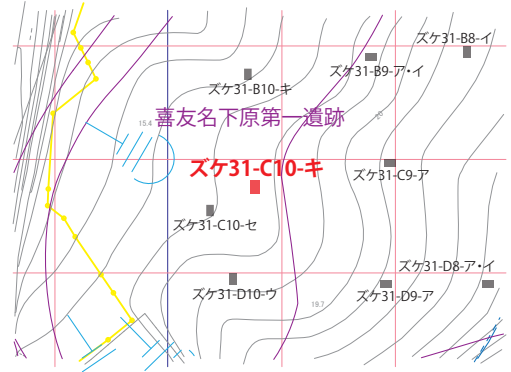
⑧ズケ31-C10-キ (喜友名下原第一遺跡)

概要：地山面でグスク時代のピットが検出された。

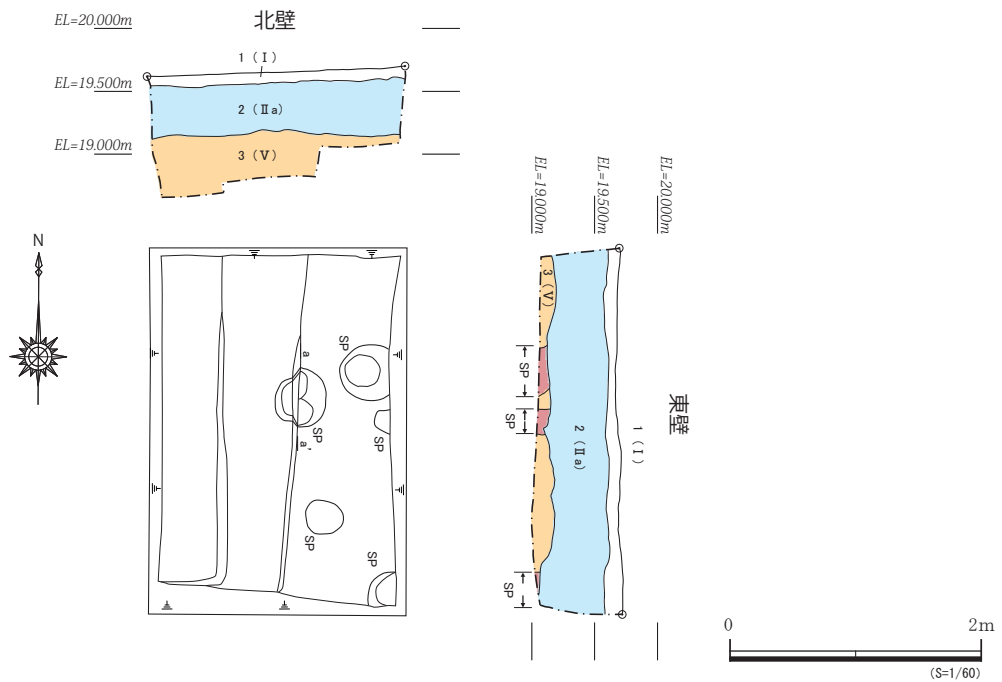
層序：I層、IIa層、V層

遺構：V層からはピット5基が検出されている。

遺物：表採で近世～近代の遺物が得られた他、SP1の埋土中から焼土が出土した。



第87図 ズケ31-C10-キ 位置



第88図 ズケ31-C10-キ 壁面図・平面図



北壁

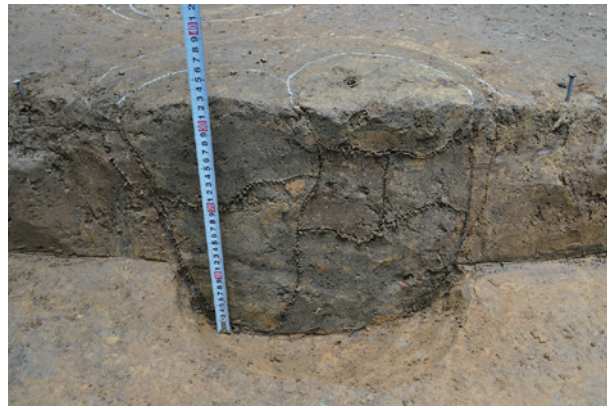


東壁

図版44 ズケ31-C10-キ 壁面写真



完掘状況 (南西から)



ピット断面

図版 45 ズケ 31-C10-キ 完掘状況・ピット断面写真

第 54 表 ズケ 31-C10-キ 出土遺物集計表

種類	種類				合計	
	沖縄産無釉陶器	明朝系瓦	煉瓦	焼土		
器種	陶管	丸瓦	—	—		
分類	—	赤	—	—		
層序	部位	口縁	筒部	—		
ヒヨウサイ		1	1	1	3	
SP1 マイド		—	—	2	2	
合計		1	1	1	2	5

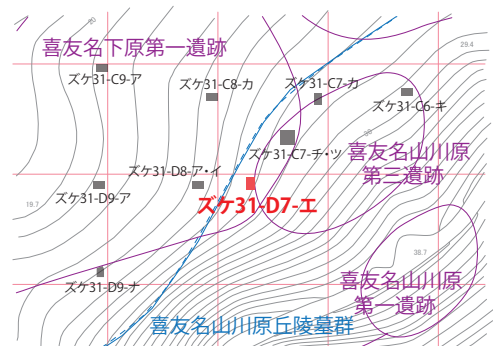
⑨ズケ 31-D7-エ (喜友名下原第一遺跡)

概要：地山面でグスク時代のピットが検出された。

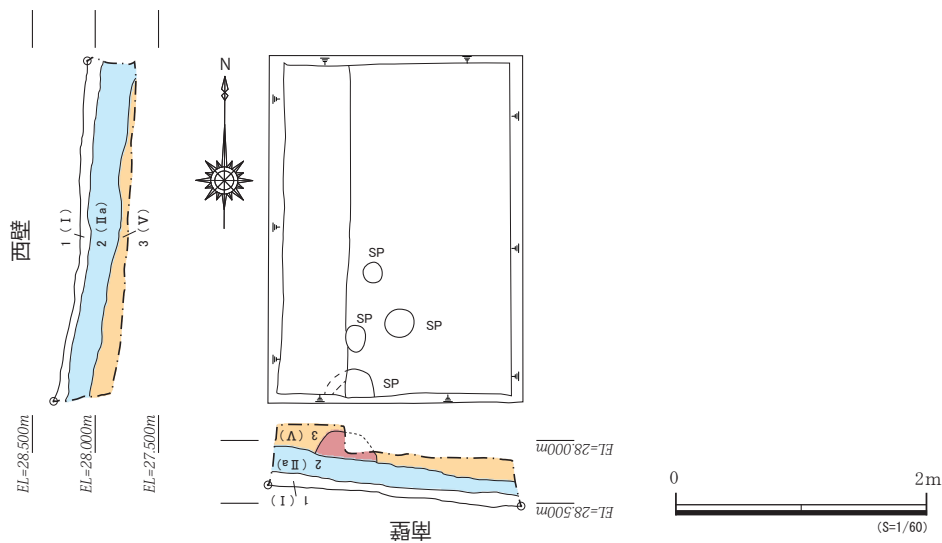
層序：I層、II a層、V層

遺構：V層からはグスク時代から近世とみられるピット
4基が検出されている。

遺物：表採でニービ製の台石が得られた他、I層から沖縄産施釉陶器の破片が出土した。



第 89 図 ズケ 31-D7-エ 位置



第 90 図 ズケ 31-D7-エ 壁面図・平面図



西壁

図版46 ズケ31-D7-エ 壁面・完掘状況写真



完掘状況（北から）

第55表 ズケ31-D7-エ 出土遺物集計表

層序	種類	沖縄産施釉陶器	石器	合計
	器種	碗	台石	
	分類	—	ニ—ビ	
	部位	口縁	—	
ヒョウサイ			1	1
I層		1		1
合計		1	1	2

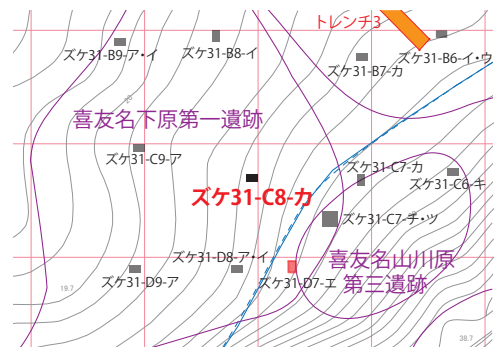
⑩ズケ31-C8-カ（喜友名下原第一遺跡）

概要：近世～近代の耕作土からグスク時代の遺物が出土した。

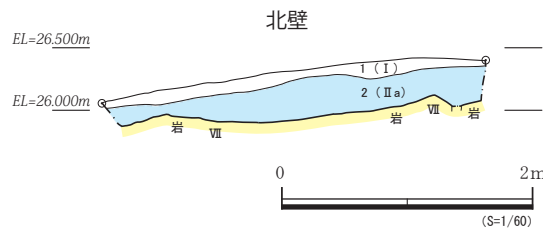
層序：I層、II a層、VII層

遺構：なし。

遺物：II a層から青磁碗瀬戸分類V類（図版48-30）や白磁C-2群（図版48-31）などグスク時代を中心に、近世～近代にかけての遺物が出土した。



第91図 ズケ31-C8-カ 位置



第92図 ズケ31-C8-カ 壁面図



北壁



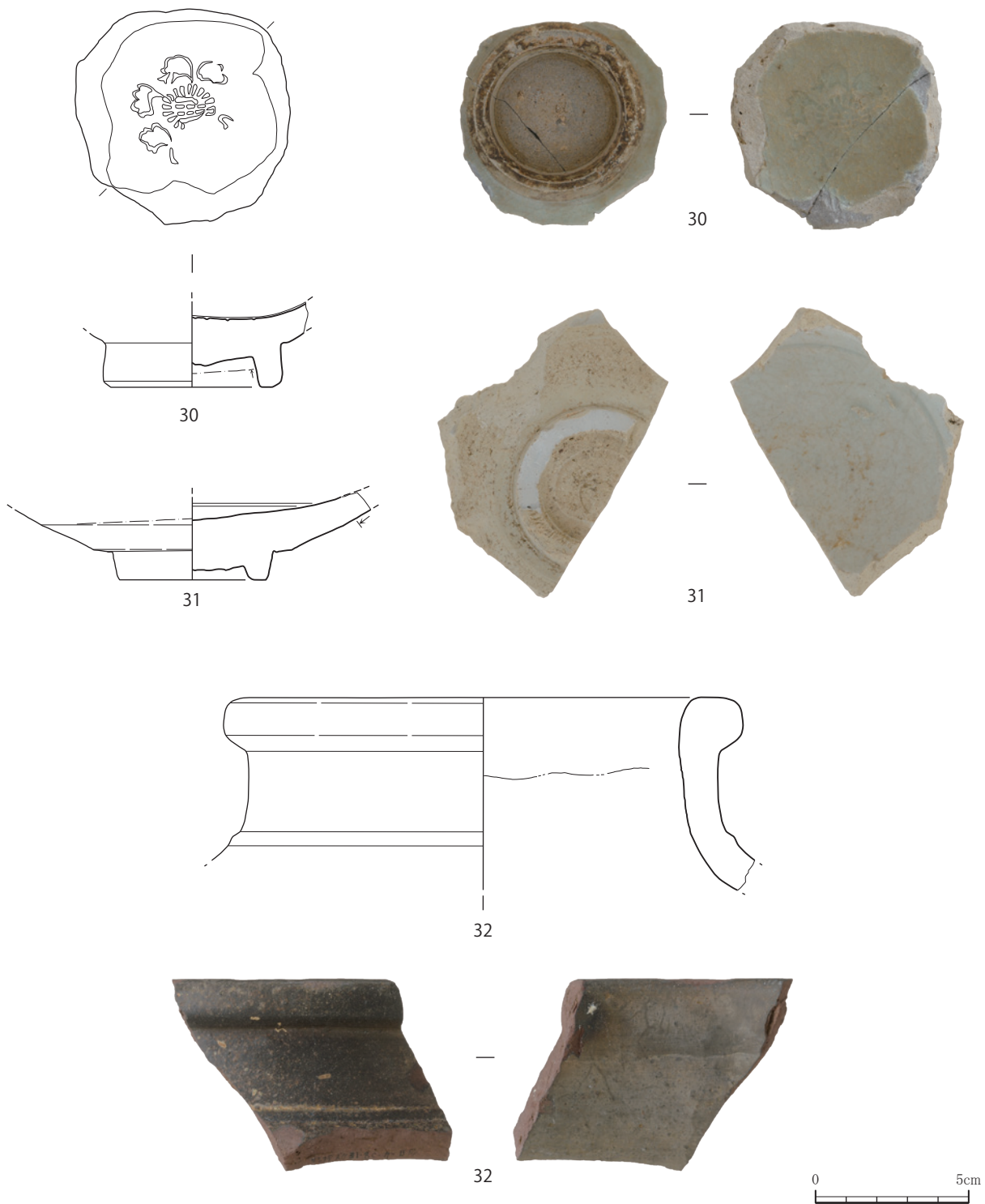
東壁

図版47 ズケ31-C8-カ 壁面写真

第56表 ズケ31-C8-カ 出土遺物集計表

種類 器種	青磁				白磁	染付	褐釉	天目	沖縄産施釉陶器		沖縄産無釉陶器		不明土器		
	碗		器種不明		碗	碗	壺	碗	碗	瓶	壺		器種不明		
	瀬戸IV類	瀬戸V類	—	—	森田C-2群	—	—	—	—	—	—	—	—		
層序	部位	底	底	胴	胴	底	胴	胴	胴	頸	口縁	胴	底	胴	
II層		1	1	2	1	1	1	3	1	2	1	1	4	1	7
合計		1	1	2	1	1	1	3	1	2	1	1	4	1	7

種類 器種	鉄製品	明朝系瓦		貝			貝			焼土	合計	
	器種不明	平瓦	—	二枚貝			巻貝			—		
	—	赤	—	シヤコガイ科	マルスダレガイ科	不明	イトマキボラ科	オニノツノガイ科	トウガタカワニナ科	イモガイ科		
層序	部位	—	広端部	筒部	—	—	—	—	—	—	—	—
II層		2	1	1	1	1	1	1	1	1	2	4
合計		2	1	1	1	1	1	1	1	1	2	4



図版48 ズケ31-C8-カ 出土遺物図・写真

⑪ その他試掘坑

今回、報告を割愛した試掘坑については、調査成果一覧表に記載する。また出土した遺物については、集計表により報告する。

第57表 ズケ26-G3-ア(喜友名古水田跡)

層序	種類	天目	合計
	器種	碗	
部位	胴		
I層		1	1
合計		1	1

第58表 ズケ26-15-イ(遺跡範囲外)

層序	種類	沖縄産施釉陶器	グスク土器	合計
	器種	碗	器種不明	
部位	胴		胴	
II層		1	1	2
合計		1	1	2

第59表 ズケ26-16-イ・ウ(喜友名古水田跡)

層序	種類	青磁	褐釉	合計
	器種	皿	壺	
部位	胴		胴	
I層		1	1	2
合計		1	1	2

第60表 ズケ26-16-サ(喜友名下原第二遺跡)

層序	種類	沖縄産施釉陶器	合計
	器種	碗	
部位	口縁		
II層		1	1
合計		1	1

第61表 ズケ26-18-ア(喜友名古水田跡)

層序	種類	本土産近代磁器	沖縄産無釉陶器		合計
	器種	小碗	蓋	器種不明	
部位	口縁		—	胴	
ヒョウサイ		1	1	1	3
合計		1	1	1	3

第62表 ズケ26-J5-ウ(喜友名下原第二遺跡)

層序	種類	青磁	染付	褐釉	沖縄産無釉陶器	獣骨	石材	焼土	合計
	器種	碗	碗	器種不明	器種不明	—	—	—	
	分類	瀬戸IV類	—	—	—	ウシ	堆積岩 砂岩	—	
部位	口縁		胴	胴	胴	歯	—	—	
I層			1	1	1	1	1	1	6
II層		1							1
合計		1	1	1	1	1	1	1	7

第63表 ズケ31-A5-ア(喜友名下原第二遺跡)

層序	種類	褐釉	沖縄産施釉陶器	合計
	器種	壺	碗	
部位	胴		底	
ヒョウサイ			1	1
I層		1		1
合計		1	1	2

第64表 ズケ31-A5-シ(喜友名西原遺跡・喜友名下原第二遺跡)

層序	種類	沖縄産施釉陶器	合計
	器種	小碗	
部位	口縁		
I層		1	1
合計		1	1

第65表 ズケ31-A8-ケ(喜友名下原第一遺跡)

層序	種類	染付	石材	合計
	器種	碗	—	
	分類	景德鎮	堆積岩 二一ピ	
部位	底		—	
ヒョウサイ		1	1	2
合計		1	1	2

第66表 ズケ31-A9-コ(喜友名下原第一遺跡)

層序	種類	青磁	褐釉		焼土	合計
	器種	碗	壺	器種不明	—	
部位	胴		胴	胴	—	
II層		1	1	1	1	4
合計		1	1	1	1	4

第67表 ズケ31-B5-ア(喜友名西原遺跡)

層序	種類	沖縄産無釉陶器	合計
	器種		
	部位	搦鉢	
		胴	
I層		1	1
合計		1	1

第68表 ズケ31-B6-イ・ウ(喜友名下原第二遺跡)

層序	種類	グスク土器	石材	合計
	器種			
	分類 <td>器種不明</td> <td>—</td> <td></td>	器種不明	—	
		—	堆積岩	
		—	チャート	
層序	部位	胴	—	
II層		2	1	3
合計		2	1	3

第69表 ズケ31-B7-カ(喜友名下原第二遺跡)

層序	種類	本土産陶器	焼土	合計
	器種			
		蓋	—	
I層		1	—	1
II層		—	1	1
合計		1	1	2

第70表 ズケ31-B8-イ(喜友名下原第一遺跡)

層序	種類	本土産近代磁器	沖縄産無釉陶器	陶質土器	不明土器	焼土	合計
	器種						
	分類						
		皿	壺	器種不明	器種不明	—	
	部位	クロム青磁	—	—	—	—	
		底	頸	胴	胴	—	
I層		1	1	1	1	—	4
II層		—	—	—	—	2	2
合計		1	1	1	1	2	6

第71表 ズケ31-B9-ア・イ(喜友名下原第一遺跡)

層序	種類	くびれ平底土器	グスク土器	明朝系瓦		合計	
	器種			器種不明	平瓦		丸瓦
	分類						
		—	—	赤	赤		
	部位	胴	胴	筒部	筒部		
I層		1	1	1	1	4	
II層		—	1	—	—	1	
合計		1	2	1	1	5	

第72表 ズケ31-B10-キ(喜友名下原第一遺跡)

層序	種類	染付	沖縄産無釉陶器	陶質土器	明朝系瓦			合計
	器種				平瓦	丸平不明	急須	
	分類							
		碗	鉢	—	赤	赤		
	部位	景德鎮	—	—	赤	赤		
		胴	底	把手	狭端部	筒部	筒部	
I層		—	—	—	—	1	—	1
II層		1	1	1	1	—	2	6
合計		1	1	1	1	1	2	7

第73表 ズケ31-C7-カ(喜友名山川原第三遺跡)

層序	種類	明朝系瓦	合計
	器種		
	分類		
		平瓦	
	部位	赤	
		筒部	
II層		1	1
合計		1	1

第74表 ズケ31-C9-ア(喜友名下原第一遺跡)

層序	種類	褐釉	合計
	器種		
	部位	壺	
		胴	
I層		1	1
合計		1	1

第75表 ズケ31-C10-セ(喜友名下原第一遺跡)

層序	種類	本土産近代磁器	沖縄産施釉陶器	合計
	器種			
	分類			
		碗	鉢	
	部位	砥部	—	
		口縁	胴	
I層		—	1	1
II層		1	—	1
合計		1	1	2

第76表 ズケ31-D9-ナ(遺跡範囲外)

層序	種類	褐釉	焼土	合計
	器種			
	部位	壺	—	
		胴	—	
I層		1	—	1
II層		—	1	1
合計		1	1	2

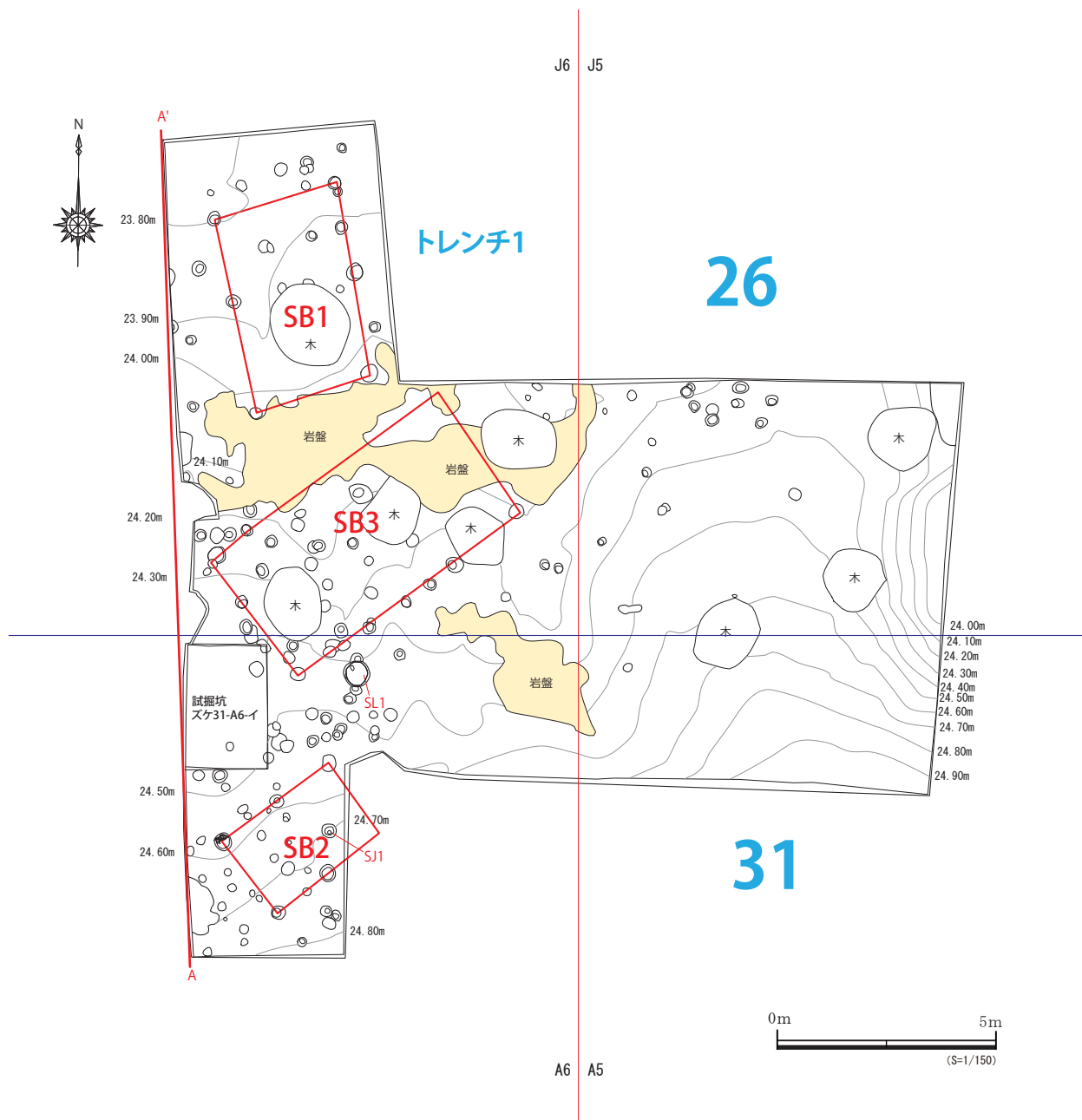
第77表 出土地不明

層序	種類	鉄滓	石材	合計
	器種			
	分類			
		—	—	
		—	堆積岩	
		—	軽石	
層序	部位	—	—	
表採		1	1	2
合計		1	1	2

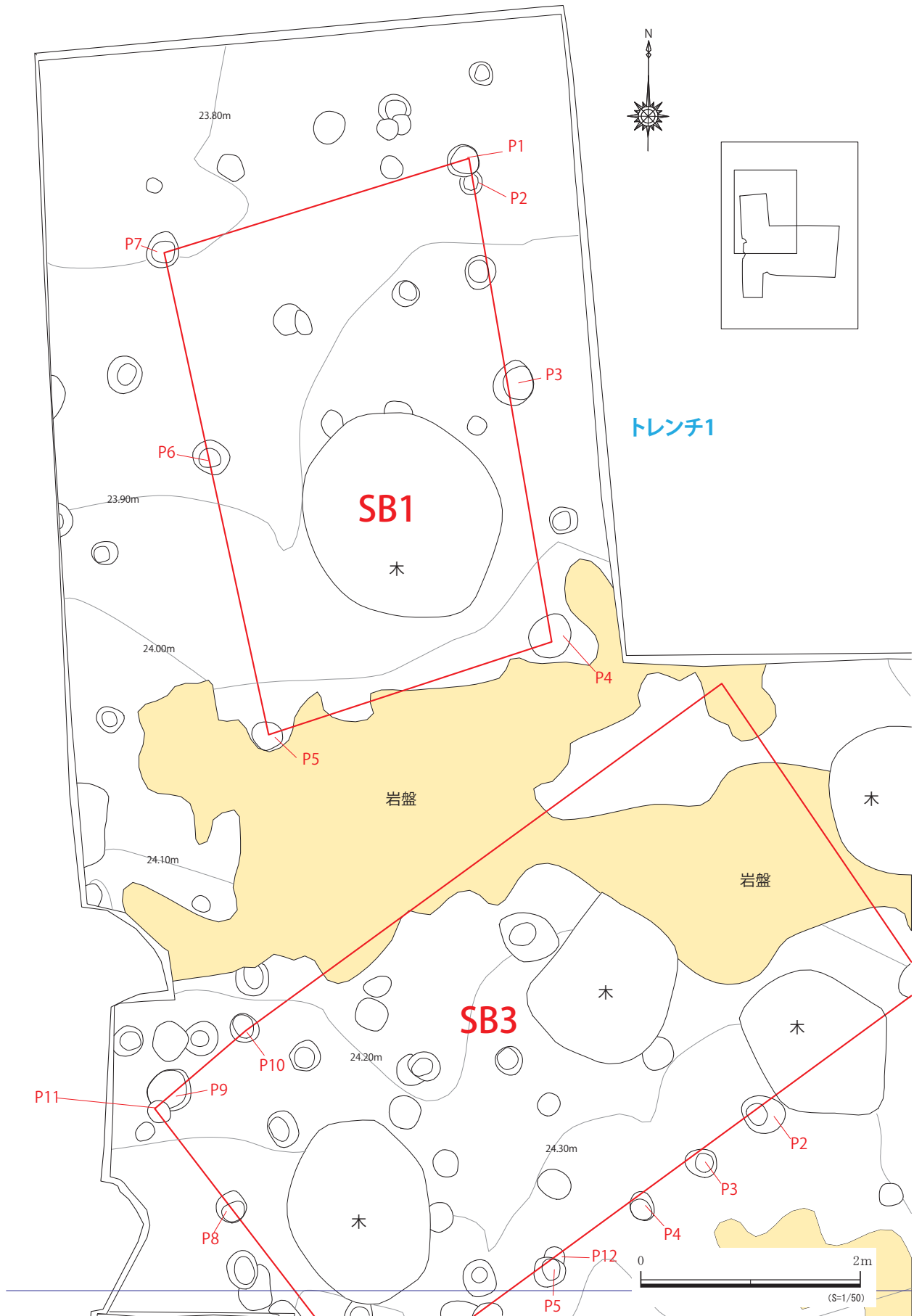
第2項 確認調査

1 調査概要

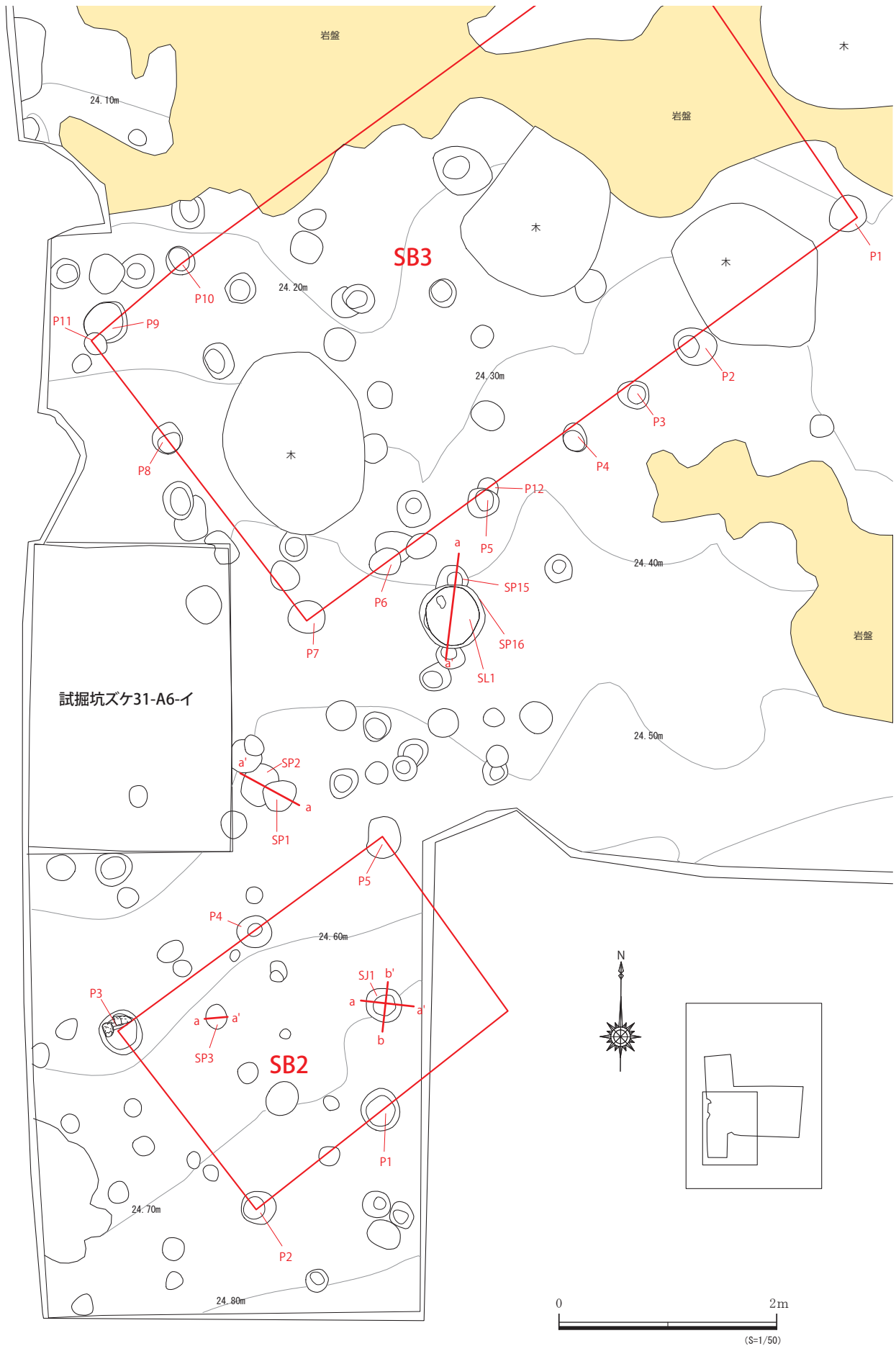
平成28年度の試掘調査では、喜友名下原第二遺跡の範囲内である試掘坑ズケ26-J6-キ、ズケ31-A6-イ、ズケ31-A7-キ・シではグスク時代のピット、近世～近代の溝状遺構が確認された。また、喜友名山川原第七遺跡の範囲内である試掘坑ズケ26-I4-カ・キでは、グスク時代の包含層を確認した。この試掘結果を受け、喜友名下原第二遺跡、喜友名山川原第七遺跡の詳細や範囲を確認することを目的として、試掘坑を拡張あるいは隣接する箇所にはトレンチ1～4を設定し、確認調査を実施した。トレンチ1～3は喜友名下原第二遺跡、トレンチ4は喜友名山川原第七遺跡を調査対象とした。調査面積は、トレンチ1～4全体で483㎡となった。以下に、トレンチ1～4ごとに概要を述べる。



第93図 H28 トレンチ1 平面図



第94図 H28 トレンチ1 拡大図①



第95図 H28 トレンチ1 拡大図②

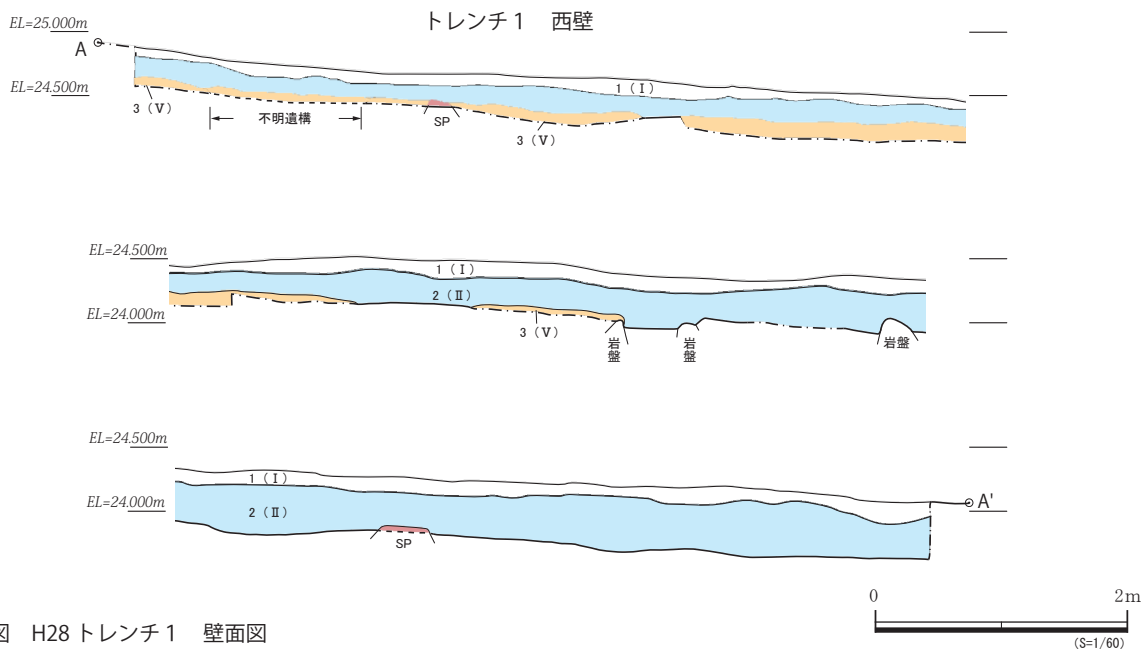
2 層序・遺構

トレンチ1

トレンチ1は、試掘坑ズケ31-A6-イを東側に拡張するかたちで設定した(201㎡)。グリッドはズケ26-J5・J6、ズケ31-A5・A6である。

層序 基本層序Ⅰ・Ⅱa・Ⅴ・Ⅵ層が確認された(第96図)。トレンチ全面において、地山直上まで近世～近代の旧耕作土(Ⅱa層)が堆積している。トレンチ1西側は、平坦面となり一部岩盤が露出している。

トレンチ東端部は窪地のように落ち込む地形となっており、そこに厚くⅡa層が堆積していた。



第96図 H28 トレンチ1 壁面図



南側検出状況(南西から)

図版49 H28 トレンチ1 検出写真



南側完掘状況（南西から）



着手前



東側検出状況（南東から）



北側検出状況（北から）



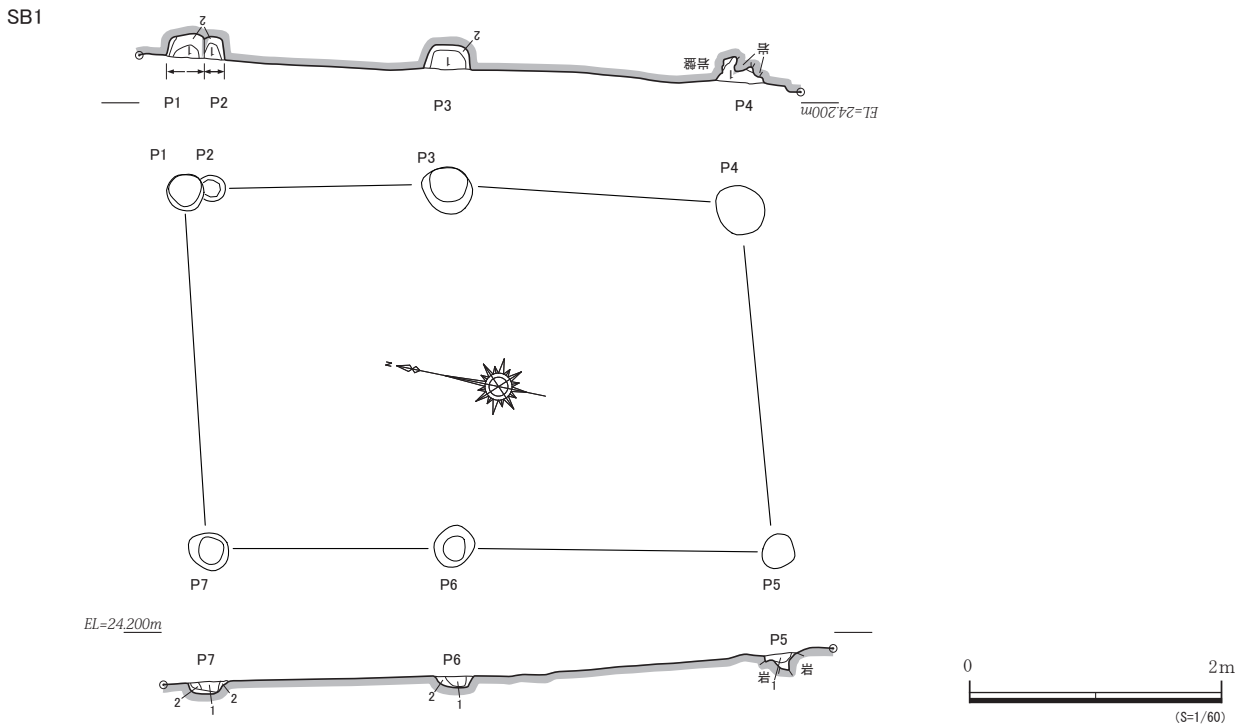
西壁

図版 50 H28 トレンチ 1 着手前・検出・完掘状況・壁面写真

遺構 トレンチ西側平坦面の範囲を中心にグスク時代の遺構が検出された。遺構はピットが多く、ズケ 26-J6・ズケ 31-A6 グリッドを中心に検出された。ピットの埋土は暗褐色土～褐色土のものがみられた。ピットの並びや大きさなどを検討した結果、柱穴として掘立柱建物跡のプランを3棟確認した(SB1～3)。建物プランを見いだせないピットについても、代表的なもの半截を行った(SP1～3)。グスク土器がほぼ一個体分出土したピットもある(SJ1)。このほかに炉跡(SL1)が検出されている。掘立柱建物跡及びピット群などはトレンチ範囲外まで続くものとみられる。

掘立柱建物跡 (SB1～3)

SB1 六本柱建物で、ズケ 26-J6 グリッドに位置する。規模は、桁行(長軸)は2間で4.5m、梁行(短軸)は1間で2.7mである。方位は、北北西-南南東(北11度西)である。トレンチ1北側は近世～近代の耕作等により地山が削られたものと考えられ、柱穴は浅く底の部分が残る。



SB1 - P1	1	Hue10YR3/4	暗褐色、砂質シルト、しまりが良い、炭を微量に含む	SB1 - P4	1	Hue10YR4/6	褐色、砂質シルト、しまりが良い、炭と焼土を含む
	2	Hue10YR4/6	褐色、砂質シルト、しまりが良い	SB1 - P5	1	Hue10YR3/4	暗褐色、粘質シルト、しまりが良い、焼土を含む
SB1 - P2	1	Hue10YR3/4	暗褐色、砂質シルト、しまりが良い、炭と焼土を微量に含む	SB1 - P6	1	Hue10YR4/6	褐色、砂質シルト、しまりが良い、炭と土器を含む
	2	Hue10YR4/6	褐色、粘質シルト、しまりが良い		2	Hue10YR4/4	褐色、シルト～極細砂、しまりが良い
SB1 - P3	1	Hue10YR3/4	暗褐色、砂質シルト、しまりが悪い	SB1 - P7	1	Hue10YR4/6	褐色、砂質シルト、しまりが悪い、炭を微量に含む
	2	Hue10YR4/6	褐色、粘質シルト、しまりが良い		2	Hue7.5YR4/6	褐色、シルト～極細砂、しまりが悪い

第97図 H28 トレンチ 1 SB1 平面図・断面図



検出状況 (西から)



検出状況 (北から)

図版 51 H28 トレンチ 1 SB1 検出写真



P3 断面

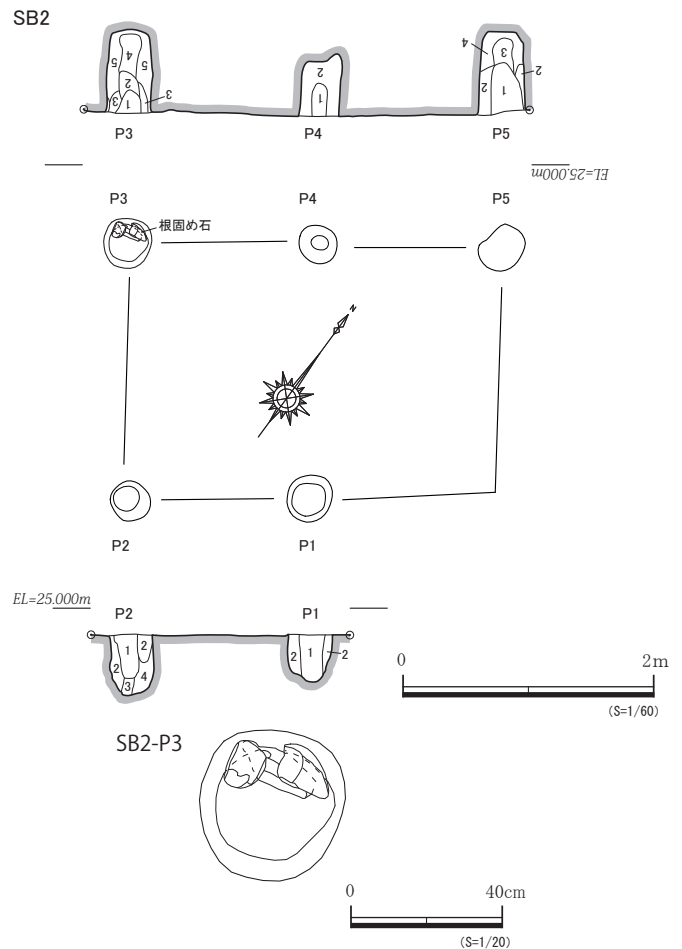


P5 断面

図版 52 H28 トレンチ 1 SB1 断面写真

SB2 六本柱建物で、ズケ 31-A6 グリッドに位置する。規模は、桁行(長軸)は2間で3.0m、梁行(短軸)は1間で2.0mである。方位は、北東—南西(北53度東)である。南東側の柱穴は調査区外にあり、確認できていない。P3内からは、柱を外側から支えるための根固め石が検出された。P5の埋土に含まれる炭化材からは990±20BPの年代が得られた。

- SB2 - P1 1 Hue10YR3/3 暗褐色、粘質シルト、しまりが良い、焼土と炭を微量に含む
- 2 Hue7.5YR5/8 明褐色、砂質シルト、しまりが良い
- SB2 - P2 1 Hue10YR3/4 暗褐色、粘質シルト、しまりが良い、焼土と炭を微量に含む
- 2 Hue7.5YR5/8 明褐色、粘質シルト、しまりが良い
- 3 Hue10YR3/3 暗褐色、粘質シルト、しまりが良い
- 4 Hue7.5YR5/6 明褐色、シルト～極細砂、しまりが良い
- SB2 - P3 1 Hue10YR3/4 暗褐色、砂質シルト、しまりが良い、炭と焼土を微量に含む
- 2 Hue10YR3/3 暗褐色、砂質シルト、しまりが良い、炭を微量に含む
- 3 Hue2.5Y4/3 オリーブ褐色、砂質シルト、しまりが良い
- 4 Hue2.5Y3/3 暗オリーブ褐色、粘質シルト、しまりが良い
- 5 Hue7.5YR5/8 明褐色、粘質シルト、しまりが良い
- SB2 - P4 1 Hue2.5Y3/3 暗オリーブ褐色、粘質シルト、しまりが良い
- 2 Hue10YR5/8 黄褐色、シルト～極細砂、しまりが良い
- SB2 - P5 1 Hue10YR3/4 暗褐色、砂質シルト、しまりが悪い、炭と焼土を微量に含む
- 2 Hue7.5YR5/8 明褐色、シルト～極細砂、しまりが良い
- 3 Hue10YR3/3 暗褐色、砂質シルト、しまりが悪い
- 4 Hue7.5YR5/8 明褐色、シルト～極細砂、しまりが良い



第98図 H28 トレンチ 1 SB2 平面図・断面図



検出状況(南西から)

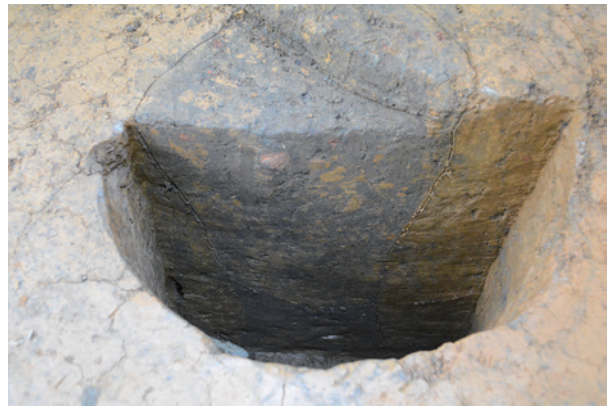


完掘状況(南西から)

図版 53 H28 トレンチ 1 SB2 検出・完掘状況写真



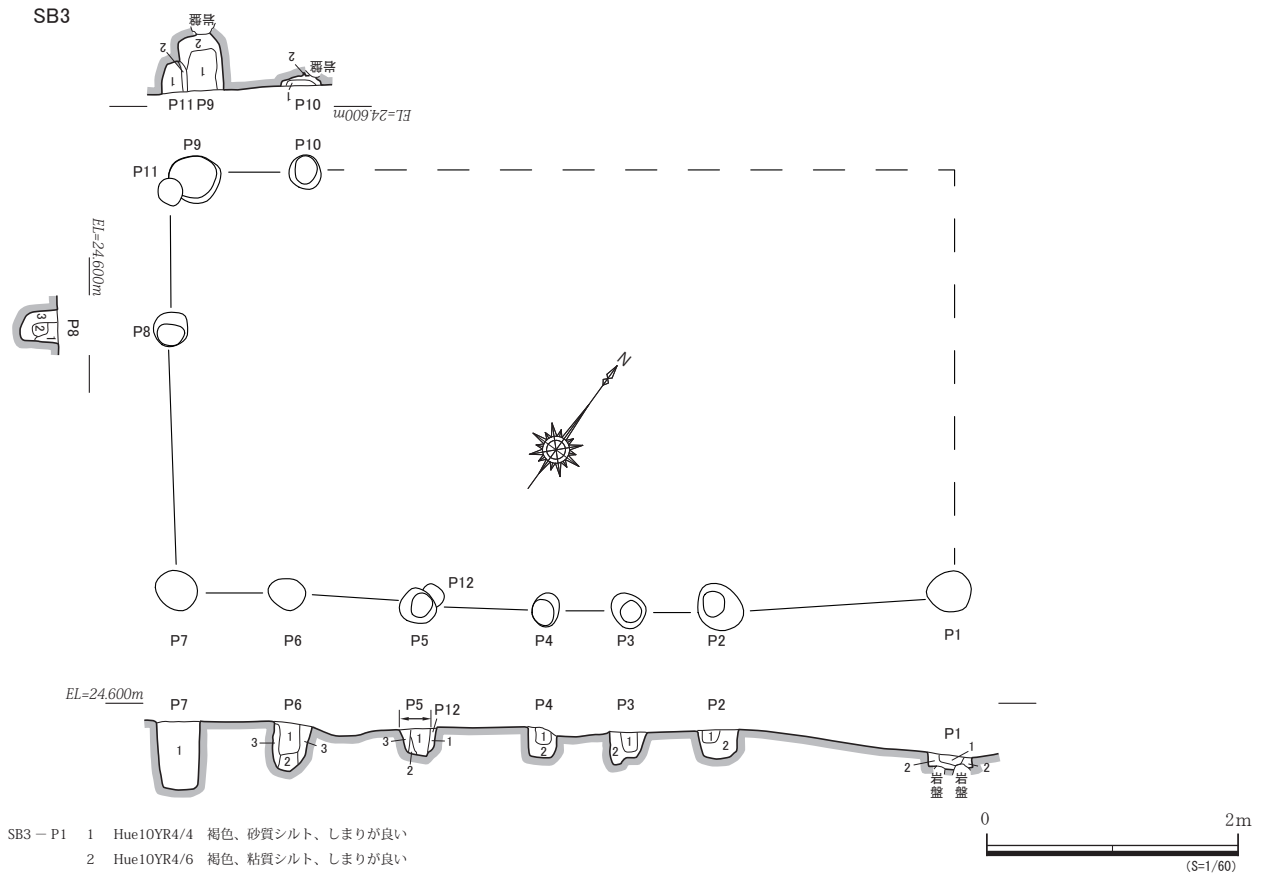
P3 根固め石



P5 断面

図版 54 H28 トレンチ 1 SB2 断面写真

SB3 中柱建物と考えられる。ズケ 26-J6・31-A6 グリッドに位置する。規模は、桁行(長軸)は6間で6.2m、梁行(短軸)は2間で3.3mである。方位は、北東—南西(北53度東)である。北側は岩盤が露出し、ピットは確認できなかったため、北側のプランは推定したものである。また、トレンチ内に樹木を残したために、中柱は未確認である。P9の埋土に含まれる炭化材からは、1,090 ± 20BPの年代が得られた。



SB3 - P1	1	Hue10YR4/4	褐色、砂質シルト、しまりが良い	SB3 - P7	1	Hue10YR4/6	褐色、砂質シルト、しまりが良い
	2	Hue10YR4/6	褐色、粘質シルト、しまりが良い	SB3 - P8	1	Hue10YR4/4	褐色、砂質シルト、しまりが良い、微量に焼土を含む
SB3 - P2	1	Hue10YR3/4	暗褐色、砂質シルト、しまりが良い、焼土を僅かに含む		2	Hue10YR4/6	褐色、砂質シルト、しまりが良い
	2	Hue10YR4/6	褐色、砂質シルト、しまりが良い		3	Hue10YR5/8	黄褐色、粘質シルト、しまりが良い
SB3 - P3	1	Hue10YR3/3	暗褐色、砂質シルト、しまりが良い、焼土と炭を微量に含む	SB3 - P9	1	Hue10YR3/4	暗褐色、砂質シルト、しまりが良い、焼土と炭を含む
	2	Hue10YR4/6	褐色、粘質シルト、しまりが良い		2	Hue10YR4/6	褐色、粘質シルト、しまりが良い
SB3 - P4	1	Hue10YR3/3	暗褐色、砂質シルト、しまりが良い、焼土を含む	SB3 - P10	1	Hue10YR4/4	褐色、砂質シルト、しまりが良い、微量に炭と焼土を含む
	2	Hue10YR4/6	褐色、粘質シルト、しまりが良い		2	Hue10YR4/6	褐色、砂質シルト、しまりが良い
SB3 - P5	1	Hue10YR3/4	暗褐色、砂質シルト、しまりが良い、炭を微量に含む	SB3 - P11	1	Hue10YR3/4	暗褐色、砂質シルト、しまりが良い、焼土と炭を微量に含む
	2	Hue10YR4/6	褐色、粘質シルト、しまりが良い		2	Hue10YR4/6	褐色、砂質シルト、しまりが良い
	3	Hue10YR5/8	黄褐色、粘質シルト、しまりが良い	SB3 - P12	1	Hue10YR5/8	黄褐色、粘質シルト、しまりが良い、炭を微量に含む
SB3 - P6	1	Hue10YR3/4	暗褐色、砂質シルト、しまりが良い、焼土と炭を微量に含む				
	2	Hue10YR3/3	暗褐色、砂質シルト、しまりが良い				
	3	Hue10YR4/6	褐色、粘質シルト、しまりが良い				

第99図 H28 トレンチ 1 SB3 平面図・断面図



検出状況（南西から）



完掘状況（南西から）



P4 断面

図版 55 H28 トレンチ 1 SB3 検出・完掘状況・断面写真

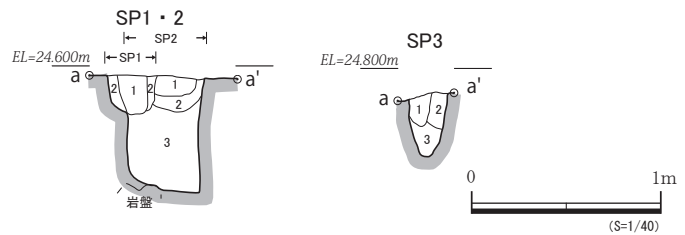


P9・P11 断面

ピット

グスク時代のピットは、暗褐色土や褐色土のものがみられ、単体もしくは切りあう形で検出された。

SP1・2はともに切り合っており、暗褐色土のSP1が褐色土のSP2を切っている。SP2は深く掘り込まれているのに対し、SP1は浅く径も小さいことから、建物が別であった可能性も考える。



- | | | | |
|-----|---|-------------|------------------------------------|
| SP1 | 1 | Hue10YR3/4 | 暗褐色、砂質シルト、しまりが良い、焼土粒と炭粒を含む |
| | 2 | Hue7.5YR4/6 | 褐色、砂質シルト、しまりが良い |
| SP2 | 1 | Hue10YR4/6 | 褐色、砂質シルト、しまりが良い、炭粒を微量に含む |
| | 2 | Hue10YR4/6 | 褐色、砂質シルト、しまりが悪い |
| | 3 | Hue7.5YR4/6 | 褐色、粘質シルト、しまりが良い、焼土粒と炭粒を含む |
| SP3 | 1 | Hue10YR3/4 | 暗褐色、砂質シルト、しまりが良い、マージブロックと焼土粒、炭粒を含む |
| | 2 | Hue10YR3/4 | 暗褐色、砂質シルト、しまりが良い、マージブロックを多く含む |
| | 3 | 1とほぼ同様 | |

第100図 H28 トレンチ 1 SP1～3 断面図



SP1・2 断面

図版 56 H28 トレンチ 1 SP1～3 断面写真

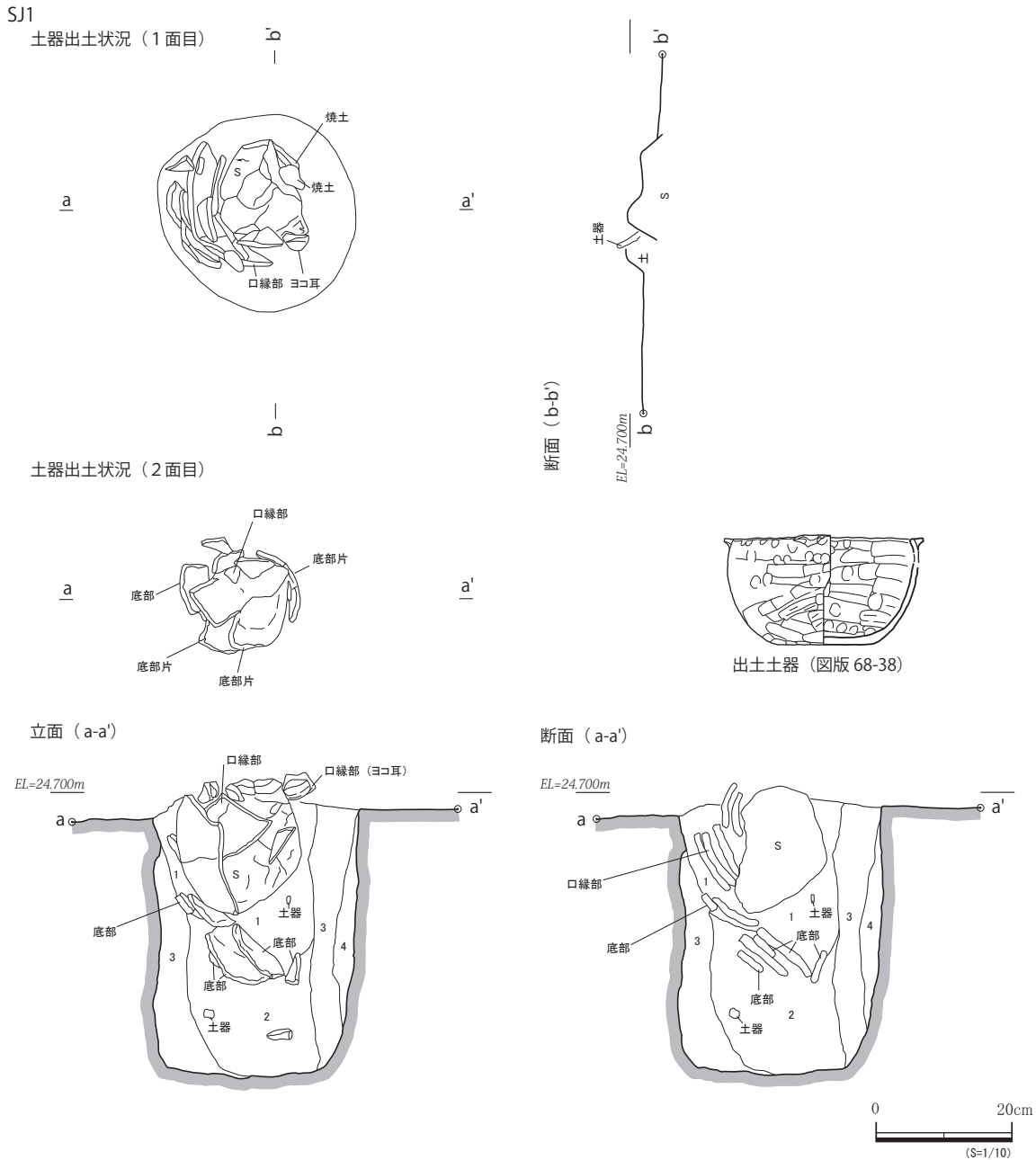


SP3 断面

SJ1 ズケ 31-A6 グリッドにおいて、ピット内に礫と土器を埋設した遺構として当初検出された。半截を行った結果、ピット内にグスク土器ほぼ一個体分の破片を、15cmの角閃石安山岩礫とともに埋めたものであることを確認した。ピットの規模は28×29cm、深さ40cmである。

出土した土器は口縁部に横耳を持つ鍋形で、器形のほぼ全体を窺える資料である(図版 68-38)。土器の詳細については遺物の頁で報告する。また、ともに出土した礫は、明確な使用面は認められなかったため自然礫と判断した。出土状況からは、まず土器底部片の外底面を上向きにして埋め、その後に礫と土器口縁部片を同時に埋めていることが確認できた。

当該遺構出土の土器に付着する炭化物と、埋土に含まれる炭化材について年代測定を行った結果、土器付着炭化物は980±20BP、埋土内炭化物は935±20BPの年代が得られた。当該遺構は意図的に土器と礫を埋めていることから、なんらかの行為を行ったものと考えられるが、詳細については不明である。今後の類例に期待される。



- SJ1
- 1 Hue10YR3/4 暗褐色、砂質シルト、しまりが良い、マージブロック (Hue10YR5/8 黄褐色) と礫、土器片、炭粒、焼土粒を含む
 - 2 Hue10YR3/4 暗褐色、砂質シルト、しまりが良い、マージブロックと土器片、炭粒、焼土粒を含む
 - 3 Hue10YR3/4 暗褐色、砂質シルト、しまりが良い、マージブロックを多く含む焼土粒を含む
 - 4 Hue10YR5/8 黄褐色、砂質シルト、しまりが良い

第101図 H28 トレンチ1 SJ1 平面図・立面図・断面図



検出状況



断面



土器出土状況

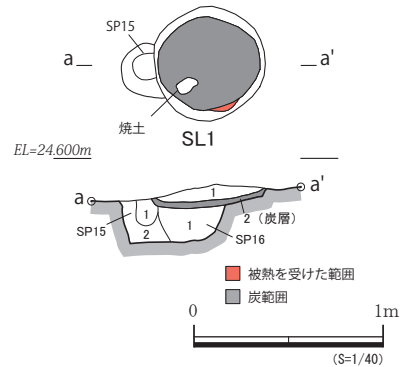


完掘状況

図版57 H28 トレンチ1 SJ1 検出・断面・完掘状況写真

SL1 円形の炉跡である。規模は幅59×60cm、深さ11cmで、埋土内には焼土塊が混じる。底面全体に炭層が堆積し、一部被熱による焼土範囲がみられる。炭層は完掘していないが、下部には焼土面が広がる可能性がある。SP15・16を切って構築されている。陶磁器などの遺物は出土していない。

埋土の自然科学分析を行った結果、炭化材からは680±20BPの年代が得られた。炭化種実はいネ、オオムギ、アワが検出されている。さらに炭化材同定も行ったが、種類の特定には至らなかった。



- SL1 1 Hue10YR3/4 暗褐色、砂質シルト、しまりが良い、焼土粒、炭粒を含む、下部で焼土が出土
2 Hue10YR3/4 暗褐色土が混ざり、焼土粒を含む炭層である

第102図 H28 トレンチ1 SL1 平面図・断面図



検出状況 (西から)



断面

図版58 H28 トレンチ1 SL1 検出・断面写真

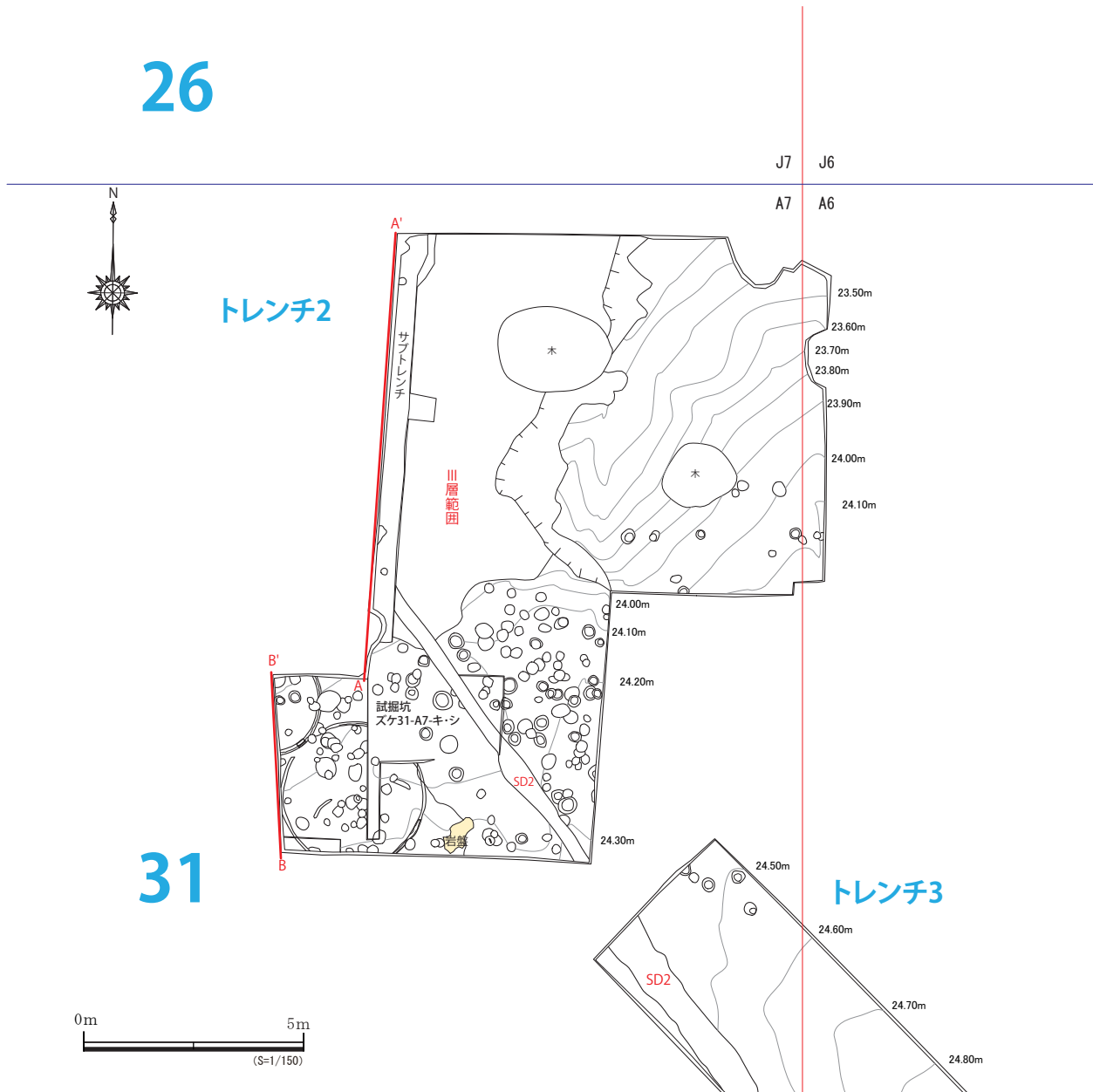
トレンチ2

トレンチ2は、試掘坑ズケ31-A7-キ・シを南東～北西側に拡張して設定した（116㎡）。グリッドはズケ31-A6・A7に位置する。

層序 I・II a・III・V・VI層が確認された（第105図）。トレンチ全面にII a層が堆積し、北側範囲にのみグスク時代の堆積層（III層）が堆積している。III層の東側は、近代の耕作に伴う地形改変により大きく削られている。III層の堆積を確認するため、西壁際に長さ約9m、幅50cmのサブトレンチを南北方向に設定し掘削したところ、トレンチ2北側は落ち込む地形となることを確認した。

III層からは青磁や白磁、グスク土器、カムイヤキ、滑石製品、羽口、鉄滓などグスク時代の遺物を中心に、くびれ平底土器も出土している。自然科学分析の結果、微細物洗い出し分析により炭化種実としてイネ、オオムギ、コムギ、アワのほか、金属片が検出されている。また鉄滓は成分分析の結果、鍛錬鍛冶滓と推定されたことから、周辺で鍛造鉄器の製作が行われていた可能性がある。

遺構 トレンチ南側平坦面の範囲を中心に、グスク時代の遺構が多く検出された。遺構密度は高く、グスク時代のピット集中部と円弧状遺構が検出された。また、近世～近代の遺構は、溝状遺構（SD2）が確認されており、北西～南東方向でトレンチ3まで延びる。

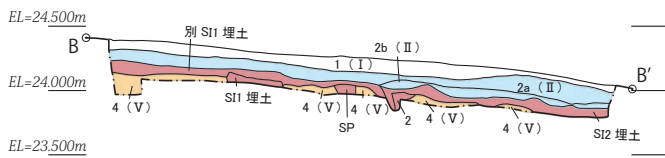


第103図 H28 トレンチ2 平面図

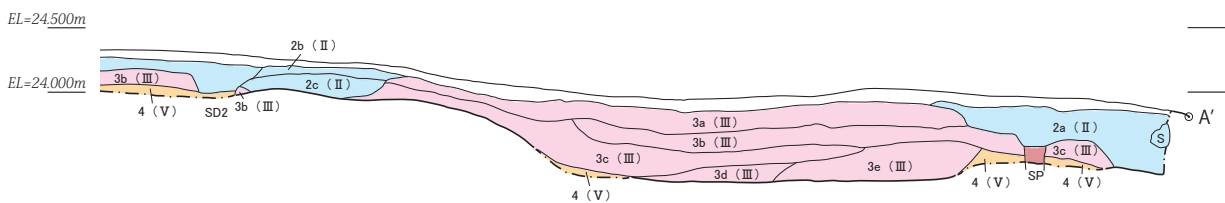
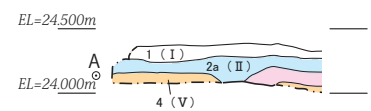


第104図 H28トレンチ2 拡大図

トレンチ2 西壁①



トレンチ2 西壁②



第105図 H28トレンチ2 壁面図



検出状況（南西から）



南側 検出状況（南東から）

図版 59 H28 トレンチ 2 検出写真



着手前



北側 検出状況（東から）



サブトレンチ西壁（合成写真）



土器 出土状況



カムイヤキ 出土状況



石器 出土状況

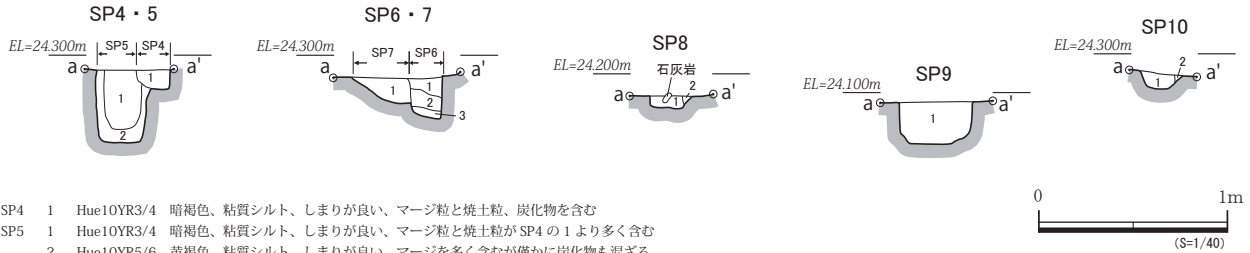


韃の羽口 出土状況

図版 60 H28 トレンチ 2 着手前・検出・壁面・遺物写真

ピット集中部 ピットは、トレンチ1と同様に暗褐色土や褐色土のものがみられ、単体もしくは切り合うかたちで集中して検出された。ピットの密度はトレンチ1より高い。トレンチ2では、掘立柱建物跡のプランは確認出来なかったが、ピットの集中部はトレンチ範囲外まで続くものとみられる。

トレンチ1・2において、切り合うピットは暗褐色土のピットが褐色土のピットを切っていることが多いことから（トレンチ1：SP1・2、トレンチ2：SP4・5、SP6・7）、時間的な先後関係として褐色土のものが古く、暗褐色土のものが新しいものとして考えた。そこで暗褐色土と褐色土で切り合うSP6・7の年代測定を行ったところ、SP6（暗褐色土）は880 ± 20BP、SP7（褐色土）は870 ± 20BPの年代が得られた。年代差は殆どないことから、時期差は殆どない可能性がある。



- SP4 1 Hue10YR3/4 暗褐色、粘質シルト、しまりが良い、マージ粒と焼土粒、炭化物を含む
- SP5 1 Hue10YR3/4 暗褐色、粘質シルト、しまりが良い、マージ粒と焼土粒がSP4の1より多く含む
- 2 Hue10YR5/6 黄褐色、粘質シルト、しまりが良い、マージを多く含むが僅かに炭化物も混ざる
- SP6 1 Hue10YR3/3 暗褐色、粘質シルト、しまりが良い、マージの粒、焼土粒、炭化物を含む
- 2 Hue10YR4/4 褐色、粘質シルト、しまりが良い、焼土粒炭化物を含み、1に比べ大粒のマージを含む
- 3 Hue10YR4/3 にぶい黄褐色、粘質シルト、しまりが良い、1と2に比べ炭化物が少ない
- SP7 1 Hue10YR4/4 褐色、粘質シルト、しまりが良い、焼土と炭化物、マージを含む
- SP8 1 Hue10YR3/3 暗褐色、粘質シルト、しまりが良い、焼土、炭化物、マージの粒を含む。
- 2 Hue10YR4/4 褐色、粘質シルト、しまりが良い、炭化物や焼土を含み1に比べ大粒のマージの粒を含む
- SP9 1 Hue10YR4/3 にぶい黄褐色、軟質シルト、しまりが良い、焼土、炭化物、マージの粒を含む
- SP10 1 Hue10YR3/3 暗褐色、粘質シルト、しまりが良い、焼土、炭化物、マージの粒を含む
- 2 Hue10YR3/3 暗褐色、粘質シルト、しまりが良い、1より焼土、マージ共に混入が少ない

第106図 H28 トレンチ2 SP4～10 断面図



SP4・5 断面



SP6・7 断面



SP8 断面



SP10 断面

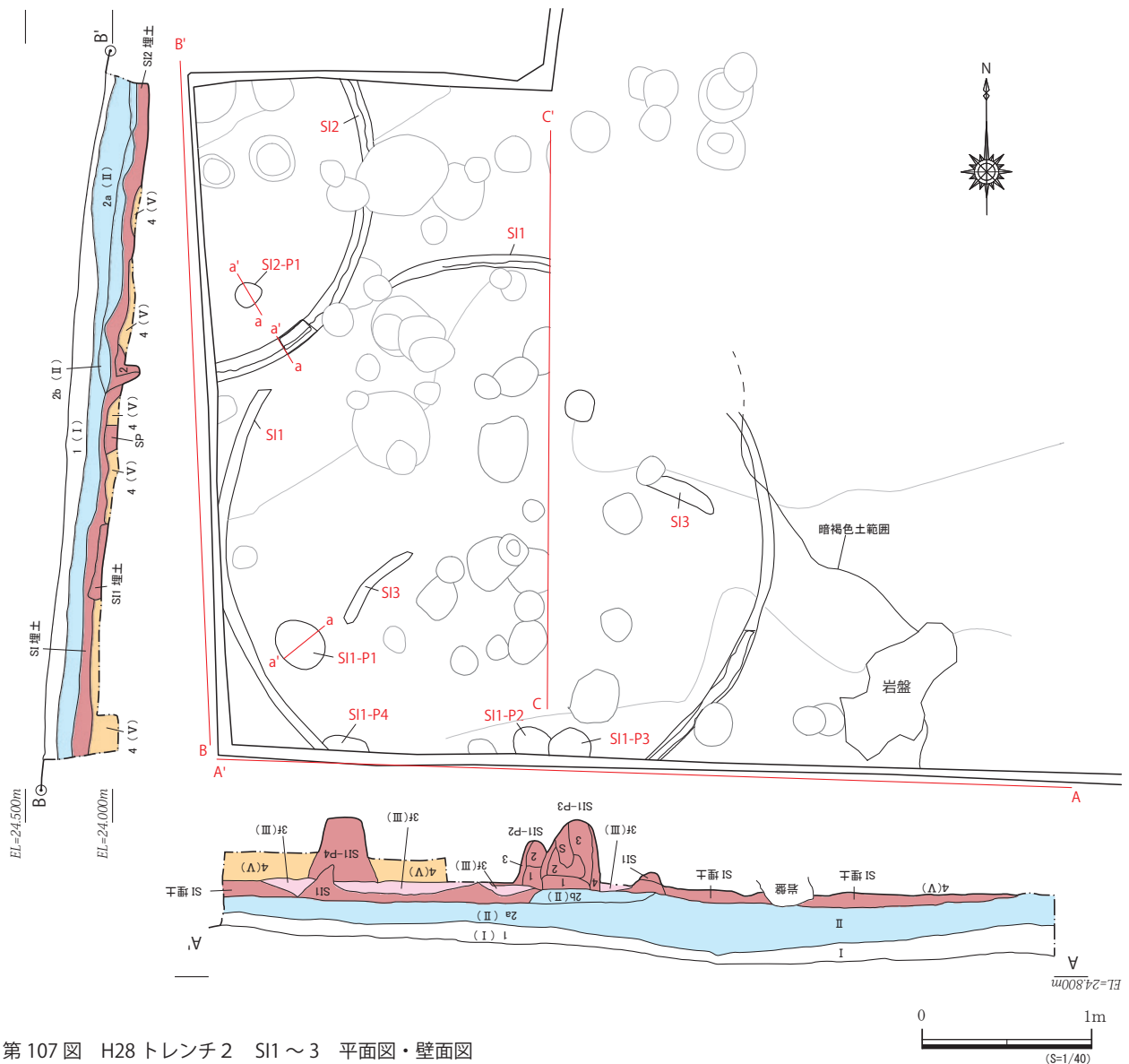
図版61 H28 トレンチ2 SP4～8、10 断面写真

円弧状遺構 (SI1～3) 当初は不定形な暗褐色土範囲として、地山上面で検出された。遺構の形状を確認するため全体を薄く削ったところ、円弧状となる周溝が検出され、最終的に円弧状遺構を3基確認した(SI1～3)。

円弧状遺構は、円弧状を呈する周溝から成るもので、ほぼ全体を検出したSI1の直径は約3.3mである。周溝の最大幅は10cm前後で、SI1・2ともに周溝の断面は、内側から外側に向けて立ち上がり三角形となる。壁面に残る立ちあがりからは深さ約20cmを測る。SI2周溝断面では、細長く黒色土が堆積し、細い棒状または板状のもので周溝を掘り込んだ可能性がある。

周溝の内側範囲は平面では暗褐色土が薄く堆積しており、壁面では竪穴遺構状に約5～10cmほど浅く掘り込まれていることが確認できた。SI1とSI2は北西-南東方向で隣接している。SI3は、SI1南側半分で重複する形で検出されたが、周溝は痕跡的にしか残っておらず、周溝同士の切りあい関係は判然としなかった。円弧状遺構3基の推定ラインを第107図に示す。

当該遺構が確認された範囲はピットも多く検出されており、周溝範囲内のピットについて、遺構記号を付けて半截を行ったが(SI1-P1～4、SI2-P1)、この円弧状遺構に伴うかどうかは確認出来なかった。調査区南壁においては、SI1周溝がピットを切って構築されていることが、切り合い関係により確認された(第107図A-A'ライン)。一方で、周溝を切っているピットも平面で確認されている。



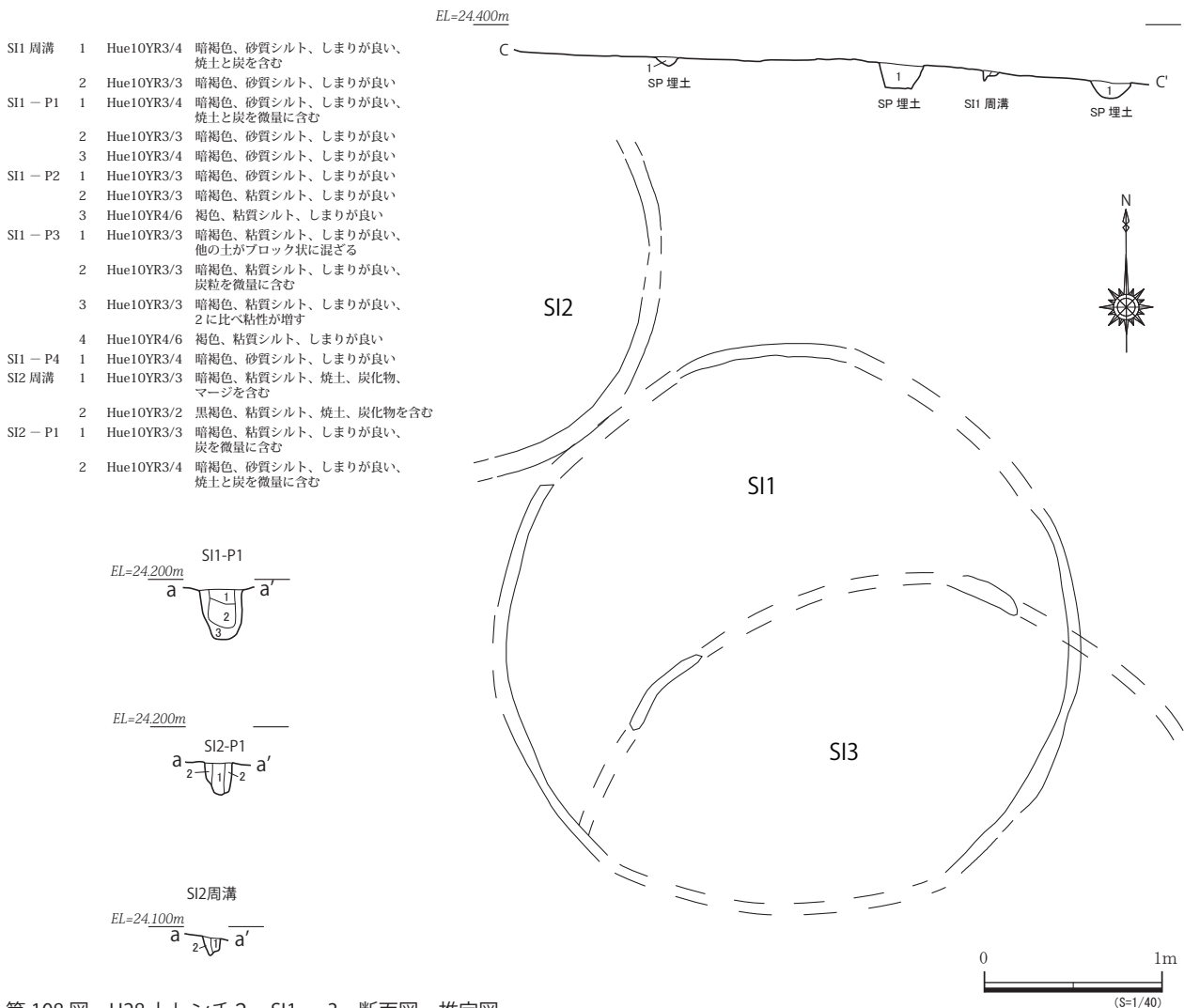
第107図 H28トレンチ2 SI1～3 平面図・壁面図

円弧状遺構の直上で確認された暗褐色土は、SI1 西側の岩盤から SI2 の範囲までみられた。壁面の暗褐色土層と周溝の埋土が類似することから、この一帯では円弧状遺構がいくつか構築されたと考えられる。

今回は、調査の制約上トレンチを拡張して確認することが出来なかったが、一帯には円弧状遺構がさらに確認される可能性がある。

遺物については、周溝から遺物は殆ど出土せず、SI1 の周溝から焼けたウシの歯骨片が 1 点出土したのみである。また、SI1 の上面（遺構検出時）からはグスク土器をはじめ滑石製品や青磁碗 V 類や白磁 C 群が出土しているが、厳密に遺構内からの出土ではなく、Ⅲ層の遺物として判断した。同時に沖縄産陶器も出土しており、これは I・II 層からの混入とみられる。

円弧状遺構の年代については、時期を判断できる遺物が出土していないものの、周溝の埋土に含まれる炭化材からは、SI1 は $850 \pm 20\text{BP}$ 、SI2 では 650 ± 20 の年代が得られている。円弧状遺構は、天界寺跡の調査成果からグスク時代の竪穴式住居跡としての可能性が指摘されているもので（山本 2003）、キャンプ瑞慶覧内では海軍病院地区の普天間後原第二遺跡（宜野湾市教育委員会 2017）で確認されており、周辺では嘉数トゥンヤマ遺跡（宜野湾市教育委員会 2008・2009）、浦添原遺跡（浦添市教育委員会 2005）などで類例がある。周辺の遺跡では、円弧状遺構の近くで列状ピット群が検出されているが、今回の調査ではピット集中部はみられるものの、列状となるものは確認されていない。今後、円弧状遺構の性格とピット群の関係について検討していく必要がある。



第 108 図 H28 トレンチ 2 SI1 ~ 3 断面図・推定図



完掘状況（南西から）



検出状況（南西から）



検出状況（南から）



完掘状況（南から）



南壁

図版 62 H28 トレンチ 2 S11～3 検出・完掘状況・壁面写真



南壁 (SI1-P4)



南壁 (SI1-P4) 拡大



SI1 周溝断面



SI1-P1 断面



SI2 検出状況 (東から)



西壁 (SI2)



SI2 周溝断面



SI2-P1 断面

トレンチ3

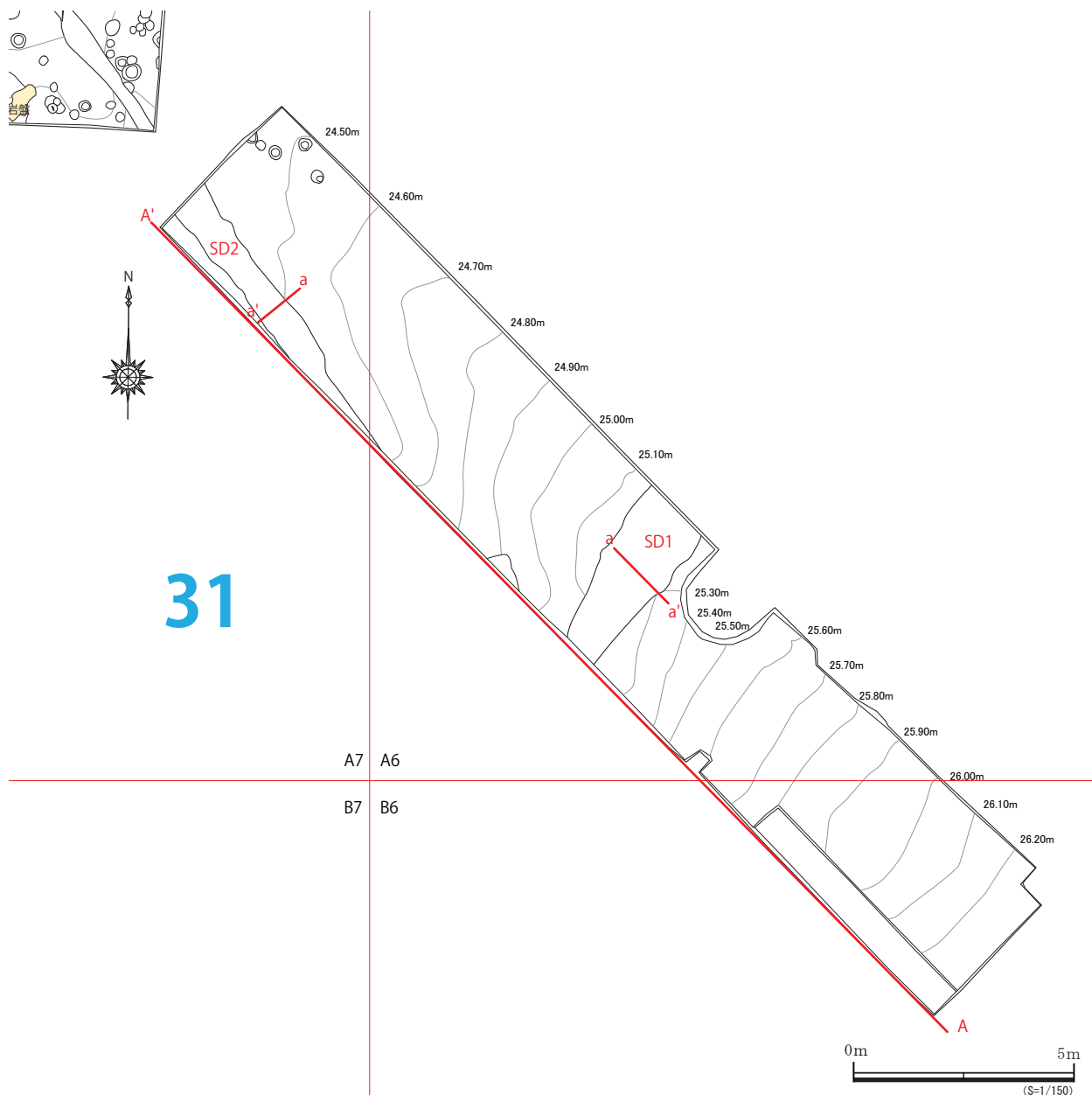
トレンチ3は、トレンチ2の南東側を起点に、遺構や遺物包含層が確認されなかった試掘坑ズケ31-B6-イ・ウ付近まで、北西-南東方向に全長25メートルの細長いトレンチを設定した(97㎡)。グリッドはズケ31-A6・A7・B6である。

層序 I・II・V層が確認された(第110図)。トレンチ全体にII層が堆積する。地形は北西方向へ緩やかに傾斜している。

遺構 ガスク時代のピットと、近世～近代の溝状遺構が確認された。トレンチ3の遺構密度は低い。

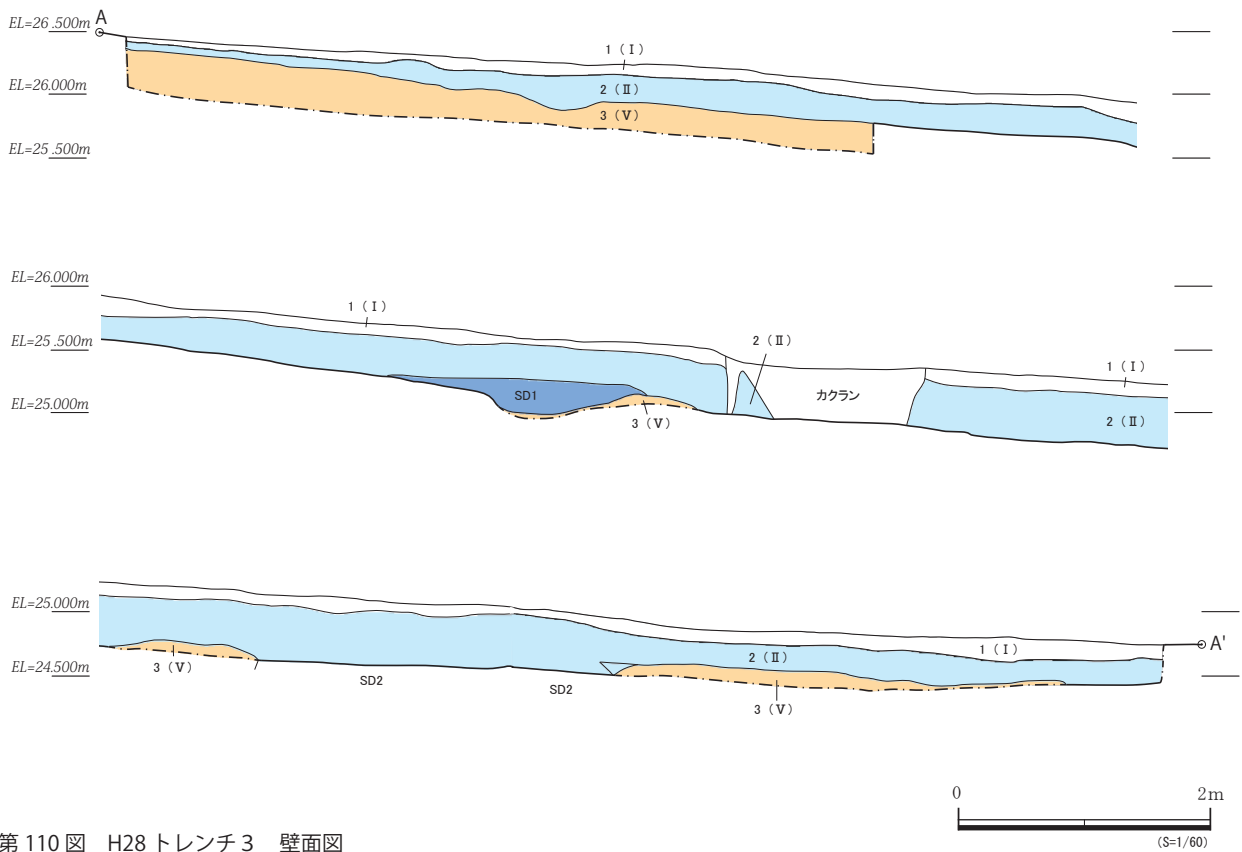
ガスク時代のピットは、トレンチ2に近いトレンチ3北西側のズケ31-A7グリッドの範囲のみで検出された。トレンチ南東側では、遺構が殆ど検出されなかった。遺構密度が高いトレンチ2からトレンチ3北西側が居住エリアの中心部とみられる。

近世～近代の溝状遺構は、方形状に区画するように2本確認されており、ズケ31-A6グリッド南西側で交差するものとみられる(SD1、SD2)。



第109図 H28トレンチ3 平面図

トレンチ3 南西壁



第110図 H28 トレンチ3 壁面図



検出状況 (北西から)

図版64 H28 トレンチ3 検出写真



着手前



検出状況（南東から）



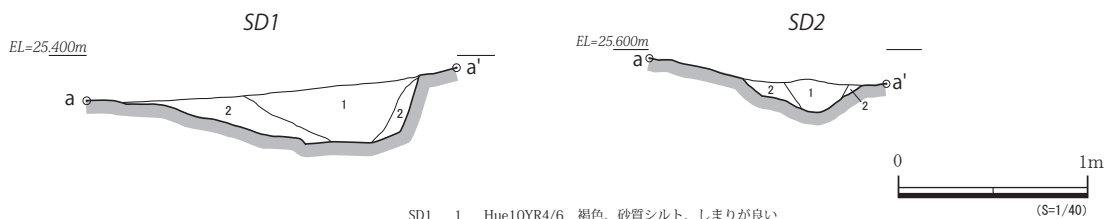
南西壁



南西壁

図版 65 H28 トレンチ 3 着手前・検出・壁面写真

SD1 は、北東－南西方向で、地形の傾斜に対してほぼ垂直に延びる。断面形は、標高が高い南東側は底面から直上に立ちあがり、標高が低い北西側は緩やかに傾斜する。幅 1.0 ～ 1.6 m で深さは約 30cm である。昭和 20 年の航空写真における耕作地の区画の方向と一致する。SD2 は北西－南東方向にトレンチ 2 まで延びるもので、幅は約 60cm で深さは約 20cm である。



- | | | | |
|-----|---|-------------|--------------------------|
| SD1 | 1 | Hue10YR4/6 | 褐色、砂質シルト、しまりが良い |
| | 2 | Hue10YR5/8 | 黄褐色、砂質シルト、しまりが良い |
| SD2 | 1 | Hue10YR4/6 | 褐色、粘質シルト、しまりが良い、焼土を微量に含む |
| | 2 | Hue7.5YR5/8 | 明褐色、粘質シルト、しまりが良い |

第 111 図 H28 トレンチ 3 SD1・2 断面図



SD1 断面



SD2 断面

図版 66 H28 トレンチ 3 SD1・2 断面写真

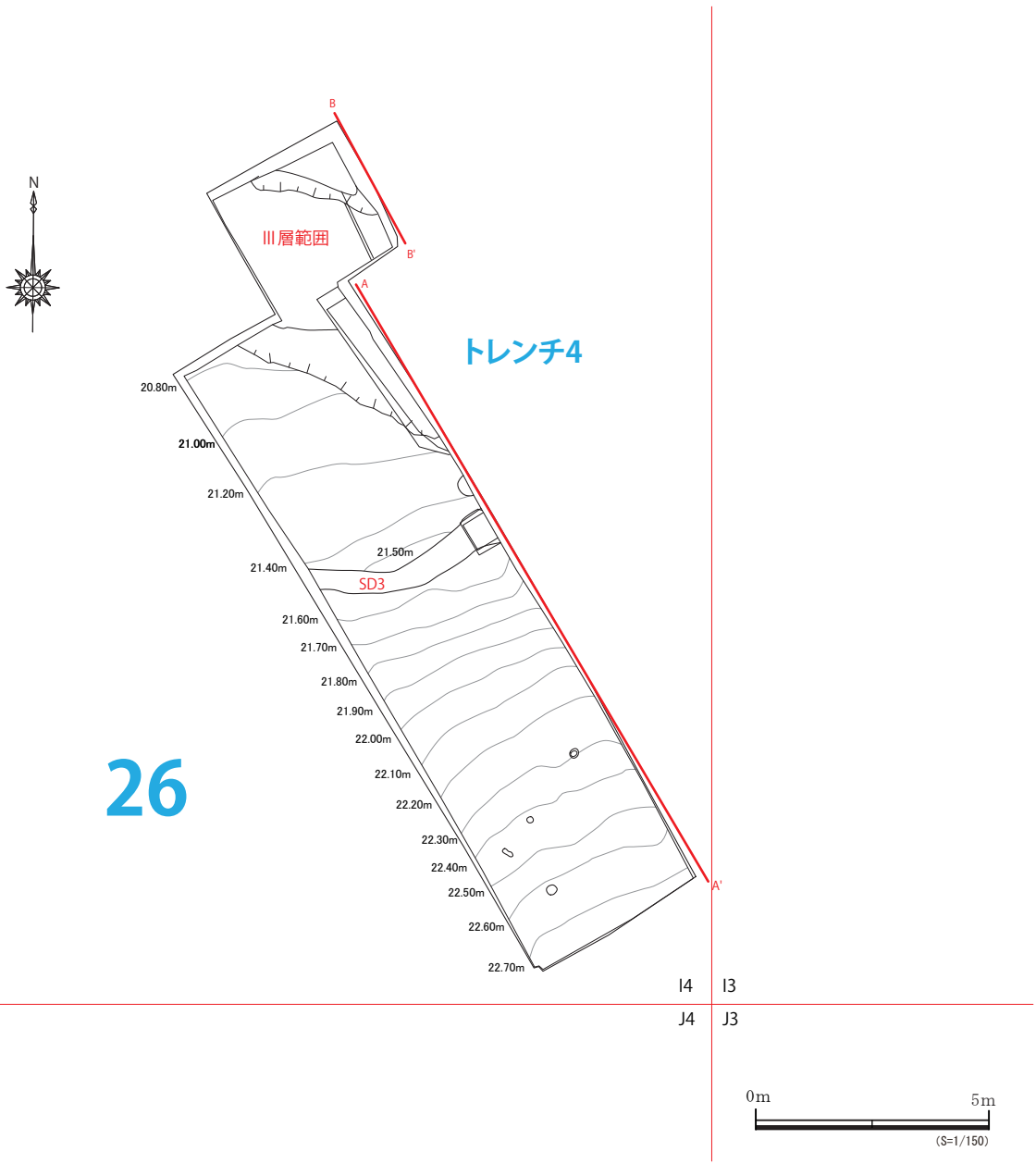
トレンチ4

トレンチ4は試掘坑ズケ26-I4-カ・キに隣接した箇所から斜面に直交するかたちで、北西—南東方向に全長18メートルの細長いトレンチを設定した(69㎡)。グリッドはズケ26-I4である。

層序 I・II a・III・V層が確認された(第113図)。トレンチ全体にII a層が堆積する。地形は北西方向へ傾斜しており、トレンチ北西側の地形がさらに落ち込む範囲にIII層の堆積が確認された。今回は調査の都合上、トレンチを拡張することは出来なかった。今後、北西側におけるIII層以下の堆積状況を確認する必要がある。

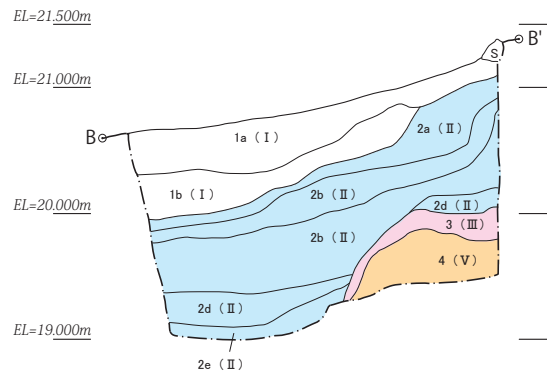
遺構 近世～近代の溝状遺構、ピットが確認された。トレンチ4の遺構密度は低い。

SD3は、東壁から南西方向に伸び、西方向に屈曲する。東壁でII層中から掘り込む形で構築されているもので、平面では溝の底の部分を検出した。近代～戦前頃の遺構と考えられる。幅は約80cmで深さは約55cmである。また、トレンチ4南東側で確認されたピットはII a層の特徴に近く、耕作に伴う鋤跡などとみられる。

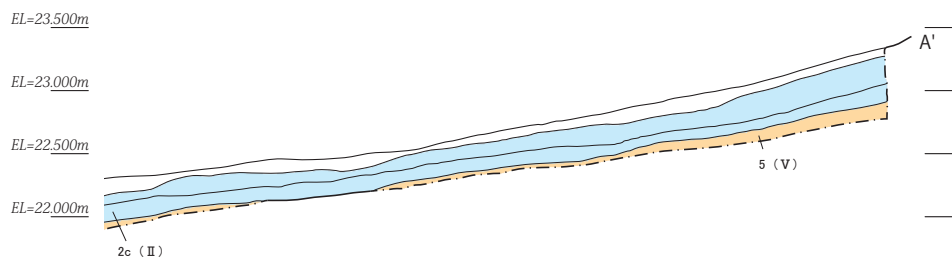
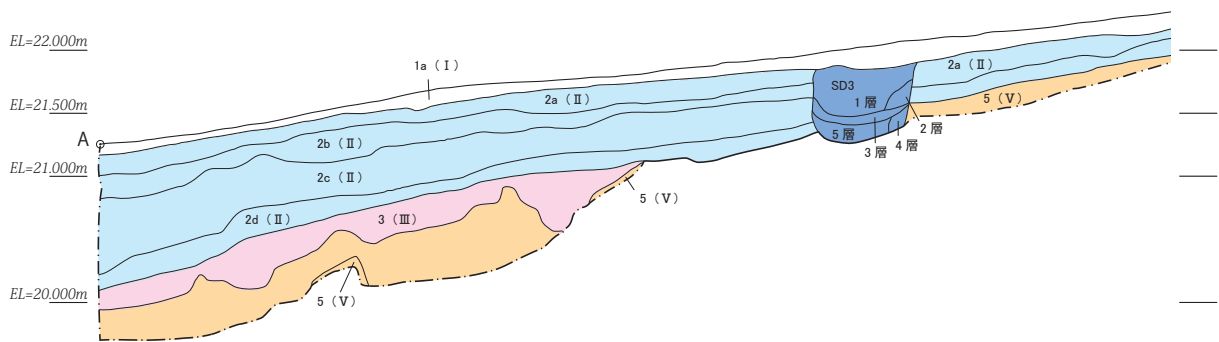


第112図 H28 トレンチ4 平面図

トレンチ4 北東壁①



トレンチ4 北東壁②



第113図 H28 トレンチ4 壁面図



検出状況（北西から）



着手前



検出状況（南東から）



北東壁



SD3

図版 67 H28 トレンチ 4 着手前・検出・壁面写真

3 遺物

平成28年度の確認調査では、グスク時代～近代の遺物が殆どであるが、縄文土器やくびれ平底土器など先史時代の遺物も得られている。総数1872点出土し、出土遺物の殆どが小破片であった。ここでは、トレンチごとに特徴的なものを報告する。

トレンチ1 (図版68)

中国産陶磁器、本土産陶磁器、沖縄産陶器、土器、カムイヤキ、本土産須恵器、朝鮮系無釉陶器、産地不明陶器、滑石製品、石器、円盤状製品、煙管、金属製品、瓦、羽口、鉄滓、自然遺物、石材など総数709点出土した。Ⅰ・Ⅱ層からの出土が殆どである。近世～近代のⅡ層からはグスク時代の遺物も出土している。トレンチ1においてⅡ層以下はⅤ層面(地山)直上でグスク時代の遺構が検出されていることから、近世以降の耕作等により一部は削られ、グスク時代の遺構や包含層に伴う遺物も含まれているものとみられる。遺構出土の遺物は、掘立柱建物跡(SB1～3)やピット(SP1～3、SJ1)からはグスク土器や石材、焼土が出土している。以下では、特徴的な遺物について述べる。その他の遺物については、集計表により報告する。

青磁 大宰府分類の龍泉窯系Ⅱ類碗、同安窯系の碗、瀬戸哲也氏ほか分類(以下、瀬戸分類)のⅣ類皿(33)、Ⅴ類碗・皿・盤が出土している。(33)の口縁部は表採である。

白磁 大宰府分類のⅣ類玉縁碗(34)、Ⅴ類外反碗(35)、C2・3群の碗(ビロースクタイプⅡ・Ⅲ)が出土。(34)・(35)ともにⅡ層出土である。

染付 清代の徳化窯産と福建・広東系のものに分けられる。

本土産陶磁器 近世～近代の肥前産や砥部産のものが出土している。

土器 グスク土器のほかに、縄文土器やくびれ平底土器の胴部片が僅かに出土している。グスク土器は鍋(38)や甕があり、胎土に滑石を混入するものもみられる。

(38)はほぼ全体を窺える資料で、SJ1から出土した。器形は口縁が内傾する鍋形で、口唇部はやや舌状に成形され、口縁部端部には横耳を貼り付ける。口縁部は約半分を欠損しているが、残存部位からは横耳は四方に付されたと推定される。以上の形態的な特徴から、グスク土器第二様式に位置づけられる(宮城・具志堅2007、具志堅2014、新里2017)。

朝鮮系無釉陶器 (36)は器壁が薄く、赤褐色の胎土に白い線状の帯がみられる特徴から朝鮮系無釉陶器とした。小片のため器種不明である。九州北部を中心に沖縄諸島まで分布が確認されている(主税2016)。

産地不明陶器 (37)はカムイヤキや朝鮮系無釉陶器とは胎土・調整が異なることから、産地不明陶器とした。器面にタタキ痕がみられる。小片のため器種不明である。

滑石製品 破片が7点出土している。重量28.5g。

羽口 土製の破片が2点出土している。

鉄滓 45点出土した。重量314.2g。

トレンチ2 (図版69～73)

Ⅰ～Ⅲ層を中心に、中国産陶磁器、本土産陶磁器、沖縄産陶器、土器、布目圧痕土器、カムイヤキ、本土産須恵器、朝鮮系無釉陶器、滑石製品、石器、金属製品、羽口、鉄滓、瓦、自然遺物、石材など総数992点出土した。グスク時代の遺物包含層であるⅢ層からはくびれ平底土器が出土している。また、トレンチ1と同様にⅡ層からもグスク時代の遺物が出土している。円弧状遺構からはウシの歯骨、ピットからはグスク土器の破片が出土している。以下、特徴的なものについて述べ、その他は集計表により報告する。

青磁 大宰府分類の龍泉窯系Ⅱ類碗や、同安窯系Ⅰ類皿(39)、磁灶窯系の碗(40)、瀬戸分類Ⅳ類の碗(41)・皿、Ⅳ'類の碗(53)・皿(42)、Ⅴ類の碗・盤(43)が出土している。(39)はⅠ層出土、(40、41、42、43)はⅡ層出土、(53)はⅢ層出土である。

白磁 大宰府分類のⅣ類玉縁碗(44)、Ⅴ類外反碗(54)・小碗(45)、同安窯系皿、C3群の碗が出土している。(44、45)はⅡ層出土、(54)はⅢ層からの出土である。

土器 グスク土器のほか、縄文土器やくびれ平底土器、布目圧痕土器などが僅かに出土している。

くびれ平底土器 甕の口縁部と底部片が出土している。(55)は外反口縁部で口唇部は平坦に成形されている。(56)の底部は底径が小さく厚底となるもので、乳房状尖底的な形態を呈する。このような小径厚底の資料は、くびれ平底土器群終末期の土器として近年整理されつつある(宮城2014ab・2017、與嶺2015)。ともにⅢ層からの出土である。

グスク土器 鍋(47、48、57、58)があり、胴部片では胎土に滑石を混入するものや塗布するものもみられる。(47)の口縁部は縦耳を持つ鍋形で、縦耳は欠損している。縦耳貼り付け(47)や(57、58)の口唇部を平坦に成形する特徴は、グスク土器第一様式の範疇とみられる。(47)はⅡ層出土、(57、58)はⅢ層出土である。

布目圧痕土器 (59)は、外器面に布目の圧痕がみられるもので、胎土に雲母などの鉱物を含む。本土系のもので、製塩土器の可能性が指摘されている(池畑1994)。Ⅲ層出土である。

産地不明土器 (49)の底部片は、ガラス質な鉱物を含む胎土で搬入土器とみられる。

カムイヤキ (50、60)は壺の底部片である。(50)はⅡ層出土、(60)はⅢ層出土である。

本土産須恵器 (46)は壺の胴部で、外器面にタタキ目がみられる。Ⅱ層出土である。

滑石製品 破片が8点出土しており、重量は146.9gである。(51)は棒状の製品で、断面は円形である。(52、61、62)は破片のため、器種不明である。(61)は穿孔の痕跡が認められる。(51、52)はⅡ層出土、(61、62)はⅢ層出土である。

石器 (63)は磨石・敲石である。サブトレンチの最下部で出土した。Ⅲ層出土である。

鞆の羽口 Ⅲ層より4点出土しており、素材は土製(64、65)と石製(66)のものがみられる。石製は風道孔(内径)が大きく、土製と比較すると大型の羽口である。

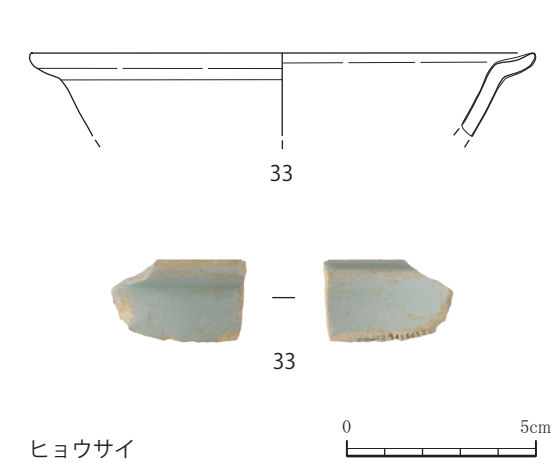
土製の(64)は先端部で推算内径2.1cmを測り、外側に鉄分塊が付着する。(65)は体部で推算内径1.9cmを測る。石製(66)は先端部である。石材は細粒砂岩で推算内径2.2cmを測る。外側にガラス質の鉄分塊が付着する。

鉄滓 63点出土した。重量424.2g。

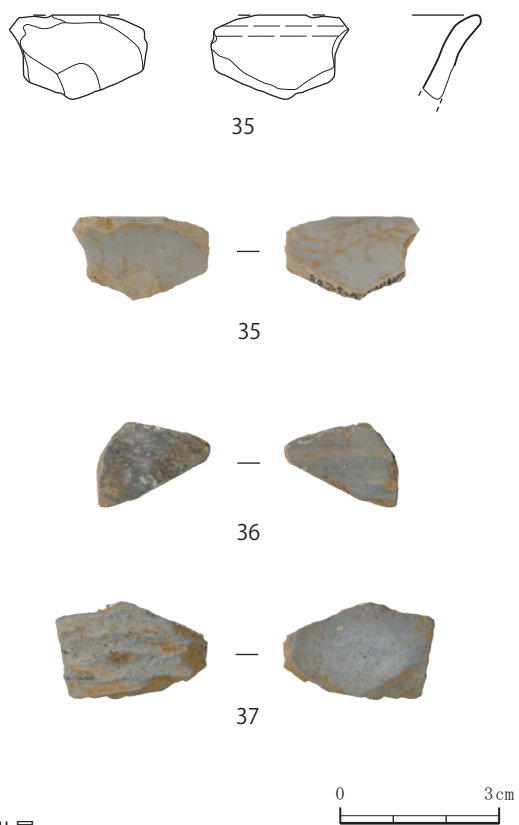
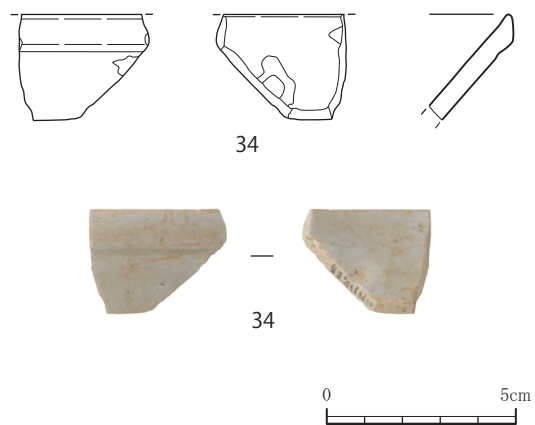
獣骨 (67)はウシの歯骨片で、僅かに残る咬合面は月状歯の特徴(奈良文化財研究所2004)に類似することから、上顎後臼歯(M1かM2)と考えられる。熱を受けて黒色化している。SI1の周溝より出土。

Ⅲ層出土遺物 トレンチ2Ⅲ層からは、青磁瀬戸分類Ⅳ'類(53)や白磁大宰府分類Ⅴ類(54)、褐釉陶器、縄文土器、くびれ平底土器(55、56)、グスク土器(57、58)、布目圧痕土器(59)、カムイヤキ(60)、滑石製品(61、62)、磨石・敲石(63)、羽口(64、65、66)、鉄滓など、グスク時代の遺物が中心に出土しており、縄文土器やくびれ平底土器も僅かにみられる。沖縄産陶器も出土しているが、Ⅰ・Ⅱ層からの混入と考えられる。

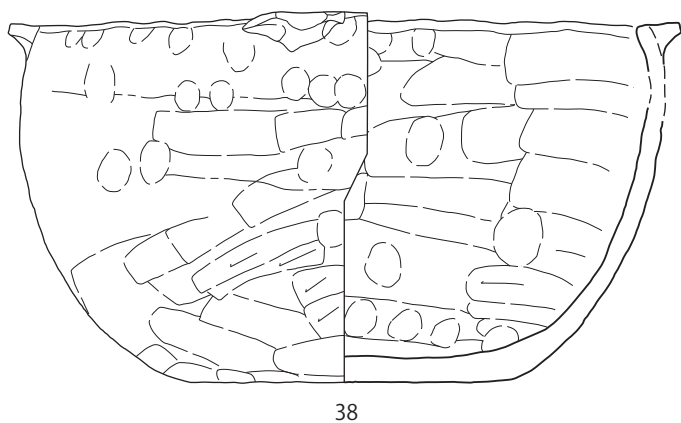
これらの遺物の殆どを出土したトレンチ2サブトレンチの壁面では、Ⅲ層は3a～3e層に細分可能であったものの、遺物は基本層序Ⅲ層で一括して取り上げたために、3a～3e層毎での遺物のまとまりを捉える事が出来なかった。くびれ平底土器や磨石・敲石はサブトレンチ下部からの出土であったことから、Ⅲ層下部は弥生～平安並行時代の終末～グスク時代初期頃の堆積層となる可能性がある。



ヒョウサイ



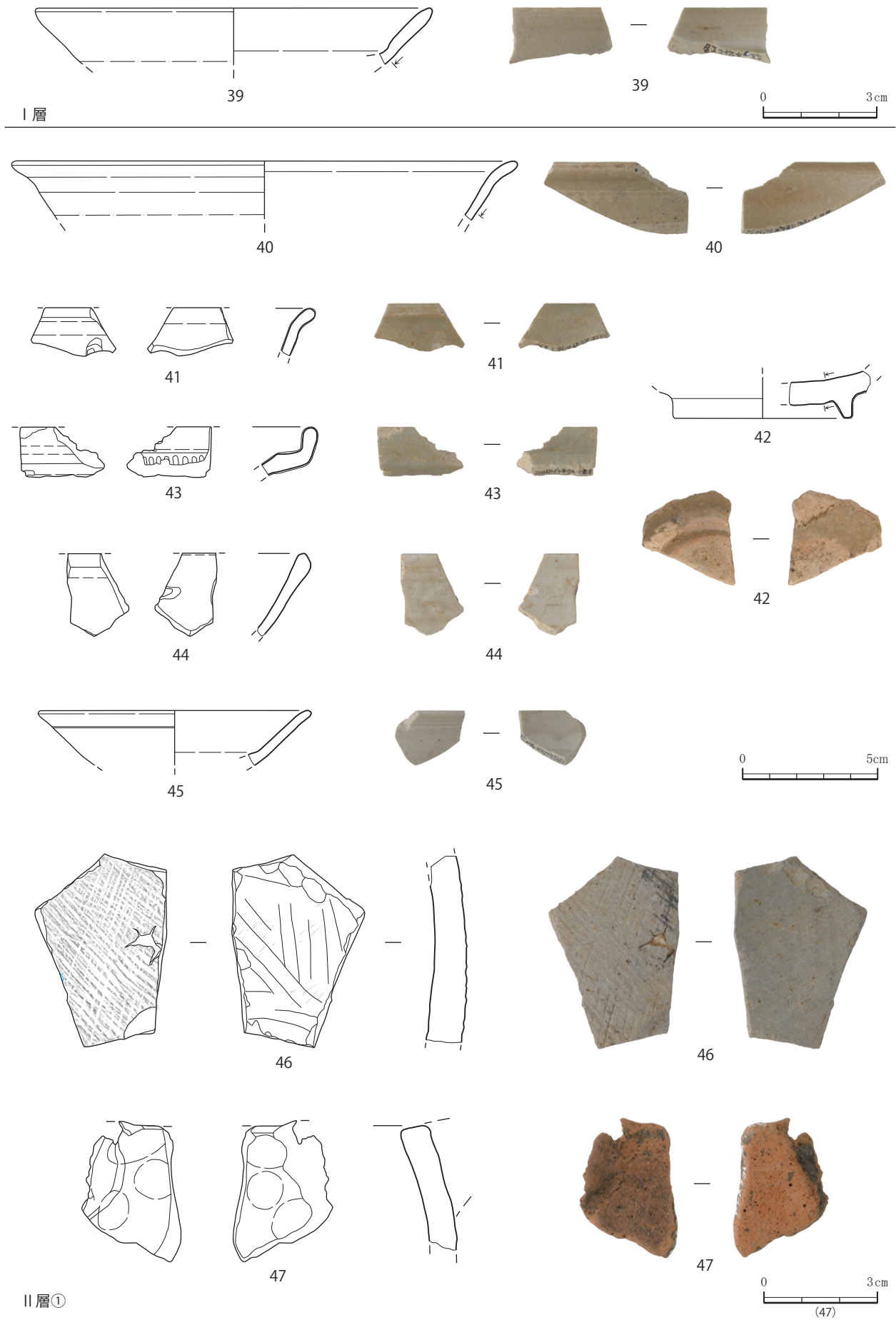
II層



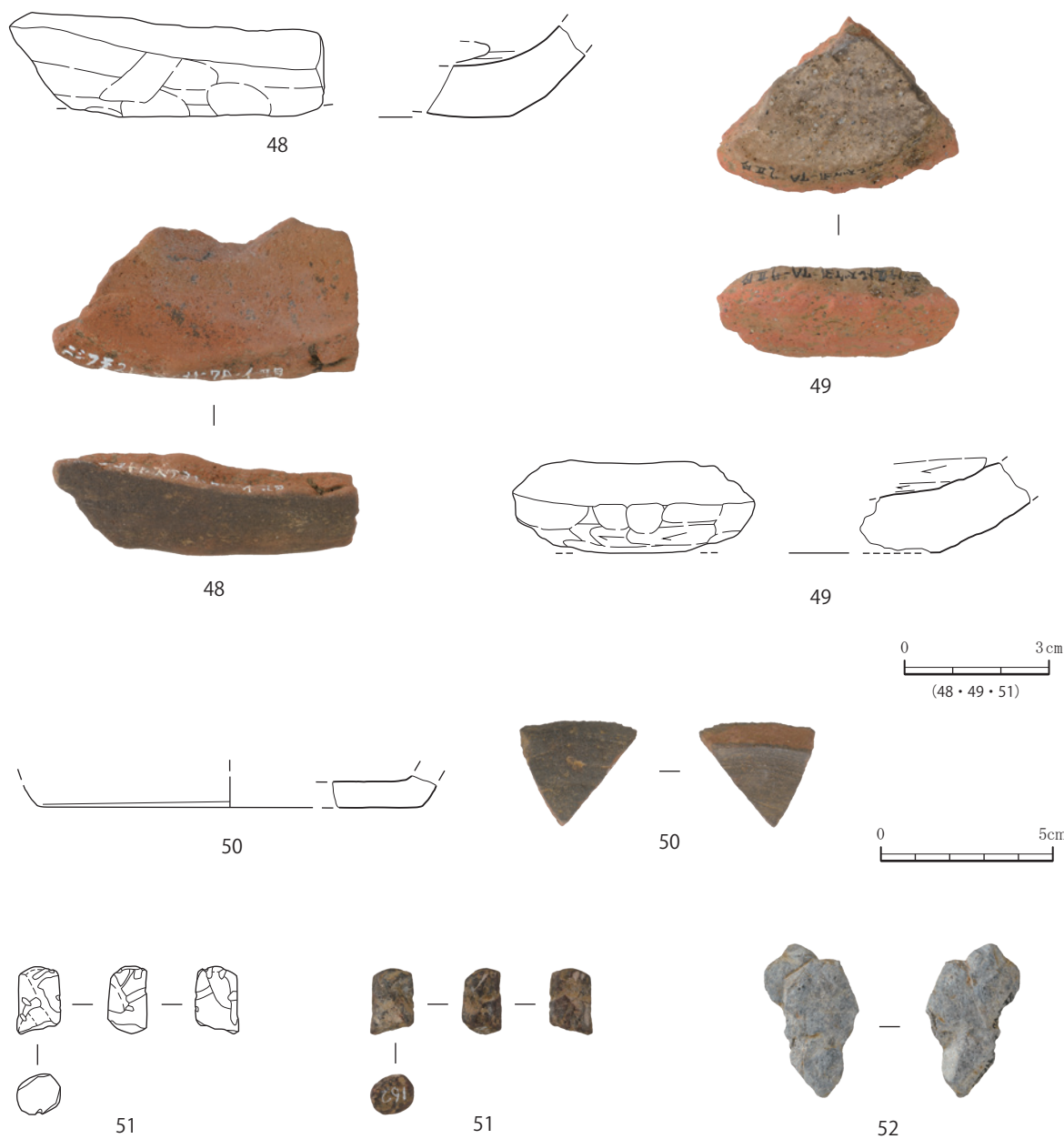
SJ1



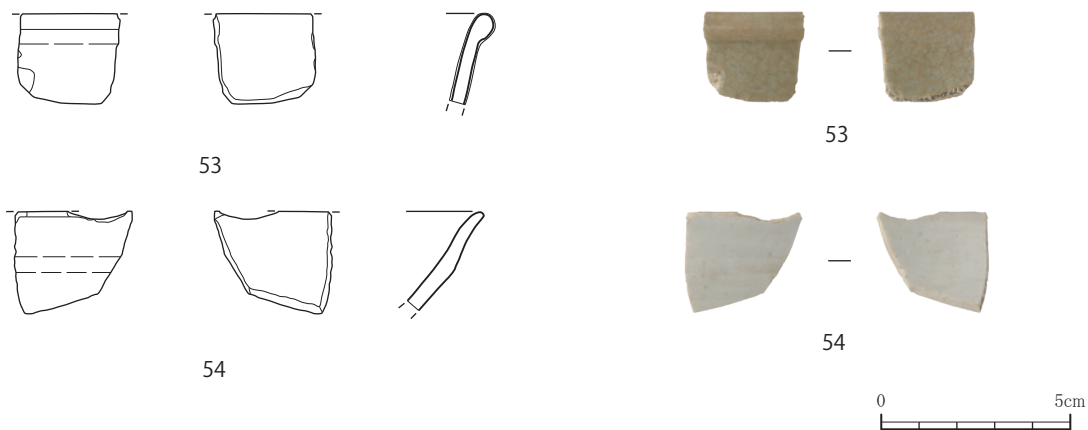
図版 68 H28 トレンチ 1 出土遺物図・写真



図版 69 H28 トレンチ 2 出土遺物図・写真①

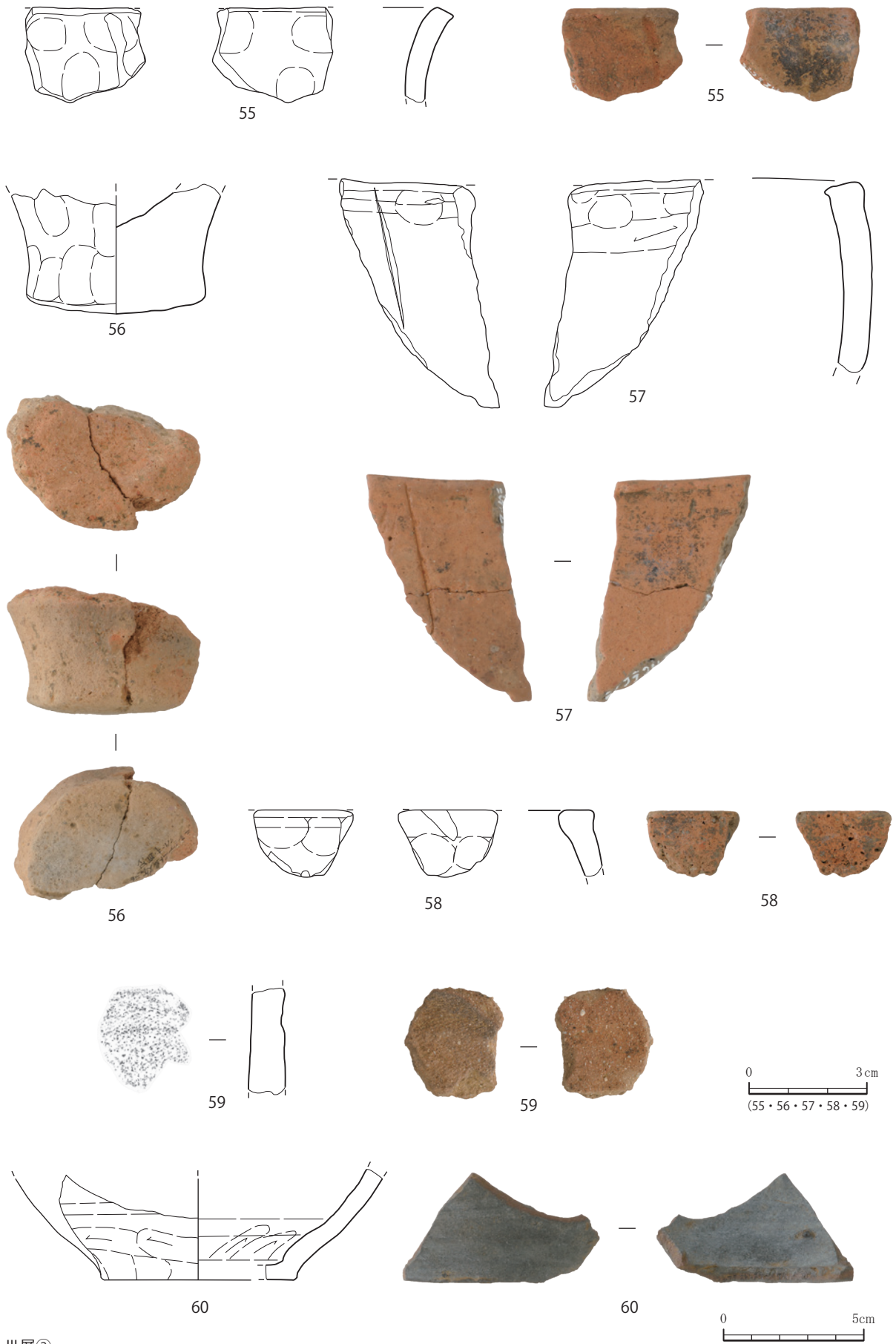


II層②



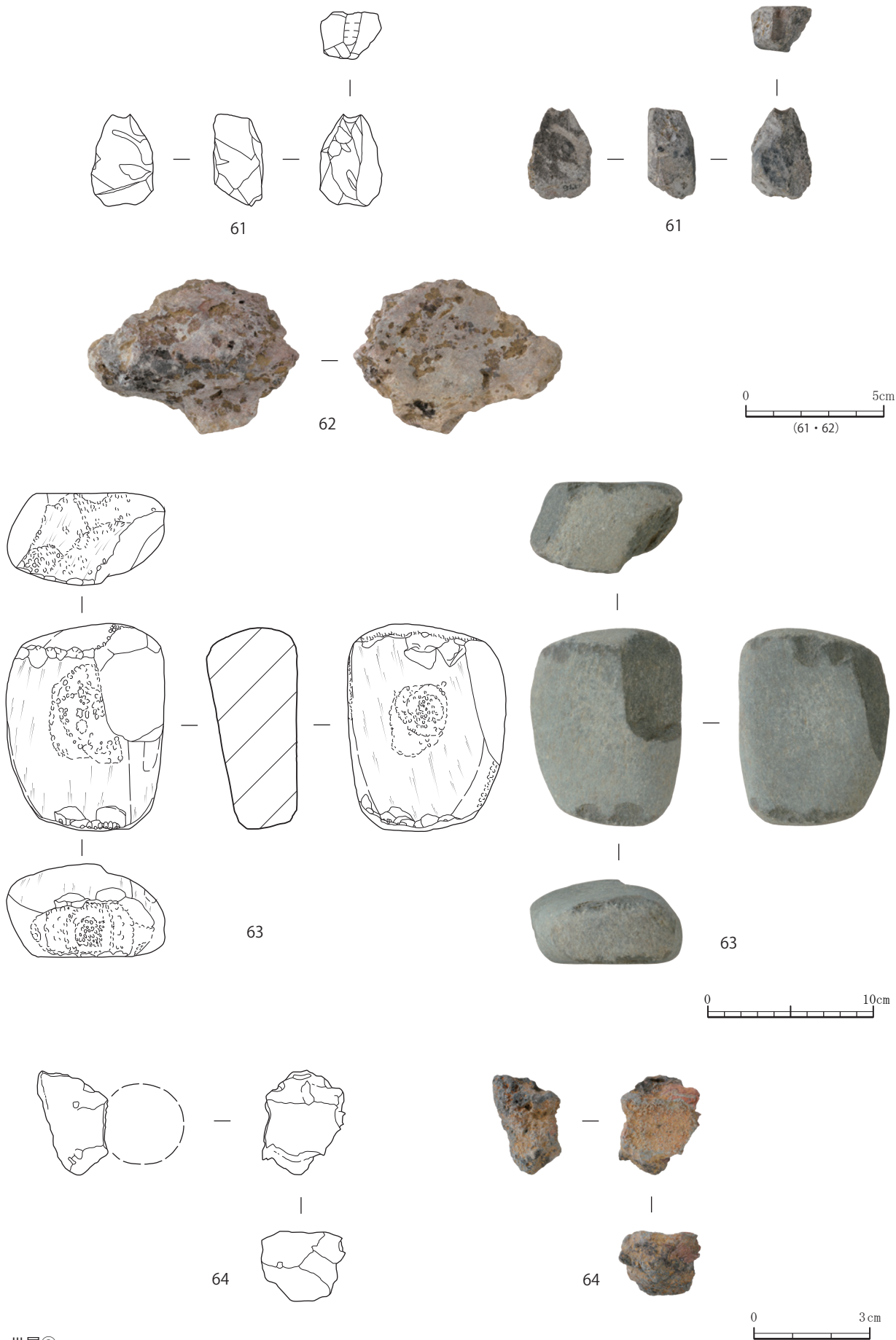
III層①

図版70 H28 トレンチ2 出土遺物図・写真②



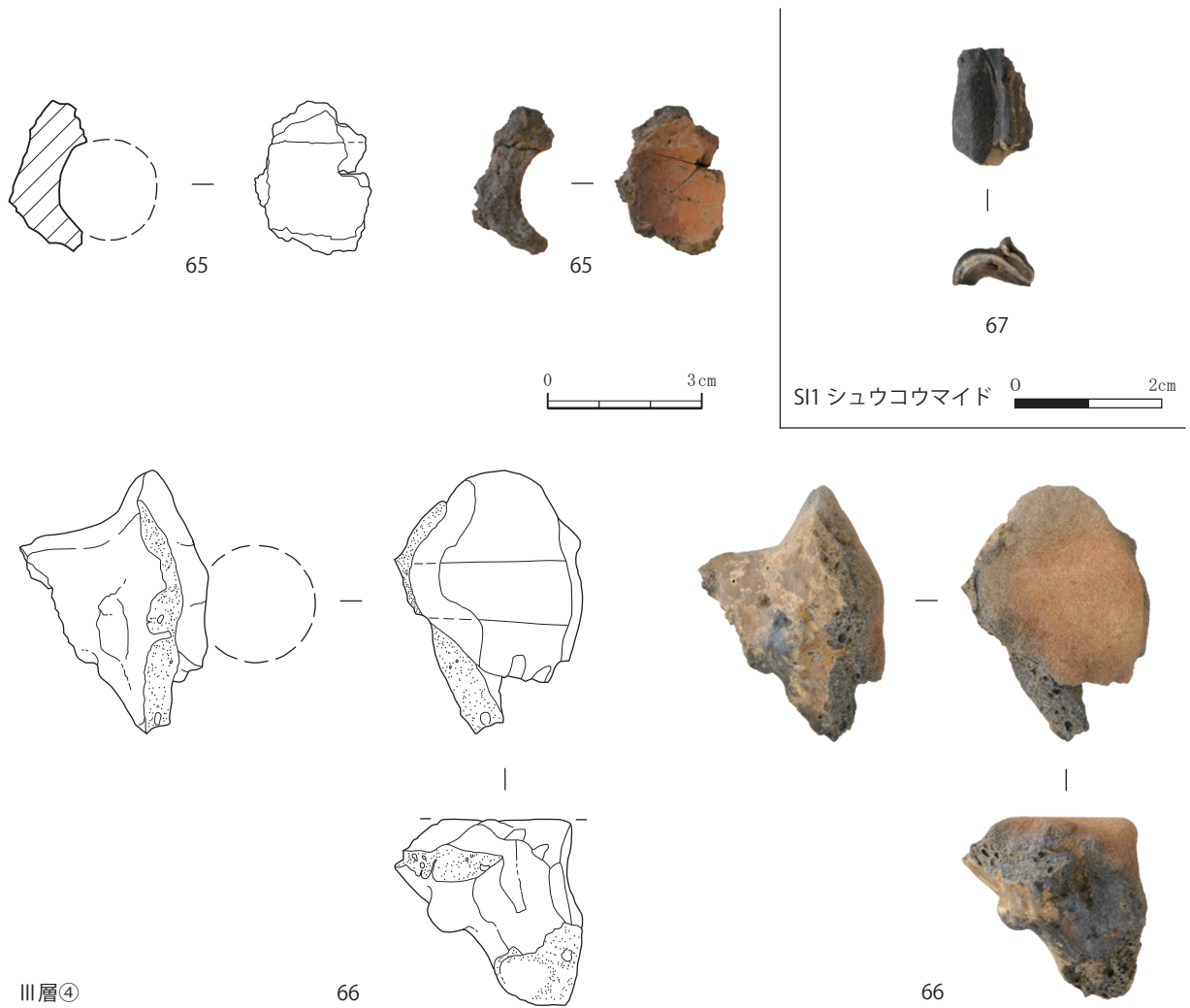
III層②

図版 71 H28 トレンチ 2 出土遺物図・写真③



III層③

図版72 H28 トレンチ2 出土遺物図・写真④



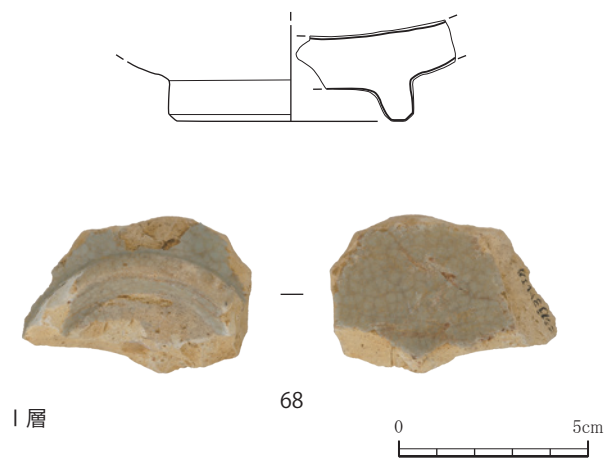
図版 73 H28 トレンチ 2 出土遺物図・写真⑤

トレンチ 3 (図版 74)

I～III層からは中国産陶磁器、本土産陶磁器、沖縄産陶器、土器、カムイヤキ、本土産須恵器、朝鮮系無釉陶器、滑石製品、石製品、鉄滓、金属製品、瓦、石材など総数 134 点出土した。出土遺物の殆どが小破片であった。(68) は青磁瀬戸分類のV類碗である。その他の遺物は集計表により報告する。

トレンチ 4

I～III層からは中国産陶磁器、沖縄産陶器、土器、カムイヤキ、滑石製品、石器、金属製品、鉄滓、瓦、石材など総数 37 点出土した。出土遺物の殆どが小破片のため、集計表により報告する。



図版 74 H28 トレンチ 3 出土遺物図・写真

4. 小結

平成28年度試掘・確認調査では、6遺跡の性格及び遺跡範囲を確認した。ここでは調査成果について述べ、まとめとしたい。

遺跡立地と旧地形 今回調査対象となった斜面緑地帯は、標高12～30mで、地形は北西方向へ傾斜している。斜面地帯北側範囲では標高15～18m前後の段丘面が境目となり、北側の標高が低い試掘坑ズケ26-F3-キ～ズケ26-I8-アでは地山としてクチャが検出されるようになる。ここは琉球石灰岩台地縁辺部であり、琉球石灰岩と島尻層群との境目からは湧水がみられ、この縁辺部一帯には喜友名バシガー古湧泉をはじめ、国の重要文化財にも指定されている喜友名泉（カーグワー・ウフガー）など湧泉群が存在する。

今回の調査では、地山がマージとなる標高20～25m前後の比較的傾斜が緩やかな平坦面に遺跡の広がりを確認した。検出された地山面から、かつての旧地形はいくつかの窪地があったと考えられ、グスク時代や近世～近代の耕作等により窪地は埋められるとともに、地山は一部削られるなどして、現況のような緩やかな傾斜地になったものとみられる。

(1) 喜友名下原第二遺跡

試掘調査を10箇所で行い、トレンチ1～3を設定し確認調査を行った。調査の結果、グスク時代の掘立柱建物跡やピット群をはじめ、炉跡や円弧状遺構などが検出されており、グスク時代の集落跡が良好な状態で残されていることを確認した。また近世～近代では耕作に伴う溝状遺構が確認されている。トレンチ1やトレンチ2では遺構の残りが良く、また密度も高い一方で、トレンチ3では遺構の密度は低く、トレンチ2に近いトレンチ3北西側にピットが僅かにみられる程度であった。トレンチ1～3における遺構の検出状況からは、遺構密度が高いトレンチ1～2は本遺跡の主体部と考えられ、トレンチ3は遺跡の周辺部であると考えられる。トレンチ3の南東側では遺構は殆どみられなかったものの、トレンチ範囲外にも遺構が存在する可能性がある。

トレンチ1では、掘立柱建物跡は3棟（SB1～3）確認しているが、限られたトレンチ範囲内で検討したものであり、トレンチ範囲外にも遺構が広がるものとみられることから、建物プランの追加や変更される可能性もある。掘立柱建物の付近で検出された炉跡（SL1）からは炭化種実としてイネ、オオムギ、アワが検出されており、当時における植物資源の利用が窺える。

遺物はトレンチ1・2を中心にグスク時代や近世～近代の遺物が出土している。特にトレンチ2では遺物包含層（Ⅲ層）が窪地に堆積しており、サブトレンチからはグスク時代の遺物を中心にくびれ平底土器も出土している。搬入遺物では中国産陶磁器をはじめ朝鮮系無釉陶器、本土産須恵器、滑石製品などがみられ、弥生～平安並行時代の終末からグスク時代にかけての人々の痕跡が確認できる。また、鞆の羽口や鉄滓が出土しており、鉄滓の成分分析からは鍛錬鍛冶滓と推定され、鍛造鉄器の製作が行われていた可能性が指摘されている（詳細は第4章に記載）。さらに、トレンチ2Ⅲ層の微細物分析では金属片が出土していることから、トレンチ2周辺で鍛冶関連遺構が存在する可能性がある。

自然遺物では、円弧状遺構（SI1）周溝からはウシの歯骨が出土している。グスク時代においては農耕の普及とともに飼育動物が出現し、とくにウシは農作業の原動力として急速に増加することが指摘されている（安里1985、樋泉2014）。

遺構の年代については、これまでの類例や出土遺物からはグスク時代の初期から前半期に位置づけられ、年代測定値とも概ね調和する。

当該遺跡では、グスク時代の遺構が高い密度で検出されており、その多くは残りが良い。またグスク時代の堆積層も良好な状態で残存していることから、遺跡範囲外にもグスク時代の集落跡に関連する遺構が残されている可能性が高く、周辺での開発時には確認調査が必要と考えられる。

(2) 喜友名山川原第七遺跡

試掘調査を2箇所で行い、トレンチ4を設定し確認調査を行った。今回の調査では、グスク時代や近世～近代の包含層の堆積が確認されているものの、遺構は殆ど検出されず、近世～近代の溝状遺構やピットが検出されたのみであった。遺物は少なく、喜友名下原第二遺跡のトレンチ1～3の出土量と比べると1割以下である。一方で、遺跡範囲南側のズケ26-J3・J4グリッドでは、昭和58年に宜野湾市教育委員会による発掘調査がなされ、グスク時代の敷石遺構や溝状遺構が検出されている（宜野湾市教委1984）。

今回はトレンチ1箇所のみでの調査であったため、遺構の分布や広がりをつかえることは出来なかったが、過去の調査や試掘結果からは、遺跡の主体部は南側範囲にあると考えられる。北西側の傾斜地にはグスク時代の包含層が確認されており、その面的な広がりについて今後確認する必要がある。さらに、範囲北側にあたる試掘坑ズケ26-H3-カ・サでは、グスク時代の遺物が出土しており、周辺でグスク時代の遺構や包含層が確認される可能性がある。

(3) 喜友名下原第一遺跡

15箇所を試掘調査を行い、試掘坑ズケ31-C10-キ、ズケ31-D7-エではグスク時代のピットが検出され、遺跡範囲の北端にあたる試掘坑ズケ31-A9-アでは近世の包含層が確認された。また、試掘坑ズケ31-C8-カでは遺構は検出されていないが、I・II層からはグスク時代の青磁や白磁が出土している。今回はトレンチによる確認調査は実施できなかったが、喜友名下原第二遺跡のようにグスク時代の集落跡が検出される可能性があるため、今後確認調査が必要である。

(4) 喜友名山川原第三遺跡

3箇所を試掘調査を行ったが、明確な遺構、包含層は確認されなかった。

(5) 喜友名西原遺跡

2箇所の試掘調査を行ったが、明確な遺構、包含層は確認されなかった。

(6) 喜友名古水田跡

7箇所の試掘調査を行ったが、明確な遺構、包含層は確認されなかった。

第 82 表 H27 年度西普天間試掘成果一覧 a

連番	名称	X	Y	標高 (m)	規格 (m)	遺跡名	層位	I 層 (cm)	II 層 (cm)	II b 層 (cm)	III 層 (cm)	掘削深度 (cm)	備考	報告
1	スヶ 16-F10-ア	32,050	27,130	50.5 ~ 50.7	4 × 4	遺跡範囲外	I 層、VI 層	73.7 ~ 141	—	—	—	73 ~ 141 (岩盤まで)		
2	スヶ 16-G5-イ・キ	32,016	27,274	54.4 ~ 54.5	3.5 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、II 層、 V 層	75.2 ~ 105.8	3.8 ~ 16.6	—	—	89 ~ 107 (マージまで)	近世・近代の溝状遺構2本 グスク時代のピット2基	①
3	スヶ 16-G8-ア	32,020	27,190	53.9 ~ 54.1	4 × 4	遺跡範囲外	I 層、岩盤	21.0 ~ 53.2	—	—	—	21 ~ 53 (岩盤まで)		
4	スヶ 16-G9-ウ	32,019	27,144	59.6 ~ 60.2	2 × 2	普天間石川原第二遺跡	I 層、II 層、 VI 層	2.0 ~ 23.2	0 ~ 9.4	—	—	2.0 ~ 32.0 (岩盤まで)	近世・近代の溝状遺構2本	
5	スヶ 16-H2-ト	31,973	27,344	56.7 ~ 56.9	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、VI 層	57 ~ 100	—	—	—	100 (岩盤まで)		
6	スヶ 16-H6-エ	31,990	27,232	55.1 ~ 55.5	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、II 層、 III 層、IV 層、 V 層	76.2 ~ 126	—	—	0 ~ 35.6	140 (マージまで)	米埋設管 近世・近代の溝状遺構2本	
7	スヶ 16-H6-タ	31,970	27,250	55.8 ~ 56	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、II 層、 IV 層、V 層	66 ~ 73.4	30.0 ~ 33.1	—	—	95 ~ 110 (マージまで)	近世・近代の溝状遺構2本	
8	スヶ 16-H8-イ	31,990	27,184	55.3 ~ 55.4	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、II 層、 III 層、IV 層、 VI 層	13.4 ~ 40.4	—	0 ~ 16.4	0 ~ 10.8	36.2 ~ 40.9 (マージまで)	グスク時代のピット4基 III 層より縄文土器数点	②
9	スヶ 16-H8-ヌ	31,964	27,178	55.5 ~ 56.3	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、II 層、 IV 層、V 層	19.4 ~ 96.0	0 ~ 8.4	—	—	27 ~ 96 (マージまで)	近世・近代の溝状遺構1本 先史時代？のピット2基	
10	スヶ 16-H9-ア	31,990	27,160	55.2 ~ 55.7	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、II a 層、 V 層	16.0 ~ 26.0	0.0 ~ 18.0	—	—	35.0 ~ 63.2 (岩盤まで)	II 層より沖繩産陶器1点出土	
11	スヶ 16-H10-チ	31,970	27,124	55.9 ~ 56.1	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、IV 層	70 ~ 144	—	—	—	70 ~ 144 (岩盤まで)		
12	スヶ 16-H1-ス	31,946	27,388	56.7 ~ 57.3	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、V 層	8.0 ~ 43.4	—	—	—	100 (マージまで)		
13	スヶ 16-I2-ア	31,960	27,370	56.4 ~ 56.7	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、II 層、 II b 層、III 層、 V 層	1.4 ~ 10.7	2.8 ~ 8.4	1.2 ~ 3.6	3.2 ~ 7.4	20 (マージまで)	グスク時代のピット3基	
14	スヶ 16-I4-ア	31,960	27,310	57.2 ~ 57.3	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、VI 層	40.9 ~ 65.2	—	—	—	37 ~ 65 (岩盤まで)		
15	スヶ 16-I9-ア・カ	31,956	27,160	56.9 ~ 57.1	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、II 層、 V 層	74.0 ~ 128.0	10.8 ~ 32.0	—	—	100 ~ 128 (マージまで)	近世・近代の溝状遺構2本 近世・近代のピット4基	
16	スヶ 16-J1-ア	31,930	27,400	58.5 ~ 58.7	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、II 層、 V 層	71.5 ~ 106	6 ~ 26	—	—	120 (マージまで)	近世・近代の溝状遺構	
17	スヶ 16-J2-ア	31,930	27,370	58.3 ~ 58.6	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、II 層、 V 層	94.2 ~ 103.7	1.6 ~ 10	—	—	110 (マージまで)	米埋設管あり 近世・近代の溝状遺構1本 グスク時代のピット5基	③
18	スヶ 16-J2-ナ	31,906	27,370	58.9	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、II 層、 V 層	55.4 ~ 75.5	13.4 ~ 24	—	—	85 (マージまで)	近世・近代のピット6基	
19	スヶ 16-J3-ア	31,930	27,340	58.2 ~ 58.4	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、II 層、 V 層	13.4 ~ 43	1.4 ~ 20	—	—	30 ~ 45 (マージまで)	米埋設管 近世・近代の溝状遺構 グスク時代のピット16基 先史時代？の土坑2基 確認調査実施(トレンチ3)	
20	スヶ 16-J4-チ	31,912	27,304	58.6 ~ 59.2	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、V 層	20 ~ 76	—	—	—	20 ~ 76 (マージまで)	米埋設管あり	
21	スヶ 16-J5-ア	31,930	27,280	57.4 ~ 57.9	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、II 層、 VI 層	4.7 ~ 57.4	—	—	—	66 ~ 120 (岩盤まで)		
22	スヶ 16-J6-オ	31,930	27,226	56.9	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、II 層、 V 層	19.6 ~ 43	6.7 ~ 20.2	—	—	40 (マージまで)	近世・近代の溝状遺構3本 近世・近代の土坑1基 覆土中より本土産磁器出土 近世のピット3基	④
23	スヶ 16-J6-カ	31,924	27,250	56.7 ~ 57.0	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、V 層、 VI 層	13 ~ 35.2	—	—	—	42 ~ 60 (岩盤まで)		
24	スヶ 16-J7-ヌ	31,904	27,206	61.7 ~ 62.3	4 × 4	安仁屋東原古墓群	I 層、V 層	11.7 ~ 230.0	—	—	—	230 (マージまで)	近世・近代の古墓、前庭部 より煙管等出土 確認調査実施(トレンチ2)	

※座標値は試掘坑の北東杭を基準とした。

※規格は縦×横で記載している。

第82表 H27年度西普天間試掘成果一覧b

連番	名称	X	Y	標高 (m)	規格 (m)	遺跡名	層位	I層 (cm)	II層 (cm)	IIb層 (cm)	III層 (cm)	掘削深度 (cm)	備考	報告
25	スヶ16-J8-キ	31,924	27,184	56.8 ~ 57.5	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I層、V層、VI層	13.8 ~ 57.6	—	—	—	53 ~ 58 (岩盤まで)		
26	スヶ16-J8-ナ	31,904	27,190	61.9 ~ 62.3	4 × 4	安仁屋東原古墓群	I層、VI層	16 ~ 28.5	—	—	—	16 ~ 28 (岩盤まで)		
27	スヶ16-J9-イ	31,930	27,154	58.3 ~ 58.4	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I層、II層、V層	140 ~ 150	—	—	—	140 ~ 150 (マージまで)	米埋設管	
28	スヶ16-J9-コ	31,924	27,136	58.3 ~ 58.5	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I層、IIa層、V層	149.0 ~ 160.0	—	—	—	149 ~ 160 (マージまで)	先史時代?の土坑1基、ピット5基	⑤
29	スヶ16-J9-ナ スヶ23-A9-ア	31,902	27,160	58.7 ~ 59.2	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I層、VI層	71.2 ~ 83	—	—	—	71 ~ 83 (岩盤まで)		
30	スヶ17-F1-ア	32,050	27,100	50.7 ~ 51	4 × 4	遺跡範囲外	I層、VI層	15 ~ 22	—	—	—	37 ~ 40 (岩盤まで)	I b層より赤瓦出土	
31	スヶ17-I1-ア	31,960	27,100	53.9 ~ 54.3	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I層、II層、IIb層、IV層、V層	52 ~ 85	18 ~ 35.2	0 ~ 26	—	110 (マージまで)	近世・近代の溝状遺構1本 先史時代?の土坑5基 確認調査実施(トレンチ1)	
32	スヶ22-B10-ト	31,852	27,406	60.1 ~ 60.2	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I層、II層、V層	34 ~ 145	0 ~ 44	—	—	50 ~ 140 (マージまで)		
33	スヶ22-C10-チ	31,823	27,423	60.1 ~ 60.3	4 × 4	普天間石川原第二遺跡 普天間旧道跡	I層、V層	30 ~ 146.6	—	—	—	48 ~ 146 (マージまで)	米埋設管 近世・近代の溝状遺構1本 近世・近代のピット?1基	
34	スヶ22-D9-ト	31,792	27,436	60.3	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I層、II層、IIb層、III層、IV層、V層	20 ~ 35.5	0 ~ 4	0 ~ 8	0 ~ 3.2	30 ~ 36 (マージまで)	近世・近代の溝状遺構1本 グスク時代?のピット30基 先史時代?の土坑3基	⑥
35	スヶ22-D10-ニ	31,786	27,424	60.2	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I層、II層、V層	12 ~ 32	0 ~ 6.8	—	—	26 (マージまで)	近世・近代の溝状遺構2本	
36	スヶ23-A1-ア	31,900	27,400	59	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I層、IIb層、III層、IV層	44 ~ 88	—	0 ~ 28	0 ~ 17.6	66 ~ 110 (マージまで)	先史時代?のピット4基	
37	スヶ23-A3-ア	31,900	27,340	58.6 ~ 58.9	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I層、II層、V層	16 ~ 32	4 ~ 28	—	—	32 ~ 52 (マージまで)	近世・近代の溝状遺構2本 グスク時代のピット10基 先史時代?の不明遺構1基	⑦
38	スヶ23-A3-シ	31,882	27,334	59.3 ~ 59.7	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I層、IIa層、V層	16 ~ 65	0 ~ 14	—	—	40 ~ 65 (マージまで)	近世・近代の溝状遺構2本 グスク時代のピット19基	⑧
39	スヶ23-A4-タ	31,880	27,310	59.8 ~ 60	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I層、IIa層、V層	32 ~ 45	4 ~ 7	—	—	44 (マージまで)	米埋設管 近世・近代の溝状遺構2本 グスク時代のピット8基 先史時代?の竪穴状遺構1基	⑨
40	スヶ23-A5-ア	31,900	27,280	59.8 ~ 59.9	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I層、II層、V層	20 ~ 96	0 ~ 32	—	—	58 ~ 96 (マージまで)	米埋設管 近世・近代の溝状遺構1本 近世・近代のピット4基	
41	スヶ23-A5-タ	31,882	27,280	59.8 ~ 60.3	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I層、II層、V層	20 ~ 24	0 ~ 16	—	—	20 ~ 40 (マージまで)	近世・近代の溝状遺構4本 グスク時代のピット26基	⑩
42	スヶ23-A6-ア	31,900	27,250	60.7 ~ 60.9	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I層	100 ~ 134	—	—	—	100 ~ 134 (I層途中)	米埋設管	
43	スヶ23-A6-チ	31,880	27,244	60.8 ~ 64	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I層、V層、VI層	44 ~ 64	0 ~ 6	—	—	44 ~ 128 (マージまで)	近世・近代の溝状遺構2本 先史時代?の不明遺構1基	⑪
44	スヶ23-A7-チ	31,880	27,214	62.1 ~ 186	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I層、VI層	72 ~ 86	—	—	—	72 ~ 86 (岩盤まで)		
45	スヶ23-A9-ソ	31,888	27,136	58.6 ~ 59.3	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I層、II層、V層	64 ~ 100	0 ~ 12	—	—	64 ~ 100 (マージまで)	近世・近代の溝状遺構1本	
46	スヶ23-B1-テ	31,852	27,382	60	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I層、II層、V層	30 ~ 62	13.7 ~ 22	—	—	70 (マージまで)		
47	スヶ23-B2-ア	31,870	27,370	59.7 ~ 59.9	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I層、II層、IIb層、IV層	79 ~ 92	18 ~ 54	0 ~ 16	0 ~ 11.2	128 ~ 140 (マージまで)	近世・近代の溝状遺構2本 先史時代?のピット9基	⑫
48	スヶ23-B3-カ	31,864	27,340	59.6 ~ 59.8	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I層、II層、V層	52 ~ 86	14 ~ 32	—	—	86 (マージまで)	米埋設管 近世・近代の溝状遺構2本 グスク時代のピット21基	⑬

※座標値は試掘坑の北東杭を基準とした。
※規格は縦×横で記載している。

第 82 表 H27 年度西普天間試掘成果一覧 c

連番	名称	X	Y	標高 (m)	規格 (m)	遺跡名	層位	I 層 (cm)	II 層 (cm)	II b 層 (cm)	III 層 (cm)	掘削深度 (cm)	備考	報告
49	スヶ 23-B5-セ	31,858	27,262	61.3 ~ 62	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、II a 層、 V 層、VI 層	16 ~ 130	3 ~ 26	—	—	15 ~ 16 (マージまで) 20 ~ 130 (岩盤まで)	米埋設管 近世・近代の石積付溝2本	
50	スヶ 23-B8-ス・セ	31,858	27,174	61.7 ~ 62.5	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、VI 層	16 ~ 130	—	—	—	16 ~ 130 (岩盤まで)	陥没ドリーネ?	
51	スヶ 23-B8-ナ	31,844	27,190	63.1 ~ 63.3	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、VI 層	88 ~ 130	—	—	—	88 ~ 130 (岩盤まで)	米埋設管	
52	スヶ 23-B9-ウ	31,870	27,148	61.2 ~ 61.4	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、II 層、 V 層	128 ~ 146	—	—	—	128 ~ 146 (マージまで)	近世・近代の溝状遺構1本	
53	スヶ 23-C1-ス	31,822	27,386	60	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、II 層、 II b 層、III 層、 IV 層、V 層	30 ~ 86	0 ~ 18	0 ~ 32	0 ~ 18	86 (マージまで)	米埋設管	
54	スヶ 23-C3-ア	31,840	27,340	59.9 ~ 60	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、II 層、 II b 層、III 層、 V 層	68 ~ 160	0 ~ 19	0 ~ 12	4 ~ 20	100 ~ 160 (マージまで)	近世・近代の溝状遺構1本 グスク時代のピット22基	⑭
55	スヶ 23-C3-ソ	31,828	27,316	60.1 ~ 60.2	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、II a 層、 II b 層、III 層、 IV 層、V 層	86 ~ 96	15 ~ 24	4 ~ 30	0 ~ 26	150 (マージまで)	グスク時代のピット10基	⑮
56	スヶ 23-C5-ア	31,840	27,280	60.6 ~ 60.9	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、VI 層	34 ~ 60	—	—	—	34 ~ 60 (岩盤まで)		
57	スヶ 23-C5-ノ	31,816	27,256	61.8 ~ 62	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、VI 層	160 ~ 200	—	—	—	160 ~ 200 (岩盤まで)		
58	スヶ 23-C6-ウ	31,840	27,238	62.2 ~ 62.3	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、VI 層	88 ~ 108	—	—	—	88 ~ 108 (岩盤まで)		
59	スヶ 23-C7-ウ	31,840	27,208	63.2 ~ 63.3	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、V 層、 VI 層	14 ~ 120	—	—	—	14 (マージまで) 108 (岩盤まで)	米埋設管	
60	スヶ 23-C7-ニ	31,816	27,214	63.7 ~ 64.5	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、IV 層、 V 層	72 ~ 94	—	—	—	84 ~ 95 (マージまで)		
61	スヶ 23-C8-ニ	31,816	27,184	63.9 ~ 64.9	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、II 層、 V 層、VI 層	20 ~ 134	—	—	—	20 ~ 134 (岩盤まで)	ドリーネもしくは洞穴あり ドリーネ内のII層赤土内より 小動物骨出土	⑯
62	スヶ 23-C9-ア	31,840	27,158	61.2 ~ 62	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、II a 層、 IV 層、V 層	17 ~ 42	0 ~ 12	—	—	24 ~ 50 (マージまで)	近世・近代の溝状遺構1本	
63	スヶ 23-D1-ケ	31,804	27,380	59.6 ~ 59.7	4 × 4	普天間旧道跡	I 層、II 層、 V 層	22 ~ 54	—	—	—	42 ~ 54 (マージまで)	近世・近代の敷石遺構1基 近世・近代の溝状遺構3本 近世・近代の土坑1基	⑰
64	スヶ 23-D2-ウ	31,810	27,358	59.8 ~ 60.1	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、II 層、 V 層	40 ~ 72	6 ~ 14	—	—	52 ~ 72 (マージまで)	米埋設管 近世・近代のピット1基	
65	スヶ 23-D2-テ	31,792	27,352	59.4	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、V 層	30 ~ 70	—	—	—	30 ~ 40 (マージまで)	米埋設管	
66	スヶ 23-D3-ト	31,792	27,316	59.6 ~ 60.1	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、II 層、 II b 層、V 層	48 ~ 104	0 ~ 26	0 ~ 22	—	36 ~ 144 (マージまで)	近世・近代の土坑1基 近世・近代の溝状遺構2本 グスク時代?のピット1基	
67	スヶ 23-D4-ネ	31,786	27,292	60 ~ 60.1	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、II 層、 V 層	70 ~ 124	0 ~ 16	—	—	76 ~ 124 (マージまで)	米埋設管 近世・近代の土坑5基	
68	スヶ 23-D5-セ	31,798	27,260	60.6 ~ 60.7	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、II 層、 III 層、IV 層、 V 層	68 ~ 108	0 ~ 20	—	0 ~ 10	115 (マージまで)	米埋設管2本 近世・近代の溝状遺構1本 近世・近代のピット2基	
69	スヶ 23-D6-ノ	31,786	27,224	63.5 ~ 63.8	2 × 2	普天間石川原第二遺跡	I 層、VI 層	6 ~ 10	—	—	—	6 ~ 10 (岩盤まで)	試掘坑西側に石積遺構残る	
70	スヶ 23-D7-ス	31,798	27,208	64 ~ 64.4	4 × 4	普天間石川原第二遺跡	I 層、V 層、 VI 層	48 ~ 80	—	—	—	48 ~ 80 (岩盤まで)		
71	スヶ 23-D8-シ	31,796	27,182	66.3 ~ 67	2 × 2	遺跡範囲外	I 層、V 層、 VI 層	8 ~ 38	—	—	—	24 ~ 38 (岩盤まで)		

※座標値は試掘坑の北東杭を基準とした。
 ※規格は縦×横で記載している。

第82表 H27年度西普天間試掘成果一覧 d

連番	名称	X	Y	標高 (m)	規格 (m)	遺跡名	層位	I層 (cm)	II層 (cm)	IIb層 (cm)	III層 (cm)	掘削深度 (cm)	備考	報告
72	スヶ23-E1-キ	31.774	27.394	59.8～60	4×4	普天間石川原第二遺跡	I層、IIa層、IIb層、III層、V層	55.4～86	24～56	0～13	0～11.6	136～151 (マージまで)		
73	スヶ23-E2-テ	31.756	27.352	59.5～59.8	4×4	普天間石川原第二遺跡	I層、IIa層、V層	76～80	30～36	—	—	84 (II層遺構検出面まで) 110 (マージまで)	近世・近代の不明遺構1基	
74	スヶ23-E3-ス	31.768	27.328	59.8～60	4×4	普天間旧道跡	I層、II層	110～118	—	—	—	110～118 (マージまで)	米埋設管 近世・近代の道跡 確認調査実施(トレンチ4)	
75	スヶ23-E4-セ	31.768	27.292	59.7～59.9	4×4	普天間石川原第二遺跡	I層、II層、V層	42～58	0～12	—	—	58 (マージまで)		
76	スヶ23-E6-チ	31.762	27.244	59.6～59.9	4×4	普天間石川原第二遺跡	I層、II層、V層	42～140	0～10	—	—	56～140 (マージまで)	近世・近代の土坑1基、 覆土中より本土産磁器出土 近世・近代の溝状遺構2本	⑪
77	スヶ23-E7-タ	31.762	27.218	63.5～63.7	2×2	遺跡範囲外	I層、VI層	6～20	—	—	—	6～20 (岩盤まで)		
78	スヶ23-F3-キ	31.744	27.334	59.3～59.6	4×4	普天間石川原第二遺跡	I層、IIa層、IV層	76～120	15～34	—	—	120～146 (マージまで)	IV層より土器1点出土	
79	スヶ23-F4-チ	31.732	27.304	59.6～59.7	4×4	普天間石川原第二遺跡	I層、II層、V層	80～88	16～24	—	—	100 (マージまで)	近世・近代のピット1基 先史時代?の土坑1基	⑫
80	スヶ23-F6-ツ ～スヶ23-G6-ツ	31.728	27.238	57.8～59.2	30×4	普天間旧道跡	I層、IIa層、II-1層-SF1-1、II-2層-SF1-2、IV層、V層	54～210	0～80	—	—	100 (SFまで) 158～282 (マージまで)	近世・近代の道跡 近世・近代の溝状遺構5本	⑬
81	スヶ23-F7-セ	31.738	27.202	58.5～59.1	4×4	遺跡範囲外	I層、V層、VI層	10～98	—	—	—	42～146 (岩盤まで)	陥没ドリーネ?	
82	スヶ23-G9-ア	31.720	27.158	62.2～63	2×2	遺跡範囲外	I層、VI層	0～90	—	—	—	0～100 (岩盤まで)	「ソイヤマ」(参考『宜野湾の地名』)	
83	スヶ23-G9-ソ	31.706	27.136	59.8～60.4	4×4	遺跡範囲外	I層、VI層	4～100	—	—	—	4～100 (岩盤まで)	「ソイヤマ」(参考『宜野湾の地名』)	
84	スヶ23-H9-ネ	31.664	27.140	60	4×4	遺跡範囲外	I層、VI層	12～56	—	—	—	114～122 (岩盤まで)		
85	スヶ23-I10-ク・ス	31.650	27.116	60～60.2	4×4	新城大道原第三遺跡	I層、II層、III層、V層	24～52	0～20	—	—	50 (マージまで)	近世・近代の溝状遺構2本 先史時代の土坑1基 先史時代のピット6基	⑭
86	スヶ24-G1-タ	31.700	27.100	59.8～59.9	4×4	新城大道原第三遺跡	I層、II層、IIb層、V層	10～28	—	0～4	—	18～36 (マージまで)	近世・近代の溝状遺構2本 近世・近代の土坑2基 グスク時代のピット8基	⑮
87	スヶ24-H2-カ	31.682	27.070	58.8～58.9	4×4	新城大道原第三遺跡	I層、IIa層、IIb層、V層	74～86	8～36	—	—	106～146 (マージまで)	近世・近代の溝状遺構1本 グスク時代?のピット1基	
88	スヶ24-I1-ア	31.658	27.098	59.8～60	4×4	新城大道原第三遺跡	I層、IIa層、IIb層、V層	26～48	0～16	0～10	—	48～68 (マージまで)	近世・近代の溝状遺構3本 グスク時代?のピット8基 先史時代の土坑1基	⑯
89	スヶ24-I2-ソ	31.644	27.046	58.8～59	4×4	新城大道原第三遺跡	I層、IIa層、II層、V層	4～28	10～20	—	—	30～32 (マージまで)	近世・近代の溝状遺構2本 グスク時代?の土坑2基 グスク時代?のピット1基	⑰
90	スヶ24-J2-コ・ソ	31.620	27.046	59	4×4	普天間旧道跡	I層、II層、VI層:岩盤	6～54	—	—	—	6～54 (遺構検出面まで)	SF?及びそれに伴う側溝2本	
91	スヶ24-J5-サ・タ	31.614	26.980	57～57.2	4×4	新城大道原第二遺跡	I層、IIa層、II層、V層	12～58	0～28	—	—	50～56 (マージまで)	米埋設管 近世・近代の溝状遺構2本 近世・近代のピット1基	
92	スヶ29-A5-イ	31.600	26.972	57.2～57.3	4×4	遺跡範囲外	I層、IIa層、V層	106～132	0～22	—	—	130 (マージまで)		
93	スヶ29-A7-サ	31.588	26.920	55.8～56	4×4	遺跡範囲外	I層、IIa層、V層	40～72	0～16	—	—	80 (マージまで)		
94	スヶ29-A7-テ・ネ	31.578	26.900	55.6～55.9	4×4	遺跡範囲外	I層、V層	26～55.9	—	—	—	26～55.9 (マージまで)	米埋設管	

※座標値は試掘坑の北東杭を基準とした。

※規格は縦×横で記載している。

第 83 表 H28 年度西普天間試掘成果一覧 a

連番	名称	X	Y	標高 (m)	規格 (m)	遺跡名	層位	I 層 (cm)	II 層 (cm)	III 層 (cm)	掘削深度 (cm)	備考	報告
1	スヶ 26-F3-キ	31,743	26,433	11.8 ~ 12.3	3 × 3	喜友名古水田跡	I 層、II 層、V 層、VII 層	5 ~ 20	80 ~ 110	—	140 ~ 200 (クチャまで)	表土下 2m 地点で湧水	
2	スヶ 26-G3-ア	31,720	26,440	15.7	4 × 4	喜友名古水田跡	I 層、II 層、VI 層、VII 層	10	80 ~ 110	—	90 ~ 120 (クチャまで)		
3	スヶ 26-G4-ア	31,720	26,410	14.9 ~ 15.7	4 × 4	喜友名古水田跡	I 層、II 層、V 層、VII 層	10	30 ~ 70	—	100 ~ 120 (クチャまで)		
4	スヶ 26-H3-カ・サ	31,680	26,440	23.7	4 × 4	喜友名山川原第七遺跡	I 層、II 層、V 層	10	10 ~ 110	—	50 ~ 140 (マージまで)	近世の包含層確認 青磁片が出土	①
5	スヶ 26-H4-ア	31,690	26,409	17.1 ~ 17.6	4 × 4	遺跡範囲外	I 層、II 層、VII 層	5 ~ 25	25 ~ 50	—	110 (クチャまで)		
6	スヶ 26-I4-カ・キ	31,654	26,406	20.3 ~ 20.8	4 × 4	喜友名山川原第七遺跡	I 層、II a, b 層、III 層、V 層	10	140	30 ~ 75	240 (マージまで)	グスク時代の包含層確認	②
7	スヶ 26-I5-イ	31,660	26,374	16.2	4 × 4	遺跡範囲外	I 層、II 層、VII 層	10 ~ 20	40 ~ 70	—	100 (クチャまで)		
8	スヶ 26-I6-イ・ウ	31,660	26,340	13.0 ~ 13.5	4 × 4	喜友名古水田跡	I 層、II 層、VII 層	5 ~ 20	150	—	190 (クチャまで)		
9	スヶ 26-I6-サ	31,648	26,350	16.7 ~ 17.3	4 × 4	喜友名下原第二遺跡	I 層、II 層、VII 層	10	80 ~ 100	—	135 ~ 160 (クチャまで)		
10	スヶ 26-I7-ア	31,660	26,320	12.9	4 × 4	喜友名古水田跡	I 層、II 層、VII 層	10	20 ~ 90	—	90 ~ 115 (クチャまで)		
11	スヶ 26-I8-ア	31,660	26,290	13.8	4 × 4	喜友名古水田跡	I 層、VII 層	10 ~ 30	—	—	35 ~ 50 (クチャまで)		
12	スヶ 26-I8-ナ	31,634	26,290	17.5	4 × 4	喜友名古水田跡	I 層、II 層、V 層	10 ~ 25	60 ~ 80	—	100 (マージまで)		
13	スヶ 26-J5-ウ	31,630	26,368	22.4 ~ 23.1	4 × 4	喜友名下原第二遺跡	I 層、II 層、V 層、VII 層	5 ~ 10	10 ~ 60	—	75 ~ 110 (岩盤まで)		
14	スヶ 26-J6-キ	31,624	26,344	22.4 ~ 22.9	4 × 4	喜友名下原第二遺跡	I 層、II a 層、V 層	5 ~ 40	100	—	130 ~ 150 (マージまで)	近世の溝状遺構 3 本確認	③
15	スヶ 26-J7-キ	31,624	26,314	20.4 ~ 21.2	4 × 4	喜友名下原第二遺跡	I 層、II a 層、V 層、VI 層	10	30 ~ 50	—	40 ~ 60 (岩盤まで)	青磁、滑石製品出土	④
16	スヶ 31-A5-ア	31,600	26,379	24.9 ~ 26.1	4 × 4	喜友名下原第二遺跡	I 層、II 層、V 層、VI 層	10	30 ~ 60	—	30 ~ 75 (岩盤まで)		
17	スヶ 31-A5-シ	31,588	26,374	27.2	3 × 2	喜友名西原遺跡 喜友名下原第二遺跡	I 層、II 層、V 層、VI 層	10	20 ~ 35	—	40 (岩盤まで)		
18	スヶ 31-A6-イ	31,600	26,343	24.7	3 × 2	喜友名下原第二遺跡	I 層、II a 層、V 層	15	15 ~ 30	—	45 (マージまで)	グスク時代のビット 4 基確認 確認調査実施 (トレンチ 1)	⑤
19	スヶ 31-A7-キ・シ	31,589	26,313	24.3 ~ 24.5	2 × 3	喜友名下原第二遺跡	I 層、II a 層、V 層	10 ~ 20	40	—	50 (マージまで)	グスク時代のビット 13 基 近世の溝状遺構 2 本 確認調査実施 (トレンチ 2)	⑥
20	スヶ 31-A8-ケ	31,590	26,272	20.3	2 × 3	喜友名下原第一遺跡	I 層、II 層、V 層、VI 層	10	15 ~ 70	—	100 (岩盤まで)		
21	スヶ 31-A9-ア	31,598	26,260	18.1 ~ 18.8	2 × 3	喜友名下原第一遺跡	I 層、II a, b 層、V 層	5 ~ 20	35 ~ 60	—	100 (マージまで)	近世の包含層を確認	⑦
22	スヶ 31-A9-コ	31,594	26,232	16.1 ~ 16.6	3 × 2	喜友名下原第一遺跡	I 層、II 層、V 層	10	40	—	40 ~ 100 (マージまで)		
23	スヶ 31-B5-ア	31,570	26,379	28.8 ~ 29.5	2 × 3	喜友名西原遺跡	I 層、II 層、V 層、VI 層	10	15 ~ 35	—	50 (岩盤まで)		
24	スヶ 31-B6-イ・ウ	31,570	26,340	26.5	2 × 3	喜友名下原第二遺跡	I 層、II 層、V 層	10	10 ~ 35	—	80 ~ 100 (マージまで)		
25	スヶ 31-B7-カ	31,564	26,319	26.2 ~ 26.4	2 × 3	喜友名下原第二遺跡	I 層、II 層、V 層	5	20	—	90 (マージまで)		
26	スヶ 31-B8-イ	31,570	26,280	21.8	3 × 2	喜友名下原第一遺跡	I 層、II 層、V 層	10 ~ 30	100 ~ 130	—	130 ~ 140 (マージまで)		

※座標値は試掘坑の北東杭を基準とした。
※規格は縦×横で記載している。

第83表 H28年度西普天間試掘成果一覧b

連番	名称	X	Y	標高 (m)	規格 (m)	遺跡名	層位	I層 (cm)	II層 (cm)	III層 (cm)	掘削深度 (cm)	備考	報告
27	スヶ31-B9-ア・イ	31,568	26,255	19.3	2×3	喜友名下原第一遺跡	I層、II層、V層	10	10～25	—	90 (マーヅまで)		
28	スヶ31-B10-キ	31,564	26,222	18.7	3×2	喜友名下原第一遺跡	I層、II層、V層	5～20	20～50	—	100～140 (マーヅまで)		
29	スヶ31-C6-キ	31,533.5	26,343	29	2×3	喜友名山川原第三遺跡	I層、II層、V層、 VI層	5～15	10～30	—	30～50 (岩盤まで)		
30	スヶ31-C7-カ	31,532	26,318	27.1	3×2	喜友名山川原第三遺跡	I層、II層、V層	10	10	—	45 (マーヅまで)		
31	スヶ31-C7-チ・ツ	31,522	26,311	28.2	4×4	喜友名山川原第三遺跡 喜友名下原第一遺跡	I層、II層、VII層	10	5	—	15 (岩盤まで)		
32	スヶ31-C8-カ	31,532	26,290	26.0～ 26.4	2×3	喜友名下原第一遺跡	I層、II a層、 VII層	10	10～50	—	40～60 (岩盤まで)	グスク時代の陶磁器が出土	⑩
33	スヶ31-C9-ア	31,540	26,260	22.5～ 22.9	2×3	喜友名下原第一遺跡	I層、II層、V層	10～20	140	—	185 (マーヅまで)		
34	スヶ31-C10-キ	31,534	26,224	19.7	3×2	喜友名下原第一遺跡	I層、II層、V層	10	50	—	65～95 (マーヅまで)	グスク時代のピット5基	⑧
35	スヶ31-C10-セ	31,528	26,212	19.3	3×2	喜友名下原第一遺跡	I層、II層、VII層	5～35	30	—	100 (マーヅまで)		
36	スヶ31-D7-エ	31,509	26,300	28.4	3×2	喜友名下原第一遺跡	I層、II a層、 V層	10	10～25	—	35～50 (マーヅまで)	グスク時代のピット4基	⑨
37	スヶ31-D8-ア・イ	31,508	26,286	25.6～ 26.2	2×3	喜友名下原第一遺跡	I層、II層、V層、 VI層	5～20	35～70	—	100 (岩盤まで)		
38	スヶ31-D9-ア	31,508	26,259	21.9～ 22.3	2×3	喜友名下原第一遺跡	I層、II層、V層、 VI層	10	15	—	30 (岩盤まで)		
39	スヶ31-D9-ナ	31,485	26,259	24.5～ 25.0	3×2	喜友名下原第一遺跡	I層、II層、VII層	10	25～70	—	80 (岩盤まで)		
40	スヶ31-D10-ウ	31,510	26,218	19.9	3×2	喜友名下原第一遺跡	I層、II層、V層、 VI層	5	20～40	—	135 (岩盤まで)		

※座標値は試掘坑の北東杭を基準とした。
 ※規格は縦×横で記載している。

第 84 表 H27 年度西普天間住宅地区試掘調査 出土遺物観察一覧

図版番号	種類	器種	分類	部位	法量 (cm)			観察事項	出土地	
					口径 (長軸)	器高 (短軸)	底径 (厚さ)			
図版 3	1	土器	器種不明	縄文土器	胴部	—	—	—	胎土は粗い砂粒を含む砂質でにぶい赤褐色。胎土の特徴から縄文時代晩期の土器と考えられる。	ズケ 16-H8-イ III層
	2	土器	器種不明	縄文土器	胴部	—	—	—	胎土は粗い砂粒を含む砂質でにぶい赤褐色。胎土の特徴から縄文時代晩期の土器と考えられる。	ズケ 16-H8-イ III層
図版 7	3	産地不明 陶器	器種不明	—	胴部	—	—	—	素地は明赤褐色。外面は型成形で凹凸を施し、透明なオリブ灰色の釉を掛ける。	ズケ 22-D9-ト SD
図版 16	4	土器	器種不明	縄文土器	胴部	—	—	—	胎土は粗い砂粒を含む砂質でにぶい赤褐色。胎土の特徴から縄文時代晩期の土器と考えられる。	ズケ 23-C3-ソ II b層
	5	土器	器種不明	縄文土器	胴部	—	—	—	胎土は粗い砂粒を含む砂質で橙色。胎土の特徴から縄文時代晩期の土器と考えられる。	ズケ 23-C3-ソ IV層
図版 18	6	本土産 近代磁器	皿	—	口縁部	—	—	—	口縁部は稜花状になる。素地は白色。釉は透明な青白色を両面に施釉。内面に呉須で胴部に松文と菊文か。肥前。	ズケ 23-E6-チ I層
	7	沖縄産 無釉陶器	壺	—	底部	—	—	—	素地は白色粒を含むにぶい赤褐色。内面はマンガン釉を掛けたためか黒褐色を呈する。	ズケ 23-E6-チ I層
図版 27	8	沖縄産 施釉陶器	碗	—	口～底	—	—	—	素地は灰白色。外面にコバルト釉で花文、内面は不明の文様を施す。釉は白化粧の上から透明釉を施し、畳付けを釉剥ぎ。	ズケ 23-F6-G6-ツ SF1
	9	沖縄産 施釉陶器	小碗	—	底	—	—	(3.7)	素地は浅黄橙色。釉は胴部の外面に黒色釉、内面は灰オリブ色の灰釉を施した後、内底を蛇の目状に釉剥ぎ。	ズケ 23-F6-G6-ツ SF1
図版 28	10	染付	碗	明代・D群 景德鎮	底部	—	—	—	素地は灰白色。釉は透明な青白色を両面に施釉。外面にアラベスク文、内底に蓮華文。	ズケ 23-F6-G6-ツ I層
	11	本土産 近代磁器	碗	—	口～底	—	—	—	素地は白色。釉は透明で両面に施釉し、畳付けは釉剥ぎ。胴部外面に染付で葉と縦線と横線を組み合わせた文様。	ズケ 23-F6-G6-ツ I層
	12	本土産 近代磁器	小碗	—	口～底	(8.6)	(4.7)	(3.2)	素地は白色。釉は透明で両面に施釉し、畳付けは釉剥ぎ。型成形。口縁部外面に緑色の圏線を 2 条巡らす。	ズケ 23-F6-G6-ツ I層
	13	本土産 近代磁器	小碗	—	口～底	(7.4)	(4.8)	(2.9)	素地は白色。釉は透明で両面に施釉し、畳付けは釉剥ぎ。型成形。外面にゴム版で圏線と鶴文、腰部に圏線と簡素化した蓮弁文。内面は口縁部に圏線を 2 条巡らす。	ズケ 23-F6-G6-ツ I層
	14	沖縄産 無釉陶器	鉢	—	口～底	—	—	—	素地は白色粒を含む橙色。外面の口縁部下に櫛状の工具で波状文を巡らす。	ズケ 23-F6-G6-ツ I層
	15	鉄製品	小銃	—	—	(70.3)	(7.2)	(5.2)	アメリカ軍の M 1 ガーランド小銃の銃身から薬室、ボルト部分が残存。銃身は錆による腐食や石灰の付着によって劣化が進んでいる。	ズケ 23-F6-G6-ツ I層

() 内の数値は復元値

第 85 表 H27 年度西普天間住宅地区確認調査 出土遺物観察一覧

図版番号	種類	器種	分類	部位	法量 (cm)			観察事項	出土地	
					口径 (長軸)	器高 (短軸)	底径 (厚さ)			
図版 33	16	沖縄産 無釉陶器	壺	—	胴部	—	—	—	素地は灰白色で軟質。外面は泥釉を掛けているため暗赤褐色を呈する。外面に沈線で波状文と圏線を施す。	1トレ ズケ 17-I1-ア I層
	17	沖縄産無釉 陶器	蔵骨器	—	胴部	—	—	—	素地はにぶい赤褐色。身に唐破風形とみられる屋門を貼り付け。外面にマンガン釉を施す。	2トレ ズケ 16-J7-ヌ ハカ2
	18	沖縄産無釉 陶器	掃鉢	—	口縁部	—	—	—	素地は白色粒を含む橙色。口縁部は逆 L 字状に屈曲し、胴部内面に櫛状の工具で下ろし目を施す。	2トレ ズケ 16-J7-ヌ I層
	19	カムイヤキ	器種不明	—	胴部	—	—	—	内外面とも回転を利用したナデ調整を施す。内面に格子面状の叩き目が残る。	3トレ ズケ 16-J3-ア I層
	20	本土産 近代磁器	小碗	—	口～底	—	—	—	素地は白色。型成形で内外面に透明釉を施し、畳付けは釉剥ぎ。	4トレ ズケ 23-E3-ス I層
	21	沖縄産 無釉陶器	壺	—	底部	—	—	(18.0)	素地は白色粒を含むにぶい赤褐色。内面にナデ調整の痕跡が明瞭に残る。	4トレ ズケ 23-E3-ス I層

() 内の数値は復元値

第86表 H28年度西普天間住宅地区試掘調査 出土遺物観察一覧

図版番号	種類	器種	分類	部位	法量 (cm)			観察事項	出土地	
					口径 (長軸)	器高 (短軸)	底径 (厚さ)			
図版 34	22	青磁	碗	瀬戸Ⅳ類	口縁部	15.3	—	—	素地は灰白色で緻密。釉は不透明なオリーブ灰色を内外面に薄く施す。	ズケ 26-H3-カ・サⅠ層
	23	褐釉陶器	壺	—	底部	—	—	—	素地は赤色粒や黒色粒、縞状の白色土を含む橙色。胴部外面に黒褐色の褐釉が掛かる。	ズケ 26-H3-カ・サⅠ層
図版 35	24	青磁	皿	大宰府 同安窯系 Ⅰ類	底部	—	—	4.4	素地は灰白色で緻密。釉は透明な灰白色を薄く施し、腰部で釉剥ぎ。内底に楕円文を施す。	ズケ 26-H3-カ・サⅡ層
図版 36	25	本土産 近代磁器	碗	瀬戸・美濃	底部	—	—	(4.0)	素地は白色。型成形で内外面とも透明釉を施し、畳付は釉剥ぎ。外底に統制番号「岐 1044」。	ズケ 26-I4-カ・キⅠ層
図版 38	26	石器	磨石・敲石	ニービ	—	8.65	7.6	5.1	ニービ製。平面形は半月状を呈する、	ズケ 26-J6-キⅠ層
	27	青磁	皿	瀬戸Ⅳ類	底部	—	—	5.6	素地は灰白色で緻密。釉は半透明なオリーブ灰色を内外面に薄く施し、畳付を釉剥ぎ。外底は露胎。内底に圏線。	ズケ 26-J6-キ SD2
	28	土器	甕	くびれ平底	口縁部	—	—	—	口唇部はナデによって平坦となる。内外面ともナデ調整が施され、口縁部下に指頭圧痕が僅かに残る。胎土は砂粒を含む砂泥質で、明赤褐色。	ズケ 26-J6-キ SD3
図版 39	29	滑石製品	—	—	—	2.35	1.7	1.2	滑石製石鍋の二次加工品か。中心に穿孔が穿たれ、側面に工具の痕跡が残る。	ズケ 26-J7-キⅠ層
図版 48	30	青磁	碗	瀬戸Ⅴ類	底部	—	—	5.8	素地は灰白色で緻密。釉は半透明なオリーブ灰色を内外面に薄く施す。外底は露胎。内底に印花文。	ズケ 31-C8-カⅡ層
	31	白磁	碗	森田 C-2 群	底部	—	—	4.8	素地は灰白色。釉は透明な灰白色で内面から外面胴途中まで施釉し、腰部で釉剥ぎ。高台は露胎。内底に圏線が施され、中心部が凹む。	ズケ 31-C8-カⅡ層
	32	沖繩産 無釉陶器	壺	—	口縁部	17.0	—	—	素地は暗赤褐色。外面は泥釉を掛けているため黒褐色を呈する。口縁部は折り畳むようにして玉縁状にした後、強くナデ調整を施す。口唇部に目跡と考えられる剥離した箇所あり。頸部はケズリによって段を作り出す。	ズケ 31-C8-カⅡ層

() 内の数値は復元値

第87表 H28年度西普天間住宅地区確認調査 出土遺物観察一覧 a

図版番号	種類	器種	分類	部位	法量 (cm)			観察事項	出土地	
					口径 (長軸)	器高 (短軸)	底径 (厚さ)			
図版 68	33	青磁	皿	瀬戸Ⅳ類	口縁部	13.4	—	—	素地は灰白色で緻密。釉は透明なオリーブ灰色で薄く施釉する。	1トレ 表採
	34	白磁	碗	大宰府Ⅳ類	口縁部	—	—	—	素地は灰白色で緻密。釉は透明な灰白色で薄く施釉する。口縁部下を削って玉縁状に成形。	1トレ Ⅱ層
	35	白磁	碗	大宰府Ⅴ類	口縁部	—	—	—	素地は灰白色で緻密。釉は透明な灰白色で薄く施釉する。	1トレ ズケ 26-J6-ニⅡ層
	36	朝鮮系 無釉陶器	器種不明	—	胴部	—	—	—	胎土は灰色で、芯は小豆色と白色の土が縞状になる。焼成は良好。外面は摩耗のため判然としないが、内面は回転を利用した工具ナデが施される。	1トレ ズケ 26-J6-ニⅡ層
	37	産地不明 陶器	器種不明	—	胴部	—	—	—	胎土は白色粒を含む灰白色。焼成は良好。外面に平行タタキ、内面はナデ?が施される。	1トレ ズケ 31-A6-アⅡ層
	38	土器	鍋	グスク土器	口～底	27.0	16.0	14.2	口縁部下に横耳を張り付ける。外面は胴部にユビナデ、腰部に工具ナデが施されるが、凹凸が残り器面もアバタ状を呈する。内面は外面に比べてナデが丁寧な施される。腰部にススが付着している。胎土は泥質で、白色粒を含む橙色。全体の半分以上が残る。	1トレ SJ1 埋土
図版 69	39	青磁	皿	大宰府 同安窯系 Ⅰ類	口縁部	10.5	—	—	素地は黒色粒を含む灰白色で緻密。釉は透明なオリーブ灰色で薄く施釉し、腰部で釉剥ぎ。	2トレⅠ層
	40	青磁	碗	磁灶窯	口縁部	18.8	—	—	素地は黒色粒を含む黄灰色で緻密。釉は透明な灰オリーブ色で薄く施釉する。	2トレ ズケ 31-A7-イⅡ層

() 内の数値は復元値

第 87 表 H28 年度西普天間住宅地区確認調査 出土遺物観察一覧 b

図版番号	種類	器種	分類	部位	法量 (cm)			観察事項	出土地	
					口径 (長軸)	器高 (短軸)	底径 (厚さ)			
図版 69	41	青磁	碗	瀬戸Ⅳ類	口縁部	—	—	—	素地は灰白色で緻密。釉は半透明なオリーブ灰色で薄く施釉する。	2トレ ズケ 31-A7-イ II層
	42	青磁	皿	瀬戸Ⅳ'類	底部	—	—	6.6	素地は焼成不良のためか浅黄橙色を呈し、やや軟質。釉は発色が悪くオリーブ黄色で、全面に施釉後、外底と内底を釉剥ぎ。	2トレ ズケ 31-A7-イ II層
	43	青磁	盤	瀬戸Ⅴ類	口縁部	—	—	—	素地は灰白色で緻密。釉は不透明なオリーブ灰色を施釉。胴部内面に柳状の工具で描いた連弁文。	2トレ ズケ 31-A7-シ II層
	44	白磁	碗	大宰府Ⅳ類	口縁部	—	—	—	素地は黒色粒を含む灰白色で緻密。釉は透明な灰白色で薄く施釉する。口縁部下を削って玉縁状に成形。	2トレ ズケ 31-A7-イ II層
	45	白磁	小碗	大宰府Ⅴ類	口縁部	10.1	—	—	素地は細かい黒色粒を含む灰白色で緻密。釉は透明な灰白色で薄く施釉する。口縁部外面に圏線、見込みに圏線を施す。	2トレ ズケ 31-A7-イ II層
	46	本土産 須恵器	壺	—	胴部	—	—	—	素地は緻密で白色粒や黒色粒を含む灰白色。内外面とも平行タタキが施されるが、内面はナデか摩滅のため判然としない。外面に自然釉が掛かる。	2トレ ズケ 31-A7-イ II層
	47	土器	鍋	グスク土器	口縁部	—	—	—	口縁部下に瘤状の突起を張り付けているが、詳細な形状は不明。口唇部は工具を用いたナデによって平坦になる。内外面ともナデ調整が施される。胎土は泥質で、砂粒を含む橙色。外面は一部被熱のため暗赤褐色になる。芯は黒褐色を呈する。	2トレ ズケ 31-A7-イ II層
図版 70	48	土器	鍋	グスク土器	底部	—	—	—	内外面に工具を用いたナデやユビナデが施される。外面は被熱のため黒褐色を呈する。胎土は砂泥質で、細かい砂粒を含む明赤褐色。	2トレ ズケ 31-A7-イ II層
	49	産地不明 土器	器種不明	—	底部	—	—	—	内外面とも工具ナデやナデ調整を施す。胎土は黒色や透明なガラス質の粒子が入った砂粒を含む赤褐色。内面は褐灰色を呈する。搬入品か	2トレ ズケ 31-A7-サ II層
	50	カムイヤキ	壺	—	底部	—	—	11.2	胎土は微細な白色粒を含む黒褐色で、芯が明赤褐色を呈する。焼成は良好だが、還元が不徹底だったためか、やや器面が橙色みを帯びる。内外面とも回転を利用したナデ調整を施す。	2トレ ズケ 31-A7-シ II層
	51	滑石製品	棒状製品	—	—	1.4	0.9	0.8	棒状の製品。滑石製石鍋の二次加工品か。側面に加工の跡が認められる。	2トレ ズケ 31-A7-ア II層
	52	滑石製品	器種不明	—	—	—	—	—	全体に加工痕と考えられる工具の痕跡が認められる。滑石製石鍋の二次加工品の可能性もあるが、全体的に加工されているため判然としない。	2トレ ズケ 31-A7-カ II層
	53	青磁	碗	瀬戸Ⅳ'類	口縁部	—	—	—	素地は細かい黒色粒を含む灰白色で緻密。釉は貫入が入る半透明なオリーブ灰色。	2トレ ズケ 31-A7-イ III層
	54	白磁	碗	大宰府Ⅴ類	口縁部	—	—	—	素地は灰白色で緻密。釉は透明な白色で薄く施釉する。	2トレ ズケ 31-A7-イ III層
図版 71	55	土器	甕	くびれ平底	口縁部	—	—	—	口唇部はナデによって平坦となり、やや外面に粘土が張り出す。内外面ともナデ調整が施され、口縁部下に指頭圧痕が僅かに残る。胎土は砂粒を含む砂泥質で、明赤褐色。	2トレ ズケ 31-A7-キ III層
	56	土器	甕	くびれ平底	底部	—	—	4.6	内面の調整は判然としないが、外面は指頭圧痕やタテ方向のナデが施される。胎土は砂粒を含む砂泥質で、にぶい黄褐色。	2トレ ズケ 31-A7-キ III層
	57	土器	鍋	グスク土器	口縁部	—	—	—	口唇部は工具を用いたナデによって平坦となり、粘土がやや張り出す。内外面ともナデ調整が施され、内面の口縁部下に浅くナデ調整の擦痕が残る。胎土は泥質で、赤色粒や砂粒を含む橙色。芯は褐灰色を呈する。	2トレ ズケ 31-A7-キ III層
	58	土器	鍋	グスク土器	口縁部	—	—	—	口唇部は工具を用いたナデによって平坦となるが、粘土が外面に張り出すため断面形が三角形状になる。内外面ともナデ調整が施されているが、器面はアバタ状を呈する。胎土は泥質で、白色粒を含む橙色。	2トレ ズケ 31-A7-イ III層

() 内の数値は復元値

第87表 H28年度西普天間住宅地区確認調査 出土遺物観察一覧c

図版番号	種類	器種	分類	部位	法量 (cm)			観察事項	出土地	
					口径 (長軸)	器高 (短軸)	底径 (厚さ)			
図版 71	59	布目圧痕土器	器種不明	—	胴部	—	—	—	内面に成形時の布目が残る。胎土は白色粒や雲母のような粒を含む砂質で、明褐色。	2トレ ズケ 31-A7-キ Ⅲ層
	60	カムイヤキ	壺	—	底部	—	—	7.0	胎土は微細な白色粒を含むにふい赤褐色で、芯が明赤褐色を呈する。焼成は良好。内外面とも回転を利用したナデ調整を施す。外底にヘラ状の工具痕が認められる。	2トレ ズケ 31-A7-イ Ⅲ層
図版 72	61	滑石製品	器種不明	—	—	(3.3)	(2.2)	(1.8)	滑石製石鍋の二次加工品か。側面に工具による加工痕や穿孔の跡が認められる。	2トレ ズケ 31-A7-シ SI直上Ⅲ層
	62	滑石製品	器種不明	—	—	—	—	—	質の悪い滑石の破片を加工。内面は平滑になっているが、石鍋に認められる工具の痕跡は、明確には認められない。	2トレ ズケ 31-A7-イ Ⅲ層
	63	石器	磨石・敲石	角閃岩	—	12.4	9.5	5.5	角閃岩製。平面形は隅丸方形状を呈する。長軸方向に敲打跡を明瞭に残す。平坦面には、両面とも長軸方向の擦過痕と、中心部に敲打痕が残る。	2トレ ズケ 31-A7-イ Ⅲ層
	64	羽口	—	土製	先端部	(内径) 2.1	—	—	土製か。内面は被熱のため赤褐色若しくは灰色を呈する。外面に鉄の塊が付着。	2トレ ズケ 31-A7-イ Ⅲ層
図版 73	65	羽口	—	土製	体部	(内径) 1.9	—	—	赤色粒を含む土製。内面は被熱のため橙色を呈し、硬質になる。外面に鉄の塊が付着。	2トレ ズケ 31-A7-イ Ⅲ層
	66	羽口	—	石製	先端部	(内径) 2.2	—	—	細粒砂岩製。内面は被熱のため橙色を呈する。外面にガラス質の鉄の塊が付着。	2トレ ズケ 31-A7-キ Ⅲ層
	67	獣骨	上顎歯骨	ウシ	M1か M2	—	—	—	ウシの歯骨片。上顎後臼歯（M1かM2）と考えられる。熱を受けて黒色化している。	2トレ SI1周溝埋土
図版 74	68	青磁	碗	瀬戸V類	底部	—	—	6.4	素地は還元が不十分なため、やや黄色みを帯びた灰白色でやや軟質。釉は貫入が入るオリーブ黄色で、全面に施釉後に内底を釉剥ぎ。	3トレ I層

() 内の数値は復元値

第4章 自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

西普天間住宅地区は、沖縄県宜野湾市のキャンプ瑞慶覧内に所在する。キャンプ瑞慶覧は沖縄本島中部の宜野湾市、北谷町、沖縄市など、二市・一町・一村にまたがるアメリカ海兵隊基地である。西普天間が所在する市域では、島尻層群の上位に琉球石灰岩が覆い、比較的平坦な段丘が形成されている。キャンプ瑞慶覧でも、この平坦面を中心に米国海兵隊の施設が所在している。

本報告では、遺構や遺物、堆積物の年代に関する情報を得るため放射性炭素年代測定を、植物利用に関する情報を得るため微細物分析、炭化材同定、灰像分析を、遺跡周辺での鉄器生産の実態に関する情報を得るために鉄滓成分分析を実施する。

1. 試料

年代測定試料は、平成27年度試掘坑、H27トレンチ1、H27トレンチ3、H28トレンチ1、H28トレンチ2より出土している。平成27年度試掘坑はズケ16-I2-アSP1、SP2、ズケ16-J9-コSK、ズケ22-D9-トSP1、ズケ23-C3-ソ西壁、北壁、ズケ23-A6-チより採取された土壌から抽出した炭化物10点である。

また、平成27年度はH27トレンチ1とH27トレンチ3から土壌を採取している。H27トレンチ1の切り合い関係にある遺構から6点、H27トレンチ3のピットから1点の計7点の炭化物を抽出した。

平成28年度は、H28トレンチ1のSB2 P5、SB3 P9 下部、SL1、H28トレンチ2はSI1、SI2、SP6、SP7の各遺構より土壌試料が採取されている。この中から炭化材2点、炭化物5点を抽出した。また、平成29年度に「H28トレンチ1 SJ1 2層 No.286」炭化物と「H28トレンチ1 SJ1 グスク土器付着物(図版63-38)」も追加で対象とした。「H28トレンチ1 SJ1 2層 No.286」炭化物は、土壌中に微量の炭化物が含まれており、少量、脆弱で組織等はみられない。土器付着物は、灰色で、炭化物はほとんど認められない。

微細物分析試料は、H28トレンチ1のSL1埋土より4点(No.252、No.253、No.260、No.267)、H28トレンチ2のサブトレⅢ層より5点(3a層 No.291、3b層 No.292、3c層 No.293、3d層 No.294、3e層 No.295)の、合計9点である。

炭化材同定、灰像分析試料は、H28トレンチ1のSL1炭層より採取された土壌1点(No.284)である。この土壌中に、炭化物の小片が多数認められたことから、5片を選択し、炭化材同定試料とする。また、炭化物を抽出したあとの土壌を灰像分析試料として用いた。

鉄滓成分分析試料は、H28トレンチ2のⅡ層出土の鉄滓No.230、Ⅲ層出土の鉄滓No.243、鉄滓No.276の3点である。分析については、日鉄住金テクノロジー株式会社の協力を得た。

2. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

炭化材に付着している土壌や根等をピンセット、超音波洗浄等により物理的に除去する。その後、HClによる炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOHによる腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分の除去を行う(酸・アルカリ・酸処理)。試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅(Ⅱ)と銀箔(硫化物を除去するため)を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃(30分)850℃(2時間)で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO₂

を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。

また、「H28 トレンチ 1 SJ1 2 層 No.286」炭化物と「H28 トレンチ 1 SJ1 グスク土器付着物」2点については分析試料の状況から、炭素が少ないことが予想されることから、塩酸(HCl)による炭酸塩等酸可溶成分を除去するのみにとどめた(酸処理 HCl)。塩酸の濃度は1mol/Lである。試料の燃焼・熱分解、二酸化炭素の精製、グラファイト化(鉄を触媒とし水素で還元する)はElementar社のvario ISOTOPE cubeとIonplus社のAge3を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料をNEC社製のハンドプレス機を用いて内径1mmの孔にプレスし、測定試料とする。

測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸(HOX- II)とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に13C/12Cの測定も行うため、この値を用いて δ 13Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1,950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma;68%)に相当する年代である。暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.1.0(Copyright 1986-2018 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、誤差として標準偏差(One Sigma)を用いる。

暦年較正とは、大気中の14C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の14C濃度の変動、及び半減期の違い(14Cの半減期5,730±40年)を較正することである。暦年較正は、CALIB 7.1.0.のマニュアルに従い、1年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値および北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年較正結果は $\sigma \cdot 2 \sigma$ (σ は統計的に真の値が68.2%の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が95.4%の確率で存在する範囲)の値を示す。また、表中の相対比は、 $\sigma \cdot 2 \sigma$ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。なお、較正された暦年代は、将来的に暦年較正曲線等の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表された値を記す。

(2) 微細物分析

土壌試料から炭化物を可能な限り壊さずに回収するために、以下の方法を実施する。

1) 水洗前抽出

試料を常温乾燥後、肉眼観察で確認された炭化種実や炭化材等の遺物を抽出する。

2) 水洗

水を満たした容器に乾燥後の試料を投入し、容器を傾けて浮いた炭化物を粒径0.5mmの篩に回収する。容器内の残土に水を入れて軽く攪拌し、容器を傾けて炭化物を回収する作業を炭化物が浮かなくなるまで繰り返す(20回程度)。残土を粒径0.5mmの篩を通して水洗する。篩に回収された炭化物主体の試料と、0.5mm篩水洗後の残土(砂礫主体)を、それぞれ粒径4mm、2mm、1mmの篩を通し、粒径別に常温乾燥させる。

3) 抽出分類

水洗乾燥後、粒径の大きな試料から順に双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な炭化種実や炭化材(主に2mm以上)、保存状態が良好な動物遺存体(骨片、巻貝類)、土器片、金属片等の遺物を抽出する。

抽出物は、個数または重量と一部の最大径を計測し、結果を一覧表で示す。分析残渣は、炭化材主体と砂礫主体、植物片主体に大まかに分け、粒径別の重量を計測し、結果を一覧表に併記する。分析後は、炭化種実を同定対象とする。他の抽出物と分析残渣は、容器に入れて保管する。

4) 炭化種実同定

炭化種実の同定は、現生標本および中山ほか (2010)、鈴木ほか (2012) 等を参考に実施する。同定した分類群は、写真を添付して同定根拠とする。また、保存状態が良好な炭化種実を対象として、デジタルノギスを用いて大きさを計測し、結果を一覧表に併記する。分析後は、炭化種実を分類群別に容器に入れて保管する。

(3) 炭化材同定

試料を自然乾燥させた後、木口 (横断面)・柾目 (放射断面)・板目 (接線断面) の 3 断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類 (分類群) を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東 (1982)、Wheeler 他 (1998)、Richter 他 (2006) を参考にする。また、日本産樹木の木材組織については、林 (1991) や伊東 (1995,1996,1997,1998,1999) を参考にする。

(4) 灰像分析

植物体の葉や茎に存在する植物珪酸体は、珪化細胞列などの組織構造を呈している。また植物が燃えた後の灰には組織構造が珪化組織片 (灰像) などの形で残されている場合が多い (例えば、パリノ・サーヴェイ株式会社,1993)。そのため、珪化組織片の産状によりイネ科の栽培植物や草本類が明らかになると考えられる。

今回の試料を肉眼観察したところ、草本類に由来する灰が明瞭には認められなかった。そのため、特に珪化組織片の有無に注目して調査を進めた。湿重約 5g の試料について過酸化水素水・塩酸処理および沈定法の順に物理・化学処理を行い、試料の漂白と粘土分の除去を進める。検鏡しやすい濃度に希釈して観察用のプレパラートを作製し、400 倍の光学顕微鏡下で全面を走査する。その間に出現するイネ科葉部 (葉身と葉鞘) の葉部短細胞に由来した植物珪酸体 (以下、短細胞珪酸体と呼ぶ) および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体 (以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ)、およびこれらを含む珪化組織片について近藤 (2010) の分類を参考に同定し、計数する。

(5) 鉄滓成分分析

a) 外観観察

調査対象とした遺物の外観上の特徴を記載する。

b) 顕微鏡組織

鉄滓の鉱物組成や鉄部の金属組織の観察を目的とする。外観の特徴から観察面を設定・切り出した後、試験片を樹脂に埋込み、エメリー研磨紙の #150、#240、#320、#600、#1000、及びダイヤモンド粒子の $3\ \mu\text{m}$ と $1\ \mu\text{m}$ で鏡面研磨する。さらに断面全体を金属反射顕微鏡で観察し、写真を撮影する。金属鉄部の組織観察には、腐食に 3% ナイタル (硝酸アルコール液) を用いる。

c) EPMA 調査

EPMA (日本電子製(株) JXA-8230) を用いて、鉄滓の鉱物組成を調査する。測定条件は以下の通りである。加速電圧: 15kV、照射電流 (分析電流): $2.00\text{E}-8\text{A}$ 。

d) 化学組成分析

各成分の測定法は以下の通りである。

全鉄分 (Total Fe)、金属鉄 (Metallic Fe)、酸化第一鉄 (FeO): 容量法。

炭素 (C): 燃焼容量法、硫黄 (S): 燃焼赤外吸収法。

二酸化珪素 (SiO_2)、酸化アルミニウム (Al_2O_3)、酸化カルシウム (CaO)、酸化マグネシウム (MgO)、酸化カリウム (K_2O)、酸化ナトリウム (Na_2O)、酸化マンガン (MnO)、二酸化チタン (TiO_2)、酸化クロム (Cr_2O_3)、五酸化リン (P_2O_5)、バナジウム (V)、銅 (Cu)、二酸化ジルコニウム (ZrO_2): ICP (Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer) 発光分光分析法。

3. 結果

(1) 放射性炭素年代測定

同位体効果による補正を行った測定結果を第 88 表、暦年較正結果を第 89 表に示す。平成 27 年度試掘坑の試料の測定年代(補正年代)はズケ 16-I2-ア SP1(半截)が 3,740 ± 30BP、ズケ 16-I2-ア SP2(半截)が 1,400 ± 20BP、ズケ 16-J9-コ 北壁中央付近の SK が 1,730 ± 30BP、ズケ 22-D9-ト SP1 が 3,300 ± 30BP、ズケ 23-C3-ソ 西側No.1(Ⅱ層)が 140 ± 20BP、ズケ 23-C3-ソ 西側No.2(Ⅱ層)が 200 ± 20BP、ズケ 23-C3-ソ北側No.4(Ⅲ層)が 3,970 ± 30BP、ズケ 23-C3-ソ北側No.5(Ⅳ層)が 2,870 ± 30BP、ズケ 23-C3-ソ北側No.6(Ⅳ層)が 22,510 ± 90BP、ズケ 23-A6-チ遺構が 4,460 ± 30BP の値を示す。

測定誤差を σ として計算させた暦年較正年代の結果は、ズケ16-I2-ア SP1(半截)が calBP4,149-4,009、ズケ 16-I2-ア SP2(半截)が calAD631-657、ズケ 16-J9-コ SK(北壁中央付近)が calAD256-377、ズケ 22-D9-ト SP1 が calBP3,565-3,482、ズケ 23-C3-ソ西側No.1(Ⅱ層)が calAD1,679-1,939、ズケ 23-C3-ソ 西側No.2(Ⅱ層)が calAD1,663-1,950、ズケ 23-C3-ソ北側No.4(Ⅲ層)が calBP4,511-4,415、ズケ 23-C3-ソ北側No.5(Ⅳ層)が calBP3,056-2,956、ズケ 23-C3-ソ北側No.6(Ⅳ層)が calBP27,013-26,659、ズケ 23-A6-チ遺構が calBP5,270-4,978 である。

平成 27 年度の H27 トレンチ 1、H27 トレンチ 3 の測定年代(補正年代)は、H27 トレンチ 1 土坑の No.1 が 1,160 ± 20BP、No.2 の 2 点が 920 ± 20BP と 880 ± 20BP、No.3 の 2 点が 650 ± 20BP と 1,090 ± 20BP、西壁No.4 が 1,780 ± 20BP、H27 トレンチ 3 のピットが 1,420 ± 20BP の値を示す。

第 88 表 放射性炭素年代測定結果

年度	試料名		種類	処理方法	補正年代 BP	$\delta^{13}C$ (‰)	Code No.	
	トレンチ	遺構名						
H27	ズケ16-I2-ア	SP1(半截)	炭化物	AAA	3,740±30	-26.65±0.25	IAAA-152584	
H27	ズケ16-I2-ア	SP2(半截)	炭化物	AaA	1,400±20	-23.67±0.26	IAAA-152585	
H27	ズケ16-J9-コ	SK(北壁中央付近)	炭化物	AAA	1,730±30	-28.36±0.21	IAAA-152586	
H27	ズケ22-D9-ト	SP1	炭化物	AAA	3,300±30	-26.43±0.24	IAAA-152587	
H27	ズケ23-C3-ソ	西側No.1(Ⅱ層)	炭化物	AAA	140±20	-26.27±0.27	IAAA-152588	
H27	ズケ23-C3-ソ	西側No.2(Ⅱ層)	炭化物	AaA	200±20	-24.27±0.31	IAAA-152589	
H27	ズケ23-C3-ソ	北側No.4(Ⅲ層)	炭化物	AaA	3,970±30	-24.30±0.33	IAAA-152590	
H27	ズケ23-C3-ソ	北側No.5(Ⅳ層)	炭化物	AaA	2,870±30	-25.21±0.25	IAAA-152591	
H27	ズケ23-C3-ソ	北側No.6(Ⅳ層)	炭化物	AAA	22,510±90	-30.56±0.32	IAAA-152592	
H27	ズケ23-A6-チ	遺構	炭化物	AaA	4,460±30	-26.61±0.26	IAAA-152593	
H27	H27トレンチ1	土坑No.1	炭化物	AaA	1,160±20	-24.23±0.25	IAAA-153261	
H27	H27トレンチ1	土坑No.2	炭化物	AAA	920±20	-13.65±0.47	IAAA-153262	
H27	H27トレンチ1	土坑No.2	炭化物	AAA	880±20	-14.68±0.36	IAAA-153263	
H27	H27トレンチ1	土坑No.3	炭化物	AaA	650±20	-14.49±0.23	IAAA-153264	
H27	H27トレンチ1	土坑No.3	炭化物	AAA	1,090±20	-14.83±0.22	IAAA-153265	
H27	H27トレンチ1	西壁No.4	炭化物	AaA	1,780±20	-29.82±0.33	IAAA-153266	
H27	H27トレンチ3	ピット	炭化物	AaA	1,420±20	-30.02±0.32	IAAA-153267	
H28	H28トレンチ1	SB2(P5)	炭化物	AaA	990±20	-24.47±0.25	IAAA-161499	
H28	H28トレンチ1	SB3(P9下部)	炭化物	AAA	1,090±20	-28.31±0.27	IAAA-161500	
H28	H28トレンチ1	SL1	炭化材	AAA	680±20	-26.21±0.29	IAAA-161501	
H28	H28トレンチ1	SJ1 2層 No.286	炭化物	HCl	935±20	-34.9±0.5	TKA-18372	pal-10793
H28	H28トレンチ1	SJ1 ガスク土器付着物	土器付着炭化物	HCl	980±20	-21.4±0.6	TKA-18373	pal-10794
H28	H28トレンチ2	SI1周溝及び埋土	炭化物	AaA	850±20	-26.92±0.30	IAAA-161502	
H28	H28トレンチ2	SI2周溝	炭化物	AaA	650±20	-24.47±0.30	IAAA-161503	
H28	H28トレンチ2	SP6	炭化物	AaA	880±20	-25.99±0.29	IAAA-161504	
H28	H28トレンチ2	SP7	炭化材	AaA	870±20	-23.82±0.30	IAAA-161505	

1) 年代値の算出には、Libby の半減期 5,568 年を使用。

2) BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。

3) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の 68% が入る範囲) を年代値に換算した値。

4) AAA は酸-アルカリ-酸処理、AaA はアルカリの濃度を薄くした処理を示す。HCl は酸処理を示す。

第 89 表 暦年較正結果 a

試料名	補正年代 (BP)	暦年較正年代(cal)						相対比	中央値	Code No.	
H27 ズケ16-I2-ア SP1(半截)	3,741±28	σ	cal BC 2,200	-	cal BC 2,133	cal BP 4,149	-	4,082	0.791	calBC 2,150	IAAA-152584
			cal BC 2,081	-	cal BC 2,060	cal BP 4,030	-	4,009	0.209		
		2σ	cal BC 2,274	-	cal BC 2,257	cal BP 4,223	-	4,206	0.030		
			cal BC 2,208	-	cal BC 2,111	cal BP 4,157	-	4,060	0.666		
H27 ズケ16-I2-ア SP2(半截)	1,402±22	σ	cal BC 2,104	-	cal BC 2,036	cal BP 4,053	-	3,985	0.303	calAD 641	IAAA-152585
			cal AD 631	-	cal AD 657	cal BP 1,319	-	1,293	1.000		
		2σ	cal AD 609	-	cal AD 661	cal BP 1,341	-	1,289	1.000		
			cal AD 256	-	cal AD 299	cal BP 1,694	-	1,651	0.567		
H27 ズケ16-J9-コ SK(北壁中央付近)	1,727±25	σ	cal AD 317	-	cal AD 347	cal BP 1,633	-	1,603	0.366	calAD 311	IAAA-152586
			cal AD 370	-	cal AD 377	cal BP 1,580	-	1,573	0.067		
		2σ	cal AD 249	-	cal AD 384	cal BP 1,701	-	1,566	1.000		
			cal BC 1,616	-	cal BC 1,599	cal BP 3,565	-	3,548	0.239		
H27 ズケ22-D9-ト SP1	3,303±26	σ	cal BC 1,586	-	cal BC 1,533	cal BP 3,535	-	3,482	0.761	calBC 1,575	IAAA-152587
			cal BC 1,637	-	cal BC 1,509	cal BP 3,586	-	3,458	1.000		
		2σ	cal AD 1,679	-	cal AD 1,695	cal BP 271	-	255	0.156		
			cal AD 1,726	-	cal AD 1,764	cal BP 224	-	186	0.332		
H27 ズケ23-C3-ソ 西側No.1 (Ⅱ層)	143±23	σ	cal AD 1,774	-	cal AD 1,775	cal BP 176	-	175	0.006	calAD 1,803	IAAA-152588
			cal AD 1,800	-	cal AD 1,814	cal BP 150	-	136	0.118		
			cal AD 1,837	-	cal AD 1,843	cal BP 113	-	107	0.041		
			cal AD 1,852	-	cal AD 1,868	cal BP 98	-	82	0.120		
			cal AD 1,873	-	cal AD 1,876	cal BP 77	-	74	0.019		
			cal AD 1,918	-	cal AD 1,939	cal BP 32	-	11	0.208		
		2σ	cal AD 1,669	-	cal AD 1,708	cal BP 281	-	242	0.167		
			cal AD 1,718	-	cal AD 1,780	cal BP 232	-	170	0.310		
			cal AD 1,798	-	cal AD 1,827	cal BP 152	-	123	0.122		
			cal AD 1,831	-	cal AD 1,887	cal BP 119	-	63	0.224		
			cal AD 1,911	-	cal AD 1,945	cal BP 39	-	5	0.177		
			cal AD 1,663	-	cal AD 1,678	cal BP 287	-	272	0.257		
H27 ズケ23-C3-ソ 西側No.2 (Ⅱ層)	197±22	σ	cal AD 1,765	-	cal AD 1,800	cal BP 185	-	150	0.539	calAD 1,775	IAAA-152589
			cal AD 1,940	-	cal AD 1,950	cal BP 10	-	0	0.204		
		2σ	cal AD 1,654	-	cal AD 1,683	cal BP 296	-	267	0.249		
			cal AD 1,735	-	cal AD 1,805	cal BP 215	-	145	0.585		
H27 ズケ23-C3-ソ 北側No.4 (Ⅲ層)	3,968±27	σ	cal AD 1,933	-	cal AD 1,950	cal BP 17	-	0	0.166	calBC 2,492	IAAA-152590
			cal BC 2,562	-	cal BC 2,535	cal BP 4,511	-	4,484	0.416		
		2σ	cal BC 2,492	-	cal BC 2,466	cal BP 4,441	-	4,415	0.584		
			cal BC 2,572	-	cal BC 2,512	cal BP 4,521	-	4,461	0.451		
H27 ズケ23-C3-ソ 北側No.5 (Ⅳ層)	2,874±25	σ	cal BC 2,505	-	cal BC 2,453	cal BP 4,454	-	4,402	0.508	calBC 1,047	IAAA-152591
			cal BC 2,418	-	cal BC 2,407	cal BP 4,367	-	4,356	0.013		
		2σ	cal BC 2,376	-	cal BC 2,351	cal BP 4,325	-	4,300	0.027		
			cal BC 1,107	-	cal BC 1,101	cal BP 3,056	-	3,050	0.066		
H27 ズケ23-C3-ソ 北側No.6 (Ⅳ層)	22,509±87	σ	cal BC 1,086	-	cal BC 1,062	cal BP 3,035	-	3,011	0.234	calBC 24,885	IAAA-152592
			cal BC 1,060	-	cal BC 1,007	cal BP 3,009	-	2,956	0.699		
		2σ	cal BC 1,124	-	cal BC 974	cal BP 3,073	-	2,923	0.978		
			cal BC 956	-	cal BC 941	cal BP 2,905	-	2,890	0.022		
H27 ズケ23-A6-チ 遺構	4,457±28	σ	cal BC 25,064	-	cal BC 24,710	cal BP 27,013	-	26,659	1.000	calBC 3,184	IAAA-152593
			cal BC 3,321	-	cal BC 3,272	cal BP 5,270	-	5,221	0.300		
			cal BC 3,268	-	cal BC 3,235	cal BP 5,217	-	5,184	0.252		
			cal BC 3,170	-	cal BC 3,163	cal BP 5,119	-	5,112	0.036		
			cal BC 3,115	-	cal BC 3,085	cal BP 5,064	-	5,034	0.197		
			cal BC 3,063	-	cal BC 3,029	cal BP 5,012	-	4,978	0.215		
		2σ	cal BC 3,334	-	cal BC 3,211	cal BP 5,283	-	5,160	0.496		
			cal BC 3,192	-	cal BC 3,152	cal BP 5,141	-	5,101	0.095		
			cal BC 3,137	-	cal BC 3,020	cal BP 5,086	-	4,969	0.409		
			cal AD 778	-	cal AD 791	cal BP 1,172	-	1,159	0.141		
			cal AD 806	-	cal AD 817	cal BP 1,144	-	1,133	0.089		
			cal AD 824	-	cal AD 841	cal BP 1,126	-	1,109	0.146		
H27 トレンチ1 土坑 No.1	1,160±23	σ	cal AD 861	-	cal AD 897	cal BP 1,089	-	1,053	0.430	calAD 871	IAAA-153190
			cal AD 925	-	cal AD 944	cal BP 1,025	-	1,006	0.193		
		2σ	cal AD 775	-	cal AD 902	cal BP 1,175	-	1,048	0.776		
			cal AD 919	-	cal AD 963	cal BP 1,031	-	987	0.224		
H27 トレンチ1 土坑 No.2	916±23	σ	cal AD 1,046	-	cal AD 1,092	cal BP 904	-	858	0.615	calAD 1,096	IAAA-153191
			cal AD 1,121	-	cal AD 1,140	cal BP 829	-	810	0.238		
		2σ	cal AD 1,147	-	cal AD 1,159	cal BP 803	-	791	0.147		
			cal AD 1,033	-	cal AD 1,168	cal BP 917	-	782	1.000		
H27 トレンチ1 土坑No.2	884±22	σ	cal AD 1,058	-	cal AD 1,075	cal BP 892	-	875	0.209	calAD 1,162	IAAA-153192
			cal AD 1,154	-	cal AD 1,206	cal BP 796	-	744	0.791		
		2σ	cal AD 1,046	-	cal AD 1,092	cal BP 904	-	858	0.270		
			cal AD 1,120	-	cal AD 1,140	cal BP 830	-	810	0.066		
H27 トレンチ1 土坑No.3	650±22	σ	cal AD 1,147	-	cal AD 1,217	cal BP 803	-	733	0.664	calAD 1,357	IAAA-153193
			cal AD 1,290	-	cal AD 1,307	cal BP 660	-	643	0.398		
		2σ	cal AD 1,363	-	cal AD 1,385	cal BP 587	-	565	0.602		
			cal AD 1,283	-	cal AD 1,319	cal BP 667	-	631	0.445		
cal AD 1,350	-	cal AD 1,391	cal BP 600	-	559	0.555					

第89表 暦年較正結果 b

試料名	補正年代 (BP)	暦年較正年代(cal)						相対比	中央値	Code No.		
		σ	cal AD		cal AD	cal BP						cal BP
H27 トレンチ1 土坑 No.3	1,092±23	σ	cal AD 900	-	cal AD 921	cal BP 1,050	-	1,029	0.355	calAD 953	IAAA-153193	
			cal AD 950	-	cal AD 987	cal BP 1,000	-	963	0.645			
		2 σ	cal AD 893	-	cal AD 996	cal BP 1,057	-	954	0.992			
			cal AD 1,007	-	cal AD 1,011	cal BP 943	-	939	0.008			
H27 トレンチ1 西壁No.4	1,777±24	σ	cal AD 229	-	cal AD 259	cal BP 1,721	-	1,691	0.445	calAD 258	IAAA-153194	
			cal AD 281	-	cal AD 324	cal BP 1,669	-	1,626	0.555			
		2 σ	cal AD 142	-	cal AD 160	cal BP 1,808	-	1,790	0.029			
			cal AD 165	-	cal AD 196	cal BP 1,785	-	1,754	0.062			
H27 トレンチ3 ピット	1,420±22	σ	cal AD 618	-	cal AD 649	cal BP 1,332	-	1,301	1.000	calAD 630	IAAA-153195	
			cal AD 599	-	cal AD 656	cal BP 1,351	-	1,294	1.000			
		2 σ	cal AD 901	-	cal AD 920	cal BP 1,049	-	1,030	0.372			
			cal AD 953	-	cal AD 988	cal BP 997	-	962	0.628			
H28 トレンチ1 SB2 P5	988±23	σ	cal AD 1,016	-	cal AD 1,043	cal BP 934	-	907	0.810	calAD 1,032	IAAA-161499	
			cal AD 1,104	-	cal AD 1,118	cal BP 846	-	832	0.190			
		2 σ	cal AD 993	-	cal AD 1,050	cal BP 957	-	900	0.677			
			cal AD 1,084	-	cal AD 1,125	cal BP 866	-	825	0.261			
H28 トレンチ1 SB3 P9下部	1,090±21	σ	cal AD 1,136	-	cal AD 1,150	cal BP 814	-	800	0.062	calAD 955	IAAA-161500	
			cal AD 901	-	cal AD 920	cal BP 1,049	-	1,030	0.372			
		2 σ	cal AD 894	-	cal AD 932	cal BP 1,056	-	1,018	0.363			
			cal AD 936	-	cal AD 997	cal BP 1,014	-	953	0.623			
H28 トレンチ1 SL1	680±23	σ	cal AD 1,006	-	cal AD 1,011	cal BP 944	-	939	0.014	calAD 1,293	IAAA-161501	
			cal AD 1,280	-	cal AD 1,298	cal BP 670	-	652	0.788			
		2 σ	cal AD 1,371	-	cal AD 1,379	cal BP 579	-	571	0.212			
			cal AD 1,274	-	cal AD 1,309	cal BP 676	-	641	0.685			
H28 トレンチ1 S.J1 2層No.286	935±19	σ	cal AD 1,361	-	cal AD 1,386	cal BP 589	-	564	0.315	calAD 1,098	TKA- 18372	pal- 10793
			cal AD 1,040	-	cal AD 1,052	cal BP 910	-	898	0.144			
		2 σ	cal AD 1,081	-	cal AD 1,109	cal BP 869	-	841	0.385			
			cal AD 1,115	-	cal AD 1,152	cal BP 835	-	798	0.471			
H28 トレンチ1 S.J1 グスク土 器付着物	978±19	σ	cal AD 1,035	-	cal AD 1,154	cal BP 915	-	796	1.000	calAD 1,039	TKA- 18373	pal- 10794
			cal AD 1,020	-	cal AD 1,043	cal BP 930	-	907	0.750			
		2 σ	cal AD 1,104	-	cal AD 1,118	cal BP 846	-	832	0.250			
			cal AD 1,016	-	cal AD 1,050	cal BP 934	-	900	0.578			
H28 トレンチ2 SI1	852±22	σ	cal AD 1,083	-	cal AD 1,126	cal BP 867	-	824	0.342	calAD 1,193	IAAA-161502	
			cal AD 1,136	-	cal AD 1,151	cal BP 814	-	799	0.079			
		2 σ	cal AD 1,169	-	cal AD 1,178	cal BP 781	-	772	0.192			
			cal AD 1,181	-	cal AD 1,216	cal BP 769	-	734	0.808			
H28 トレンチ2 SI2	650±22	σ	cal AD 1,157	-	cal AD 1,249	cal BP 793	-	701	1.000	calAD 1,357	IAAA-161503	
			cal AD 1,290	-	cal AD 1,307	cal BP 660	-	643	0.398			
		2 σ	cal AD 1,363	-	cal AD 1,385	cal BP 587	-	565	0.602			
			cal AD 1,283	-	cal AD 1,319	cal BP 667	-	631	0.445			
H28 トレンチ2 SP6	878±23	σ	cal AD 1,350	-	cal AD 1,391	cal BP 600	-	559	0.555	calAD 1,170	IAAA-161504	
			cal AD 1,154	-	cal AD 1,212	cal BP 796	-	738	1.000			
		2 σ	cal AD 1,047	-	cal AD 1,088	cal BP 903	-	862	0.198			
			cal AD 1,122	-	cal AD 1,138	cal BP 828	-	812	0.045			
H28 トレンチ2 SP7	874±22	σ	cal AD 1,148	-	cal AD 1,219	cal BP 802	-	731	0.757	calAD 1,175	IAAA-161505	
			cal AD 1,159	-	cal AD 1,208	cal BP 791	-	742	1.000			
		2 σ	cal AD 1,049	-	cal AD 1,084	cal BP 901	-	866	0.140			
			cal AD 1,124	-	cal AD 1,136	cal BP 826	-	814	0.025			
			cal AD 1,150	-	cal AD 1,220	cal BP 800	-	730	0.836			

- 1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.1.0を使用。
- 2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。
- 3) 1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
- 4) 統計的に真の値が入る確率は σ は68%、2 σ は95%である。
- 5) 相対比は、 σ 、2 σ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。
- 6) 中央値は、確率分布図の面積が二分される値を年代値に換算したものの。

す。測定誤差を σ として計算させた結果、H27 トレンチ 1 土坑のNo. 1 が calAD778-944、No. 2 の 2 点が calAD1,046-1,159 と calAD1,058-1,206、No. 3 の 2 点が calAD1,290-1,385 と calAD900-987、西壁 No. 4 calAD229-324、H27 トレンチ 3 のピットが calAD618-649 である。

平成 28 年度の H28 トレンチ 1、H28 トレンチ 2 の測定年代 (補正年代) は、H28 トレンチ 1 の SB2 P5 が $990 \pm 20\text{BP}$ 、SB3 P9 下部が $1,090 \pm 20\text{BP}$ 、SL1 が $680 \pm 20\text{BP}$ 、SJ1 2 層の炭化物とガスク土器付着物は $935 \pm 20\text{BP}$ 、 $980 \pm 20\text{BP}$ 、H28 トレンチ 2 の SI1 が $850 \pm 20\text{BP}$ 、SI2 が $650 \pm 20\text{BP}$ 、SP6 が $880 \pm 20\text{BP}$ 、SP7 が $870 \pm 20\text{BP}$ であった。

測定誤差を 2σ として計算させた結果、H28 トレンチ 1 の SB2 P5 が calAD 993-1,150、SB3 P9 下部が calAD 894-1,011、SL1 が calAD 1,274-1,386、SJ1 2 層炭化物が calAD1,035-1,154、SJ1 土器付着炭化物が calAD1,016-1,151、H28 トレンチ 2 の SI1 が calAD 1,157-1,249、SI2 が calAD 1,283-1,391、SP6 が calAD 1,047-1,219、SP7 が calAD 1,049-1,220 の値が得られている。

(2) 微細物分析

結果を第 90 表に示す。また、炭化種実各分類群の写真を図版 75 に、一部の炭化種実の計測値を第 90 表に示して同定根拠とする。分析に供された 9 試料計 8.3kg を通じて、草本 4 分類群 (イネ、オオムギ、コムギ、アワ) の炭化種実が 12 個同定された。炭化種実の微細片 2 個 (No.252、No.253) は同定ができなかったが、いずれも断面が柵状を呈す。炭化種実以外では、炭化材が 2.49g、炭化材主体が 3.19g、植物片主体が 0.33g、骨片が 6 個 0.03g (No.293)、巻貝類が 1 個 (No.252)、砂礫主体が 40.04g、土器片が 1 個 1.19g、金属片が 39 個 0.13g 検出された。炭化材は H28 トレンチ 1 で多く、最大 12.28mm を測る (No.260)。一方、金属片は H28 トレンチ 2 より確認された。

炭化種実は、イネ、オオムギ、コムギ、アワが確認され、全て栽培種から成る。H28 トレンチ 1 の SL1 埋土は、No.253 よりイネの穎・胚乳が 1 個、オオムギの胚乳が 1 個、アワの穎・胚乳が 1 個の、計 3 個が確認された。なお、アワは写真撮影時に破損・紛失した。H28 トレンチ 2 のサブトレⅢ層は、3b 層 (No.292) よりイネの穎 (基部) が 2 個、オオムギの胚乳が 1 個、コムギの胚乳が 2 個、アワの胚乳が 1 個と、3a 層 (No.291) より、オオムギの胚乳が 1 個、コムギの胚乳が 1 個、アワの穎・胚乳が 1 個の、計 9 個が確認された。

(3) 炭化材同定

H28 トレンチ 1 SL1 炭層の No.284 から抽出された炭化材は、いずれも道管が認められることから広葉樹である。外観的特徴等がよく似ており、同一種あるいは同一個体に由来する可能性があるが、いずれも保存状態が悪く脆いため、電子顕微鏡を用いた観察が実施できなかった。また、いずれも小片で道管配列等の特徴もほとんど観察できず、種類は不明である。

(4) 灰像分析

H28 トレンチ 1 SL1 炭層の No.284 からは、明瞭な灰像が全く認められない。検鏡したプレパラート内には微細な炭化物片や鉱物粒子が数多く認められる。

(5) 鉄滓成分分析

・H28 トレンチ 2 II 層 No.230：椀形鍛冶滓

a) 外観観察：

やや小形の椀形鍛冶滓の破片 (62.9g) である。色調は黒灰色で、着磁性はほとんどない。上下面にはごく小形の木炭痕による凹凸がみられる。側面は全面破面で、気孔が少量点在するが緻密である。

b) 顕微鏡組織：

図版 76 の①～③に示す。滓中には、白色粒状結晶ウスタイト (Wustite : FeO)、淡灰色柱状結晶ファイライト (Fayalite : $2\text{FeO} \cdot \text{SiO}_2$) が晶出する。さらにウスタイト粒内の微細な暗灰色結晶はヘルシナイト (Hercynite : $\text{FeO} \cdot \text{Al}_2\text{O}_3$) と推定される。

また滓中には微細な金属鉄粒が散在する。②③中央はその拡大である。素地は白色のフェライト(Ferrite： α 鉄)で、少量層状のパーライト(Pearlite)が析出する。以上の金属組織から、炭素量の低い軟鉄と推測される。

c) 化学組成分析：

第91表に示す。全鉄分(Total Fe) 45.95%に対して、金属鉄(Metallic Fe)は0.10%、酸化第1鉄(FeO)が49.45%、酸化第2鉄(Fe₂O₃) 10.59%の割合であった。造滓成分(SiO₂ + Al₂O₃ + CaO + MgO + K₂O + Na₂O) 35.80%で、このうち塩基性成分(CaO + MgO)は7.66%であった。また製鉄原料の砂鉄(含チタン鉄鉱)起源の二酸化チタン(TiO₂)は0.23%、バナジウム(V)が0.03%と低値であった。また酸化マンガン(MnO)は0.27%、二酸化ジルコニウム(ZrO₂) 0.03%、銅(Cu)も<0.01%といずれも低値であった。

当鉄滓は主に鉄酸化物(FeO)と炉材粘土の溶融物(SiO₂主成分)からなり、砂鉄起源の脈石成分(TiO₂、V)は低値であった。以上の特徴から、鉄材を熱間で鍛打加工した時に副生したもの(鍛錬鍛冶滓)と推定される。

・H28 トレンチ 2 III層 No.276：椀形鍛冶滓

a) 外観観察：

やや小形の椀形鍛冶滓の破片(53.8g)である。色調は黒灰色で、弱い着磁性がある。上面には瘤状のガラス質滓が複数付着しており、羽口先端の溶融物と推定される。下面は小形の木炭痕による凹凸のある部分と灰褐色の鍛冶炉床土が付着する部分がある。また側面は全面破面で、気孔が少量点在するが緻密である。

b) 顕微鏡組織：

図版76の④～⑥に示す。滓中には灰褐色多角形結晶マグネタイト(Magnetite：FeO・Fe₂O₃)、淡灰色柱状結晶ファヤライト(Fayalite：2FeO・SiO₂)が晶出する。さらに部分的に白色粒状結晶ウスタイト(Wustite：FeO)が凝集して晶出する。⑥はウスタイトの凝集した部分の拡大である。また④の下側の暗灰色部は鍛冶炉床土である。内部には微細な砂粒が混和されている。

c) 化学組成分析：

第91表に示す。全鉄分(Total Fe) 34.38%に対して、金属鉄(Metallic Fe)は0.16%、酸化第1鉄(FeO)が33.23%、酸化第2鉄(Fe₂O₃) 11.99%の割合であった。造滓成分(SiO₂ + Al₂O₃ + CaO + MgO + K₂O + Na₂O)の割合は49.83%と高いが、このうち塩基性成分(CaO + MgO)は1.39%と低値であった。製鉄原料の砂鉄(含チタン鉄鉱)起源の二酸化チタン(TiO₂)は0.59%、バナジウム(V)が0.02%と低値であった。また酸化マンガン(MnO)は0.10%、二酸化ジルコニウム(ZrO₂) 0.05%、銅(Cu)も<0.01%といずれも低値であった。

当鉄滓も主に鉄酸化物(FeO)と炉材粘土の溶融物(SiO₂主成分)からなり、砂鉄起源の脈石成分(TiO₂、V)は低値であった。鍛錬鍛冶滓と推定される。なお椀形鍛冶滓(No.230)と比較するとやや炉材粘土の溶融物の割合が高い滓であった。

・H28 トレンチ 2 III層 No.243：鉄塊系遺物

a) 外観観察：

ごく小形の鉄塊系遺物(7.7g)である。表面全体が茶褐色の鉄錆に覆われており、一部錆化に伴う微細な割れも生じている。表面に明瞭な滓部はみられず、鉄主体の遺物と推測される。

b) 顕微鏡組織：

図版77の①～③に示す。まとまりの良い鉄主体の遺物であった。①の上側表層の錆化鉄部には、網目状に微細な黒鉛(Graphite：C)が残存する。②右上はその拡大で、ねずみ鑄鉄組織痕跡と推定される。一方内側の金属鉄部には、蜂の巣状のレデブライト(Ledeburite)が晶出する。亜共晶組成白鑄鉄組織(C

第90表 微細物分析結果

分類群	部位	状態	H28トレンチ1		H28トレンチ2 Ⅲ層		備考
			No.252	No.260	No.291	No.292	
炭化種実							
イネ	穎(基部)	破片	-	-	-	-	長さ4.78mm,幅2.72mm,厚さ1.84mm
	穎・胚乳	完形	1	-	-	-	No.258:基部欠損,残存長さ5.08mm,幅2.96mm,厚さ2.23mm
オオムギ	胚乳	破片	-	-	-	-	No.291:同端欠損,残存長さ3.91mm,幅2.30mm,厚さ1.39mm
	胚乳	完形	-	-	-	-	No.291:長さ3.09mm,残存幅1.89mm,厚さ1.80mm
コムギ	胚乳	破片	-	-	-	-	No.292:表面発泡,残存長さ3.36mm,残存幅2.44mm
アワ	穎・胚乳	完形	-	-	-	-	
	胚乳	破片	-	-	-	-	分析中破損・紛失
	胚乳	破片	-	-	-	-	
炭化種実合計			3	6	3	6	
不明炭化種実							
炭化材							No.252:4.33mm,No.253:1.19mm,いずれも断面備状
	>4mm		11.16	12.28	8.60	6.40	最大径(mm)
	4-2mm		0.27	0.12	0.01	0.02	乾燥重量(%)
	2-1mm		0.48	0.19	0.08	0.08	乾燥重量(%)
	1-0.5mm		0.36	0.16	0.13	0.21	乾燥重量(%)
			0.36	0.35	0.31	0.05	乾燥重量(%)
植物片主体			0.08	0.04	0.10	0.01	乾燥重量(%)
骨片			-	-	-	0.03	乾燥重量(%)
			-	-	-	6	(個)4.39mm
巻貝類			1	-	-	-	(個)0.92mm
砂礫主体							乾燥重量(%)
	>4mm		-	-	-	0.99	乾燥重量(%)
	4-2mm		-	1.87	1.14	1.19	乾燥重量(%)
	2-1mm		-	3.58	1.71	1.41	乾燥重量(%)
	1-0.5mm		0.01	3.85	3.03	2.78	乾燥重量(%)
土器片			-	-	-	1.19	乾燥重量(%)
			-	-	-	1	(個)13.95mm
金属片			-	-	-	0.08	乾燥重量(%)
			-	-	-	2	(個)
分析量			1200	1300	800	1300	800
						500	800
						1000	800
						重量(%)	

第91表 鉄滓成分分析結果

試料名	遺物名称	全鉄分 (Total Fe)	金属鉄 (Metallic Fe)	酸化第1鉄 (FeO)	酸化第2鉄 (Fe ₂ O ₃)	二酸化珪素 (SiO ₂)	酸化アルミニウム (Al ₂ O ₃)	酸化カルシウム (CaO)	酸化マグネシウム (MgO)	酸化カリウム (K ₂ O)	酸化ナトリウム (Na ₂ O)	酸化マンガン (MnO)	二酸化チタン (TiO ₂)	酸化クロム (Cr ₂ O ₃)	硫黄 (S)	五酸化リン (P ₂ O ₅)	ハフニウム (V)	銅 (Cu)	二酸化ジルコニウム (ZrO ₂)	造滓成分		TiO ₂	
																				重量(%)	Total Fe	造滓成分	Total Fe
H28 トレンチ2	Ⅱ層	No.230	45.95	0.10	49.45	10.59	22.71	4.35	1.35	0.56	0.32	0.27	0.23	0.03	0.03	0.40	0.07	0.03	<0.01	0.03	35.80	0.79	0.005
	Ⅲ層	No.276	34.38	0.16	33.23	11.99	40.60	6.56	0.49	1.08	0.20	0.10	0.59	0.06	0.01	0.92	0.07	0.02	<0.01	0.05	49.83	1.448	0.017
	Ⅲ層	No.243	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

試料名	遺物名称	計測値	金属探知器 反応	化学組成(%)				所見				
				Total Fe	Fe ₂ O ₃	塩基性成分	TiO ₂		V	MnO	造滓成分	Cu
H28 トレンチ2	Ⅱ層	No.230	なし	45.95	10.59	7.66	0.23	0.03	0.27	35.8	<0.01	銅鉄渣
	Ⅲ層	No.276	なし	34.38	11.99	1.39	0.59	0.02	0.1	49.83	<0.01	銅鉄渣
	Ⅲ層	No.243	L(●)	-	-	-	-	-	-	-	-	未炭炭の鍛冶原料(鉄鉄)

< 4.26%) であった。

また③の右下の暗灰色部は付着滓である。発達した淡灰色結晶ファヤライト (Fayalite : $2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$) が確認された。

c)EPMA 調査 :

図版 77 の④に錆化鉄部の反射電子像 (COMP) を示す。微細な黒色部は、特性 X 線像では炭素 (C) に強い反応がみられる。黒鉛 (Graphite : C) と推定される。

またもう 1 視野、付着滓の組成を調査した。図版 77 の⑤に反射電子像 (COMP) を示す。発達した淡灰色柱状結晶は、鉄(Fe)、珪素(Si)に強い反応がある。定量分析値は $69.3\%\text{FeO} - 29.2\%\text{SiO}_2 - 1.1\%\text{P}_2\text{O}_5$ (分析点 1) であった。ファヤライト (Fayalite : $2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$) で、少量磷酸 (P_2O_5) が含まれる。微細な暗灰色樹枝状結晶は特性 X 線像ではアルミニウム (Al) に反応がある。定量分析値は $45.6\%\text{FeO} - 45.2\%\text{Al}_2\text{O}_3 - 2.2\%\text{TiO}_2$ (分析点 2) であった。ヘルシナイト (Hercynite : $\text{FeO}\cdot\text{Al}_2\text{O}_3$) で少量チタニア (TiO_2) を固溶する。また素地部分の定量分析値は $36.8\%\text{SiO}_2 - 17.8\%\text{P}_2\text{O}_5 - 18.2\%\text{Al}_2\text{O}_3 - 7.1\%\text{CaO} - 5.5\%\text{K}_2\text{O} - 1.3\%\text{Na}_2\text{O} - 20.8\%\text{FeO} - 2.0\%\text{TiO}_2$ (分析点 3) であった。非晶質硅酸塩・磷酸塩と推定される。

当遺物はまとまりの良い小形の鑄鉄塊 (斑鑄鉄) であった。また表面には金属鉄と粘土が反応して生じたファヤライト組成の滓が付着する。この特徴から、当遺物は鑄鉄を鍛冶炉内で熔融して脱炭する (卸鉄) 作業の際、ほとんど脱炭せずに凝固したものの可能性が考えられる。

4. 考察

(1) 年代観

平成 27 年度試掘坑の補正年代は概ね、100 ~ 200BP、1,000 ~ 2,000BP、3,000 ~ 4,000BP に集中する傾向にある。連続して採取されたズケ 23-C3- ソの西側、北側についてみると、西側 No. 1・2 (II 層) は $140 \pm 20\text{BP}$ と $200 \pm 20\text{BP}$ 、北側 No. 4 (III 層)、No. 5・6 (IV 層) は $3,970 \pm 30\text{BP}$ 、 $2,870 \pm 30\text{BP}$ 、 $22,510 \pm 90\text{BP}$ であった。No. 4 (III 層) と No. 5 (IV 層) で逆転するものの概ね累重関係にあると言える。暦年代は No. 1・2 (II 層) が 17 世紀後半 ~ 20 世紀前半、No. 4 (III 層) が calBP4,500 で縄文時代後期、No. 5 (IV 層) が calBP3,000 で縄文時代晩期、No. 6 (IV 層) が calBP27,000 で旧石器時代に相当する年代が得られている。No. 6 (IV 層) は最下層であるが他の年代とかけ離れており、今後の検討課題である。

遺構とされるものについてみると、SP1 (半截) が $3,740 \pm 30\text{BP}$ 、SP2 (半截) が $1,400 \pm 20\text{BP}$ 、SK が $1,730 \pm 30\text{BP}$ 、SP1 が $3,300 \pm 30\text{BP}$ 、遺構が $4,460 \pm 30\text{BP}$ ある。暦年代は SP1 (半截) が calBP4,000 で縄文時代後期、SP2 (半截) が 7 世紀中頃に弥生 ~ 平安並行時代後半、SK が 3 世紀中 ~ 4 世紀後半で弥生 ~ 平安並行時代前半、SP1 が calBP3,500 で縄文時代後期である。覆土に取り込まれた炭化物の年代結果であるので、一概に遺構の利用時期を示すものではない。

H27 トレンチ 1 の遺構についてみると補正年代は概ね 1,000BP 前後の値が得られている。No. 1 が $1,160 \pm 20\text{BP}$ 、No. 2 の 2 点は $920 \pm 20\text{BP}$ と $880 \pm 20\text{BP}$ とほぼ同様な年代である。No. 3 の 2 点は $650 \pm 20\text{BP}$ と $1,090 \pm 20\text{BP}$ で約 450 年の差が認められる。暦年代は No. 1 が 8 世紀後半 ~ 10 世紀中頃、No. 2 が 11 世紀中頃 ~ 13 世紀初頭、No. 3 が 13 世紀末 ~ 14 世紀後半と 10 世紀の値であった。

調査所見によると、遺構は No. 1 と No. 3 は、No. 2 により切られるとされることから、No. 3 の新しい年代をこの遺構の年代とすると、No. 2 と No. 3 は逆転することになる。しかし、古い年代をこの遺構の年代とすると、No. 1、No. 2、No. 3 の遺構の前後関係は調和する。No. 4 西壁の補正年代は $1,720 + 20\text{BP}$ 、暦年代は 3 世紀 ~ 4 世紀であった。H27 トレンチ 3 のピットの補正年代は $1,420 \pm 20\text{BP}$ 、暦年代は 7 世紀前半であった。

結果については、若干の課題が残されたが、調査所見や遺構内出土遺物の情報と合わせて、今後も引き続き調査することが望まれる。

H28 トレンチ 1 の 5 試料についてみると、住居跡とされる SB2、SB3、グスク土器と共伴する炭化物及びグスク土器付着物の補正年代は約 1,000BP の値が得られている。SB2 の暦年代は 10 世紀～ 12 世紀、SB3 が 10 世紀で概ねグスク時代の同時期の遺構と言える。炭化物とグスク土器付着物の暦年代は 11 世紀～ 12 世紀と重なった年代値であった。土器はグスク土器とされることから年代は調和するものである。

焼土遺構とされる SL1 の補正年代は 680 ± 20 BP、暦年代は 13 世紀後半～ 14 世紀後半の値である。

H28 トレンチ 2 の 4 試料についてみると、補正年代は概ね 650BP～ 880BP である。暦年代は SI2 が 13 世紀後半～ 14 世紀後半、SI1、SP6、SP7 が 12 世紀中頃～ 13 世紀前半で、グスク時代の年代を示す。

両トレンチの年代は概ねグスク時代の範疇であり、H28 トレンチ 1 が 10 世紀～ 12 世紀、H28 トレンチ 2 が 12 世紀～ 14 世紀の遺構や遺物の可能性が指摘される。

(2) 植物利用

H28 トレンチ 1 の SL1 埋土と H28 トレンチ 2 のサブトレⅢ層を対象とした微細物洗い出し分析の結果、炭化種実、炭化材、植物片主体、骨片、巻貝類、砂礫、土器片、金属片が検出され、H28 トレンチ 1 で炭化材が多く、H28 トレンチ 2 で金属片が確認される傾向が得られた。

炭化種実は、H28 トレンチ 1 の SL1 埋土 (No.253) と H28 トレンチ 2 のサブトレⅢ層 3b 層 (No.292)、3a 層 (No.291) から、栽培種のイネ、オオムギ、コムギ、アワが確認された。穀類のイネ、オオムギ、コムギ、アワは、当時利用された植物質食糧と示唆される。また、炭化穀類の保存状態は比較的良好で、イネやアワは穎が付着した状態であることから、脱皮(だっぴ; 籾殻を取り去る)前の段階で火を受けたと推測される。

一方、H28 トレンチ 1 SL1 炭層 (No.284) からは、炭化物片が多量に含まれていたものの、炭化材同定を実施した結果、いずれも広葉樹の炭化物で、種類の特定まで至らなかった。また、灰像分析も実施したが、明瞭な灰像は全く認められなかった。今回の結果をみる限り、試料中にイネなどの栽培植物、あるいは他のイネ科草本類が混在していることは考えにくい。本試料中には炭化材が多く含まれていることから、検鏡時に観察された微細な炭化物片は炭化材を含む炭化物に由来するものと思われる。

(3) 鉄滓について

今回調査を実施した H28 トレンチ 2 出土鉄滓 2 点 (No.230、No.276) はともに鍛錬鍛冶滓と推定される。鉄材を熱間で鍛打加工した際の反応副生物であり、遺跡周辺で鍛造鉄器が製作されていたことを示すものといえる。

一方、H28 トレンチ 2 出土の鉄塊系遺物 (No.243) は小形でやや扁平な形状の鑄鉄塊であった。文献史料や民俗学的調査から、沖縄では鍋・釜などの鑄造鉄器破片が鍛冶原料として再利用されていたことはよく知られている(朝岡,1993)。こうした鍛冶原料鉄(鑄鉄片)を鍛冶炉内で溶融して脱炭した際に、少なくとも一部がほとんど脱炭せずそのまま凝固したものと考えられる。

以上のことから、西普天間住宅地区から出土したグスク時代の鉄滓、鉄塊系遺物を調査した結果、遺跡周辺で鍛造鉄器の製作が行われていたことが明らかになった。

引用文献

朝岡康二,1993,日本の鉄器文化.慶友社,539p.

林 昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.

伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.

伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.

伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.

伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.

伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.

近藤鍊三,2010,プラント・オパール図譜.北海道大学出版会,387p.

中山至大・井之口希秀・南谷忠志,2000,日本植物種子図鑑(2010年改訂版).東北大学出版会,678p.

パリノ・サーヴェイ株式会社,1993,自然科学分析からみた人々の生活(1).慶應義塾藤沢校地理蔵文化財調査室編 湘南藤沢キャンパス内遺跡 第1巻 総論,慶應義塾,347-370.

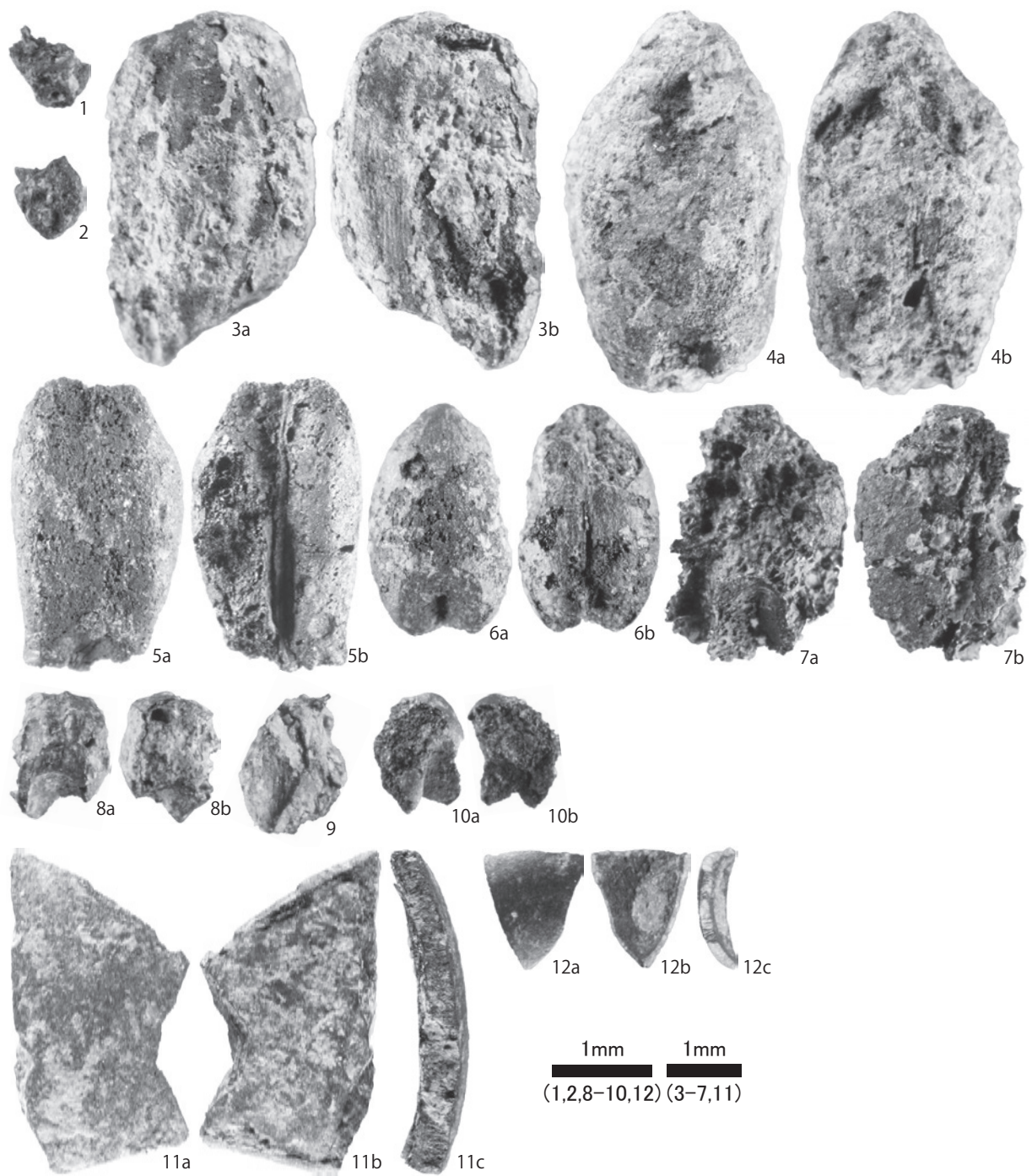
Reimer, P. J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J. W., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Hafliadason, H., Hajdas, I., Hatté, C., Heaton, T. J., Hoffmann, D. L., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kaiser, K. F., Kromer, B., Manning, S. W., Niu, M., Reimer, R. W., Richards, D. A., Scott, E. M., Southon, J. R., Staff, R. A., Turney, C. S. M., and van der Plicht, J.,2013,IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP.

鈴木庸夫・高橋 冬・安延尚文,2012,ネイチャーウォッチングガイドブック 草木の種子と果実—形態や大きさが一目でわかる植物の種子と果実 632種—.誠文堂新光社,272p.

Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E. (編),2006,針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡の特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修),海青社,70p. [Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification] .

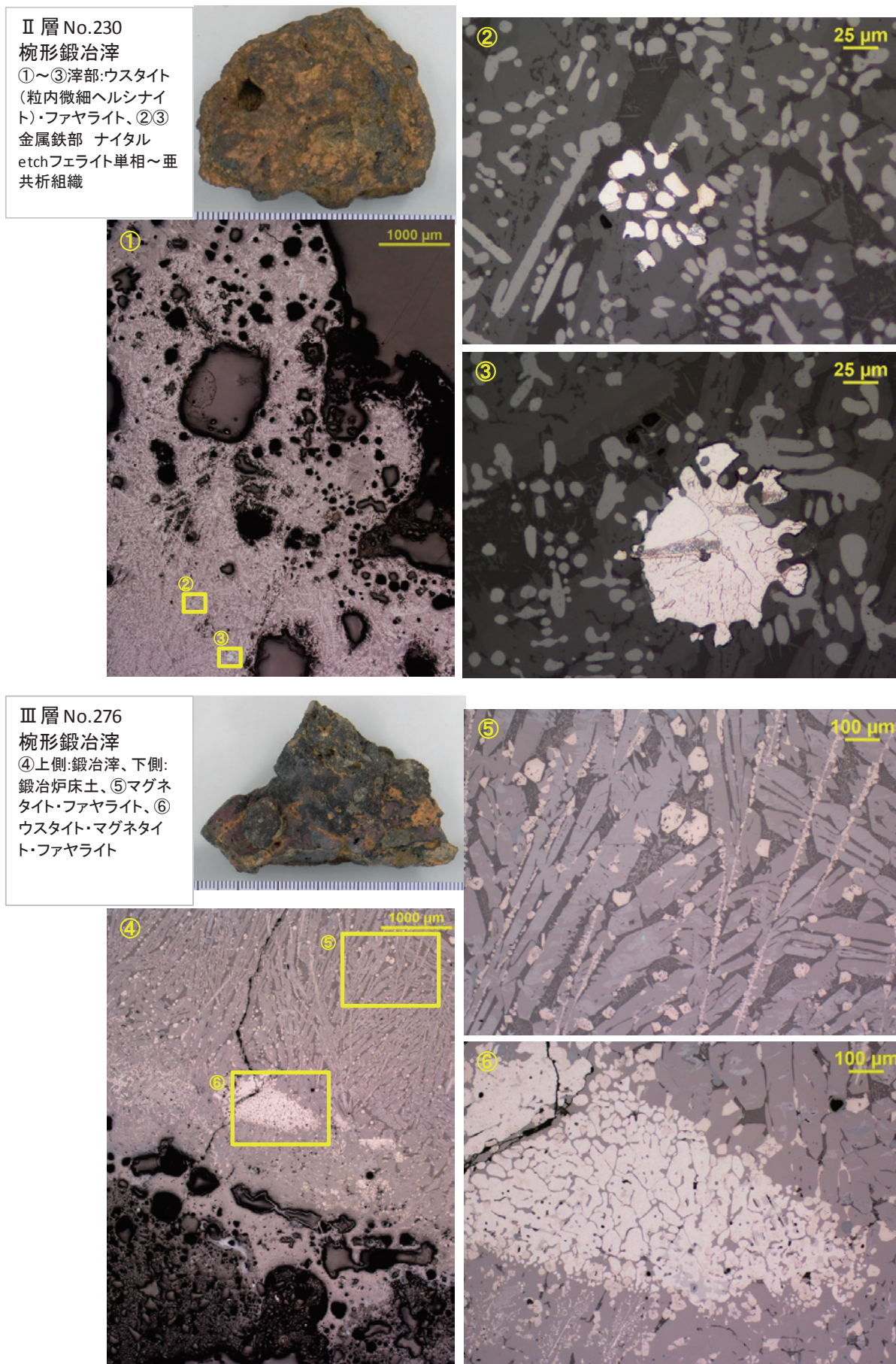
島地 謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡の特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification] .



1. イネ 穎(基部)(トレンチ2 サブトレ3b層;No.292)
2. イネ 穎(基部)(トレンチ2 サブトレ3b層;No.292)
3. イネ 穎・胚乳(トレンチ1 SL1埋土;No.253)
4. オオムギ 胚乳(トレンチ1 SL1埋土;No.253)
5. オオムギ 胚乳(トレンチ2 サブトレ3b層;No.292)
6. コムギ 胚乳(トレンチ2 サブトレ3a層;No.291)
7. コムギ 胚乳(トレンチ2 サブトレ3b層;No.292)
8. アワ 穎・胚乳(トレンチ2 サブトレ3a層;No.291)
9. アワ 穎・胚乳(トレンチ1 SL1埋土;No.253)
10. アワ 胚乳(トレンチ2 サブトレ3b層;No.292)
11. 不明種実(トレンチ1 SL1埋土;No.252)
12. 不明種実(トレンチ1 SL1埋土;No.253)

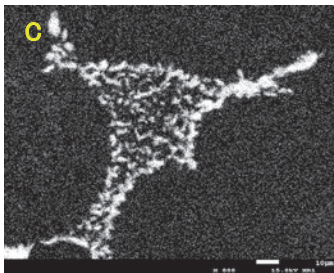
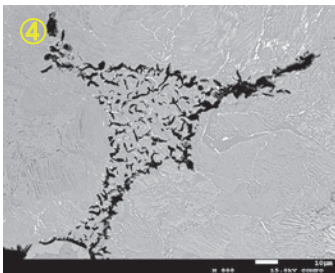
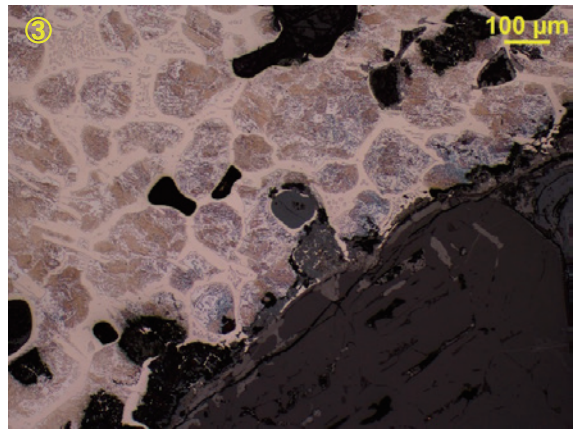
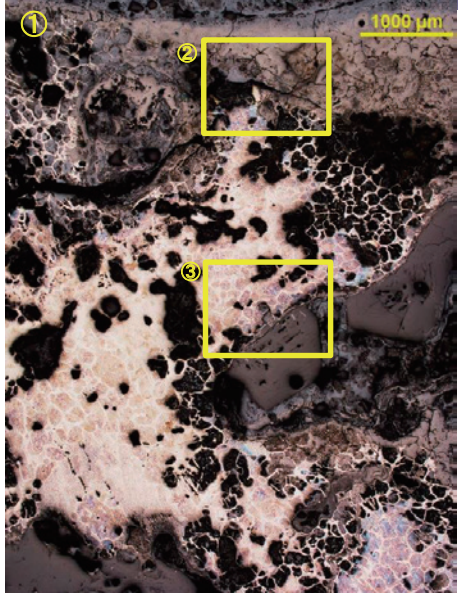
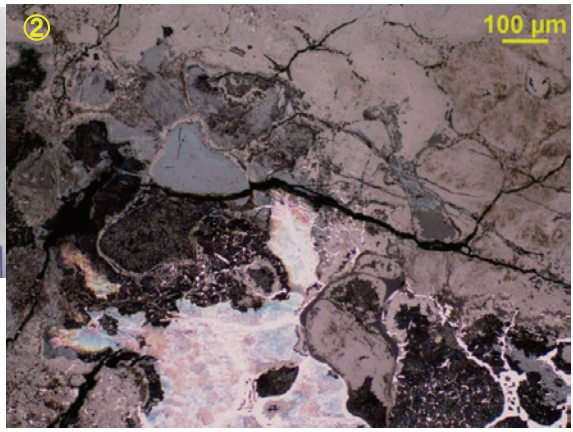
図版 75 炭化種実



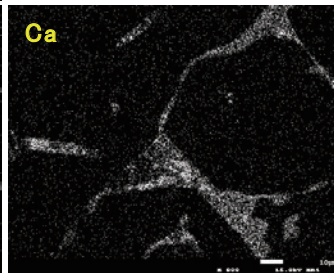
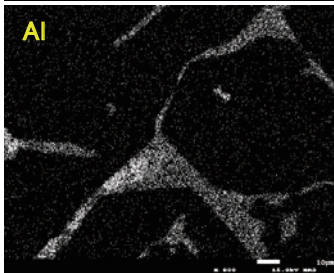
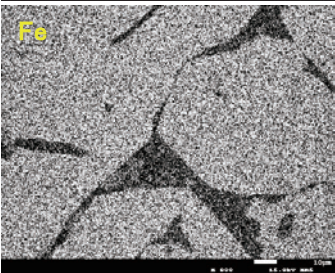
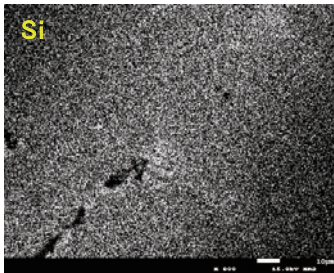
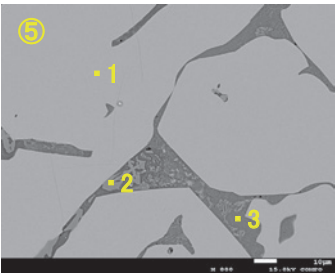
図版 76 椀形鍛冶滓の顕微鏡組織

Ⅲ層 No.243
鉄塊系遺物

①～③ 錆化鉄部: ねずみ
み鑄鉄組織痕跡、金属
鉄部: 亜共晶組成白鑄
鉄組織、滓部: ファヤラ
イト



錆化鉄部の反射電子像 (COMP) および特性X線像



付着滓の反射電子像 (COMP) および特性X線像

定量分析値

Element	1	2	3
MgO	0.431	0.062	-
SiO ₂	29.160	1.689	36.839
Na ₂ O	0.011	0.055	1.279
Al ₂ O ₃	0.207	45.224	18.246
CaO	0.139	0.774	7.106
TiO ₂	0.103	2.207	1.952
S	-	0.046	0.083
ZrO ₂	0.052	0.060	0.068
P ₂ O ₅	1.121	3.115	17.771
K ₂ O	-	0.090	5.474
CuO	0.033	-	-
FeO	69.259	45.556	20.814
MnO	0.099	0.017	0.039
Cr ₂ O ₃	0.005	0.016	-
V ₂ O ₃	0.017	0.085	0.047
Total	100.637	98.996	109.718

図版 77 鉄塊系遺物の顕微鏡組織・EPMA 調査結果

第5章 総括

ここまで、平成27・28年度の試掘・確認調査について報告した。本章では今回の調査成果についてまとめ、本報告の総括とする。

先史時代

住宅エリア東側の普天間石川原第二遺跡や新城大道原第三遺跡の範囲内において遺構や包含層（Ⅳ層）が検出された（遺構検出：13箇所）。遺構の多くは土坑やピットで、竪穴住居跡となる可能性がある。隣接するキャンプ瑞慶覧海軍病院地区では、縄文時代の竪穴住居跡や溝状遺構、落とし穴の可能性が考えられる大型土坑などの遺構が確認されている。遺跡立地はともに台地上にあり類似するため、当該地一帯に遺構群が存在する可能性を示唆する。

一方で斜面緑地区域では、縄文時代の土器片は少量確認されているものの、遺構や包含層は確認できなかった。しかし、宜野湾市教育委員会による昭和56～57年度の分布調査では、当該時期の遺物包含層が確認されており、今後確認される可能性がある。

グスク時代

住宅エリア及び斜面緑地ともに確認され、普天間石川原第二遺跡や新城大道原第三遺跡、喜友名下原第一・二遺跡、喜友名山川原第七遺跡において、遺構や包含層（Ⅲ層）が検出されている（遺構検出：22箇所）。縄文時代と比べると、試掘調査で遺構の検出される割合が増加傾向となり、グスク時代における居住域としての土地利用範囲が広がっていることが窺える。

平成28年度確認調査により、喜友名下原第二遺跡では掘立柱建物跡およびピット群をはじめ炉跡や円弧状遺構など遺構が多く検出され、グスク時代の集落跡が良好な状態で残存していることを確認した。検出された遺構と包含層の分布からは、斜面地の中でも比較的傾斜が緩やかな範囲に集落を形成していることが窺えた。そして、その北側の斜面傾斜度が急変する範囲には包含層（Ⅲ層）が堆積している。住宅エリアにおいてもⅢ層は検出されており、海軍病院地区や普天間飛行場の調査でも同様に、その多くは迫地地形に該当する箇所に部分的に分布している。これまでに、Ⅲ層は耕作に関連する可能性が指摘されている。遺構と包含層の分布からは、グスク時代における集落の形成と耕作などといった土地利用の状況が窺える。

近世～近代

試掘調査で確認される割合も増加し、普天間石川原第二遺跡や新城大道原第二・三遺跡、普天間旧道跡、安仁屋東原古墓群、喜友名下原第二遺跡、喜友名山川原第七遺跡において、近世～近代の古集落に伴う遺構や包含層（Ⅱ層）が多く確認された（遺構検出：49箇所）。最も多く検出されたのは溝状遺構などの生産関連遺構で、次にピットや土坑、道跡、石積、古墓と続く（第93表）。

当該時期の検出された遺構で特筆されるものとして、平成27年度の試掘トレンチ・ズケ23-F6-

第92表 遺構検出数

	先史	グスク	近世～近代
H27試掘	13	18	47
H28試掘	0	4	2
合計	13	22	49

※試掘坑数

第93表 近世～近代の遺構種別

	H27	H28	合計
溝状遺構	37	2	39
ピット・土坑	14	0	14
道跡	4	0	4
石積	2	0	2
墓	1	0	1

※試掘坑数

ツ～G6-ツや確認トレンチ4では、石組の側溝を有する旧道跡が検出されている。戦前において普天満宮前を通る普天間古集落の主要な道路であり、「ティラヌメー」と呼ばれた。かつて中城村瑞慶覧方面から普天間を通り、伊佐・大山までおりていく県道である。交通の要所で、サトウキビ運搬のためのトラック軌道が敷かれ、道路沿いには客馬車を休ませる馬車宿があったとされている。隣接する海軍病院地区の発掘調査では、県教委・市教委の調査区を合わせて約180mの範囲が確認されている。今回の調査により、海軍病院地区のティラヌメーの続きが西普天間住宅跡地においても遺構が良好な状態で残されていることがわかり、普天間旧道跡として遺跡範囲が確認された。

昭和20年に撮影された航空写真からは、戦前の西普天間住宅地区の住宅エリアは、普天間古集落から続く旧道がみられるとともに旧道沿いには屋敷地が点在し、その周辺は耕作地が広がっていた。また斜面緑地領域は畑や水田が広がる耕作地であった。この航空写真に今回の調査箇所を重ねた結果、検出された道跡や溝状遺構の向きは概ね一致する。住宅エリアの調査では、当該時期の遺構が多く確認されたことから、一帯には広い範囲で遺構が残存している可能性がある。このような遺構からは、米軍基地接収により失われた、戦前における集落の様相を窺うことができる。

また、平成27年度調査のズケ16-J7-ヌ及びトレンチ2では、古墓2基が検出されている。基地建設に伴う大規模な造成によって古墓が完全に埋没した状態で発見される事例は、普天間飛行場内にもみられる(県埋文2014)。従って、特に基地内においては、分布調査で確認できない古墓についても、十分に意識する必要があると言える。

まとめ

今回の試掘・確認調査により、遺跡の範囲や内容について確認することが出来たものの、小規模な試掘坑・確認トレンチでは、遺跡の実態を把握するにはまだ不十分である。県教委が試掘・確認調査を行った範囲以外については、宜野湾市教育委員会による分布・試掘調査が継続的に実施され、現在は住宅エリアのほぼ全域で記録保存調査が行われている。本報告はあくまでも現時点における中間報告であり、当該地区における遺跡群の最終的な評価は、市教委による調査と分析に委ねたい。

参考文献

- 安里嗣淳 1985 「沖縄グスク時代の文化と動物」『季刊考古学』第 11 号
- 池畑耕一 1994 「11 鹿兒島県・宮崎県・沖縄県」『日本製塩研究』
- 小野正敏 1982 「15、16 世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』No. 2
- 加藤嘉太郎 1989 『家畜比較解剖図説』上巻 養賢堂
- 呉屋義勝 1994 「第一章 考古学からみた宜野湾」宜野湾市史編集委員会編『宜野湾市史 第 1 巻 通史編』宜野湾市教育委員会
- 具志堅亮 2014 「グスク土器の変遷」『琉球列島の土器・石器・貝製品・骨製品文化』琉球列島先史・原史時代における環境と文化の変遷に関する実証的研究第 1 集
- 新里亮人 2017 「グスク時代琉球列島の土器」『考古学研究』第 64 巻第 1 号
- 瀬戸哲也・仁王浩司・玉城靖・宮城弘樹・安座間充・松原哲志 2007 「沖縄における貿易陶磁研究－14～16 世紀を中心に－」『沖縄埋文研究』5 沖縄県立埋蔵文化財センター
- 瀬戸哲也 2013 「沖縄における 14・15 世紀中国陶磁編年の再検討」『中近世土器の基礎研究』25 日本中近世土器研究会
- 2014 「沖縄における 12～16 世紀の中国陶磁の様相」『琉球列島の貿易陶磁』日本貿易陶磁研究会
- 2015 「14・15 世紀の沖縄出土中国産青磁について」『貿易陶磁研究』No. 35 日本貿易陶磁研究会
- 2017 「沖縄出土貿易陶磁器の時期と様相」『貿易陶磁研究の現状と土器研究』第 35 回中世土器研究会資料
- 主税英徳 2016 「九州出土の高麗陶器」『考古学は科学か 下』田中良之先生追悼論文集 中国書店
- 樋泉岳二 2014 「脊椎動物からみた琉球列島の環境変化と文化変化」『琉球列島の土器・石器・貝製品・骨製品文化』琉球列島先史・原史時代における環境と文化の変遷に関する実証的研究第 1 集 六一書房
- 仲宗根求 2003 「読谷村発見のグスク時代の掘立柱建物跡について」『読谷村立歴史民俗資料館紀要』第 27 号 読谷村立歴史民俗資料館
- 與嶺友紀也 2015 「沖縄諸島におけるくびれ平底土器群の再検討」『考古学研究』第 62 巻第 1 号
- 宮城弘樹 2006 「沖縄諸島におけるグスク時代建物の分類」『廣友会誌』第 2 号 廣友会
- 2014a 「貿易陶磁出現期の琉球列島における土器文化」『琉球列島の土器・石器・貝製品・骨製品文化』琉球列島先史・原史時代における環境と文化の変遷に関する実証的研究第 1 集 六一書房
- 2014b 「貝塚時代後期土器の研究 (VI) - フェンサ下層式概念の整理」『廣友会誌』第 7 号 廣友会
- 2017 「フェンサ下層式の編年的考察」『奄美・沖縄における貝塚時代後期土器の編年』平成 29 年度奄美考古学会沖縄大会資料集
- 宮城弘樹・具志堅亮 2007 「中世並行期における南西諸島の在り土器の様相」『廣友会誌』第 3 号 廣友会
- 宮城弘樹・玉城靖・仲宗根求 2007 「グスク時代の建物跡集成」『読谷村立歴史民俗資料館紀要』第 31 号 読谷村立歴史民俗資料館
- 森田 勉 1982 「14～16 世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』No. 2 日本貿易陶磁研究会
- 山本正昭 2003 「天界寺考 - 発掘調査成果を参考にして -」『沖縄埋文研究 1』沖縄県立埋蔵文化財センター
- 伊仙町教育委員会 2005 『カムイヤキ古窯跡群Ⅳ - 平成 13 年度から平成 16 年度 カムイヤキ古窯跡群発掘調査等事業 -』伊仙町埋蔵文化財発掘調査報告書 12
- 2010 『川嶺辻遺跡』伊仙町埋蔵文化財発掘調査報告書 13
- 浦添市教育委員会 2005 『浦添原遺跡 浦添中学校校舎改築事業に伴う発掘調査報告書』浦添市文化財調査研究報告書
- 沖縄県教育委員会 1991 『船浦スラ所跡 - 港湾施設用地工事等に伴う発掘調査 -』沖縄県文化財調査報告書第 101 集
- 1992 『安仁屋トゥンヤマ遺跡 - 下級下士官隊舎建設に伴う緊急発掘調査報告 -』沖縄県文化財調査報告書第 105 集
- 1998 『基地内文化財Ⅰ - 宜野湾市所在米軍基地内埋蔵文化財分布調査概要 -』
- 1999 『喜友名貝塚・喜友名グスク - 宜野湾北中城線 (伊佐～普天間) 道路改築事業に伴う緊急発掘調査報告書 (Ⅰ) -』沖縄県文化財調査報告書 第 134 集
- 2003 『沖縄県史 各論編第二巻 考古』
- 沖縄県教育委員会・宜野湾市教育委員会 2010 『普天間飛行場内遺跡地図 (中間報告)』
- 沖縄県立埋蔵文化財センター 2001a 『天界寺跡 (Ⅰ) - 首里杜館地下駐車場入り口新設工事に伴う緊急発掘調査 -』沖縄県立埋蔵文化財センター第 2 集
- 2001b 『伊佐前原第一遺跡 - 宜野湾北中城線 (伊佐～普天間) 道路改築事業に伴う緊急発掘調査報告書 (Ⅲ) -』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第 4 集
- 2002a 『天界寺跡 (Ⅱ) - 首里城公園管理棟新設工事に伴う緊急発掘調査 -』沖縄県立埋蔵文化財センター第 8 集
- 2002b 『基地内文化財Ⅱ - 基地内埋蔵文化財分布調査概要 -』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第 11 集

- 2004『基地内文化財Ⅲ－基地内埋蔵文化財分布調査概要（平成14・15）－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第24集
- 2006『基地内文化財Ⅳ－平成15・16年度基地内埋蔵文化財分布調査概要－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第38集
- 2011『基地内文化財5－普天間飛行場内範囲確認調査－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第61集
- 2014『基地内文化財6－平成18・19・20年度 普天間飛行場内試掘調査－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第71集
- 2015a『基地内文化財7』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第76集
- 2015b『キャンプ瑞慶覧内病院地区に係る文化財発掘調査報告書1－普天間古集落遺跡－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第74集
- 2015c『キャンプ瑞慶覧内病院地区に係る文化財発掘調査報告書2－普天間古集落遺跡・普天間後原第二遺跡・普天間下原第二遺跡・普天間石川原遺跡－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第79集
- 2016『キャンプ瑞慶覧内病院地区に係る文化財発掘調査報告書3－普天間古集落遺跡－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第83集
- 2017『キャンプ瑞慶覧内病院地区に係る文化財発掘調査報告書4－普天間古集落遺跡・普天間後原第二遺跡－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第90集
- 喜界町教育委員会 2009『城久遺跡群 山田半田遺跡（山田半田A遺跡・山田半田B遺跡）－畑地帯総合整備事業（担い手育成型）城久地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書第10集
- 2013a『城久遺跡群 大ウフ遺跡・半田遺跡）－畑地帯総合整備事業（担い手育成型）城久地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書第12集 喜界町教育委員会
- 2013b『城久遺跡群 半田口遺跡－畑地帯総合整備事業（担い手育成型）城久地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書第13集
- 宜野湾市教育委員会 1984『喜友名遺跡群』宜野湾市文化財調査報告書第5集
- 1984『洞穴』宜野湾市文化財調査報告書第6集
- 1985『宜野湾市史』第五巻資料編四
- 2000『宜野湾市史』第9巻資料編8 自然
- 2006『基地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 基地内遺跡ほか発掘調査事業－普天間飛行場基地内－野高タマタ原遺跡範囲確認調査・上原同原遺跡範囲確認調査・遺跡発掘事前総合調査』宜野湾市文化財調査報告書第38集
- 2008『嘉数トウンヤマ遺跡Ⅰ－範囲確認調査報告書－』宜野湾市文化財調査報告書第43集
- 2009『嘉数トウンヤマ遺跡Ⅱ－個人農地の土地造成に係る緊急発掘調査－』宜野湾市文化財調査報告書第45集
- 2011『普天間フィールー丘陵古墓群－平成22年度 キャンプ瑞慶覧内米海軍病院移設予定地区発掘調査報告書－』宜野湾市文化財調査報告書第48集
- 2012『ぎのわんの地名－内陸部編－』市民民俗芸能調査報告書
- 2013『宜野湾はじまりや！～シマ・ムラ、チネー・イエへの歩み～』企画展示会図録
- 2016『瑞慶覧基地内病院地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書1』宜野湾市文化財調査報告書第51集
- 2017『瑞慶覧基地内病院地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書2』宜野湾市文化財調査報告書第52集
- 喜友名字誌編集委員会 2015『喜友名誌 ちゅんなー』喜友名区自治会
- 太宰府市教育委員会 2000『大宰府条坊跡XV－陶磁器分類編－』太宰府の文化財第49集
- 北谷町教育委員会 2012『小堀原遺跡－桑江伊平土地区画整理事業に伴う発掘調査事業（平成17～20年度）－』北谷町文化財調査報告書第34集 北谷町教育委員会
- 2016『平安山原A遺跡－桑江伊平土地区画整理事業に伴う発掘調査事業（平成19・20・22・23年度）－』北谷町文化財調査報告書第38集
- 名護市教育委員会 2007『屋部前田原貝塚』名護市文化財調査報告書18
- 那覇市教育委員会 1999『天界寺跡－首里城線街路事業に伴う緊急発掘調査報告－』那覇市文化財調査報告書第42集
- 2000『天界寺跡－首里城公園整備事業に伴う緊急発掘調査報告－』那覇市文化財調査報告書第43集
- 奈良文化財研究所 2004『環境考古学4 牛馬骨格図譜』『埋蔵文化財ニュース』No.115

報告書抄録

ふりがな	きちないぶんかざいはち							
書名	基地内文化財8							
副書名	平成27・28年度キャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区 試掘・確認調査							
巻次	—							
シリーズ名	沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第94集							
編著者名	具志堅清大 南勇輔 大堀皓平 宮城淳一							
編集機関	沖縄県立埋蔵文化財センター							
所在地	〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原193-7 TEL 098-835-8752							
発行年月日	平成30(2018)年3月15日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
きちないまいぶんかざい 基地内埋蔵文化財 (平成27年度)	おきなわけんぎのわんし 沖縄県宜野湾市 あざふてんまにあに 字普天間・安仁 や・あらぐすく 屋・新城	472051	—	26° 17' 30"	127° 46' 15"	2015.06.29～ 2016.01.29	2375㎡ 試:1568㎡ 確:807㎡	試掘・確認調査
きちないまいぶんかざい 基地内埋蔵文化財 (平成28年度)	おきなわけんぎのわんし 沖縄県宜野湾市 あさきゆうな 字喜友名			26° 17' 19"	127° 45' 41"	2016.07.01～ 2016.12.09	864㎡ 試:381㎡ 確:483㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
普天間石川原第二遺跡	集落跡、耕作地	先史時代、グスク時代、近世～近代		ピット、土坑、溝状遺構		縄文土器、グスク土器、石器、中国産陶磁器、本土産陶磁器、沖縄産陶器、瓦、獣骨		先史時代やグスク時代の遺構を多く検出。
普天間旧道跡	旧道	近世～近代		道跡、溝状遺構、土坑		中国産陶磁器、本土産陶磁器、沖縄産陶器、金属製品、瓦		普天間古集落から続く道跡を検出。
安仁屋東原古墓群	古墓	近世～近代		古墓		蔵骨器		近世墓が造成土中に埋没。
新城大道原第二遺跡	集落跡	グスク時代、近世～近代				本土産陶磁器、沖縄産陶器		
新城大道原第三遺跡	集落跡	先史時代、グスク時代、近世～近代		ピット、土坑、溝状遺構		中国産陶磁器、本土産陶磁器、沖縄産陶器、瓦		
喜友名下原第一遺跡	集落跡、耕作地	先史時代、グスク時代、近世～近代		ピット、溝状遺構		縄文土器、グスク土器、石器、中国産陶磁器、本土産陶磁器、沖縄産陶器、金属製品、瓦		
喜友名下原第二遺跡	集落跡、耕作地	グスク時代、近世～近代		掘立柱建物跡、ピット、円弧状遺構、炉跡、溝状遺構		縄文土器、くびれ平底土器、グスク土器、布目圧痕土器、中国産陶磁器、朝鮮系無釉陶器、本土産須恵器、カムイヤキ、滑石製品、石器、鉄滓、鞆の羽口、本土産陶磁器、沖縄産陶器、金属製品、瓦		グスク時代の掘立柱建物跡をはじめ遺構が多く検出され、集落跡を確認。
喜友名山川原第三遺跡	散布地	先史時代				瓦		
喜友名山川原第七遺跡	集落跡、耕作地	グスク時代、近世～近代		ピット、溝状遺構		グスク土器、石器、中国産陶磁器、本土産陶磁器、沖縄産陶器		
喜友名西原遺跡	散布地	グスク時代				沖縄産陶器		
喜友名古水田跡	耕作地	近世～近代				中国産陶磁器、本土産陶磁器、沖縄産陶器		
要約	<p>平成27年3月31日に返還された、在沖米軍基地であるキャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区に所在する埋蔵文化財の試掘・確認調査を実施した。調査は、まず遺跡の有無を確認するために計134箇所を試掘調査を行った。その後、範囲内容を確認するために、合計8本のトレンチを設定し、遺構の掘削は最低限に留めた。</p> <p>調査の成果としては、普天間石川原第二遺跡、普天間旧道跡、安仁屋東原古墓群を新規発見し、喜友名下原第一・二遺跡、喜友名山川原第七遺跡の遺跡範囲が拡大された。</p> <p>遺跡分布及び土層堆積の特徴として、先史時代の遺構や包含層は台地上に位置する普天間石川原第二遺跡や新城大道原第三遺跡の範囲内において検出された。グスク時代になると建物跡と迫地の耕作地からなる集落跡が確認された。近世～近代では、ティラスメーと呼ばれる普天間古集落から続く道跡や生産関連遺構、古墓など近代集落に伴う遺構が確認された。</p>							

基地内文化財 8

—平成27・28年度 キャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区 試掘・確認調査—

発行年 平成30(2018)年3月

発行 沖縄県立埋蔵文化財センター

編集 沖縄県立埋蔵文化財センター

〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原193-7

TEL 098(835)8751・8752

印刷 丸正印刷株式会社

〒903-0211 沖縄県西原町字小那覇1215

TEL 098(835)8181
